

農業ノ改良進歩ノ上ニ餘程ノ效果ガアルト私ハ信ジテ疑ヒマセヌ

次テ本案ハ(五八)牧山耕藏君外十名提出朝鮮及臺灣ノ産米増殖ニ關スル建議案委員ニ併セ付託スルニ決シ委員ハ審査ノ末原案ニ修正ヲ加フヘキモノト決シ三月二十五日報告書ヲ議長ニ提出セリ(本案ノ議事經過及結果ハ(五八)ニ審ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス)

(委員會報告書)

農業政策ニ關スル建議

政府ハ各種ノ農業政策ヲ立テ之ヲ實行シツツアリト雖未タ充分ナラサルモノアリ就中農業勞働者増加ノ方法ヲ講スルコト農具改良ノ方法ヲ講スルコト農業上ノ發明者及篤志者ヲ推奨スルコト肥料ノ廉價購入ノ方法ヲ講スルコト牛馬耕ヲ獎勵シ農業用牛馬廉價購入ノ方法ヲ講スルコト耕地排水灌溉整理ヲ更ニ大ニ獎勵スルコト病害蟲豫防驅除方法ノ改良ヲ講スルコト等ノ如キ更ニ計劃ヲ爲スヘキモノ尠カラス政府ハ速ニ是等ニ關スル政策ヲ立テ之ヲ實行セムコトヲ望ム

右建議ス

七一 陸軍下士卒優遇ニ關スル建議案

陸軍下士卒ノ給與甚タ菲薄ニシテ現役ノ兵卒ニ對シ父兄等ヨリ送金シツツアルハ目下一般ノ狀

況ナリ尙下士ノ生活モ極メテ困難ナリ依テ政府ハ成ルヘク急速ニ下士卒ノ給與ヲ改善スルノ方法ヲ採ラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ八年三月十八日高田松平君之ヲ提出ス同月二十一日本案ヲ院議ニ付シ(二十日延會)提出者(高田松平君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

現在ノ陸軍ノ下士卒ノ給與ガ果シテ十分デアルヤ否ヤト云フコトヲ見ルト、之ヲ各兵卒ノ家庭ガ毎月幾分宛カ其父兄ヨリ兵卒ニ送金スルノ狀況ヲ見テモ、其ノ不足スルト云フコトハ明カデア、又唯、送金スルカラソレガ不足デアルト云フコトデハ徹底シマセヌガ、實際ニ陸軍省ノ調べラレタモノヲ見マシテモ、確ニ不足ノ狀況ニ在ルト云フコトヲ第一申上ゲマス、ソレカラ第二ニハ、其兵卒ノ多クガドウ云フ家庭カラ出テ居ルカト云フ事、即チ兵卒ノ多クノ財産程度ハドウ云フモノデアルカト云フ事モ、是モ一ノ理由ニナラウト思フ、是ハ私ガ陸軍省デ調べテ貰ッタモノデ、詰リ第一師團、第十四師團、第十五師團ノ此三箇師團ノ兵ニ就キマシテ、大正六年ノ兵卒ノ總員ニ就キマシテ、ドウ云フ風ナ財産状態ニナッテ居ルカト云フコトヲ調べテ貰ヒマシタガ、直接國稅百圓以上ヲ納ムル家庭ノ者ガ、千分十五人、百圓未満二十圓以上ノ納稅者ノ家庭ノ者ガ百三十人モゴザイマス、ソレカラ直接國稅二十圓未満ノ納稅者ノ家庭ノ者ガ五百三十人デアリマス、直接國稅不納者ノ家庭ノ者ガ二百二十五人モゴザイマス、此書類ハ必ズ全般ニ涉ルトハ申シマセヌケレドモ、尠ナクトモ之ヲ以テ我帝國ノ陸軍ノ兵卒ノ財産状態ヲ窺ヒ知ルコトガ、大體ニ於テ出來ヤウト思ヒマス、之ヲ見マスルト中産階級以下ニ屬スル、直接國稅二十圓以下ノ者ト、直接國稅不納者トヲ合セテ、全體千人ニ付八百五十五人ト云フコトニナッテ居リマス、是ハ餘程看過

スベカラザルコトデアラウト私ハ思フノデアリマス、即チ此等ノ中産階級以下ガ國家最大ノ兵
 役ノ義務ヲ負ウテ居ッテ、其上ニ尠ナカラズ二三年間年々小遣ノ足リナイモノヲ受ケルト云フ現
 狀ハ、見ヤウニ依ッテハ餘程大問題ト謂フコトカ出來ルト信ジマス、是ガ第二ノ理由、第三ノ理
 由ハ是モ一寸數字ニナリマスケレドモ、徵兵令施行以來今日マデノ陸軍ノ兵卒ノ給料ヲ比較シテ
 見ルト、ドウナッテ居ルカ、委シイコトハ略シマスガ、ザット申上ゲマスルト、明治四年ニ一等卒ト
 云フモノハ一箇月二圓デアリマス、即チ一日七錢デアッタ、ソレカラ明治三十二年頃ハ幾ラデア
 ルカト云フト、一等卒ニ等卒ヲ通ジテ一日四錢デアアル、ソレガ明治四十三年ヨリ一日五錢二厘ニ
 ナッテ、サウシテ大正七年四月ヨリ二割五分ヲ増シマシテ、九月ヨリ四割増トナリ、現在一二等卒
 ガ一日七錢二厘ト云フコトニナッテ居リマス、斯ウ云フヤウナ風デゴザイマシテ、徵兵令施行當
 時ハ、非常ニ今日ヨリ待遇ガ好カッタノデアアル、此歴史カラ見マシテ、私共ハズット古キ以前ノ兵
 卒ノ手當ト其當時ノ物價ト、今日ノ手當ト今日ノ物價トヲ對照シテ見マスルト、不足デアルト云
 フコトハ、歷史上ヨリモ明ニ證明シ得ルト思フノデアリマス、第四ハ陸軍ト海軍トノ比較問題デ
 ゴザイマス、之ヲ食糧ノ方面ト給料ノ方面ヨリ觀察シマスルト、陸軍ノ方ノ上等兵ト云フモノガ
 定額六錢五厘デ、之ニ四割増シマシテ九錢一厘トナッテ居リマス、ソコデ海軍ノ一等卒ハドウデ
 アルカト云フト、一日ノ定額ガ二十六錢デ、是ニ四割ヲ増シテ三十六錢トナッテ居リマス、サウス
 ルト陸軍ノ上等兵ハ海軍ノ一等卒ト比較シテ、一日ノ給料ガ陸軍ヨリ海軍ノ方ガ四倍デアリマ
 ス、是ハ總テノ兵卒ニ通ジテ其通りデゴザイマス、ソレカラ又陸軍ノ兵卒ト海軍ノ兵卒トノ食糧
 ガドウデアアルカト云フト、米麥、野菜類ニモ大差ハゴザイマセヌ、唯、肉類ニナルト非常ニ差ガア
 ル、海軍ノ方ノ食糧ノ表ヲ見マスルト、一日ノ食糧ガ牛肉六十匁、魚肉ガ四十匁、合計百匁トナ
 テ居リマス、所ガ是ガ第十四師團ニ就キマシテ肉類ノ調ベタ物ヲ見マスルト、一週間ニ九十匁デ
 アリマス、所ガ海軍ニ於テハ魚肉牛肉ヲ通ジテ一日必ズ百匁ノ肉類ヲ食ハセテ居リマス、斯ウ云
 フコトニナッテ居リマシテ、甚ダ權衡ヲ得ナイノデアリマス、若シ今日ノ儘デ往キマスルト、海軍
 ニ志願スル人ハ悦ビマスケレドモ、陸軍ニ居ル人ハ甚シク不平ヲ持ツヤウニナルト思フ、此意味

ヨリシテモ、ドウシテモ陸軍ノ給與ヲモウ少シ高メル必要ガアルト思ヒマス、以上四點ガドウシ
 テモ陸軍ノ下士卒ノ給與ヲ更ニ改善シナケレバナラヌ理由トナルノデアリマス、是非一ツ諸君
 ノ御賛成ヲ請ヒタイ積リデゴザイス

次テ本案ハ(六四)齋藤珪次君提出官吏恩給法及之ニ關聯スル諸規程ノ改正ニ關スル建議案委員ニ
 併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ニ著手シタルモ議決ヲ爲スニ至ラサリキ

七二 北海道拓殖完成ニ關スル建議案

現今北海道拓殖事業計畫ノ財源タル自然増收ハ拓殖完成ニ至ル迄本道經營ノ資源ニ供スルハ北
 海道拓殖計畫案ノ精神ナリ故ニ左記事項ニ對シ更ニ時代ニ適應スル計畫ヲ樹立セムコトヲ望ム

- 一 拓殖鐵道敷設
- 一 港灣及漁港ノ修築
- 一 治水事業
- 一 土地改良事業
- 一 其ノ他必要ナル事業

右建議ス

右ハ八年三月十八日寺田省歸君外三名之ヲ提出ス同月二十一日本案ヲ院議ニ付シ(二十日延會)提出者(寺田省歸君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

「北海道拓殖事業計畫ノ財源タル自然増收ハ拓殖完成ニ至ル迄本道經營ノ資源ニ供スル」トハ明治四十四年ニ定メラレタル拓殖計畫ノ精神デアリマス、仍テ「更ニ時代ニ適應スル計畫ヲ樹立センコトヲ望ム」ト云フノガ、此建議案ノ精神デアリマス、即チ拓殖鐵道ノ敷設、港灣及漁港ノ修築、治水事業、土地改良事業、其他必要ナル事業デアリマス、理由ヲ聊カ説明致シマス、北海道ハ明治二年拓殖長官東久世通禧卿ガ、開拓ニ從事シテ以來、既ニ五十餘年ヲ經過致シマス、其間官民共ニ銳意熱心開拓ニ從事致シマシタ結果、今ヤ人口二百有餘萬、開墾地七十餘萬町歩、生産高三億萬圓ニ上リマシテ、其進歩稍、見ルベキモノガアリマス、然レドモ廣袤六千方里ニ互ル北海道ノ大ニ比シマスレバ、未ダ開墾ノ工程ハ其半ニモ達シナイノデゴザイマス、海ニ於テハ、沿海漁業ハ稍、衰頽ノ傾ガアリマスケレドモ、遠洋漁業ニ至リマシテハ未ダ一指ヲモ染メズ、無盡ノ魚族ニ富ミ、此魚族ヲシテ空シク北海ニ游泳セシムル有様デアリマス、又山ニ在リマシテハ、千古不伐ノ森林ハ廣大ノ地區ニ互リマシテ、晝猶暗キ所ガアリマス、又各種ノ礦物ハ無限ノ鑛量ヲ包藏シテ、事業家ヲ待ツテ居ル有様デゴザイマス、更ニ原野ヲ見マスレバ、尙吾々ノ見ル所デハ、百萬町歩ノ開墾適地ガ存シテ居ルノデアリマス、刻下朝野ノ最モ苦心ヲ爲シツ、アル米穀ニ於テモ、今後殆ド五六百萬石ヲ産出シ得ベキ餘地ガ十分アルノデアリマス、工業ニ至ツテハ各所ニ豊富ノ原料ヲ産スルヲ以テ、多大ノ發展ヲ見ルコトガ出來マス、其外畜産ニ、養蠶ニ、數ヘ來レバ日モ亦足ラスノデアリマス、故ニ北海道ノ開拓ノ仕事ハ、寧ロ是カラト言ウテモ宜イノデアリマス、故ニ若シ北海道拓殖完成シ、産業大ニ發達スルノ時ニハ、人口ニ於テ七八百萬、生産總高十億萬圓ニ上ルコトハ、敢テ難事デナイト思ヒマス、故ニ此點カラ申シマスレバ、北海道ハ一ハ米穀ノ調節ヲ助ケ、一ハ内地ニ於テ年々増加スル過剩ノ人民ヲ移入レマシテ、彼等ヲシテ土著永住ノ樂土ヲ得セシムル使命ヲ有シテ居ルノデゴザイマス、政府ハ明治四十二年拓殖事業計畫ヲ立テ、以

來時運ノ形勢ニ鑑ミマシテ、豫定ノ計畫ニ多少ノ改正追加ヲ爲シ、是ガ遂行ニ努メツ、アリマスケレドモ、拓殖ノ完成ヲ期セント欲セバ、未ダ不備不足ト謂ハナケレバナリマセヌ、然ルニ一面時代ノ進運ハ、北海道拓殖ノ速成ヲ要望シテ止マヌノデアリマス、又一面本道自然ノ增收ハ一時豫定ノ如キ收入ガアリマセヌデシタガ、近年ニ至リマシテ頗ル好況ヲ呈シ、此既定計畫ノ完成期、即チ大正十五年ニ至ルマデ、少クモ二千有餘萬ノ金高ニ上ル豫想デゴザイマスルカラ、吾々ハ此最初ノ計畫ニ基イテ、此二千有餘萬ノ金ヲ支出シテ、以テ此拓殖ノ完成ヲ期セント欲スル者デゴザイマス、ドウガ御賛成ヲ願ヒマス

次テ本案ハ議長指名(九名)ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ三月二十四日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ同日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十五日再ヒ院議ニ付シ委員長東武君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

御報告致シマス、本案ハ北海道拓殖ニ關スル建議案ト云フノデアリマス、其内容ハ北海道ノ拓殖費ノ自然増加ヲ以テ、北海道ニ拓殖ノ施設ニ充當シテ貫ヒタイト云フ意味デ、是ダケナレバ頗ル簡單デアリマスガ、此建議ニハ頗ル重要ナル事ガ含まレテ居ルノデアリマスガ、時間ガゴザイマセヌカラ極ク簡單ニ概要ダケヲ申上ゲマス、北海道ノ拓殖計畫ハ矢張一般會計ノ取扱ノ規定ニナツテ居ルノヲ、明治四十二年度ニ拓殖ノ十五年計畫ト云フモノヲ、時ノ河島長官ニ依ツテ立テラレタ、此立テラレタ時ノ精神ハ、時ノ内閣ガ更マリ政變ノアル毎ニ拓殖政策ガ常ニ異動スルコトハ、國家ノ爲メ甚ダ不利益アルト云フノデ、特別會計ヲ施設スル考デアッタ、所ガ内地府縣ノ法制上幾多ノ關係ガアリマシテ、北海道ハ内地同様ナ行政ヲ布カレテ居ル爲メニ、特別會計制度ヲ立テルコトガ出來ナカッタ故ニ、一種變態ナル特別會計制度ヲ執ッタノデアリマス、其時ノ計畫ノ基礎ハ十

五箇年ヲ以テ北海道ノ拓殖第一期ヲ完成スル、ソレニ對シテ政府ハ七千萬圓ノ金ヲ拓殖費ニ投ズル、斯ウ云フ事ニナッテ居ッタ、此七千萬圓ヲ十五箇年ニ投ズルト云フコトハ、美デアリマスガ、其内容ハ四十三年度ニ於キマシテ政府ガ一般會計ニ收入シテ居ル所ノ國庫收納金ノ基礎ヲ定メテ、四十三年度ニ國庫ニ入ッテ居ル金ガ幾ラト云フコトヲ、ソレヲ抑ヘテ、其費用千三百萬圓國庫ニ納ッテ居ルカラ、其千三百萬圓ヲ基礎ニ取ッテ、其以上ニ増額シタモノハ北海道ノ拓殖費ニ充テ、一般會計ニ累ヲ及ボサナイト云フ或程度ヲ決メテ、從來ノ如ク國庫ニ入レ、其以上ハ北海道ノ拓殖費ニ充當スル、所謂之ヲ自然増收ト言ヒマシタ、其時二百五十萬圓國庫ガ年々出スト云フコトニナッテ、之ヲ北海道ノ拓殖ノ自然増收ト云ヒ、而シテ十五箇年計畫ヲ立ッタノデアリマス、所ガ此計畫ヲ立ッテ以來、自然増收ハ甚ダ少ナクシテ、大正三年度マデ六箇年間ハ甚ダ此世ノ中ガ不景氣、若クハ凶災相踵ギ、爲メニ拓殖計畫タル自然増收ニ當テタルモノハ、繰延々々ニシテ遂ニ其計畫ガ十分ニ行ハレナイケレドモ、政府ト一般會計トノ協定事項ノアル爲メニ、北海道拓殖ハ進マナカッタデアラウト信ゼラル、有様デアッタ、然ルニ、幸ニ大正三年度時局以來、一躍拓殖事業ハ促進セラレテ、自然増收ガ非常ニ殖エタ、故ニ七千萬圓ト云フ金ハ、大正六年度ニ更ニ計畫ヲ改正致シマシテ、現在ハ八千九百萬圓ニナッテ居リマスカラ、此建議案ノ精神カラ見マスレバ、尙ホ現在ニ於テモ二千二百萬圓許リノ剩餘金ヲ生ズルコトニナッテ居ル、是ハ其儘ニシテ置ケバ、一般會計ニ皆ナ入レテシマフノデアルカラ、初メカラ此本體ノ特別會計ヲ施行シテ來タノデアリマスカラ、其當初ノ契約ニ基イテ金ノ剩ッタ場合、北海道ノ必要ノ事業ニ充當シテ貫ヒタイト云フコトデアリマス、此法制上或ハ豫算ノ上カラ見マスレバ、此事ハ一種ノ契約ニナッテ居ラス、契約ニナッテ居ラスカラ金ガ剩ッテモ、一般會計ニ入レルト云フコトハ當然ノ結論ニナルノデアリマスケレドモ、此決算ニ於テ金ガ繰越シタ時ハ、繰越シヤウト云フコトガ協定事項ニナッテ居ル、ソレダカラ一年ニドレダケノ金ヲ使フト云フ標準ガ立ッテ居リマスカラ、ソレハ自然増收ノアツタ場合ハ、決算上増加額ハ制限外ニスルト云フ、斯ウ云フ協定ニナッテ居ル、是ハ内閣ノ協定事項ニナッテ居ル、ソレデアリマスカラ決算三年目ニ金ガ剩ッタラ、ソレハ制限外トシテ使ッテ宜

イト云フ條件ニナッテ居リマスカラ、此建議案ハ其趣意其精神ニ基イテ、北海道ノ施設事業ハ多益、アツテ、港灣ノ如キ、道路ノ如キ、鐵道ノ如キ、治水ノ如キ、マダ少シモ手ガ届イテ居ラヌノミナラズ、近來耕地整理、開墾助成法案、若クハ帝國開墾株式會社ト云フヤウナ仕事ハ、北海道拓殖費ヲ以テ遣ッタナラバ、本員ガ申上ゲルト多少我田引水ノ嫌ガアリマスケレドモ、此食糧ノ獨立問題ナドハ輒ク解決ガ出來ルノデアリマス、又北海道拓殖事業ハ僅カニ三分ノ一位デ、前途益、遼遠デアアルノデアリマスルガ、此豫算ノ精神ニ依リマシテ——依ラナケレバ已ヲ得ナイガ、剩ッタ金ガアツタナラバ、更ニ拓殖計畫ヲ改訂サレマシテ、其費用ニ充實スルコトハ當初ノ精神デアルト云フコトニ依ッテ、此建議案ヲ提出シタ次第デアリマス、委員會ハ滿場一致ヲ以テ議決シ、政府ノ答辯ヲ求メマシタ、内務省政府委員ハ之ニ向ッテ滿腔ノ同意ヲ表シ、大藏省ノ政府委員ハ是ハ計數上ノ基礎ニ涉リマシテ、重大ノ關係ガアリマスカラ、明言ガ出來ナイト云フコトデアリマシタ、政府委員ノ答辯ヲ求メ全會一致ヲ以テ可決シタ次第デアリマス、成ベク御賛成アラントラ……

院議異議ナク本案ヲ可決シ即日政府ニ之ヲ呈出セリ

七三 發電用水利權ノ法規制定ニ關スル建議案

近時石炭ノ價格暴騰シタルト各種工業勃興ノ結果水力電氣ノ事業ハ益盛大ヲ加ヘ而シテ國家ノ産業上重ナル位置ヲ占ムルニ至レリ而シテ水力電氣ノ根原タルヘキ水利ハ國家ノ所有物ニシテ之カ使用許可ノ方法ノ宜シキヲ得ルト否トハ國家經濟上重大ナル關係ヲ有シ且事業家ノ利害消

長ニ影響スルトコロ大ナリ然ルニ此ノ水利權使用ノ許可ニ關シ未タ統一的法規ノ定マレルモノ
ナク所謂行政官廳ノ手加減ニ依リテ決定セラルヘキヲ以テ時トシテ其ノ間不正ノ運動行ハレ公
明ナル經濟上ノ發展ヲ阻害スルコト少カラス依テ政府ハ速ニ適當ナル方策ヲ講シ本建議ノ趣旨
ヲ遂ケシメラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ八年三月十八日石原正太郎君外一名之ヲ提出ス同月二十一日本案ヲ院議ニ付シ(二十日延會)
提出者(石原正太郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

最近水力電氣ノ事業ハ非常ニ勃興致シマシテ、殊ニ時局以來石炭ノ價格ガ騰貴シ、工業ノ勃興ニ
伴ウテ此水力電氣ガ非常ニ發達ヲ來シタノデアリマス、近イ調ニ依リマスルト、水力ニ依ル發電
ガ約九十萬馬力、之ニ投下セラレテ居ル資本ガ約三億五千萬圓ニ達シテ居ルノデアリマス、數年
前遞信省ニ臨時發電調査局ト云フモノヲ置キマシテ、全國ノ主要ナル河川百四十七ニ付キマシ
テ、經濟上利用シ得ベキ發電力ヲ調査シタコトガアリマス、其調査ノ報告書ニ依リマスルト、此
百四十七ノ河川ニ付テモ尙ホ六百五十萬馬力ノ、經濟上利用シ得ベキ水力ガアルト云フコトデ
アリマス、左様ナ譯デアリマスルカラ、今後此水力電氣ニ投下セラルベキ資本ハ、恐ラク十五億
乃至二十億ヲ下ラヌモノデアラウト思フノデアリマス、誠ニ水力電氣ハ國家ガ所有シテ居ル富
源ノ最モ大ナルモノ、一ツデアッテ、幾ラ之ヲ使用シテモ——之ヲ使ッテモ盡キナイト云フ點ニ
於キマシテハ、或ル意味ニ於テハ鑛山ヨリモヨリ以上價値アル國家ノ一大富源デアラウト思フ

ノデアリマス、此富源タル此水力ノ水利權ニ就キマシテハ、統一サレテアル纏マッタ法規ガ無イ
ノデアリマス、各府縣勝手ナ手續書ノヤウナモノヲ設ケ、遞信省ハ遞信省デ内規ノヤウナモノヲ
設ケ、内務省ハ内務省デソレニ類シタルヤウナモノヲ設ケ、其爲メニ此貴重ナル富源ノ開發ヲ薄
カラシメ妨グルコトガ非常ニ多イノデアリマス、ノミナラズ斯様ナ有用ナ富源デアアル爲メニ、其
權利ヲ獲得スベク色々ノ緣故ヲ迪ッテ、忌ムベキ運動ナドモ行ハレテ、官紀上寔ニ厭フベキ事柄
モ起ルノデアリマス此水力電氣ノ水利權ノ許可ニ對シマシテ、政府ガ現ニ執リツ、アル方針ニ
就テ、尠カラズ不安ヲ懷イテ居ル、又多クノ疑點ヲ持ッテ居ルノデアリマス、是等ニ就キマシテハ、
詳細ニ委員會ニ於キマシテ政府ノ御説明ヲ願ヒタイト思ッテ居リマス、ドウゾ御賛成アラソコト
ヲ希望致シマス

次テ本案ハ議長指名(九名)ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ三月二十四日委
員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末表題ヲ「水利法ノ制定ニ關スル建議」ニ改ムヘキモ
ノト決シ同月二十五日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十六日再ヒ院議ニ付シ委員長中倉万次郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

御報告致シマス、此發電用水利權ノ法規制定ニ關スル建議案、是ハ委員會ニ於キマシテ、修正可
決スベキモノト云フコトニ決シマシタ、此委員會ヲ開キマシタコト二回——一日ニ互ッテ、委員
中ヨリ精細ニ質問應答ガアリマシタ、内務省ニ關係スル政府委員、遞信省ニ關スル所ノ政府委員
ノ出席ヲ求メテ、數回ノ質問應答ガアリマシタ、一々之ヲ御紹介スルコトモ洵ニ困難デアリマス
カラ、追テ速記録デ皆様ニ御承知ヲ願フコトニ致シマシテ、其四五ノ質問應答ノ要點ダケヲ申上
ゲヤウト思ヒマス、其實問ノ主ナルモノハ、中央ノ方針ガ地方長官ヨリ徹底シテ居ラナイコトガ
アル、其等ノ點ニ就テハ、今後十分注意ヲシテ貰ヒタイ、ソレハ質問ノ中デ、先ヅ要求注意ト云フ

ヤウナ意味ヲ含ンデ質問ガアリマシタ、之ニ對シテハ政府ニ於テモ、大體ニ就テハ今後尙ホ一層注意スルト云フヤウナ意味ノ答辯デアリマシタ、第二ハ府縣地方廳ニ於テ、此水利權ノ出願ニ付テ往々數日——數月或ハ數年ノ間此願書ノ處理ヲ延引致シマシテ、出願者ハ非常ニ迷惑ヲ生ズルノミナラズ、此國家的事業ノ發電——電氣事業ニ付テモ、非常ニ不利益ヲ與ヘル事ガ多イカラ、是モ成ベク速ニ處理ノ出來ルヤウナ方針ヲ執ッテ貰ヒタイ、又其中ニハ此出願ニ對シテ、其地方町村ノ意見ヲ問フ場合ニ當ッテハ、其町村ニ於テハ、水利其他ノ關係上、實際差支ノ著シキモノデナイモノニ限ッテモ、相當ナ答申ヲシナイト云フヤウナ弊害モアルノデアルカラ、是等ノ點ニ就テハ、其意見ヲ徵セズシテ處理スルト云フヤウナ事ハ出來ヌダラウカト云フヤウナ質問モ起リマシタ、ソレニ對シテハ政府ノ方デモ、其地方ノ利害等ニ就テ調査スルト云フ事ハ必要デアッテ、是ハ無視スルコトハ出來ナイト云フヤウナ意味ノ答辯モアリマシタ、其次ニハ此競願ノ場合——競願ノ場合ニ色々此情實ガ纏綿致シマシテ、或ハ甲ニ許可スベキモノヲ、乙ニ許可スルト云フ弊害モアルヤウニ認メル、之ニ就テハ政府ハ此願書ノ順序ニ依ッテ、許可スルト云フ方針ヲ執ッテ居ルカ、其實際ノ事實ニ就テ質問ガアリマシタガ、御承知ノ如ク此出願ニ對シテハ、先願權ニ許スト云フヤウナ確然タル法規ガ出來テ居ナイ、工業法ノ如キ、其願書ノ先後ニ依ッテ許可スルト云フコトデハナイガ、先ヅ其實際出願者ノ事實ヲ調査致シマシテ、同ジモノデアラナラバ、先願ノ方ニ許可スルト云フヤウナ方針ヲ執ッテ居ルト云フ意味ノ、答ガアッタノデアリマス、ソレカラ發電用ノ土地收用ノコトニ就テモ質問ガアリマシタ、是ハ國家事業デアアル、發電事業ハ國家的事業デアレバ、成ベク土地收用法ノ例ニ依ッテ、之ヲ處理スルヤウナコトニシテ貰ハナケレバ、其土地ノ狀況ニ依ッテ、色々苦情ガ起ッテ、此事業ノ發展ヲ妨ゲルト云フコトガ往々アルノデアアル、之ヲ土地收用法ニ依ッテ處理スルヤウナコトハ、出來ナイカト云フヤウナ質問モアリマシタ、是ハ此電氣事業ハ、國家的事業トハ云ヒナガラ、公共的の事業トハ申シナガラ、全然此電氣事業ヲ以テ、公共的の事業、國家的の事業ト云フコトニノミ取扱フト云フコトハ到底六ヶ敷イ、總テ此問題ヲ土地收用法ニ依ッテ處理スルト云フコトハ、困難デアルト云フヤウナ意味ノ答ガアッタノデアリマ

ス、地方自治體ニ許スト云フコトハドウカト云フ質問モアリマシタガ、是ハ場合ニ依ッテハ自治體ニ許スト云フコトハ、差支ナイト云フ意味ノ答ガアッタノデアリマス、ソレカラ是マデ電燈會社ノ其事業ニ對シ其地方ニ對スル所ノ往々不始末ナ事モアルノデアアル、此等ニ就テハ十分今後取締ヲシテ、サウ云フ弊ノ無イヤウニ實行致サセルコトニシテ貰ヒタイト云フ、是モ希望同様ノ質問デアリマス、ソレカラ外國人ニ、成ベク許可ヲ與ヘナイヤウニスルト云フヤウナ意味デ質問モアリマシタガ、全然此所デ外國人ニ許可セヌト云フ明言ヲスルトハ出來ナイ、併シ成ベク注意ヲスルト云フ位ノ答辯ガアッタノデアリマス、此發電用水利權ノ制定ニ付キマシテハ、隨分此以外ニモ質問應答モアリマシタガ、政府ノ方デ申サレル所デハ、唯、此制定ハ發電用ノミニ限ッテ法規ノ制定ヲスルト云フコトハ、少シ困難ラシキ答辯ガアッタノデアアル、併シ大體ノ此水利法ト云フコトニ就テハ、既ニ調査ニ著手ヲ致シテ居ル、追々此調査ガ完全ニ出來上レバ此法規ヲ制定スル積リデアアル、此水利ト云フ問題ニ就テハ、單ニ發電用其他ノミナラズ、灌溉用水等ニ最モ關係ガ多イノデアアル、全般ニ涉ッテ此水利法ト云フモノハ制定シナケレバナラヌト云フ意味ノ答辯ガアリマシテ、委員會ハ種々審査討議ヲ盡シマシタ上ニ、先刻申上ゲタヤウニ修正可決スベキモノト決シマシタ、其標題ノ修正ヲ一寸御紹介致シマスレバ「發電用水利權ノ法規」ト云フ九字ヲ削リマシテ「水利法」ト云フ四字ヲ加ヘマシタ、此全文ハ「水利法」制定ニ關スル建議案、斯ウ云フコトニ致シマスレバ、此水利法ノ全體ニ涉ッテ、完全ナル法規ヲ制定シテ貰フト云フコトニナレバ、或ハ灌溉水其他ノ事ニ就テモ、差支ガ後日生ジナイト云フコトニナッテ宜カラウト云フ南澤君カラノ修正動議ガ出マシテ、政府ノ方ニモ此修正ニ就テノ意見ヲ質シマシタ所ガ、斯ノ通りナラバ、或ハ内務省ノ管轄、農商務省ノ管轄、逓信省ノ管轄ト云フ、總テヲ網羅シテ此法律ヲ制定スルト云フコトニナレバ、將來大ニ便利デアルト云フ意味ニ於テ、政府ハ全然此修正ニ同意ヲサレタノデアリマス、以上申上ゲル如クニ致シマシテ、委員會ハ滿場一致デ修正動議ヲ可決スルトコトニナリマシタノデアリマス、此段御報告致シマス

院議異議ナク委員長報告ノ通本案ヲ修正議決シ即日政府ニ之ヲ呈出セリ

七四 産業組合法中改正ニ關スル建議案

現行法ニ於テハ産業組合聯合會カ更ニ産業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得ス之カ爲聯合會ノ活動力伸長セス延テ産業組合ノ效果充分ナラサルノ憾アルヲ以テ速ニ法ノ改正アラムコトヲ望ム
右建議ス

七五 農業倉庫業法中改正ニ關スル建議案

農業倉庫業經營ノ主體トシテ産業組合ヲ認メラレタルハ農業倉庫ノ普及發達上至大ノ便益ヲ得ルモ然モ産業組合ノ區域外尙一郡若ハ夫レ以上ノ地域ヲ以テ農業倉庫業ヲ經營スルヲ便トスルモノ尠カラサルハ該法實施ノ情況ニ徴シテ明ナリ依テ産業組合聯合會ニモ斯業ノ經營ヲ爲シ得ヘク法ノ改正アラムコトヲ望ム
右建議ス

右兩案ハ三月十九日内藤傳祿君外一名之ヲ提出ス同月二十四日兩案ヲ一括シテ院議ニ付シ提出者(内藤傳祿君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

第一産業組合法中改正ニ關スル建議案ニ就キマシテ一言申上ゲマスルガ、現行法ニ於キマシテハ、信用組合聯合會ニ、他ノ産業組合聯合會ガ加入スルト云フコトハ認メラレテ居ルノデアリマ
スルガ、産業組合聯合會ガ、更ニ聯結シテ一ノ産業組合聯合會ヲ組織スルト云フコトハ、遺憾ナ
ガラ未ダ認メラレテ居ラナイ爲メニ、却テ産業組合聯合會ノ活動力ヲ殺ギ、延テハ産業組合ノ發
展ヲ阻害シテ居ル、現今我國ニ於キマシテ、社會政策トシテ唯一ノ此産業組合法ニ不備ノ點ガア
ルト云フコトハ、最モ遺憾ニ堪ヘナイ爲メニ本案ヲ提出シテ、速ニ改正アラント希望シタ次
第デアリマス、次ニ農業倉庫業法中改正ニ關スル建議案デアリマスルガ、是亦現行法ニ於キマシ
テハ、農業倉庫業經營者トシテ、其主體トシテ、産業組合或ハ町村農會ト云フモノガ指サレテア
リマスルノハ、甚ダ結構デゴザイマスルガ、奈何セン目今ノ狀態ニ於キマシテハ、産業組合ハマ
ダ基礎極メテ羸弱、加フルニ區域ガ狭小ナル爲メニ、多大ナル建設費ヲ投ジテ之ヲ經營スルト云
フコトハ、甚ダ困難ナル狀態デアリマス、之ヲ一郡或ハ其以上ノ區域ノ下ニ設立セラレテ居ル所
ノ、産業組合聯合會ヲ以テ經營セシメタナラバ、始メテ目的ヲ達シ得ルダラウト思フノデアリマ
ス、既ニ此法ガ發布セラレテ以來、各府縣ニ於テハ競ウテ獎勵シツ、アルノデアリマスケレド
モ、其實績ガ甚ダ擧ラナイ、獎勵費モ餘リツ、アルト云フ理由ハ、一ニ此ニ存スルノダラウト感
ジタ次第デアリマス、仍テ本案ヲ提出致シマシタガ、兩案共今日ノ時勢ニ適應シテ居ル所ノ、最
モ急務ナルモノト思ヒマスルカラ、宜シク御審議ノ上、御賛成アラント希望致シマス

次テ兩案ハ(二九)中倉方次郎君外十名提出農工銀行補助法第七條實施ニ關スル建議案外三件委員
ニ併セ付託スルニ決シ委員ハ審査ニ著手シタルモ議決ヲ爲スニ至ラサリキ

七六 本邦基礎工業ノ保護ニ關スル建議案

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第五項 上奏案及建議案

本邦ノ基礎工業ニ屬スルモノニシテ戰時ノ影響ヲ享ケ漸次顯著ナル發達ヲ爲シ稍自給ノ域ニ達セムトスルニ際シ昨秋戰局ノ終焉ニ伴ヒ俄ニ市價ノ暴落ニ逢ヒ殊ニ意外ニ低廉ナル外國品ノ襲來ヲ蒙リ殆ト其ノ經營ニ堪ヘス之ヲ自然ノ推移ニ放任セムカ續々衰滅ノ非運ニ陥リ延テ一般經濟界ニ混亂ヲ惹起シ收拾スヘカラサルニ至ルナキヤヲ保セス政府ハ速ニ之カ實際ノ情況ニ關シテ公平ナル調査ヲ遂ケ之ニ對シテ直ニ適當ナル施設ヲ爲スノ必要ナルヲ認ム
右建議ス

右ハ八年三月二十日田中隆三君外一名之ヲ提出ス同月二十五日本案ヲ院議ニ付シ提出者(田中隆三君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

國家ノ獨立自營ニ最モ必要ナル工業デアルト云フコトハ、百モ二百モ承知デアリマスケレドモ、或ハ技術上困難デアル、或ハ經濟上困難デアルト云フコトデ、一向之ニ手ヲ染メル者ガ無カッタ、其大事ナ仕事ガ偶、此歐羅巴大戰ノ影響トシテ、我國ニ續々トシテ芽ヲ出シテ來タト云フコトハ、洵ニ慶ブベキ現象デアル、所ガ漸クニシテ其仕事ガ芽ヲ出シテ是カラ伸ビヤウト云フ際ニ、マダ其根柢ガ固マラナイ、基礎ノ脆弱デアル此時此際ニ於テ、突然此平和ト云フ聲ニ伴レテ、是等生産品ガ暴落ニ暴落ヲ重ネマシタノミナラズ、又他ノ方面ニ於テハ、各國政府共有ユル力ヲ盡シテ、此材料ヲ蓄積シタト云フ事實ガアル、是ハ戰ガ熄ムトナルト云フト、皆ナ何カノ手ヲ經テ、之ヲ市場ニ吐出シテ來ルト云フコトニナッテ居リマスルカラ、其様子ニ壓迫セラレテ、此市場ト云フモノハ、急轉直下暴落ヲ重ネルト云フコトハ、是ハ已ムヲ得ヌ、兎モ角モ此暴落ニ暴落ヲ重ネテ、

非常ナ慘澹タル有様ニナルト云フコトハ、事實デアリマス、殊ニ其仕事ノ中ノ最モ聲ノ八釜敷イノハ、染料亞鉛或ハ曹達種々雜多ノ物ガゴザイマス、サウシテ其等ノ蒙ッテ居リマス所ノ其悲慘ナル有様ハ、皆ナ同シ事デアリマス、是ハ政府トシテ、何等カノ方法ヲ以テ此一時ノ急場ヲ救済スベキ途ヲ講ズルノハ、當然ノ處置デアラウト思フデアリマス、然ルニ政府ノ仕事ト云フモノハ、熟慮シテ居ラレト云フ其時間ガ長ク掛ッテ困ル、今大暴風雨ガ起ッテ、此暴風雨ノ爲メニ、折角育チカ、ツタ所ノ樹木ガ倒レントスル場合、一體此暴風雨ノ速力ハ何米突アルトカ、何米突ノ暴風雨ニ對抗スルノニハ、何寸角ヲ以テ突張棒トシナケレバナラヌトカ、ドレダケノ直徑ノ丸太ヲ持ッテ行ッテ、之ニアテガハナケレバナラヌト云フヤウナ事ヲ言ッテ色々調査ニ其時間ヲ費シテ居ラレル、サウシテ居ル間ニモウ其木ハ倒レテシマウ、折レテシマウ、調査ハ結構デアリマスガ、調査ニ時間ヲ費シテ居リマスト云フト、其本尊ノ樹木、而モ基礎ノマダ確立シナイ所ノ、此國家ノ獨立自營ニ最モ必要ナル所ノ産業ト云フモノハ、根コソギ破壊サレテシマウノデアル、而シテ其結果ハ、獨リ其折角伸ビカ、ツタ所ノ事業ガ、根柢カラ崩サレルノミナラズ、其結果ハ延テ一般ノ產業界ニ容易ナラヌ影響ヲ及ボスダラウト私共思フデアリマス、產業界ハ幸ニ平穩ニ順調ニ、今ヤ發達シ來リツ、アルノデアアル、吾々ノ取調べマス所ニ依リマスト云フト、鐵ノミニ投資セラレタ其資本デモ、最近ニ於テ既ニ五六億圓ニモ達シテ居ルト云フコトデアリマス、一般ノ基礎工業ニ關スルモノ、投資額ガ、十億以上ニハ確ニ達シテ居ルデアリマセウ、此資本ノ上ニ唯今申上ゲマサウナ恐慌ガ起リマシタナラバ、延テ一般産業ノ上ニ容易ナラザル關係ヲ及ボスト云フコトハ、是ハ明白ナ事デアルト思フ、ドウシテモ此際速ニ何等カノ方法ヲ立テ、以テ、其救済策ヲ講ジナケレバナラヌモノト私共ハ信ジテ居ルノデアリマス、唯、之ニ就テ一言辯明ヲ致シテ置キタイト思ヒマスル事ハ、兎角大體論トシテ、私共ノ說ニハ皆様ガ御贊成下サルヤウデアリマスガ、陰言ガ往々アル、ソレハ鐵ヲ首メ今日救済ヲ叫ンデ居ル所ノ仕事ハ、先達マデハ非常ナ暴利ヲ得テ、所謂世間デ謂フ何トカ成金ト云フヤウナ事デ、世間ヲシテ散々羨マシガラセル程旨イ事ヲシテ居ッタ、ソレガ今度平和ノ聲ト共ニ、サウシテ非常ニ困難ニ陥ッタト云フコトデ、直チニ悲鳴ヲ

アゲ救済ヲ求メルト云フコトハ、餘リニ蟲ガ好過ギル、構フニ及バヌト云フヤウナコトガ、往々ニシテ聞ユルノデアリマス、是ハ或意味ニ於テ、之ニ當筋ル如キ人モ或ハアルカモ知レヌ、併ナガラ實際ノ實情ヲ能ク調査致シテ見マスルト云フト、其非難ハ當ラヌノデアリマス、ソレハドウ云フ事デアルカト云フト、其所謂儲ケタトカ、大層利益ガアルト云フ事ニ實際携ッテ居ル人ハ、其儲ケタ利益ノ何十倍モ、ヨリ以上却テ自分ノ懐カラ、更ニソレ以上ノ資本ヲ投ジテ、此事業ノ擴張創設ニ投資シテ居ルノデアリマス、唯今申上ゲマス通り、既ニ鐵バカリデモ五億六億以上、儲ケタ金ハト云フト、其何十分ノ一ニモ足ラヌノデアリマス、儲ケタト云フヨリハ、儲ケタモノヨリ以上ニヨリ多ク資本トシテ、國家ノ爲メニ斯ウ云フ必要ナ産業ノ發達ヲ圖リツ、アル此際ニ於テ、前申上ゲマスヤウナ窮狀ニ陥ッタノデアリマスカラ、ドウシテモ是ハ何カ相當ナ方法ヲ以テ、救済ヲシテヤラナケレバナラヌト私ハ思フ、ソレカラ又今一ツハ、之ヲ救済スル相當ノ保護ヲスルト云フトキニハ、其半面ニハ必ズ其物ノ價格ヲ吊上ゲルト云フ結果ヲ來ス、是ハ多クノ場合ニ於テサウデアリマセウ、サウスルト之ヲ需要スル人ガ迷惑ヲスル、是モ其通りデアリマス、一般ノ需要者ニ出來得ル限リ廉イ材料ヲ供給スルト云フトハ、産業獎勵ノ爲メニ必要ナル事デアルカラシテ、所謂保護政策ヲ執ッテ其生産品ノ價格ヲ吊上ゲルヤウナ事ハ、主義トシテ宜シクナイト云フヤウナ論ヲ唱ヘラル、方モアル、是モ洵ニ御尤ナ議論デアリマシテ、決シテ間違ッテ居ルトハ私共申シマセヌガ、併ナガラ世ノ中ノ實際ト云フモノハ、教場ノ机ノ上デ講義ヲスルヤウナ事トハ違フ、各國各、獨立ノ旗ヲ振ッテ、其國ノ産業ノ爲メニハ、有ユル手段ヲ盡シテ之ヲ保護獎勵スルト云フ今日ノ有様ニ於テハ、サウ云フ論ヲスル時機ハ未ダ到來シテ居ラナイ、現ニ諸君モ御承知ノ通り、此戰爭中ニ於テモ、造船其他機械、種々ナ關係ニ於テ鐵ガ入用ダト云ウテモ、澤山ナ鐵ヲ產出スル所ノ國々ガ、如何ナル手ヲ盡シテモ、如何ニ哀訴嘆願シテモソレヲ送ッテ呉レマセヌ、加之日本カラ或ル品物ヲ賣ッテヤッテモ代金モ拂ハナイ、金貨ノ輸出ヲ差止メル、故ニ、國家ノ獨立自衛ニ最モ必要ナル産業ノ如キハ、展ビ得ル見込ガアルナラバ、如何ナル保護手段ヲ盡シテモ、如何ナル獎勵ノ方法ヲ執ッテモ、之ヲ平時ニ於テ引立テ、サウシテ發達セシメテ、

如何ナル出來事ガ起ッテモ、其國ノ獨立自衛ニ聊カノ缺點ヲモ認メナイト云フヤウナコトニスルニハ、吾々平素カラ大ニ注意シナケレバナラヌ事ト考ヘテ居リマス、此意味ニ於テ本建議案ガ提出セラレタ譯デアリマス、惟フニ政府ニ於テモ、既ニ其點ニ就テハ御著眼ニナッテ、種々ノ方法ヲ案出セラレテ居ルコト、私ハ確信スル、唯、奈何セン其調査トカ何トカ云フ事ガ、如何ニモ長イ時日ヲ要セラレテ、速ニ其結果ヲ見ルコトヲ得ザルコトヲ遺憾トスルガ故ニ、本建議案ヲ今日既ニ會期ノ切迫シテ居ル際ニ於テ、提出スルノ已ムヲ得ザルニ至ッタ次第デアリマス

次テ本案ハ議長指名(九名)ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ三月二十五日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ同日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十六日再ヒ院議ニ付シ委員長井上角五郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

本邦基礎工業ノ保護ニ關スル建議案ハ、時日切迫ノ折柄デゴザイマシテ、昨日一日ヲ以テ其審議ヲ遂ゲ、之ヲ可決致シマシタ、戰後基礎工業ガ一般ニ急激ナル打撃ヲ受ケテ居ルニ相當ナル考慮ヲ用キマシテ、之ガ救済ヲ爲シ、之ガ維持ヲ爲シテ、自給自足ノ本旨ヲ貫カシムルコトニ對シテハ、十分ナル誠意ヲ持ッテ居ルモノト私共ハ認メマシテゴザイマス、又吾々ハ提出者田中君ノ說明ヲ聽キマシテ、尙ホ民間當業者ガ或ハ公ニ發表シ、或ハ其筋ヘ請願致シマシテ居ル所ノ書類ヲ參酌シ、先ヅ基礎工業ナルモノ果シテ何デアルカト云フコトニ就キマシテ、即チ申上ゲルガ如ク時日切迫ノ折柄デゴザイマスカラ、鐵、亞鉛、染料、曹達、此四點ニ限ッテ十分ナル調査ヲ致シマシテ、戰後ノ變動ハ中々ニ急激ニ來ッテ居リマス、サウシテ今尙ホ其變動ノ最中デアリマス、殊ニ歐洲ニ於テ講和會議ガ開カレテ居リマスガ、此講和會議ノ結果ハ、直接ニ又間接ニ經濟狀態ニ影響スル所ノモノガ多イノデアリマス、今日果シテ是等基礎工業ノ製造費用ガ幾何デアラウカ、是等基

礎工業ノ市價ガ幾何デアラウカ、外國ノ製造物品ハ忽チ殺到シテ、我國ニ輸入セラル、ニ至ルデアラウカ、又需要ハ戰時ニ於テ非常ニ増加シタノデアラガ、果シテ幾何ノ減少ヲ來スデアラウカト云フコトハ、恐クハ當業者於テモ十分ナル見込ハ立チマセヌ、政府ニ於テモ尙ホ且ツ其見込ガ立タヌノデアリマシテ、政府ハ今申上ゲルガ如ク、救済ニ對シ、又維持ニ對シテ、十分ナル方針ヲ誠意ヲ持ツテ居リマスケレドモ、之ヲ果シテ如何ニスベキカト云フ事ニ就テハ、未ダ十分ナル方針ヲ決定スルニ至ラヌト云フコトハ、吾々ニ於テハ強チ無理ナラヌ事ガアルト認メタノデアリマス、鐵ハ政府ニ於テハ、現ニ出來得ル限り之ヲ買上ゲテ現在市場ニアル所ノ所謂停滯貨物ニ對シテ、救済ヲ施シテ居ルト云フコトヲ言明致シマシタ、其他現在停滯シテ居ル貨物ノ救済ニ付テ所謂一時的ノ手段ハ各方面ニ互ツテ攻究ヲシテ居ルデアツテ、出來得ルダケ之ヲヤツテ見タイト云フ考ヲ持ツテ居ルト云フコトヲ言明致シマシタ、又此鐵、亞鉛、染料ニ對シテハ必ズシモ海關稅制定ニ反對スルモノデハナイ、現ニ海關稅制定ノ事ニ就テハ調査ヲ致シテ居ル、併ナガラ此海關稅制定ト云フ事柄ハ、當ニ製造者ノ利益ヲ考ヘルノミナラズ、需要者ノ利益ヲ考ヘナケレバナラズ、殊ニ講和會議ノ結果ガ、各國間ノ關稅政策ニ向ツテ、如何ナル有様ニ立至ルカト云フコトヲ考慮シナケレバナラヌカラ、強チ反對ヲ表スルモノデハナイ、十分ナル調査ヲシテ居ルケレドモ、今直チニ之ヲ實行スルト云フ場合ニハ、立至ラヌト云フノデアリマス、就中染料ニ付キマシテハ——我國ニ於テ鐵、鋼ノ製造ノ獨立ヲ得ルコトハ言フマデモナイガ、染料ニ至リマシテハ、其材料モ我國ニ現在シテ居ルシ、又今日マデヤツテ來タ所ニ於テ見レバ、從來之ヲ維持シテ、即チ獨立ナル我國ノ物産トナルコトハ見込ガ十分デアルカラ、政府ニ於テハ保護會社ニ命令シ、保護會社ヲ監督シテ保護會社ト保護會社以外ノ民間ノ事業者ト競争セシメズ、能ク其一致ヲ保タシムルノミナラズ、保護會社ヲシテ、成ベク原料、或ハ之ニ僅ニ準備ヲ加ヘタル半製品ヲ民間ノ染料會社ニ供給シテ、之ヲシテ完成セシメ、保護會社ト保護會社以外ガ調和ヲ保ツテ、共ニ發達シテ、行ハハ我國ノ一ノ物産トナルコトヲ期シテ居ルト云フノガ、政府委員ノ言明デアリマシタ、曹達ニ至リマシテハ、所謂曹達灰又苛性曹達共ニ見込ヲ持ツテ居ル、曹達灰ノ製造ハ、是マデ試ミテ度々失敗ヲシタ

ガ、今ニ於テハ餘程見込ノアルモノニナツテ來タ、苛性曹達ニ至リマシテハ、ソレニ附帶シテ酒粉モ出來、殊ニ電氣分解ノ方法ガ十分進んで來タカラ、必ズ我國ノ化學工業品ノ基礎トナツテ、是亦一ノ物産トナリ得ルコトヲ信ジテ居ルカラ、差向ノ所其原料タル鹽ガ、到底内地ノ鹽デハ、如何ニシテモ安ク之ヲ供給スルノ途ガ無イカラ、農商務省ニ於テモ、大藏ノ當局ニ於テモ、關東州若クハ臺灣、又朝鮮ニ於ケル製造ノ鹽ヲ、安キ運賃ヲ以テ輸入シテ、成ベク總テノ費用ヲ掛ケナイヤウニシテ、之ヲ當業者ニ安ク賣渡スノ方法ヲ攻究シテ居ルト云フコトガ、當局者ノ言明デアリマス、最後ニ斯ク一時的ノ救助ヲ爲シ、斯ク永久的ノ救助ニ向ツテ考慮ヲ煩スノノミナラズ、製造ハ要スルニ製造費ヲ安クスルノガ何ヨリ必要デアルカラ、其材料ニ向ツテハ十分ナル注意ヲ拂ヒ、殊ニ政府ノ力デ許ス所ノモノハ、最モ其材料ヲ安クスルニ努メル、例ヘバ砂鐵業者ノ要スル木炭、此木炭ハ山林ノ木ヲ伐ツテ燒クノデアアル、故ニ砂鐵業者ガ要スル所ノ木炭ノ原料タル山林ノ如キモノハ、之ヲ安ク拂下ゲルノ方法ヲ執ル積リデアアル、又汽車ノ運賃——各種ノ製造工業ニ向ツテ、固ヨリ汽車ノ運賃ノ安イコトハ要スルケレドモ、殊ニ其基礎工業ニ向ツアハ、汽車ノ運賃ヲ安クスルト云フ方法ノ如キモ、方ニ考慮シテ居ル所デアツテ、是ガ實行ヲヤツテ見タイト思ツテ居ルト云フコトハ、政府當局ノ言明スル所デアリマシタ、要スルニ大體ニ於テ本邦ノ基礎工業ヲ保護シテ、其今日ノ窮狀ヲ救ヒ、其維持ヲ圖ツテ、是等鐵、亞鉛、染料、若クハ曹達ノ如キ物ノ自給自足ヲ圖ツテ、共ニ我國ノ一ノ獨立ナル物産トナルコトヲ期スルノハ、政府ニ於テ最モ注意スル所デアルト云フコトノ言明デゴザイマシタ、斯様ナル意味ヲ以テ私共ハ本案ヲ贊成シ、滿場一致ヲ以テ可決シタ次第ゴザイマス、此段ヲ御報告致シマス

院議異議ナク本案ヲ可決シ即日政府ニ之ヲ呈出セリ

七七 小松島港改良修築ニ關スル建議案

德島縣下小松島港ニ於ケル鐵道院線船車聯絡ニ依ル旅客貨物輓近著シク増加スルヲ以テ政府ハ宜シク先ツ鐵道院線小松島驛船車聯絡ニ必要ナル設備ヲ整へ而シテ四國本土間運輸交通ノ發展ニ應スル爲政府ハ大ニ進ムテ本港ノ規模ヲ擴張シ速ニ其ノ設備ヲ完成スルノ調査ヲ遂ゲ國費支辨ニ依リ相當ナル改良修築ノ施設ヲ爲シ以テ四國東門ノ要港タルニ至ラシムルコトヲ望ム
右建議ス

右ハ八年三月二十日原田佐之治君外一名之ヲ提出ス同月二十四日本案ヲ院議ニ付シ提出者(原田佐之治君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

近時四國ニ於ケル産業ハ益々開發サレマシテ、此交通ヲ要スルコト最モ痛切ニナツテ居ルノデアリマス、四國ノ交通ハ内鐵道ヲ普及シ、外港灣ヲ整理シテ、本土トノ連絡ヲ圖ルニ在ルコト、最モ切要ナモノガアリマス、殊ニ小松島港ハ、西九州ハ大分、宮崎、鹿兒島、是等ノ方面ト、高知縣須崎ニ連結シ、高知縣須崎ヨリハ、將ニ大正八年度ヨリ鐵道敷設ニ著手セラレル四國縱貫鐵道ニ依リマシテ、我小松島港ニ通ズルノデアリマス、小松島港ハ御承知ノ通り大阪、神戸ニ最モ近い地點デアリマス、之ニ依ッテ本土殊ニ關西ノ商業ノ中心タル大阪、神戸ト結著ケル上ニ於テ、四國港灣中最モ交通上必要ナル港デアリマス、而シ此港灣ニ對シマシテハ、明治四十五年ニ縣營ヲ以テ現今此設備ヲ整ヘルコトヲ計ッテ居リマス、然レドモ此港灣ノ領スル區域ハ、當ニ德島一縣ニノミナラズ、南四國、西九州ノ東南部方面、又神戸、大阪ハ勿論、岡山、廣島、和歌山、名古屋、靜岡縣ノ清水港ニ至ル海運ヲ連絡スヘキ港デアリマスガ故ニ、此利用區域ノ上カラ致シマシテ、一縣ノ經濟

上堪ヘ得ナイノミナラズ、其ノ利益ノ及ブ所、斯ノ如ク廣イ方面ニ及ブガ故ニ、今後國費ヲ以テ之ヲ改修スルコトノ調査ヲ遂ゲラレ、而シテ適當ノ時期ニ於テ、政府ハ國費支辨ニ依ッテ此改良修築ノ計ヲ立テラレンコトヲ希望スルノデアリマス、而シテ現今ニ於ケル港ノ狀況ハ政府ノ院線鐵道ニ依リマシテ、南四國ノ旅客ヲ神戸、大阪ニ吞吐スル上ニ於テ、近年旅客ニ於テハ毎年三割餘逐次増加シ、貨物ニ於キマシテハ、一年ニ殆ド倍額ヅ、ノ増加ヲ來シテ居ル、然ルニ鐵道院ノ船車連絡ノ設備ニ於テ、未ダ整ハザルモノガアリマスガ故ニ、此船車連絡ニ於テ、護岸ニ相當ノ改善ヲ加ヘ、旅客貨物ノ多數ノ連絡ニ、其敏捷ヲ圖ルノ要ガアラウト思ヒマス、此點ハ政府ニ於キマシテハ、先ヅ以テ速ニ此設備ヲ整ヘルコトヲ必要ト私共ハ信ズルノデアリマス、而シテ其經費ハ僅ニ一萬五千有餘圓ヲ以テ爲シ得ルノデアリマスガ故ニ、曩ニ兩院ヲ通過シテ居ル鐵道ノ本豫算ニ依ッテ、此工事ハ大正八年度ニ於テ爲シ得ルコト、私共ハ信ズルノデアリマスガ故ニ、此點ハ政府ニ於テモ相當ノ考慮ヲシテ、此海運ノ敏捷ヲ計ラレンコトヲ望ムノデアリマス、政府ノ考慮ヲ促シ、本建議ノ目的ヲ實現スルコトヲ切ニ希望スル次第デアリマス

次テ本案ハ(六〇)河上哲太君外三名提出愛媛縣今治港開港ニ關スル建議案委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十五日報告書ヲ議長ニ提出セリ
翌二十六日再ヒ院議ニ付シ理事河上哲太君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

本案ハ嘗テ提出者ガ本議場ニ於テ説明致シマシタ如ク、德島縣小松島港ハ、海陸ノ連絡港トシテ、將來大ニ改修改良スベキ必要ガアリ、現在ニ於テモ、四國及本土ノ海陸連絡港トシテ、四國ニ於ケル有數ナル港デアリマスカラシテ、將來ノ爲メニ國費ヲ以テ之ヲ改修シ、少クトモ現在ニ於テ、成ベク早く鐵道院ノ船車連絡ニ必要ナル設備ヲ國費ヲ以テ爲シ、小松島驛ノ沿岸ノ護岸工事、「アラットホーム」、上屋ノ建設ヲ致シマシテ、四國本土ノ交通ノ便宜ヲ圖ラレルヤウニ希望スルト云フ案デゴザイマス、會期切迫ノ間デアリマシタカラシテ、僅ニ昨日一日ヲ以テ決定ヲ致シタ

ノデアリマスルガ、皆様ノ御援助ニ依リ御聲援ニ依リマシテ——四國ハ元來國家事業トシテ疎外サレ、或意味ニ於テハ繼兒扱ヲサレテ居リマシテ、交通機關ト云ヒ、教育機關ト云ヒ、殊ニ四國ニハ、一港モ國庫ノ支辨ニ依リマシテ改修シテ居ル港無ク、一ツノ開港場ガ無イト云フヤナコトハ、今日當局ノ大ニ同情ヲ致シテ居ルヤウナ鹽梅デアリマシテ、政府委員ニ於キマシテモ此趣意ニ賛成シ、或ル方面ノ如キハ懇談的ニ申シタノデアリマシタガ、直チニ實地調査ヲ致シマシテ、此港ノ改修ノ事ニ就テモ十分力ヲ盡シテ見タイ、但シ時期ハマダ言ヘヌケレドモ、趣意ニ於テ賛成致ノデアルト云フヤウナ説明ガアリマシタカラ、委員諸君モ最モ熱心ナル希望、即チ成ベク早ク此案ノ趣意ヲ貫徹スルヤウニト云フ希望ヲ以テマシテ、全會一致ヲ以テ可決致シタノデアリマスカラ、皆様ニ於テモ、ドウカ全會一致此案ニ御賛成アラントヨ希望致ス次第デアリマス

院議異議ナク本案ヲ可決シ即日政府ニ之ヲ呈出セリ

七八 國有林野ヲ地方自治體ニ下付ノ建議案

山野地租改正以前地方自治體ノ住民ニ於テ管理シ使用收益ノ慣行ヲ有セシ國有林野ハ相當ノ條件ヲ附シ無償ヲ以テ之ヲ該自治體ニ下付シ其ノ基本財産ニ編入セシムヘシ

右建議ス

右ハ八年三月二十一日石射文五郎君外三名之ヲ提出ス同月二十五日本案ヲ院議ニ付シ提出者(石射文五郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ノ建議案ハ、山野地租改正以前地方自治體ノ住民ニ於テ管理シ使用收益ノ慣行ヲ有セシ國有林野ハ相當ノ條件ヲ付シ無償ヲ以テ之ヲ該自治體ニ下付シ其ノ基本財産ニ編入セシムヘシ斯フ云ウ案デアリマス、此案ハ既ニ第二十四議會ニ此議場ニ現ハレマシテ、矢張此ト同一ノ意味ノ建議ヲ以テ通過致シテ居リマス、定メテ諸君ノ先輩ノ中人ハ、其ノ事情ヲ御承知ノ事ト考ヘテ居リマス、故ニ極簡單ニ唯今茲ニ提出致シマシテ理由ヲ申述ベルコトニ致シマス、此元ノ起リト申シマスノハ、明治十一年ノ山野ノ地租改正ノ折ニ、各地方廳ノ改正ノ方針ト云フモノガ一定シテ居リマセヌノデ、隨テ其ノ係官ノ頭モ又區々ニナツテ居リマシタノデス、地方ノ事情モ深ク考ヘナイデ、面積ノ多イモノハ之ヲ官林ニ編入スルトカ、或ハ官有地ニ編入スルトカ云フヤウナ、洵ニ錯雜錯誤ヲ極メタ方針ヲ以テ之ニ望ミマシタ爲ニ、古來ヨリシテ此地方民ガ自分ノ田畑ト同ジク租稅ヲ拂ツテ、サウシテ使用收益ヲ致シテ居リマシタ土地ヲ、ムザムザト官林官有地ニ編入サレマシタノデアリマス、中ニハ此ノ係官ノ或ルモノ、如キハ、地方民ガ徒ラニ大面積ノ山林原野ヲ有ツテ居ツタ所デ、租稅ノ爲メ却テ苦シム様ナ事ガ起キルカラ、敢テ政府ガ山林原野ヲ持去ルト云フノデナイカラ、寧ロ官林官有地ニ編入シテ置クコトガ宜シイト云フコトヲ論シテ、官林官有地ニ取上ゲタト云フ事實モ澤山アリマスノデ、其當時ノ地方民モ至ツテ、幼稚デアリマスカラ、租稅ト云フ聲ニ慍ヘテ、唯々諾々トシテ其地方廳及官吏ノ方針ニ依ツテ、之ヲ官林官有地ニ査定サレルノニ、甘ンジテ居ツタト云フコトニナツテ居リマスカラ、此ノ官林官有地ハ地方廳ノ所管ニナツテ居リマスノデ、今ノヤウニ林政ガ確立シテ居リマセヌカラ、監督管理ト云フコトモ至ツテ簡單デアリマシテ、格別地方民トシテハ、苦痛モ不便モ感ジナイデ居リマシタ、然ルニ追々國家ノ林野制度ガ確立シテ、參リマシテ監督取締ガ嚴重ニナルト同時ニ、追々地方民ハ不便ヲ感ジ不安ヲ感ズルヤウニナリマシタ、是デ此儘ニ經過スレバ、此地方ノ農業ノ上ニ至大ナル影響ヲ及ボスト云フノデ、各地方ガ一齊ニ蹶起シマシテ、サウシテ、官林官有地ノ誤ツテ査定サレタモノヲ下戻スニ地方民ガ叫ンデ、サウシテ哀訴歎願シ、或ハ議會ナドニモ請願ヲ致シマシタ、併シナガラ時ノ

政府ハ、一向其等ノ聲ニ耳ヲ藉サナイノデ、已ムヲ得ズ議員諸君ヲ訪問スルト云フヤウナ地方民ノ熱誠デ、遂ニ議會ヲ動かシテ、遂ニ議會カラ建議ヲシテ貫ヒマシタノデス、其ノ結果ト致シマシテ、政府モ已ムヲ得ズ此建議ヲ法律案ト致シマシテ、ソレヲ夥シク改竄致シマシテ、尙ホ骨抜キ同様ニシテ、ソウシテ官有地林野下戻法ト云フモノヲ制定シテ發布シマシタ、之ニ依ッテ地方民ハ大ニ喜ンデ、愁眉ヲ開イタト云フヤウナ形デアリマシタノデスガ、豈ニ計ランヤ此法律ヲ執行スル所ノ當該官廳ハ、此法律ヲ以テ、恰モ刑法カ民法デモ執行スルガ如ク、證據一方デ取扱ヒマシタ爲ニ、多クハ皆不許可ニナリマシテ、殆ド百件中ノ一件モ許可ニナラヌト云フヤウナ結果ニナリマシタノデス、其爲メニ折角期待シタ地方民ノ希望モ、遂ニ畫餅ニ歸スルト云フヤウナ有様ニナリマシタノデ、愈、此上ハ何トカシナケレバナラヌト言フテ、頻リニ其ノ善後ノ策ニ頭ヲ痛メマシタノデアリマスガ、遂ニ政府ヲ動かスコトモ出來ズ、矢張下戻法以外ニ執ルベキ手段ナク、經過致シマシタ次第デアリマス、併シ一方ニハ行政裁判ニ訴ヘルト云フコトガ出來マスノデ、此下戻法ニ依ッテ不許可ニナリマシタモノヲ、行政裁判所ニ訴ヘマシタモノモアリマシタケレドモ、併シ下戻法ニ依ッテ不許可ニナリマシタ方ガ、寧ろ行政裁判ノ上ノ弱點トナッタト云フコトデ、ソレモ遂ニ目的ヲ達スルコトガ出來ナイト云ウコトニナリマシタ、夫是致シテ居ル内ニ、一方ノ林野制度整理ノ進行スルニ從ヒマシテ、益、此ノ地方ノ農村ノ從來ノ收益ヲ利用シテ居ッタ慣行ガ狹メラレテ參リマシタノデ非常ニ地方民ハ窮地ニ陥ッタヤウナコトニナリマシタノデアリマス、ソレデ諸君モ御承知ノ通り、我國ノ農業ハ山林トカ、或ハ畜産トカ、農業トカ、此三ツノモノヲ集約シテ、サウシテ初メテ一ノ業態ヲ爲シテ居リマシタノニ、其一部分ガ缺ケルコトニナリマシタカラ、愈、此儘ニ置キマスルト、農村ノ是等ニ關係ノアル部分ハ衰亡ニ歸スルヨリ外ナイト云フノデ、明治四十一年カ二年頃、宮古啓三郎君ガ此議場ニ於テ下戻法ノ解釋ニ就テ政府ニ質問ヲシテ、大ニ論議シタコトガアリマス、併シ其時ハ既ニ下戻法ノ期限ヲ經過致シマシマシタカラ何分ニモ最早遲延ニナリマシテ、ドウスルコトモ出來ナカッタノデアリマス、其翌年カニ此處ニ居ラレマスル小川平吉君其他ノ諸君ガ、更ニ唯今茲ニ提出致シマシタ建議ト同ジ建議ヲ提

出シテ、サウシテ何トカ此際ニ、其等ノ誤ッテ官有地官林ニ編入シタ部分ヲ地方ニ無償デ交付ジテ、サウシテ此地方ノ基本財産ニ編入スルヤウニト云フコトヲ、政府ニ建議致シマシタコトガアリマシタガ、ソレガ何等ノ反響モナク、遂ニ今日迄經過致シマシタ次第デアリマス、然ルニ一方ハ假令此林野ノ整理ガ嚴重ニナリ、取締ガ嚴重ニナリマシテモ、政府デ持ッテ居ル間ハ、何トカシテ、此舊來ノ慣行ノ一部分ヲ殘シテ、下草ノ拂下トカ、土地ノ貸下ゲト云フモノヲ受ケテ、幾分カ不便ヲ補ッテ居リマスガ、政府ガ追々ニ林野制度ノ整理ノ進行ニ從ッテ、遂ニ近來ハ其等ノ以前民間カラ取上タ林野ノ中カラ、林野經營ノ上ニ不適當ナリト認メタ部分ヲ解除シテ、不要存置林トシテ、賣却スルコトニナッタノデアリマス、此賣却ヲスルニ就テモ、地方ノ町村ハ特別ノ拂下ゲノ資格ガアルヤウニ、規定ノ上ニ於テ出來テ居リマスガ、其實矢張他ニ競争者ガアリマス、其競争者ダケノ金ヲ出サナケレバ、假令其資格ヲ明記シテ置キマシテモ遂ニ其ノ土地ハ他ニ取ラレルヤウニナル外ハ無イコトニナリマス、隨テ今日迄國有ニナッテ居ル間ハドウニカナリマシタガ、是ガ若シ競争ニ負ケテ、他ノ者ニ此土地ヲ競落サレルコトニナリマス、最早一個人ノモノニナレバ、一木一草モ自由ニスルコトガ出來ナイト云フ結果ニナリマシテ、全ク最早其土地トノ關係ヲ離レナケレバナラヌト云フ結果ニナルノデアリマス、是ニ於テ地方ハ非常ニ此際窮窮ノ立場ニ陥ラナケレバナラヌノミナラズ、此儘ニ拋棄シテ置キマス、遂ニ農村ノ衰亡ヲ待ツヨリ外ハナイト云フノデ、近來頻リニ此國有林野ヲ、其關係町村ニ交付シテ貫ヒタイト云フ聲ガ高クナッタノデアリマス、今日カラ見レバ、歴史モ舊ク且長イ間拋棄シテ置キナガラ、急ニ騒ギ立テルト云フコトハ、餘リ感服致シマセヌケレド、唯今申上ゲマスル通り、此儘ニ拋棄シテ置イテ、競争ニ委セテ其林野ガ一箇人ノ手ニ歸スルト、永久ニ地方ノ農業ノ最大要素ニナッテ居タ林野ヲ、失ナッテシマハナケレバナラヌト云フコトニナルノデ、是非此際ニ特別ナル法律ヲ設ケテ、サウシテ林野中デ、以前緣故ガアリ使用收益ノ事實ノ明カナルモノハ、政府ヨリ關係市町村團體ニ交付致シテ、之ヲ基本財産トシテ、長ク監督官廳ガ之ヲ保護シテ、地方民ノ便宜ト利益ヲ圖ルコトハ最モ急要ナルコト、考ヘマス、一體斯様ナ問題ハ、今日ノ如キ會期切迫ノ際ニ出スノハ甚ダ不本意デアリ

マスガ、之ヲ一日延セバ、一日ダケ林野ノ處分ノ進ムニ從ッテ、地方ノ利益ヲ殺ガレルコトニナリマスノデ、斯様ナ時ヲモ考ヘズシテ、匆卒ニ提出シタ次第デアリマスカラ、ドウソ此意ヲ御賛成ノ上、農村救済ノ爲ニ御同意アランコトヲ希望致シマス

次テ本案ハ議長指名(九名)ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ三月二十六日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ著手シタルモ議決ヲ爲スニ至ラサリキ

七九 地方金融改善ニ關スル建議案

政府ハ地方金融ノ改善ヲ計ル爲日本勸業銀行法及農工銀行法ニ適當ナル改正ヲ加ヘ不動産抵當債權ニ關シ此ノ兩行ト普通銀行及貯蓄銀行トノ間ニ連絡ヲ計ルノ途ヲ講スヘシ

右建議ス

右ハ八年三月二十一日小山松壽君外九名之ヲ提出ス同月二十五日本案ヲ院議ニ付シ提出者(小山松壽君)ハ左ク如ク趣旨ヲ辯明セリ

本建議案ハ各派聯合ニ依ッテ提出致シタモノデアリマシテ、同僚ノ他ノ諸君カラ説明ヲ致スベキ筈デアリマシタガ、著席ガアリマセヌ爲ニ私ヨリ説明ヲ致シマス、地方ノ金融機關ニナッテ居リマス普通銀行ノ有シテ居ル不動産擔保ヲ、資金化スルト云フコトノ趣旨ニ外ナラヌモノデアリマシテ、御承知ノ通り四十議會ニ於キマシテ滿場一致ヲ以テ可決サレタ案デアリマス、殊ニ現内

閣ノ高橋大藏大臣ハ、本案ノ趣旨ニ於テハ平素ノ御持論モアリマシテ、又農工銀行法ノ委員會ニ於キマシテ、本案ニ關聯シタル所ノ御意見モアリマシタヤウナ次第デアリマスカラ、旁、此案ハ其希望ヲ達スルコトニ近クナッタト思フデアリマス、何卒諸君ノ御賛成ヲ得マシテ、一日モ早ク、此建議ノ希望ヲ達スルヤウニ致シタイト思ヒマス

次テ本案ハ(二九)中倉万次郎君外十名提出農工銀行補助法第七條實施ニ關スル建議案外四件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ニ著手シタルモ議決ヲ爲スニ至ラサリキ

八〇 癩患者ノ救済ニ關スル建議案

政府ハ癩患者ヲシテ其ノ家族ヨリ離レテ部落的生活ヲ營マシムル爲適當ナル施設ヲ爲スヘシ
右建議ス

右ハ八年三月二十一日土屋清三郎君外十三名之ヲ提出ス同月二十五日本案ヲ院議ニ付シ提出者(土屋清三郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、私ハ癩病患者ノ救済ニ關スル建議案ニ對シテ、提出者一同ニ代リマシテ、其理由ノ大要ヲ申上ゲヤウト思ヒマス、會期僅ニ一日ヲ餘ス今日、特ニ貴重ナル時間ヲ消費致シマスコトハ、甚ダ恐縮ノ次第デアリマスガ、問題ガ吾々同胞ノ中ノ、最モ氣ノ毒ナル人々ノ身ノ上ニ關スル事デアリマスカラ、暫ク御辛抱アランコトヲ希望致シマス、癩病ノ傳染病デアルコトハ、今日最早疑

ノナイコトデアリマスガ、其傳染ヨリシテ發病ニ至ルマデノ間ノ經過ノ長イコト、隨テ其感染ノ動機ヲ明ニスルコトノ出來ナイノト、其病狀ガ如何ニモ醜惡ヲ極メマス爲メニ、今尙ホ世間多數ノ者ハ、此氣ノ毒ナル癩病患者ニ對シテ、天刑病ノ名ヲ以テ之ヲ擯斥シ、雷ニ患者ノミナラズ、其血族親族マデモ之ヲ擯斥シ、擯斥セントシツ、アル狀態デアリマス、歐米ノ主ナル國々ニ於キマシテハ、早クヨリ此病氣ノ豫防撲滅ハ、患者ヲ健康者ト隔離スルニ在リト云フコトニ著目致シマシテ、今日ニ於キマシテハ、醫學校ノ材料ニスラ乏シイト云フ程ニ豫防撲滅致シタノデアリマスガ、我國ニ於テハ最近ノ統計ハアリマセヌケレドモ、今ヨリ十餘年前ノ内務省ノ統計ニ依リマスレバ、全國ニ於テ此患者ノ總數ガ約三萬五千人、其系統ヲ有スル所ノ者ガ、九十九萬幾ラト云フ數ニナツテ居ルト云フコトデアリマス、併ナガラ極ク最近ニ於ケル數年間ノ壯丁検査ノ成績カラ推定致シマスレバ、警察ノ調ヲ基礎トシタ所ノ内務省ノ統計ヨリハ、更ニ其數ガ多クナリマシテ、五千萬人ノ同胞ノ中ニハ、少クトモ六萬五千人ノ癩病患者ガアルト云フ狀態ニナツテ居ルノデアリマス、併ナガラ此豫防ニ關シマシテハ、明治四十年ニ癩豫防ニ關スル法律ガ發布セラレマシテ是ニ基ツキテ、全國ニ五箇所ノ府縣聯合ノ療養所ガ設置セラレマシテ、癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セズ、又監護者ナキ所ノ所謂浮浪患者ハ、悉ク此所ニ收容セラレマシタガ、併ナガラ其數ハ僅ニ一千人デアツテ、之ヲ六萬五千ノ總數ニ較ベマスレバ實ニ五十分ノ一ニモ足リナイノデアリマス、而シテ其餘ノ大多數ノ患者ハ、多クハ自分ノ家ニ健康ナ家族ト同居致シマシテ、衛生警察ノ監視ノ下ニ世ノ耳目ヲ憚ツテ頗ル悲惨ナル所ノ、恰モ牢獄ニ於ケルガ如キ窮屈ナル生活ヲ忍ビツツアルノデアリマス、是ハ單リ其患者ニ對シテ氣ノ毒デアアルベカリデナク、斯ル患者ヲ有スル所ノ家族ノ經濟上、並ニ精神上ノ苦痛ト云フモノハ、實ニ莫大ナルモノデアリマス、私共ガ此案ヲ提出致シマシテ、是等ノ癩患者ヲ健康者ヨリ隔離シテ、是ニ向ツテ一定ノ島或ハ區域ニ部落的生活ヲ營マシメタイト云フ趣旨ハ、是等ノ患者ヲシテ、同病相憐ムノ境遇ニ置イテ、出來得ル限リ自由ト慰安ト、而シテ適當ナ療養ヲ得セシメタイト、今一ツハ彼等ノ家族ヲシテ、經濟上並ニ精神上ノ苦痛ヨリモ免レシメルト同時ニ、更ニ其病毒ノ感染ヨリ免レシメタイトガ爲メニ、此案ヲ

提出致シタノデアリマス、私ハ茲ニ本案ヲシテ一層其意味ヲ徹底セシムルガ爲メニ、更ニ一ニヲ附加ヘルコトノ御許ヲ願ヒタイノデアリマス、特ニ私ハ癩病患者並ニ家族ニ代ツテ、茲ニ滿場ノ諸君ニ訴ヘナケレバナラヌ、昨年来騒動ガアリマシテ以來、特殊部落ノ人々ノ救濟ト云フ事ハ、可ナリ重大ナ問題トナツテ居リマス、而モ今日私ノ後トニハ、吾黨ノ先輩福井三郎君ガ、此建議案ノ御説明ヲナサルト云フコトデアリマス、特殊部落ノ人々ニ洵ニ氣ノ毒デアアル、併ナガラ米騒動ヲ機會ニシテ、其待遇改善ノ動機ヲ作り得ル所ノ人々ハ、尙ホ幸福デアリマス、六萬五千ノ癩病患者、百萬ノ癩血統者ハ、遂ニ何レノ所ニ向ツテモ其救濟ヲ訴フル所ガナイノデアリマス、況ヤ彼等癩病患者ガ此惡病ヲ得タ所ノ動機ヲ考ヘテ見マスレバ、私共ハ益々同情ニ堪ヘナイノデアリマス、癩病ハ豫防シ得ベキモノデアアル、既ニ歐米各國ニ於テハ之ヲ豫防シ盡シテ居ル、若シ日本ノ政府ガ早ク是ニ著目セラレマシテ、隔離豫防ノ施設ヲ致シマシタナラバ、今日ノ如ク癩病患者ヲ蔓延セシムルコトハ無カッタデアリマセウ、言ヒ換ヘマスレバ、今日多數ノ癩患者ハ國家ガ是ニ對スル、適當ナル施設ヲ怠ツタ爲メニ出來タ所ノ氣ノ毒ナル患者デアリマス、隨テ國家ハ彼等及ビ彼等ノ家族ヲ救濟スル所ノ義務ガアリ、又彼等及ビ彼等ノ家族ハ、此救濟ヲ要求スル所ノ權利ガアルト思フノデアリマス、更ニ私ハ癩病患者以外ノ吾々健康ナル同胞ノ立場カラ申シマス、癩病患者ハ初期ニ於テハ、素人ノ目ニ容易ニ之ヲ發見スルコトハ出來マセヌ、併ナガラ他人ニ病毒ヲ傳播スル所ノ力ハ、此初期ノ時代ガ最モ猛烈ナルノデアリマス、諸君ノ乘ル所ノ電車、汽車、諸君ノ行ク所ノ料理店、旅人宿、時トシテ寧ろ屢、此輕イ癩病患者ガ出入致シテ居ルノデアリマス、而シテ彼等ノ一滴ノ鼻血ノ中、一回ノ嚏ノ中ニハ、數百萬ノ生氣濃濁タル癩病ノ微菌ガ居ルノデアアル、吾々日本國民ハ、此六萬五千ト云フ多數ノ危險ナル癩病患者ヲ同胞ノ中ニ置イテ、何時之ニ感染スルカ知ラナイヤウナ狀態ニアルノデアリマス、今日コソ吾々ハ癩病患者ヲ擯斥シ、彼等ノ家族ト結婚スルコトヲ嫌ツテ居リマスルケレドモ、翌ノ日ニハ或ハ吾々モ病氣ニ罹ラナイトモ限ラナイ、吾々ノ血族親戚ノ中ニ、此惡病ニ侵サル、所ノ者ガ出來ナイトモ限ラナイノデアリマス、此點カラ見マシテモ私共ハ健康ナル吾々同胞ヲ代表シテ、此患者ノ隔離ニ對スル施設ヲ要求シ

ナケレバナリマセヌ、更ニ私ハ我ガ日本帝國ノ名譽、竝ニ國民ノ面目ノ爲メニ申シマス、日本ニ於テ斯クモ多數ナル癩病患者ガアルニ拘ラズ、全國ニ五箇所ノ公設ノ療養所ヲ除クノ外、私立ノ療養所ハ何人ニ依ッテ創立セラレ、何人ニ依ッテ經營セラレテ居リマスカ、茲ニ私ハ内務省ノ調査ヲ引イテ申シマスル、公設ノ療養所以外ニ、私設ノ療養所ハ全國ニ四ツアリマス、東京府下ノ目黒ニ慰療院ト云フノガアリマス、而シテ是ハ亞米利加ノ「ヤングマン」ト云フ人ノ創立ニ係ッテ居リマス、静岡ニハ神山復生病院ト云フノガアリマス、是ハ佛蘭西ノ宣教師「テストシキット」氏ニ依ッテ創立セラレ經營セラレテ居リマス、又熊本ニ回春病院ト云フノガアリマス、是ハ有名ナル英國ノ婦人「リデル」嬢ニ依ッテ創立セラレ經營セラレテ居ル、同ジ熊本ニ待勞院ト云フノガアル是亦佛蘭西人ノ「ゴール」ト云フ人ニ依ッテ創立セラレ經營セラレテ居リマス、是レ以外ニ於テ日本ノ政府日本ノ國民ハ、是等ノ人々ノ創立シタル所ノ療養所ニ對シテ、多少ノ援助、手傳ハ致シテ居リマセウ、併ナガラ積極的ニ何等ノ施設經營モ致シテ居ラナイノデアリマス、今日吾々日本國民ハ一等國ナリト誇ッテ居リマス、併ナガラ世界何レノ一等國ガ、其同胞ノ中ニ六萬五千ノ癩病患者ヲ交ヘ、之ト雜居シテ平然トシテ居ル所ノ者ガアリマスカ、何レノ國何レノ一等國民ガ、己ノ國ニ於テ己ノ同胞ヲ他國ノ人々ニ救濟ヲ受ケサセテ、平然トシテ居ル者ガアリマスカ、私ハ數日前鍛冶橋ノ畔ニ於キマシテ、一人ノ癩患者ガ通り過ギル所ノ外國人ニ對シテ、手ヲ合セテ救助ヲ求メテ居ル有様ヲ見マシタ、私ハ實ニ面ヲ掩ウテ過ギタノデアリマス、私ハ其點カラ見テ我ガ日本帝國ノ名譽、日本國民ノ面目ノ爲メニ、是非共此建議ノ趣旨ノ徹底ヲ希望シナケレバナリマセヌ、最後ニ或ハ斯様ナ説ガアリマセウ、ソレハ何人モ認メテ居ルノデアアル、併ナガラ財政ノ許サバルヲ奈何セン、併ナガラ全國五箇所ノ公設療養所ニ於テ費ヤシテ居ル金額ハ、一箇年二十萬圓ニ過ギナイノデアリマス、日本ノ一植民地ノ專賣局ハ、其「モルヒネ」ノ原料ヲ拂下グルニ當リマシテ、内地ノ政府ガ原料トシテ拂下グルモノヨリモ三分ノ一ノ安キ價格ヲ拂下ゲ、總額ニ於テ約二百四十萬圓ダケノモノヲ國庫ニ損失ヲ與ヘテ平然トシテ居ルノデアリマス、若シ暫ク此方面ニ向ッテ財政ノ緊縮ヲ致シマシタナラバ、百萬二百萬ノ金ハ立ドコロニ出來ルデアリマセウ

私ハ以上簡單ニ其要領ヲ申上ゲマシタ、癩患者ノ爲メ其家族ノ爲メニ、他ノ吾々健全ナル同胞ノ自衛ノ爲メニ、竝ニ日本帝國ノ名譽、日本國民ノ面目ノ爲メニ、切ニ此建議ノ滿場諸君ニ容レラレテ、徹底セル施設ヲ見ル事ヲ切望シテ、此壇ヲ降ルノデアリマス

次テ本案ハ議長指名(九名)ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ三月二十六日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ同日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シテ再ヒ院議ニ付シ理事土屋清三郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

癩患者ノ救濟ニ關スル建議案ハ、本日午前中委員會ヲ開キマシテ、委員ト政府委員トノ質問應答ヲ重ネマシタ結果、政府ハ本案ニ對シテハ從來調査ノ結果、全部賛成ヲ表スルモノデアルト云フ御答辯ヲ得マシテ、委員會ハ滿場一致之ヲ可決致シマシタノデアリマス此段御報告申シマス

院議異議ナク本案ヲ可決シ即日政府ニ之ヲ呈出セリ

八一 部落改善ニ關スル建議案

維新ノ初政四民平等ノ制度ヲ布カレテヨリ茲ニ五十年ヲ經タリト雖一般國民ト所謂特種部落トノ間ニ鴻溝ヲ劃シ官公署ノ待遇文書等尙之ヲ差別スルカ如キハ一視同仁ノ 聖旨ニ副フ所以ニ

非ス政府ハ宜シク官公吏ノ選叙其ノ他ノ待遇ヲ異ニスルノ舊慣ヲ革メ一般國民ヲシテ賤視輕侮スルノ陋習ヲ打破セシメ一面部落民ノ自覺ヲ促シ家屋ノ改築、衛生ノ設備等ニ改良ヲ加フル爲國庫ヨリ相當金額ヲ支出シ其ノ費途ニ充テ官民相待チ改善ノ方法ヲ講セムコトヲ望ム
右建議ス

右ハ八年三月二十一日福井三郎君外十名之ヲ提出ス同月二十五日本案ヲ院議ニ付シ提出者(福井三郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ議院内ニ於ケル各派有志議員ノ提出ニ係ルモノデアリマス、本員ガ之ヲ代表致シマシテ、提出ノ趣意ヲ説明致シマス、唯今ノ日程ヨリ一ツ前ノ日程ニ、癩病患者ヲ隔離スルト云フ案ガゴザイマシタガ、癩病ノ人トモ同胞デアアル、之ヲ隔離スルコトハ實ニシナケレバナラヌケレドモ、スルニ忍ビヌ事デアリマスケレドモ、是ハ一人ノ人ガ癩病デアッテ其害毒ガ千萬人ニ及ブト云フ憂ガアルナラバ、隔離スルノ外ハ致方ガナイ、然ルニ癩ニモアラズ、一ノ「パチルス」ヲモ有セズシテ、吾々ノ同胞ノ中ニ一部社會ニ自ラ隔離セラレテ居ル者ガアルノデアリマス、御承知ノ如ク維新當初先帝ノ大御聖旨ニ依ッテ、四民平等ト云フ事デ、忌ハシキ稱呼ハ總テ取除カレ、取除カレタト同時ニ、又其交際待遇モ吾々ト何等變ルコトナク等シカルベキ等ナルニモ拘ラズ、今ニ於テ之ヲ社會ノ一方ニ驅逐シテ、共ニ交ラズ、共ニ婚セズ、共ニ飲セズト云フ有様ニナッテ居ルノデアリマス、誰ガ付ケタ名前デアリマスカ知リマセヌガ、甚シキハ之ヲ呼ブニ、古ノ穢ラハシキ名稱ヲ言フノヲ遠慮シタ積リデ、特殊部落民杯ト稱シテ居ルノデアリマス、何故ニ是ガ特殊部落民デアリマセウカ、吾々ト同胞兄弟、何等異ナルコトハ無イノデアリマス、然ルニ舊キ卑シキ習俗ヲ

今尙ホ改メズシテ、斯ノ如キ取扱ヲ致シテ居ル事ハ、實ニ忍ビザル事デアルト同時ニ、大御聖旨ニモ悖ッタル事デアリマス、本案ハドウゾ此陋習ヲ改メテ、大御聖旨ノ如ク、又吾々ガ同胞トシテ同胞ニ對スル情誼ヲ完全ニ盡スベク、一ノ設備ヲ致シタイト云フノガ趣意デゴザイマス、勿論此一部特殊部落トシテ擯斥セラレタル同胞ノ人々ノ中ニハ、自ラソコニ一ツノ世界ヲ形作ッテ、廣ク吾々ト交際ヲ共ニシナイガ爲メニ、何事ニ付ケテモ不便ヲ感ジ、何事ニ付ケテモ即チ下向キ傾向デ、向上モセズ、富ミモセズ、比較的貧民モ此部落ニ多イト云フ有様デアリマス、故ニ吾々ガ此人達ト何等變ル所ナキ實ヲ現ハサウトスルト同時ニ、此人達モ我亦タ多クノ人ト何等變ル事ナシト云フ信念ヲ以テ、吾々ト等シク向上スル方法ヲ講ゼラレバナラナイ、又其積リデ進マレナケレバナラナイ、故ニ吾々、共ハ之ニ出來得ルダケノ助ケヲ致シ、彼ノ人々ハ其助ケニ信賴シテ益、進ンデ來ル、兩方相俟ッテ遂ニ斥ケラレズ、斥ケモセズ淪ル事ナキ等シキ同胞ト云フ結果ヲ得ルヤウニ致シタイト思フノデアリマス、ソレヲ如何ニシタラバ宜イカト申シマスレバ、先ヅ物質的改善ノ方法トシテハ、共同浴場ノ新築デモ致シマス事ニシテ、ソレモ國家ガ全部シテヤルト云フ譯ニモ參リマスマイカラ、ソレヲスルノハ補助費ヲモ助ケルト云フコトヲ致シタラ如何デアリマスカ、惟フニ貧シキ此人達ノ集ッタ部落ニハ、斯ウ云フ設備ガ常ニ缺ケテ居リ勝チノヤウニ承ッテ居ルノデアリマス、隨ッテ衛生機關ノ設備、殊ニ「トラホトム」ノ治療所杯ト云フモノガ、最モ必要デアアルサウデアリマス、ソレニ續イテ簡易傳染病ノ防遏方法モ亦必要デアアルサウデアリマス、隨ッテ其設備モ頗ル缺如タルモノガアルサウデアリマス、此等ヲ設クルニ付テノ設備ノ費用ノ補助、又物ガ廉ク買ヘテ、生活ガ便利ニ出來ルト云フ方法カラシテ、共同ノ販賣所、或ハ其部落ニ於ケル部落營ノ市場、若クハ産業組合ノ設置等ニ對スル手傳ヲモ、成リ得ベクバ多少ノ補助金ヲ以テ、有形的ニ致シタイ、又此人達ノ最モ貧シキ人ノ住ヘル家屋ハ、極メテ陋屋デアルコトハ吾々モ見タコトガアリマス、諸君モ御承知デアラウト思ヒマス、ドウゾ此人達ヲ今少シク清潔ナル、今少シク良キ家屋ニ住ハセテ、住居心地ノ好イト同時ニ、其心ガ勇進シテ向上スルヤウニ致シテモ行キタイ、隨テ衛生上ノ補助ヲモ致シタイ、是等ノ人々ニ自身自ラ造ッテ住フテ貰ヒ

タイケレドモ、其處ハ即チ吾々ハ多數、擯斥セラレタル方ノ人々ハ少數デアアルカラ多キ同胞ノ吾
 吾ノ方ヨリ、少キ同胞ノ人達ニ助ケテ致スノ主義ニ於テ、此陋屋ヲ改メテ、少シ良キ家ヲ造ル
 ノ補助費即チ改築ノ補助費等モ出來得ベクンバ、與ヘタイト思ヒマス、又其部落ニ於ケル道路ノ
 交通機關ハ、最モ缺ケテ居ルサウデアリマス、是モ希クハ齊々堂々自動車デモ乗込メルト云フ
 ヤウナ路ニモ及バヌカモ存ジマセケレドモ、少クトモ人力車ノ往復位ニハ妨ゲナイヤウナ路
 ヲモ造ツテ、便利ヲ與ヘタイト思ヒマス、ソレカラ何ヨリ大切ナノハ、如何ニ形ヲ綺麗ニ致シマシ
 テモ、信念ガ根本デアリマスルカラシテ、信念ニ於テ多クノ同胞ト變ルコトナキ吾々ガ、特ニ少
 數一部集ツテ、何デコンナ悲哀ノ境遇ニ居ルデアラウカ、左様ナコトハ無イト、斯ウ云フ固イ信念
 ガ根本ニナツテ、然ル後ニ形ノ上ニモ向上進歩致シテ來ルノデアリマスカラ、其道理ヲ理解セシム
 ル方法トシテ、常ニ説教、講演、講話ト云フヤウナモノヲ此部落ニ開イテ、此人々ニ親切ニ聽カセ
 ルト云フ必要ガアルサウデアリマス、是モ學者若クハ偉イ人ト云フノヲ連レテ行クト云フコト
 ハ滿更只デモ出來ヌコトデモアリマセウシ、サウ云フ事ニ掛ル費用ノ手傳デモ、爲シ得ベクンバ
 致シタイト思ヒマス、斯様ナモノヲ積リマスト云フト、國庫ニ對シテ相當ナ金額ヲ求メナケレバ
 ナラヌコトニナリマスルガ、扱以上算ヘ上ゲタル設備ガ、凡ソ幾何ノ金デ出來マセウカ、是ハ疑
 問デアリマス、今確ニ是ダケデ出來ルト云フ案モ持ツテ居リマセヌト同時ニ、又是ダケデ致シタ
 ラ宜カラウト云フ制限モ認メテハ居リマセヌ故ニ如何ニシタラ宜カラウト思フ所ヨリシテ、
 金額ヲ定メズ、之ニ要スル相當ノ金額ヲ國庫ヨリ支出シテ政府ハ主トシテ其世話ヲスルコトノ
 方法ヲ立テラレルヤウニ致シタイト云フノガ即チ本案ノ趣意デゴザイマス、本年モ既ニ餘ス所
 今明日、扱此議會ニ幾何ノ金ヲ積ツテ、斯様ナ案ヲ立テタリトモ、如何ニ親切ナル政府デモ出來兼
 ネマセウト思ヒマスカラ希クハ次ニ開カレル議會マデニ此趣意ニ於テ立派ナル案ヲ立テ、議會
 ノ協賛ヲ求メルヤウニ致シタイト考ヘルノデアリマス、ドウゾ此趣意ニ於ケル建議ヲ滿場立錫
 ノ地モナキ諸君ノ御賛成ヲ請フ次第デアリマス

次テ本案ハ議長指名(九名)ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ三月二十六日委

員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ同日報告書ヲ議長ニ
 提出セリ

同日議事日程ヲ變更シテ再ヒ院議ニ付シ委員長福井三郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ
 爲ス

委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告ヲ致シマス、本會ノ委員會ハ先ヅ今朝ヲ以テ委員長理事ノ互選
 ヲ致シマシテ、不肖本員ガ委員長ニ當選致シマシタ、引續イテ會議ヲ開キマシタ、政府側ヨリハ
 陸軍當局、内務當局、文部當局等所管政府委員ノ出席ヲ求メマシテ、質疑應答ノ結果、全會一致ヲ
 以テ原案ヲ可決致シマシタノデアリマス、之ニ就テ其可決ニ至ル迄ノ内容ヲ經過トシテ、少シク
 御報告申シテ置ク必要ガアラウト存ジマス、何故ナラバ本案ハ一部ノ同胞ニ最モ了解ヲ得ベキ
 必要ノ案デゴザイマスカラ、少シク其内容ヲ御報告ヲ申シテ置キマス、先ヅ委員側ヨリ質問トシ
 テ六ツノ問ガ起リマシタノデアリマス、大別致シマスルト——其一ツハ、部落民ヲ官公吏ニ採
 用スルコトヲ否ムヤ否ヤ、第二ハ、從來官公文書ニ身元調査等ノ爲メニ特種部落又ハ其他忌ム
 ベキノ文字ヲ記載シテ應答スルコトガアルラシイガ、今後モ續イテ左様ナ事ヲスルノカシナイ
 ノカト、又軍隊内ニ於テ一般同胞ト此種ノ人達ヨリ出タル所ノ兵卒ト寢食ヲ異ニセシムル杯ト
 云フヤウナ特殊ノ取扱ヲシタル例ガアルカ、アリトスレバ今後モソレヲ繼續スルヤ否ヤ、第四ハ
 教育上ニ於テ諸學校デ一般ノ同胞ヨリ出タル生徒ト、或ハ室ヲ區別スルトカ、取扱ヲ異ニスルト
 カ云フヤウナ事ガ從來アツタカ無イカ、アルトスレバ今後ソレヲ繼續スルヤ否ヤ、第五ハ、部落ノ改
 善ニ付テ團體デモ組織シタナラバ、一ツノ改善方法ガ立チハセヌカト思フガ、政府ニ其意思アリヤ
 否ヤ、又物質的改善方法トシテ企テル事ニハ、種々費用ノ要ル事ガアルガ、改善ニ必要ナル費用
 トシテハ、或ル程度迄ノ金額ハ國庫ヨリ支出スルニ於テ異議ナキヤ否ヤ、斯ウ云フ事ガ委員會デ
 質問モセラレタノデアリマス、政府ハ之ニ對シテ斯ウ言ツテ居ルノデアリマス、第一ノ問タル部

落民ヲ官吏ニ採用ラシテ居ルト云フコトハ、現在ニアル、今後モ無論才俊ガ現ハルレバ、區別ナク其上ヨリ用キル等デアツテ、寸毫モ之ヲ區別ハシナイ、疎外ハシナイ、斯ウ云フ事デアリマス、ソレカラ第二ノ公文書ノ身元調等ニ、特種部落トカ又ハ其他忌ムベキノ文字ヲ以テ應答スルナラバ、斯ウ云フ御答デアリマシタ、明治四年ノ八月ニ忌ムベキノ舊稱呼ヲ廢セラレテ、四民同等ノ待遇ヲ下サルベキ一視同仁ノ大御聖旨ニ背カザランコトヲ務メテ、爾來其心ヲ以テ之ヲ扱ウテ來タノデアルケレドモ、雙方ノ關係ガ勢ヒ自然ノ疎隔ヲ爲スニ至ツタノデアアル、デ此種ノ人達ハ一種住居ヲ異ニシテ、同シ所ニ住ツテ居ナイ、サウシテ自ツカラ一般同胞ニハ遠ザカルト云フ傾ガアル、一般同胞モ亦自カラ此人達ヲ忌避スル傾ガアルカラシテ、ソレデ進マザル者ハ益、低下スルヤウナ有様デアアル、ソレカラ一方ノ方ハ益、忌避スル傾ガアルカラ、是デハ捨テ、置ケナイ、改善シナケレバナラヌト云フコトデ、改善ノ方法トシテ幾度モ種々ノ手當ヲ施スコトヲ企テタ、デ企テ、今モ尙ホ實地ニヤリツ、アルガ、其ヤリツ、アル事柄ヲ成遂ゲルヤウニ何トカシナケレバナラヌ、一般國民モ何トモ言ハズ一部ノ人ノ改良ト云ツテモ、唯一部ダケデアルト云フコトハ、自カラ明カデアアルカラ、已ムヲ得ズバ其稱呼ヲ廢シテ、新平民トシテ改善スルト云フ意味デ、代名詞ヲ新平民ト變ヘタノデアツタ、此新平民ト云フ最モ忌ムベキノ斯ウ云フ稱呼ヲ受ケルコトニナツテ居ッタノデアアルガ、ソレデ新平民其人達ガ甚ダ迷惑ヲ來シタノデアアルカラ、名前ヲ變ヘルト云フコトハ如何ニモ尤モニ思フカラ、宜シク變ヘテ新平民ト云フ稱呼ヲ用キシメヌト云フコトデ、左様ナ代名詞ヲ用キタ、ソレヲ此デ改メテ特種部落民ト斯ウ云ツテ來タ、ソレダカラ地方民ハ特種部落ト變テ來テ一寸宜カッタガ、ソレモ終ニハ特種部落民ト稱スルコトハ、此間マデ新平民ト云フ事ヲ特ニ言換ヘタト云フ事ガ分ツテ見ルト、其間ニ總稱セラル、人達ガ又苦シガツテ來タ、當局モ屢、サウ稱セラレル人カラ、直接小言ヲ受ケテ如何ニモ尤ナヤウニ感ズル、特種部落ノ稱呼モ宜クナイト斯ウ考ヘテ、今度ハ細民部落ト言ツテ見タケレドモ、細民部落ト云ツテモ改善ノ方法トシテ斯ウ云フ表ヲ作ツタリ様ニヤツテ居ル、此表ニモアル通り何トカ改善スルニ宜イヤ

ウナ代名謝ヲ使ハナケレバナラヌト云フノデ、特種部落ヲ今度ハ細民部落ト云ツテ、此表ニモ細民部落階級ト稱シテアル、斯ウ云フコトデアアル、何トカ代名詞ガ無ケレバ困ルト、斯ウ云フデ此名ガ付イタガ、是デモ納マラス、細民部落ト言ヘバ例ヘバ貧乏ヲ標榜シテ居ルヤウナ事デアアルニモ拘ラズ、何ゾ圖ラン其中ニハ陶朱猗頓ヲ欺クヤウナ者モアル、ソレナドハ決シテ細民デハナイト云フ事實モアツテ、細民部落ト云フノモ穩ナラヌ、デ如何ニモ困ル、此事ニ付テハ、今尙考慮中、考ヘ中デ、何か良イ工夫ハ無イカ知ラヌ、斯ウ云フヤウナコトデアツタ、故ニ此稱呼ハ一般國民ト區別シテ稱ヘタクナイ、別ニ區別シタ名前ヲ付ケテ呼ビタクハナイガ、一般國民ノ中カラ一部分ノ稱呼ヲ廢シテ差支ヘルト云フヤウナ理窟モ立タヌカラ、何トカ代名詞ガ無ケレバ、ドウモ捉ヘ所ガナイ、言ヒヤウガナイ、ソコデ以テ此名前ヲ著ケテ居ルノデアアルガ、是ガ或ハ其間ニ特種ノ名前デ、特殊ニ扱ウト云フコトニ當リハシナイノデアラウカ、斯ウ云フコトデアアル、其外ニ於テハ身元調ノ中ニ舊何族ニ屬スル者デアルト云フ、忌ムベキノ稱呼ヲ付ケテ、人ノ卑シムヤウナコトハ總テ致シテ居ナイガ、若シ區別シテ取扱ハレタ者ガ假リニアツタトシタナラバ、有ツタ所ニ於テ間違ツテシテ居レバ此後ハ斷ジテ左様ナ事ハセシメナイヤウニスル積リデアアル、今後モ無論政府トシテ、左様ナ區別シタ取扱ハシナイ、一般普通ノ取扱ヲシテ、若シ過ツテスル所ガアレバ、嚴重ニ戒飭ヲ加ヘテ左様ナ事ヲセシメズ、一般同胞ト何等異ラナイ扱ヲスル積リデアアル、斯ウ云フ答デアルノデアリマス、ソレカラ軍隊ニ付テハ初メヨリ區別ハ付ケナイ、少シモ區別ハ付ケズ、又細民部落ト言フコトモナケレバ、特種部落ト言フタコトモナシ、何等ノ區別モ付ケズニ一般ノ同胞ト同様ニシテ居ル、ケレドモ茲ニ一ツ誠ニ悲シムベキノ事ガアル、何故ナラバ其人達ガ自分自ラ僻ンデ、何トナク繼子ノヤウニナル、サウナルト附合惡ヒナド、云フ結果、一般ノ同胞ヨリ出ダタル者ガ、其親シキ同胞ノ間ヲ忘レテ自カラ去ル者日ニ疎シト云フコトニ立至ル、ソレガ自然ニ何等カ一目シテ異ツタ扱ヲスルヤウナコトニモナリハシマイカト思フ、故ニ此建議ガ有ツテ、此不幸ナル一部ノ同胞ヲ改善シテ行クト同時ニ、其改善向上ヲセシメヤウトスル、其人達自身自ラ勵ンデ多クノ同胞ト何等變ラナイ、多クノ國民ト同ジ資格ヲ持テ居ルト自ラ先ヅ身體モ清クシ、其行

モ高尚ニシ、其住居モ成ベク清潔ニ爲シ、其行モ勇クシテ、此人達ガ自ラ向上シテ呉レルト云フ方法ガ立タナケレバ、改善セント欲シテモ改善スルコトハ出来ナイト云フコトニナル、此人達ニモ自身向上スルト云フ心ヲ持ッテ貰フト同時ニ、又國民トシテモ出来得ル限リ之ニ力ヲ盡シテ、此不幸ナル同胞一部ノ改善向上ニ努メナケレバナラヌモノデアル、此事ニ付テハ政府ハ内務省ノ當局トテモ少シモ異議ハ無イト云フ、斯ウ云フコトデアリマシタ、ソレカラ文部省ニ於テモ此種ノ人ヲ教員ニ用キタコトガアル、用キタコトモ現在最近マデアッタガ、ソレハ其人自ラ退職ヲシタ、何故ナラバ其人ニモ自ラ僻ミノ心ガ起キ、一方ニモ亦左様ナ眼ヲ以テ見ル人モアルヤウナコトデ、其間ガ餘リ面白クナクテ、自ラ退職シタコトモアル、ソレカラ智識ノ點デ、其種ニ屬スル人ノ向上進歩ノ經過ハドウデアアルカト云フニ、其一派ノ國民ハ教ヘレバ覺エル、教ヘサヘスレバ覺エルト云フニモ拘ラズ、一部不幸ナル此種ノ人達ハ、教ヘヌカラ進マヌノデアアル、教ヘテモ進マヌカト云フニ斷ジテサウデナイ、現在文部當局ノ政府委員ノ言ハレルノニ、自身ハ金澤ノ高等學校ヲ卒業シテ、東京ノ帝國大學ニ入ッタノデアアルガ、其間金澤高等學校時代カラ連立ッテ、ソレデ帝國大學マデ一緒ニ居ッタ共ニ卒業シタ、而モ中々優等デアリ俊才デアッタ、知ッテ居ル限リノ人ニ斯ウ云フ人ガアルカラ、其他ニモ所謂高才逸足ノ士ガ往々アルト云フコトモ知ッテ居ル、惟フニ知ラザル範圍ニ於テモ多イダラウト云フコトデアアル、故ニ學校ニ於テ之ヲ區別スルト云フ如キ傾ガアレバ、最モ惡イ事ト思ッテ警メテ居ルケレドモ、寒村僻地ニ至ッテハ或ハ偶ニハサウ云フ事ガ、文部當局ノ知ラザル範圍ニ於テ無イトモ保證ガ出来ナイガ、有ッタトスレバ、嚴重ニ戒飭ヲ加ヘテ、一般同胞ト異ナル所ナク教ヘシメルコトニ努メル積リデアリマス、斯ウ云フ御答デアリマス、歸スル所委員會ノ質疑應答ノ結果ハ、國家ノ力ノ及ブ限リヲ注ガネバナラヌト同時ニ、又此人達ガ自分自ラ奮ヒ自ラ進ンデ、向上心ヲ以テ行クト云フコトニシナカッタナラバ、助ケテモ行ハナイノデアアルカラシテ、此人達ニモ汎ク此意味ヲ知ラシメテ、自ラ向上スル考ヲ持ッテ貰フヤウニ導カウ、隨テ一般國民モ亦大御心ニ、即チ先帝ノ大御心ニ立戻ッテ、サウシテ自ラ覺醒ヲシナケレバイケナイ、此一部ノ不幸ナル人ヲ疎外シタリ、賤ンダリ、嫌忌シタリスルガ如キハ、所謂

陋習ノ未ダ破レザルモノデアアル、舊夢ノ未ダ醒メザルモノデアアッテ、獨リ此不幸ナル一部ノ人ノミガ進歩改善ニ後レテ居ルト云フノミナラズ、大ニ進ンデ居ル此國民一般ガ、此陋習ヲ破ル事ガ出来ナイノハ、甚ダ以テ同胞ニ對シテ無情ナルノミナラズ、又甚ダ務トシテモ缺ケタリト言ハナケレバナラヌノデアアルカラ、一般國民ハ汎ク自ラ覺醒スベシ、不幸ナル此人達ハ自ラ進ンデ改善ノ緒ニ就クベシ、斯ウ云フ事ヲ成ルベク多ク世ノ中ニ知ラシムルヤウナ方法ヲ執リタイ、而シテ政府ノ意嚮トシテハ、世話ハ成ルベク——公共ノ團體或ハ地方ノ自治ノ團體等ニ向ッテ、改善進歩ノ仕事ヲセシメテ、ソレニ幾何カノ出来ルダケノ經濟ノ許ス範圍ノ金額ヲ補助スルコトニシタイト思フ、ソレモ今日幾何ノ金ヲ如何ナル方法ニ依ッテ出スカト云フコトハ、今日咄嗟ニ開カレタ委員會ニ向ッテ答ヘル程ノ案ヲ持ッテ居ラヌカラシテ、ソレハ異日ノ事ニシテ貴ヒタイ、唯、今日マデ此改善ヲ計ッタル團體ニ向ッテ、一萬八百圓程ノ金ヲ出シテ居ル、斯ウ云フ事デアアル、ソレハ極メテ僅少ノ金デアアルガ、ソレヲドウ云フ風ニ出シテ居ルカト云フ事ヲ聞イタラ、内務省ノ地方改良費ノ五萬圓ノ中カラ是ハ有益ナ方法デアルトカ、是ハ有效ナ金デアルトカ、此改善ニ向ッテハ顯著ナル效力ガアルト認メタモノニ幾何カヅ、ノ即チ褒美獎勵ノ意味デアアル、ソレガ立ドコロニ資本金ニナッテ、大ニ働ケヤウト思フ程ノ金デハナイ、根ガ地方改良費ノ五萬圓ノ中カラ、全國ニ散在シテ居ル者ニ向ッテ分配スルノデアアルカラシテ、其少額ナルコトハ又致方ガナイ譯デアアル此ニ於テ或ル限度マデノ金ヲ政府ガ支出スルト云フコトハ、出来ヌカト云フ折衝モ致シマシタ所ガ、出来ナイ事モ無カラウケレドモ、唯今申ス通り、今出来タ委員會ニ向ッテ、今幾ラノ年額ヲ補助シヤウト云フヤウナ答ヲスル程ノ成案ハ持タヌカラ、是ヨリ政府モ其考慮ヲシテ、大ニ改善ノ方法ヲ圖ッテ見ヤウ建議案其モノニ付テハ全然異議ハナイ、斯ウ云フ事デゴザイマシタ故ニ委員會ハ斯様ナ經過ヲ經テ、全會一致ヲ以テ本案ヲ可決致シマシテゴザイマス、茲ニ御報告申シマス院議異議ナク本案ヲ可決シ即日政府ニ之ヲ呈出セリ

第六項 重要動議

一 決議案

本院ハ曩ニ決議ヲ以テ我カ出征軍ノ功勞ヲ感謝セリ爾來我カ軍ハ聯合各國ト協同シ艦隊ハ遠ク世界ノ各方面ニ策動シ以テ與國ノ作戰ニ資シ陸軍ハ兵ヲ西伯利ニ進メ以テ西隣ノ秩序ヲ保チ大ニ帝國ノ威武ヲ中外ニ宣揚ス衆議院ハ其ノ壯烈ナル行動ト偉大ナル功績トニ對シ特ニ院議ヲ以テ滿腔ノ敬意ヲ表ス

右ハ大正七年十二月二十八日元田肇君外十三名之ヲ提出ス同日常任委員選舉ノ後議事日程ニ追加シテ本案ヲ院議ニ付スルヤ岩崎勳君ハ先ツ議案並提出者氏名ノ朗讀ヲ要求シ議長ハ書記ヲシテ之ヲ朗讀セシメ次テ提出者元田肇君ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、本員ハ唯今朗讀ニナリマシタル我海陸軍ノ將士ニ對シ、感謝ノ意ヲ表スルノ決議案提出ノ理由ヲ述ブベク登壇致シマシタ、本決議案ハ、唯今朗讀サレマシタ通り、一黨一派ノ提出ニ非ズシテ、衆議員各派ノ期セズシテ一致シタル、熱誠ノ上ニ出デタル案デアリマシテ、茲ニ其提出ノ理由ヲ説明スルコトハ、誠ニ自分ニ於キマシテモ、光榮ニ存ズル次第デアリマス、御承知ノ通り、本院ハ曩ニ四十議會ノ劈頭ニ於キマシテ、一度決議ヲ以テ出征將士ノ功勞ヲ感謝スルノ意ヲ表示致シテ於キマシタ、爾來我帝國ノ海陸軍ハ、引續キマシテ海軍ハ地中海方面マデ進ンデ、多大

ノ任務ヲ盡シテ居リマシタノミナラズ、西伯利騷亂ノ際ニ至リマシテハ、沿海州方面マデ出動致シ、非常ナル難苦ト闘ヒマシテ、能ク其功ヲ奏シテ居ルコトハ、世界ニ明カナコトデアリマス、又陸軍ハ曩ニ膠州灣ニ於テ奮闘シ、獨禍ヲ東洋ヨリ絶ッテシマッタト云フ功績ニ對シマシテハ、既ニ感謝ノ意ヲ表シマシタガ、其後ニ至リ西伯利出兵ノ事アルニ至リ、與國ト協調シ、共ニ兵ヲ出スコトニナリ、帝國ハ最モ近キ國デアリマシテ、最モ重大ノ關係ヲ有スルガ故ニ、其主力トナッテ、我陸軍ノ軍隊ハ、西伯利方面ニ出動致シマシテ、能ク該方面ノ秩序ヲ保ッテ今日ニ至ッテ居ルコトハ、是亦列國ノ認識致ス所ト存ジマス、今回ノ戰亂ニ付キマシテ、歐洲方面ヲ見マスレバ、各方面共ニ非常ニ奮闘致シテ居リマスガ、實ニ世界ノ耳目ヲ集中シテ居ル場所ニ於テ、晴ノ戰ヲ致スノデアリマスカラ、辛勞多キト同時ニ、自ラ慰ムル事柄モ多クアルデアラウト考ヘマス、獨リ太平洋方面ノ治安ヲ維持シ、印度洋方面ノ秩序ヲ維持シ、進ンデ地中海ノ潜水艇ト戰ヒ、或ハ沿海州ニ向ッテ奮進スル等、我ガ海軍ノ奮闘ニ至リテハ、世界ノ視聽ノ上ニハ寧ロ隠レタル感ガアル、此隱レタル感アル所ニ於テ、奮闘努力シタル我出征軍ノ辛苦功勞ハ、實ニ多大ノモノアリト信ジテ疑ハヌノデアリマス、歐洲戰亂不幸ニシテ勃發シマシテ以來、今日ハ既ニ數年ヲ經過シテ居ルノデアリマスガ、此間ニ處シテ、白耳義ノ如キハ、殆ド國ノ全部ヲ蹂躪セラレ、尙且奮闘シテ止マズ、佛蘭西ノ如キ、伊太利ノ如キ、何レモ接境ノ地デアリマシテ、是等ノ諸國ノ兵士人民ガ、非常ナル熱心努力奮闘ヲ續ケ來ッタコトハ、吾々敬服ニ堪ヘヌ事デアリマス、又英國ガ人道ノ爲、平和ノ爲ニ出兵シ、尙物資ノ供給、軍費ノ提供等、國力ヲ賭シテ之ヲ援ケタト云フコトニ至ッテハ、其功ノ多大ナルコト、今更絮說ヲ要セザル所デアリマス、續イテ米國ガ獨塊ノ兇暴ヲ憎ミ、人道ノ爲メ起ッテ此世界ノ大亂ヲ裁定セントスルノ誠意ヲ披瀝シ、有ユル方面カラ努力致サレマシタコトニ至ッテハ、亦吾々等シク感謝景仰ニ堪ヘザル所デアリマス、併ナガラ翻ッテ世界ノ他ノ方面、即チ太平洋、印度洋、東洋等ノ一半ノ方面ヲ見マスレバ、何等異常ナク、無事安穩ノ裡ニ貿易其他交通往復ヲ致シテ居ッタノデアリマスガ、抑、是ハ何人ノ力デアリマス乎、吾々帝國臣民トシテ、茲ニ是ヲ言明スルノハ、聊カ自畫自贊ノ感ガアルカハ存ジマセヌガ、此間ニ處シマシテ、膠州灣ヲ

攻略致シテ、獨禍ヲ東洋ニ絶チ、又艦隊ヲ派遣致シマシテ、太平洋、印度洋、進ンデハ地中海マデノ通商貿易、若クハ軍資ノ輸送等ニ力ヲ盡シマシテ、而シテ極東ノ平和、否獨リ極東ノミナラズ、此ノ世界ノ一半ニ於ケル各方面ノ平和ヲ維持シタト云フコトハ、實ニ我帝國出征軍ノ力ト言ッテモ、決シテ過言デナイト信スルノデアリマス、又西伯利問題ノ起リシ時ニ於キマシテハ、英佛ハ勿論ノコトデアリマスガ、特ニ米國通牒ノ趣旨ヲ重シジ、多數ノ兵士ヲ出シテ「チエック、スロウバック」ノ援助ニ當リ、加之西伯利方面ノ秩序ヲ維持スル如キモ、帝國ノ主力ヲ以テ今日ニ至ッタコトハ、亦隠レナキ事ト信ズルノデアリマス、斯ノ如ク此大戦ニ參加シテ、帝國ハ奮闘努力致シマシタガ、謂ハバ本舞臺ノ歐洲ノ中原ニ非ザルガ故ニ、或ハ虞ル、帝國ノ盡シタル任務功勞ノ多大ナルコトガ、ソレ程世界ニ現ハレザルカ遺憾ヲ私ハ吞ンデ居ルノデアリマス、此戰役ニ帝國ガ斯ノ如ク盡シタト云フ、其ノ目的ハ何レニ在リヤ、毫モ帝國ハ獨塊ノ如ク、侵略主義ニ出デタルモノデナイ、與國ニ對スル誠意ヲ重シジ、正義人道ヲ助クル爲メ、帝國ノ全力ヲ注イデ此ニ至ッタト云フコトハ、斷言スルヲ憚カラヌノデアリマス、今ヤ獨逸方面ハ遂ニ屈伏致シマシタガ、私ハ是程進ンデ申スコトハ少シク控ヘヤウト存ジマシタガ、大正三年ニ此戰亂ガ勃發シタ以來、若シ、帝國ガ單ニ中立ノ態度ヲ執ッテ動かズト云フコトデアッタナラバ、今日ノ如キ結果ヲ得ルト云フコトハ、甚ダ疑問デアアル、膠州灣ヲ根據トシテ獨逸ノ艦隊等ガ、各方面ニ暴レ廻ルト云フコトニ至リマシテハ、如何ナル形勢ヲ呈スルデアラウカ、鄰邦トナッテ居リマス露西亞ノ如キ、固ヨリ今日ノ如キ潰亂ヲ來ス原因ハ、他ニ在ッタカモ知レマセヌケレドモ、此戰亂ノ波動ガ今日ノ如ク無秩序潰亂ヲ來スニ至ッタト云フコトハ、信ジテ疑ハヌノデアリマス、斯ル世界ノ波動ヲ起シタモノヲ、遂ニ我帝國ハ東洋ニ於テ阻止致シマシテ、サウシテ今日ハ歐羅巴方面ニ於テ休戰條約ヲ見ルト云フコトニ至ッタノデアリマス、而カモ帝國ガ與國ト共ニ奮闘致シタノハ、全ク正義、人道ヲ重シジ、又同盟諸國ニ對スル信誼ヲ完ウスルニ外ナラヌノデアリマス、追々平和會議等モ開カレルサウデアリマスガ、「ウキルソン」大統領ハ、人類ノ爲メ、正義至誠ヲ傾ケ正義ヲ執ッテ動かヌト云フコトヲ、天下ニ聲明シテ居ルコトデアリマスカラ、必ズヤ正義人道ニ基カレタル所ノ立派ナル平和克

復ヲサレルコトニナルデアラウト、吾々ハ期待シテ居ル次第デアリマスガ、斯ノ如ク我帝國ノ偉勳ヲ世界ノ上ニ顯ハスコトニナリ、功績ヲ奏スルコトニナッタト云フモノハ、全ク 天皇陛下ノ御稜威ハ申スモ畏シデアリマスガ、出征シタル海陸軍將士ノ辛勞ヲ厭ハズ、死生ノ間ニ出入シテ奮闘致シマシタ結果ニ外ナラヌト思ヒマス、而シテ尙私ハ其背後ニアル帝國ノ臣民ガ能ク陛下ノ聖旨ヲ奉體シテ、滿腔ノ誠意ヲ捧ゲテ後援ヲ爲シタト云フコトガ、即チ此ノ結果ヲ奏シタモノト確信スルノデアリマス、是ニ於テ本議會ノ開カレタル今日ニ於キマシテ、先ヅ以テ吾々ハ出征海陸軍ノ將士ニ對シテ、其ノ功勞ヲ謝スルノ決議ヲ提出スルノ至當ナルヲ認メテ、茲ニ提出シタ次第デアリマス、勿論本院各派ノ一致ノ提出デアリマスカラ、多言ヲ費ス必要ハナイノデアリマスガ、以上ノ次第ヲ述ベテ、本案提出ノ理由ト致シマス、而シテ私ハ最後ニ望ミマス——望ムト云フヨリ寧ロ本案ニ對シマシテハ、全會一致ヲ以テ可決セラレムコトヲ信ジテ降壇ヲ致シマス

採決ニ及ヒ議長ハ贊成者ノ起立ヲ求メ全會一致ヲ以テ之ヲ可決シ次テ田中國務大臣及加藤國務大臣ハ右決議ニ對シ謝辭ヲ述ヘ更ニ出征陸海軍部隊ヨリ左ノ謝電アリタリ

田中國務大臣ノ謝辭

唯今國外ニ出動致シマシタ陸軍ニ對スル御決議ニ對シマシテハ、本大臣ハ全陸軍ヲ代表シテ、深甚ナル感謝ノ意ヲ表シマス、尙此ノ御決議ノ次第ハ、直チニ之ヲ國外ニ出動シテ居リマスル部隊ニ傳達シ、尙全軍ニ之ヲ傳ヘルト云フコトノ手續ヲ致シマス

加藤國務大臣ノ謝辭

唯今滿場一致ヲ以テ御決議ニナリマシタ決議文ニ付キマシテハ、海軍ヲ代表致シマシテ、滿腔ノ謝意ヲ表シマス、尙御決議ノ次第ハ、最モ迅速ナル方法ヲ執リマシテ、各方面ニ於ケル艦隊指揮官ニ傳達方ヲ取計ラフ考デゴザイマス、茲ニ御禮ヲ述ベテ一言摺挨拶ヲ申上ゲマス

(謝電)

千二百八

我軍將士ニ對シ懇篤ナル謝電ヲ辱フシ感佩ノ至ニ堪ヘス茲ニ麾下一同ヲ代表シ深甚ナル謝意ヲ表ス
貴族院及衆議院ヨリ當師團ニ對シ深厚ナル感謝ノ辭ヲ辱フシ一同感激ニ堪ヘス益々奮勵以テ其任ヲ全フセンコトヲ期ス

浦鹽派遣軍司令官
第三師團長

貴院カ我軍ノ行動ニ關シ多大ナル讚辭ト深厚ナル謝辭ヲ寄セラレタルハ本職ノ光榮トスル所ナリ
寒日々峻烈ナリト雖部下將卒體軀強健志氣旺盛ニシテ熱誠奉公ノ實ヲ舉ケツツアリ將來益々奮勵努力以テ貴院ノ希望ニ副ハンコトヲ期ス

第七師團長

我カ師團隷下部隊ニ對シ貴院ノ決議ニ依ル感謝ノ辭ヲ忝フシタルハ將卒一同ノ感激措ク能ハサルトコロナリ將來益々奮勵努力シ國民ノ重倚ニ副ハンコトヲ期ス

第十二師團長

關東都督隷下部隊將士ニ對シテ鄭重ナル感謝狀ヲ辱フシ感激ニ堪ヘス茲ニ深甚ナル謝意ヲ表ス

關東都督

(大正七年十二月三十日著電)
衆議院ノ鄭重ナル決議ニ接シ感銘ノ至ニ堪ヘス茲ニ麾下一同ヲ代表シ深厚ナル謝意ヲ表ス
右可然御披露ヲ請フ

第一特務艦隊司令官 千坂智次郎

大岡衆議院議長閣下
(大正八年一月二日著電)

再ヒ衆議院ノ決議サレタル鄭重ナル感謝ニ對シ麾下一同ヲ代表シ謹ンテ深厚ナル謝意ヲ表ス然ル可ク御披露ヲ乞フ

第二特務艦隊司令官

大岡衆議院議長閣下

(大正七年十二月二十九日著電)
衆議院ノ鄭重ナル決議ニ對シ麾下一同ヲ代表シ深厚ナル謝意ヲ表ス、尙ホ益々奮勵與望ニ副ハシテ期ス右然ル可ク御披露ヲ乞フ

黒井第三艦隊司令官

大岡衆議院議長閣下

(大正七年十二月二十九日著電)
出征艦隊ニ對スル貴院ノ深厚ナル決議ヲ傳承シテ感激ニ堪エス乗員一同ヲ代表シテ茲ニ感謝ノ意ヲ表ス

淺間艦長 古川 弘

大岡衆議院議長閣下

二 決議案

衆議院ハ大勳位李太王殿下薨去ノ報ニ接シ哀悼ノ至ニ勝ヘス茲ニ本院ノ決議ヲ以テ恭ク弔意ヲ表ス

右ハ八年一月二十五日元田肇君外十三名之ヲ提出ス同日議事日程ニ追加シテ本案ヲ院議ニ付シ提

出者(元田肇君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

千二百十

諸君、本院ハ唯今朗讀ニナリマシタ哀悼ノ決議案、提出ノ理由ヲ述ベタイト存ジマス、大勳位李太王殿下本月二十一日病ニ罹ラセラレタルノ報傳リマスルヤ、本員等ハ必ズ御快方ニ向ハセラレベキコトヲ信ジマシテ、其一日モ速カナランコトヲ祈リ奉ッタ譯デアリマシタガ、其甲斐モナク二十二日遂ニ薨去アラセラレタルノ報ニ接シマシテ、洵ニ千歳ノ恨事、哀悼悲痛ニ堪ヘナイ次第デアリマス、殿下ハ天資英明仁慈ニアラセラレマシテ、御仁政ノ事ハ枚擧ニ違アラズト承ッテ居ルノデアリマス、彼ノ日清日露ノ兩役ニ於ケル盟約締結ヲ首メト致シマシテ、多年御深慮アラセラレタルハ較著ノ事實デアリマス、而シテ特ニ東洋ノ平和ヲ保維シ、朝鮮ノ福利ヲ増進スル事ヲ觀念アラセラレマシテ、遂ニ能ク泰平隆昌ノ德澤ニ浴スルノ今日アルニ至ラシメタルコトハ、李王殿下ノ御英斷ニ出デタコトノ多キニヨルコトハ、申スマデモナキ事ト存ジマスガ、李太王殿下ノ英明ナル御贊助亦與ッテ多大ナルコトヲ信ジテ疑ハナイノデアリマス、斯ノ如キ次第デアリマスルガ故ニ、我が帝室ニ於カセラレマシテモ、特別ナル御優遇アラセラレルコト、拜察スルノデアリマス、李太王殿下ハ、御退位後ハ德壽宮ニ餘世ヲ送ラレマシテ、風月ヲ侶トサレテ在ラセラレタノデアリマスガ、其後世子殿下ノ御就學ノ事アルニ及ビマシテ、一日千秋ノ御思ニテ御成長ヲ待タセラレ、客年久ニテ御對面ニナリマシテ、世子殿下ノ文武ノ道ニ御練達アラセラレタル其御雄姿ヲ御認メニナリマシテ、御喜ビモ一層デ在ラセラレタト云フコトヲ吾々ハ承ッテ居リマス、此頃ハ又梨本宮女王殿下ノ御慶事ノ御勅許ヲ賜リマシテ、不日御式事ヲ舉ゲサセラルベキ御運ビトナリ、李太王殿下ノ御滿悅ハ想察シ奉ルニ餘リアリシニ、何事デアリマセウ、俄ニ病ニ罹ラセラレマシテ、薨去ノ報ニ接スルニ至ラントハ、李王家各殿下ノ御悲歎ハ如何許リデアリマセウ、又梨本宮殿下ノ御悲ミハ拜察ニ堪ヘヌ次第デアリマス、上陛下ノ御思召ノ程モ誠ニ恐懼ニ堪ヘヌコトニ存ジマス、本院ハ既ニ國葬費ニ付キマシテ、先刻滿場一致ノ誠意ヲ披キマシテ、協賛致シタ次第デアリマスガ、尙ホ哀悼ノ至情ヲ披瀝致シマシテ、敬吊ノ意ヲ表スル事ガ至當デアラウト存ジ、各派期セズ一致ノ意見ヲ以チマシテ、茲ニ本決議案ヲ提出スルニ至ッタ次第デアリ

マス、私ハ長ク多辯ヲ此間ニ挾ム必要ハナイト存ジマス、誠ニ哀悼悲痛ニ堪ヘナイ次第デアリマシテ、以上本決議案提出ノ理由ヲ述ベマシテ、滿場一致ノ御賛成アラントヲ期待致シテ降壇致シマス

採決ニ及ヒ議長ハ賛成者ノ起立ヲ求メ全會一致ヲ以テ之ヲ可決シタリ

三 大勳位李太王殿下薨去ニ付本日及御葬儀當日休會ノ件

右ハ八年一月二十五日議事日程終了ノ後議長之ヲ發議シテ院議ニ付シ賛成者ノ起立ヲ求メタルニ全會一致之ヲ可決シタリ

四 佛國首相クレマンソノ閣下遭難慰問ニ關スル決議ノ件

右ハ八年二月二十五日議事日程ニ入ルニ先チ議長之ヲ發議シテ院議ニ付シ直ニ議長指名ヲ以テ十八名ノ起草委員ヲ選定ス委員ハ委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ引續キ起草ヲ爲シ同日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

日本帝國衆議院ハ講和會議議長佛國首相クレマンソノ閣下カ兇漢ノ爲負傷セラレタル報ニ接シ憂慮ニ堪ヘス特ニ院議ヲ以テ深甚ナル同情ヲ表シ併テ平癒ノ速ナラムコトヲ祈ル

同日議事日程ヲ變更シテ本案ヲ再ヒ院議ニ付シ委員長小川平吉君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ノ爲ス

諸君、巴里ニ於ケル講和會議長「クレマンソー」閣下ガ兇漢ノ爲メニ負傷セラレマシタノハ、洵ニ痛嘆ニ堪ヘザル次第デゴザリマス、講和會議ハ其關係セル國家並ニ民族ノ範圍頗ル廣汎ニ互リ、又其協議スベキ事項ノ頗ル多岐ニ互ルガ爲メニ、恰モ世界ヲ改造スルガ如キ觀ガゴザリマス、歴史有ツテ以來未ダ曾テ見ルコト能ハザル所ノ最モ廣大ナル、最モ重要ナル事件デアリマス、殊ニ其正義人道ヲ維持シ、宇内ニ於ケル恒久的平和ノ基礎ヲ確立セント欲スル所ノ崇高ナル目的ヲ有スル點ニ於キマシテ、全世界人類ノ讚歎ヲ博シ、吾々ノ將來ノ歴史ニ向ッテ、永ク燦爛タル光輝ヲ放ツヘキ所ノ最モ偉大ナル事業ト謂ハナクテハナリマセヌ「クレマンソー」閣下ハ此會議ニ於テ議長ノ要職ヲ占メラレマシテ、老齡ノ身ナルニモ拘ラズ、驚クベキ精力ヲ發揮セラレ、其卓越セル智力ト、非凡ナル所ノ才能トニ依リマシテ、能ク此大ナル會議ヲ主宰セラレ、會議ハ豫定ノ徑路ヲ辿リツ、最モ圓滿ニ且ツ最モ迅速ニ其ノ目的ニ向ッテ進ミツ、アルコトハ、世界人類ノ尊敬且ツ推獎シテ措カザル所デゴザイマス、吾々ハ閣下ノ手腕ト其熱誠トニ信賴致シマシテ、此世界ニ於ケル偉大ナル事業ノ速ニ完全ニ成就センコトヲ希望シテ止マザル者デゴザイマス、然ルニ此際閣下ガ兇漢ノ爲メニ負傷セラレマシタノハ、洵ニ驚愕ニ堪ヘズ、且ツ憂慮措ク能ハザルトデゴザリマス、聞ク所ニ依リマスレバ、幸ニシテ負傷後ノ經過ハ極メテ良好デアルト云フコトデゴザリマスカラ、吾々ハ聊カ慰ムル所ハアルノデゴザリマス、吾々ハ一日モ早く閣下ノ負傷ガ平癒セラレマシテ、倍舊ノ勢力ヲ以テ再ビ議長ノ椅子ニ著カレ、會議ヲ主宰セラレマシテ、此偉大ナル事業ノ速ニ完全ニ成就スルコトヲ希望シテ已マナイノデゴザイマス、茲ニ委員會ノ結果ヲ御報告申上ゲマスガ、吾々委員ハ御付託ニ依リマシテ直チニ會議ヲ開キ、不肖私委員長ニ、金杉英五郎君理事ニ當選致シ、慎重ナル協議ノ結果成案ヲ得マシタノデゴザイマス、茲ニ之ヲ朗

讀致シマス

日本帝國衆議院ハ講和會議議長佛國首相クレマンソー閣下カ兇漢ノ爲負傷セラレタル報ニ接シ憂慮ニ堪ヘズ特ニ院議ヲ以テ深甚ナル同情ヲ表シ併テ平癒ノ速ナラムコトヲ祈ル

以上ノ通りデゴザイマス、ドウゾ滿場ノ御賛成ヲ願ヒマス

採決ニ及ヒ議長ハ賛成者ノ起立ヲ求メ全會一致ヲ以テ之ヲ可決シタリ

五 皇太子殿下御成年式御舉行ノ際賀表捧呈ノ件

右ハ八年三月二十五日議事日程ニ入ルニ先チ議長ハ來ル四月二十九日皇太子殿下御成年式御舉行ニ付 兩陛下並ニ皇太子殿下ニ賀表ヲ捧呈シタキ旨及賀表、捧呈ニ關シテハ議長ニ一任スヘキ旨ヲ發議シテ之ヲ院議ニ付シ賛成者ノ起立ヲ求メタルニ全會一致ヲ以テ之ヲ可決シタリ

(參照)

大正八年五月七日 皇太子殿下ノ御成年式ニ大岡議長ハ左ノ賀表及賀牋ヲ奉呈セリ

衆議院議長 臣大岡青造 誠懃誠忝謹テ奏ス

欽ミ惟ニ

陛下乾健維レ昌ニシテ盛徳天ノ如ク尙武崇文 皇圖四表ニ光被シ重熙累洽 聖澤八紘ニ布護ス

第二章 議事 第四

第二款 議案ノ討議 第六項 重要動議

千二百十三

茲ニ良辰ニ方リ
皇太子殿下成年ノ式ヲ舉ゲサセタマフ和氣藹如朝野咸ナ歡ヒ祥光油然外中畢ク賀ス 臣等仰テ
盛典ヲ拜シ忻懽已ムナシ恭テ賀表ヲ上リ
寶祚 無疆ヲ祝シ奉ル 臣等造 誠懽誠忭謹テ奏ス

衆議院議長 臣大岡育造 誠懽誠忭謹テ言ス
欽ミ惟ニ

殿下總明睿達孝慈並至リ懿度淵深文武兼ネ脩メタマヒ往キニ宸極ニ貳ヒテ繼體ノ統ヲ正シ今冠
儀ニ膺リ成年ノ式ヲ享ケサセタマフ雅頌洋溢海宇咸ナ慶ヒ謳歌紛郁萬姓畢ク賀ス 臣等 休明ノ
昌期ニ際シ欣躍ノ至ニ任フルナシ恭テ賀牋ヲ上リ
鶴算ノ無疆ヲ祈リ奉ル 臣等造 誠懽誠忭謹テ言ス

第七項 請願

大正七年十二月二十八日本院ハ各部ニ於テ請願委員ヲ選舉ス委員ハ同日委員會ヲ開キ委員長及理
事ノ互選ヲ行ヒ超エテ八年一月二十四日委員長ハ全委員ヲ分テ四科トナシ各分科主査ヲ選定シ其
ノ所屬員ハ各委員ノ希望ニ依リ之ヲ定メ以テ請願ヲ審査セリ
本會期ニ於テ本院ノ受理シタル請願ハ二千九十七通ニシテ請願委員ハ審査ノ末議院法第六十四條
第二項ニ依リ院議ニ付スヘキモノト議決シ特別ノ報告ヲ爲シタルモノ千八百七十一通(本節第一

款參看)他ハ院議ニ付スルヲ要セストナシ且議員ヨリ院議ニ付スルノ要求ナキヲ以テ委員長報告
ノ通確定シタリ

而シテ其ノ内政府ニ參考トシテ送付スヘキモノト議決シタルモノ百七十五通、他ノ委員會ニ參考
トシテ送付スヘキモノト議決シタルモノ十八通、不採擇ト決シタルモノ七通、審査未了ノモノ二十
六通ナリ(第四十一回議會衆議院報告第四ノ三參看)
特別報告ニ係ル請願ノ討議及表決左ノ如シ

一 大淀川修築速成ノ請願外四十二件

(特一、三乃至五、七乃至一三、一六乃至二七、二九乃至三一、三三
乃至三七)

八年一月三十一日及二月七日報告書ヲ提出シ二月二十二日各請願ヲ一括シテ院議ニ付ス
議長ハ特別報告第三十五號ノ請願ハ日肥鐵道建設ニ關スル建議案可決ノ結果日程ヨリ之ヲ除却ス
ヘキ旨ヲ宣告ス

請願委員長 佐々木文一君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

請願委員會ノ議決ノ結果ヲ御報告申上ゲマス、特別報告第一號、大淀川修築速成ノ請願、請願人

ハ宮崎縣宮崎郡宮崎町長加藤七五郎外三十六名、紹介議員ハ長峰與一君デゴザイマス、是ハ院議ニ付スベキモノトシテ採擇ニ決シマシタ、次ハ特別報告ノ第三號、軍人恩給法中改正ノ請願、廣島縣廣島市白島九軒町十七番地陸軍砲兵中佐北川繁次郎外十一名ノ呈出デゴザイマシテ、紹介議員ハ荒川五郎君デゴザイマス、是モ採擇ヲ致シマシテ、院議ニ付スベキモノト決定致シマシタ、特別報告ノ第四號、新宮村ニ特設電話設置ノ請願、兵庫縣揖保郡新宮村七百三十一番地菅野六太郎外十四名ノ呈出デゴザイマシテ、紹介議員土井權大君デアリマス、是モ委員會ニ於キマシテ採擇ト決シマシゴザイマス、次ハ特別報告ノ第五號、生月村ニ區裁判所出張所設置ノ請願、長崎縣北松浦郡生月村長高野小源治呈出、紹介議員中倉万次郎君デゴザイマス、是モ採擇ニ決シマシタ、次ハ特別報告ノ第七號、喜多方稅務署復舊ノ請願、福島縣耶麻郡喜多方町原平藏外二百四名呈出、紹介議員八田宗吉君デゴザイマス、是モ採擇ト決シマシタ、次ハ特別報告第八號、煙草及印紙元賣捌ヲ町村ニ委託ノ請願、京都府加佐郡新舞鶴町長五藤兵司外二十一名呈出、紹介議員神谷卓男君デゴザイマス、本件モ採擇ト委員會ニ於テ決シマシテゴザイマス、次ハ特別報告ノ第九號、鹽價低減ノ請願、長野縣長野市西後町八十二番地北信醬油釀造同業組合長左治木清七呈出、紹介議員諏訪部庄左衛門君、本件モ院議ニ付スベキモノトシテ採擇ニ決シマシタ、次ハ特別報告第十號、町村長表彰規則制定ノ請願、大阪府東成郡鯉江町大字今福寬半兵衛呈出、紹介議員戶水寬人君デゴザイマス、本件モ採擇ニ決シ院議ニ付スベキモノト致シマシテ、特別報告第十一號、時弊矯正ニ關スル請願、東京府東京市麻布區材木町岩田德義呈出、紹介議員佐々木文一デゴザイマス、本件モ採擇ト決シマシテゴザイマス、次ニ特別報告第十二號、狩獵法改正ノ請願、福島縣南會津郡伊北村長長谷川太一外八十一名呈出、紹介議員八田宗吉君デゴザイマス、本件モ採擇ト決シマシテゴザイマス、特別報告第十三號、和賀川河身改修工事ノ請願、巖手縣和賀郡黑澤尻村大字町分芳野喜八外六十五名呈出、紹介議員高橋嘉太郎君外一名、本件モ採擇ト決シマシテゴザイマス、次ハ特別報告第十六號、軍人恩給法中改正ノ請願、三重縣四日市市南町豫備陸軍歩兵大尉渡邊馬吉君呈出、紹介議員井島茂作君デゴザイマス、本件モ採擇ト決シマシテゴザイマス、特別報

告第十七號、挿秧時期ニ兵士歸郷ニ關スル法規制定ノ請願、福岡縣京都郡沖津村筒井省吾外九名呈出、紹介議員佐々木正藏君外一名デゴザイマス、本件モ採擇ト決シマシテゴザイマス、次ハ特別報告第十八號、村山村三ツ木ニ無集配郵便局設置ノ請願、デアリマス、請願人ハ東京府北多摩郡村山村比留間安右衛門デアリマシテ、紹介議員ハ高木正年君デゴザイマス、本件モ採擇ト決シマシテゴザイマス、次ハ特別報告第十九號、砂村ニ無集配三等郵便局設置ノ請願、デアリマス、請願人ハ東京府南葛飾郡砂村榎本市五郎ノ呈出デアリマシテ、紹介議員ハ高木正年君デアリマス、本件モ採擇ト決シマシテゴザイマス、次ハ特別報告第二十號、新田郵便局ニ集配事務及電信事務開始並配達區域變更ノ請願、是ハ京都府久世郡大久保村長加藤常七外三名ノ呈出デアリマシテ、紹介議員ハ長田桃藏君デアリマス、本件モ採擇ト決シマシテゴザイマス、次ハ特別報告第二十一號、上越鐵道敷設ニ關スル請願、是ハ新潟縣魚沼郡十日町町長本田喜市外五十八名ノ呈出、紹介議員ハ高島順作君外一名デアリマス、本件モ採擇ト決シマシテゴザイマス、次ハ特別報告第二十二號、元田島區裁判所復舊ノ請願、福島縣南會津郡田島町長湯田千代作外十三名ノ呈出、紹介議員ハ八田宗吉君デアリマス、本件モ採擇ト決シマシテゴザイマス、特別報告第二十三號、鹽川町ニ登記所新設ノ請願、福島縣耶麻郡鹽川町外一箇村組合町村長北村晋一郎外五名ノ提出デアリマシテ、紹介議員ハ八田宗吉君デアリマス、本件モ採擇ト決シマシテゴザイマス、次ハ特別報告第二十四號、稻垣村ニ登記所設置ノ請願、青森縣西津輕郡稻垣村長藤田藤左衛門ノ呈出、紹介議員ハ菊地良一君デアリマス、本件モ採擇ト決シマシタ、次ハ特別報告第二十五號、根知村ニ登記所新設ノ請願、新潟縣西頸城郡根知村大字上野齋藤勇次郎外三十三名ノ呈出、紹介議員ハ高島順作君デアリマス、本件モ採擇ト決シマシテゴザイマス、次ハ特別報告第二十六號、手莊村ニ登記所新設ノ請願、岡山縣川上郡手莊村長赤松佳衛外三名ノ呈出デアリマシテ、紹介議員ハ西村丹治郎君デアリマス、本件モ採擇ト決シマシタ、次ハ特別報告第二十七號、福野町ニ登記所新設ノ請願、富山縣東礪波郡福野町長傍田彌三郎外三名ノ呈出デアリマシテ、紹介議員ハ上埜安太郎君外一名デアリマス、本件モ採擇ト決シマシタ、次ハ特別報告第二十九號、義務教育費國庫負擔法ニ依ル下渡金増加ノ請願、福井縣敦賀郡粟野村長上原松次

郎ノ請願ニ係ルモノデアリマシテ、紹介議員ハ横井藤四郎君デアリマス、尙ホ一件、同様ノ請願ニシテ岡山縣後月郡西江村長片山鼎三、紹介議員ハ西村丹治郎君此二件ハ共ニ採擇ト決シマシテゴザイマス、次ハ特別報告第二十號、義務教育費國庫負擔金増加ノ請願、福島縣田村郡三春町長代理助役田中高麗外三十名ノ呈出、紹介議員ハ石射文五郎君デアリマス、本件モ採擇ト決シマシタ、特別報告第二十一條、飛越鐵道敷設ノ請願、富山縣射水郡新湊町長宮林立作外十名ノ呈出、紹介議員ハ上埜安太郎君外三名デアリマス、本件モ採擇ト決シマシタ、次ハ特別報告第二十三號、岐阜高山間鐵道敷設ニ關スル請願、岐阜縣加茂郡西白川村長加藤浩外十一名ノ呈出デアリマシテ、紹介議員ハ佐々木文一君デアリマス、本件モ採擇ニ決シマシタ、次ハ特別報告第三十四號、冷水越鐵道速成ニ關スル請願、福岡縣嘉穂郡飯塚町長藤森善平外十九名ノ呈出デアリマシテ、紹介議員ハ山内範造君外一名デアリマス、本件モ採擇ニ決シマシタ、次ニ第三十五號ハ不用ニ屬シマシテ、特別報告第三十六號、十六合村ニ停車場新設ノ請願、山形縣東田川郡十六合村長小松重芳外五名デアリマシテ、紹介議員ハ伊東知也君デアリマス、本件モ採擇ト決シマシタ、次ハ特別報告第三十七號、酒田町ヨリ觀音寺村ニ至ル輕便鐵道敷設速成ノ請願、山形縣飽海郡日向村長池田嘉惣治外二十四名ノ呈出、紹介議員ハ伊東知也君デアリマス、本件モ同様採擇ニ決シマシタ以上御報告致シマス

院議異議ナク各請願ヲ採擇ニ決シ即日右請願全部ヲ政府ニ送付セリ

二 産業組合ニ對シ印紙稅免除ノ請願外十二件

(特四二乃至四五、四八、五一、五四乃至五八及六一)

八年二月二十四日報告書ヲ提出ス同月二十七日各請願ヲ一括シテ院議ニ付シ請願委員長佐々木文

一君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

請願委員會ノ結果ヲ御報告申上ゲマス、特別報告第四十二號産業組合ニ對シ印紙稅免除ノ請願、請願人ハ秋田縣秋田市茶町有限責任秋田共益信用組合長河村周吉外六十二名ノ呈出ニシテ、紹介議員ハ齋藤宇一郎君デアリマス、本件ハ院議ニ付スベキモノトシテ、採擇ニ決シマシタ、特別報告ノ四十三號、製鹽特別賠償價格制定ノ請願、徳島縣板野郡撫養町近藤爲五郎外百八十名ノ請願デアリマシテ、紹介議員ハ高島兵吉君デアリマス、本件モ亦同様院議ニ付スベキモノトシテ、採擇ニ決シマシテゴザイマス、特別報告ノ四十四號、特別用鹽規則中練追加ノ請願、青森縣青森市大字大町松森豊外一名ノ呈出デアリマシテ、紹介議員ハ工藤卓爾君デアリマス、本件モ採擇ト決シマシテゴザイマス、特別報告四十五號、專賣官吏派出所設置ノ請願、廣島縣加茂郡三津口村長上田榮造ノ請願デアリマシテ、紹介議員ハ花井卓藏君外一名デアリマス、本件モ委員會議ニ於テ採擇ト決シマシタ、特別報告ノ四十八號、質屋取締法中改正ノ請願、是ハ徳島縣徳島市助任西町、徳島縣徳島市名東郡質屋組合組長清水役藏外十九名ノ呈出デアリマシテ、紹介議員ハ武市彰一君、今一件同様ノ請願ハ徳島縣板野郡撫養町岡村爲三郎外十八名ノ呈出デアリマシテ、紹介議員ハ高島兵吉君デアリマス、右兩件トモ採擇ニ決定致シマシテゴザイマス、特別報告ノ五十一號仙臺地方裁判所石卷支部權限復舊ノ請願、宮城縣牡鹿郡石卷町ノ武山一郎外三百二十一名ノ呈出ニ係リマシテ、紹介議員ハ遠藤良吉君外六名デアリマス、本件モ採擇ト決シマシタ、特別報告ノ五十四號、大田、三次間輕便鐵道測量及速成ノ請願、島根縣安濃郡大田町長檜崎録三郎外百八十八名ノ請願デアリマシテ、紹介議員ハ恒松隆慶君外三名デアリマス、本件モ採擇ト決シマシタ、特別報告ノ五十五號、上越鐵道速成ノ請願、群馬縣群馬郡澁川町長羽鳥年太郎呈出、紹介議員ハ武藤金吉君デアリマス、本件モ採擇ト決シマシテゴザイマス、次ハ特別報告ノ五十六號、上越鐵道敷設工事急設ノ請願、請願人ハ群馬縣高崎商業會議所會頭小島彌平ノ請願デアリマシテ、紹介議員ハ土谷全次君デアリマス、本件モ採擇ト決シマシタ、特別報告ノ五十七號、池田川之江間鐵道敷設ノ請願、請願人ハ愛媛縣宇摩郡川之江町一柳藤市外十四

名ノ請願デゴザイマシテ、紹介議員ハ河上哲太郎君外三名デアリマス、本件モ採擇スベキモノト決シマシタ、特別報告ノ五十八號、津山新見間鐵道敷設速成ノ請願、請願人ハ岡山縣苫田郡津山町長三好次男外六十名ノ呈出デゴザイマシテ、紹介議員ハ福井三郎君デアリマス、本件モ採擇ト決シマシタ、特別報告ノ六十一號、都城福島間鐵道敷設ノ請願、請願人ハ宮崎縣北諸縣郡高城村ノ新穂千秋外二百六十五名ノ請願デゴザイマシテ、紹介議員ハ陣軍吉君外三名デアリマス、本件モ院議ニ付スベキモノトシテ採擇ト致シマシタ、以上御報告申上ゲマス

院議異議ナク各請願ヲ採擇ニ決シ即日右請願全部ヲ政府ニ送付セリ

三 郵便局管轄區域變更ノ請願外六十六件

- (特六四乃至八〇、八五乃至八八、九四乃至九八、一〇〇、一〇一、一〇三乃至一〇七、一一一乃至一一八、一二〇乃至一二二、一二四、一二六乃至一四〇、一四四、一四五、一四七及一五〇)

八年二月二十一日及同二十八日報告書ヲ提出ス三月十五日三月十一日同月十三日延會各請願ヲ一括シテ院議ニ付シ請願委員長佐々木文一君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

請願委員會ノ結果ヲ御報告申シマス、今日ノ日程ハ二十四カラ八十九マデ、六十六件モアリマス、一々申上ゲルノハ甚ダ諸君ヲ煩シマスカラ、總テ件名、請願人ノ住所氏名及紹介議員ヲ讀上ゲルコトヲ省略致シマシテ、一括シテ御報告申シマス、其詳細ハ委員長ノ報告ニ添付致シマシタル意見書ニ依ッテ御了承ヲ乞ヒマス、日程第二十四ヨリ八十九ニ至リマスルマデノ請願ハ、全部院議ニ

付スベキモノトシテ採擇ト決シマシテゴザイマス、此段御報告致シマス

河西豊太郎君ハ特別報告第一百八號日本住血吸蟲病豫防撲滅事業費國庫補助ノ請願ニ付政府ニ對シ質疑ヲ爲シ杉山政府委員之ニ應答ス

河西豊太郎君ノ質疑

此件ハ廣島縣ヨリ請願ニナッテ居リマス事柄デゴザイマスガ、山梨縣ヨリモ矢張之ト同一請願ガ出テ居ル筈デゴザイマス、元來此病氣ハ、廣島山梨外四五縣ニ特有スル一種ノ地方病デゴザイマス、山梨縣廣島縣ノ如キ殊ニ最モ其被害ヲ受ケテ居ル地方デゴザイマス、現ニ山梨縣ノ如キハ、其病氣ノ分布ノ區域ガ一市五十餘箇村ニ互リマシテ、現在此病氣ニ罹ッテ居ル者ガ一萬有餘人、年々ノ死亡者ハ殆ド百有餘人ヲ超エルト云フ狀況デゴザイマス、是ガ爲メニ官民共ニ此病氣ヲ豫防撲滅スルコトニ就テ、非常ナル努力ヲ拂ッテ居リマシテ、縣稅ノ補助ハ勿論、町村ニ於テモ莫大ノ負擔ヲ致シテ、豫防撲滅事業ニ從事シテ居ル有様デアリマス、併ナガラ到底一地方ノ微カナル資力ヲ以テ、此病氣ノ豫防撲滅ノ大事業ヲ遂ゲルト云フコトハ、殆ド今日不可能ノ狀態デゴザイマス、斯ノ如クシテ益、蔓延シ益、傳播スルコトニナリマシタナラバ、國家ノ上ヨリ見テモ由々敷キ事柄デアラウト存ジマスルガ故ニ、願クハ國家ノ力ヲ藉リテドウカ此病氣ノ豫防撲滅ノ事ヲ致シタイ、之ニ對シテ政府當局ハ如何ナル御考ヲ御持デアルカ、此際承ッテ置キマスレバ、非常ニ仕合デアリマス、一寸御尋致シマス

杉山政府委員ノ應答

(前略)仰セノ如ク日本住血吸蟲病ハ獨リ山梨廣島ノミナラズ、佐賀岡山静岡、茨城、而モ此輩穀ノ下デアリマス東京府下ニモ、此病氣ガアルノデアリマス、此日本住血吸蟲病ナルモノハ、日本ト

云フ名前ヲ冠スル如ク、他ノ歐米ノ國ニハ無クテ、獨リ或同胞ノ間ニ此住血吸蟲病ガアルト云フコトハ、頗ル遺憾トスル者デアリマス、而シテ之ニ對シマスル請願ガ廣島縣ヨリ出テ居リスマル、其經費ハ三萬有餘圓ト云フモノヲ國庫ヨリシテ補助ノ御希望デアリマスルガ、請願分科會ニ於テ、政府當局ハ大要之ニ對スル所ノ考ヲ披瀝シテ居リマスル次第デアリマスルガ、其際ニモ申上ゲマシタル通り、此住血吸蟲病ナルモノハ、福岡醫科大學ノ教授デアリマス、宮入博士ニ依リマシテ、中間宿主、何カ此病毒ヲ媒介スルコトニ付テハ、中間宿主、俗ニ「ピンロージュ」ト云フヤウナ名前ヲ冠シテ居リマスガ、法螺ノ貝ヲ小サクシタヤウナ貝デアリマス、其中間宿主ナルモノニ依ッテ病毒ヲ段々傳播スルト云フ事ガ分ッタノデアリマス、併ナガラ住血吸蟲ナルモノ、病原體ハ、如何ナルモノニ屬スルカト云フ事ハ、未ダ専門家ニ依ッテモ之ヲ研究スル所ノ域ニマデ進ンデ居リマセヌ、故ニ遺憾ナガラ此中間宿主ト云フモノヲ撲滅スルト云フコトノ方面ニ於テ、其病氣ノ流行シテ居ル處ニ之ヲ用キテ居ル、詰リ中間宿主ノ撲滅策ヲ執ッテ居ルノデアリマス、ソレデ廣島ノ方カラノ請願モ、其中間宿主ヲ撲滅スルニ向ッテノ補助デアリマス、固ヨリ病原體ノ決定サレナイ間ハ、其中間宿主ト云フモノ、撲滅ヲ以テ満足スル外ハアリマセヌ、故ニ政府ハ其爲メニ幾多ノ考慮ヲ加ヘテハ居リマスガ、併ナガラ是ヨリモデス、マダ衛生當局トシマシテハ急中ノ急ナルモノガアルノデス、ソレハ何デアルカ、即チ寄生蟲ノ中ニ於キマシテ、蛔蟲、ト云フモノニ殆ド侵襲ヲ受ケテ居ラス所ノ者ハ無イ、日本國中殆ド津、浦、ニ至リマスマデ、此蛔蟲ノ侵襲ヲ被ッテ居ル、ソレデ寄生蟲ノ中ニ於テモ最モ恐ルベキ所ノ蛔蟲ノミナラズ、(中略)十二指腸蟲ニ至リマシテハ、殆ド日本全國九十五「パーセント」カラ九十八「パーセント」ノ驚クベキ所ノ實數ヲ示シツ、アルノデアリマス、殆ド吾々同胞ノ健康ト云フモノガ脅カサレツ、アルノデアリマス、而シテ其寄生蟲ノ中、恐ルベキ蛔蟲ト十二指腸蟲ト云フモノヲ、吾々ノ理想ト致シマシテハ、成ベク一年ノ中ニ適當ノ時機ニ於テ、之ヲ一齊ニ驅除スルト云フコトヲ熱烈ニ希望スルノデアリマス、而シテ日本住血吸蟲ヨリ急中ノ急ナルモノガアル、併ナガラ其請願分科會ニ於テモ私ガ辯

明致シマシタガ、若シ廣島縣ニ於テ十二指腸蟲、蛔蟲ヨリモ日本住血吸蟲ノ方ガ驚クベキ勢ヲ以テ、廣島縣ノ吾々同胞ヲ侵シツ、アルト云フコトノ實況デアリマスルナラバ、固ヨリ緩急斟酌致シマシテ、寄生蟲驅除補助費デアリマスカラ、固ヨリ其範圍内ニ於テ日本住血吸蟲ノ方面ニ向ッテ、廣島縣ニ向ッテ補助スルト云フコトハ、當局者ト致シマシテハ適當ノ考ヲ持ッテ居ルノデアリマス、當リ山梨ト限リマセヌ、茨城ト限リマセヌ、其住血吸蟲ノアル所ニ向ッテノ御答ト御諒承ヲ願ヒタイ

院議異議ナク各請願ヲ採擇ニ決シ即日右請願全部ヲ政府ニ送付セリ

四 葉煙草耕作反別ニ對シ補償金交付ノ請願外五十二件

(特一五四、一六三乃至一六九、一七一乃至一七九、一八五乃至一九五及一九七、一九八)

八年三月七日報告書ヲ提出ス三月二十四日(二十日及二十一日延會)各請願ヲ一括シテ院議ニ付シ請願委員長佐々木文一君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

委員會ノ結果ヲ御報告申上ゲマス、日程第二十八ヨリ以下五十七ニ至リマスル總テハ、之ヲ一括シテ御報告ヲ申上ゲマス、其件名、請願人ノ住所氏名及紹介議員ノ氏名等ハ、總テ速記録ニ掲載致スコトニ致シマシテ、之ヲ朗讀スルコトヲ省略致シマス、請願委員會ニ於キマシテハ、以上三十件ノ請願ニ就キマシテ、慎重ニ審議ヲ盡シマシタル末、何レモ院議ニ付スベキモノトシテ採擇ヲ決シマシタ、此段御報告致シマス

院議異議ナク各請願ヲ採擇ニ決シ即日各請願全部ヲ政府ニ送付セリ

五 明治三十年法律第五十號改正ノ請願外二百十三件

(特九三、一九九乃至二〇三、二〇五乃至二一一、二二三乃至二二一、二二七乃至二三一、二三三、二三四、二三八乃至二四三、二四五乃至二五一、二五四乃至二六二、二六四乃至二七〇、二七三、二七五乃至二七八、二八〇乃至二八五、二八七、二八八及二九〇乃至二九三)

八年二月二十八日、三月十四日及同月十九日報告書ヲ提出ス三月二十五日各請願ヲ一括シテ院議ニ付シ請願委員長佐々木文一君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

請願委員會ノ結果ヲ御報告申上ゲマス、報告ノ便宜上日程ノ二十四ヨリ八十一マデ五十八件ヲ一括シテ御報告申上ゲマス、是ハ何レモ委員會ニ於キマシテハ院議ニ付スベキモノト認メ採擇ニ決シマシタ、尙ホ例ノ如ク件名請願人ノ住所氏名及ビ紹介議員諸君ノ御氏名ハ、速記録ニ掲載致スコトニ致シマス、日程ノ八十二、八十三、八十四、此三件ハ請願委員會ニ於キマシテ小委員ヲ選任致シマシテ、サウシテ、小委員會ニ付託致シマシテ、審査ヲ致シマシタ事項デゴザイマスカラ、是ダケハ一ツ御報告ヲ申上ゲマス、日程八十二ハ縣社八幡神社ノ昇格ノ請願デアリマス、是ハ滋賀縣阪田郡長濱町八幡神社司笹原泉外十一名ノ請願デアリマシテ、紹介議員ハ福井三郎君外二名デアリマス、此八幡神社ノ祭神ハ神功皇后デアリマスガ、之ニ併セテ足仲彦尊並譽

田別尊ト仲哀天皇、應神天皇ヲ配祀シテ御祭ヲスル神社デアリマス、此神社ハ現在ハ縣社デゴザイマス、之ヲ官幣社ニ昇格ヲセシメタイト云フ請願ノ要旨デゴザイマス、小委員會ニ於キマシテハ政府ニ折衝ヲ致シマシタ所ガ、政府ニ於キマシテハ、色々他トノ權衡上直チニ同意ハ困難ト云フコトデゴザイマシテ、委員會ニ於キマシテハ當時ノ思想界其他ニ於キマシテモ、特ニ敬神愛國ノ趣意ヲ普及スル上ニ於キマシテハ、是非此社格ヲ昇格セシムルヲ相當ト認メマシテ、小委員會ニ於テモ其結果ヲ齎ラシマシテ、請願委員會ニ於テハ之ヲ採擇ト決シマシタ、次ハ同一小委員會ニ付託ニナリマシタ日程ノ八十三、白鳥神社昇格ノ請願デアリマス、是ハ長崎縣南松浦郡玉之浦村郷社白鳥神社司宗寬治外一名ノ請願デアリマシテ、紹介議員ハ牧山耕藏君デアリマス、是ハ白鳥神社ハ現在ハ郷社デ日本武尊ヲ祀ッテアリマス、是モ同様小委員會ニ於テ政府ト折衝ノ上、委員總會ニ報告ヲ得マシテ、前ト同様ノ趣意ニ於キマシテ採擇ニ決シマシタ、次ハ日程ノ八十四津島神社昇格ノ請願デアリマス、是ハ愛知縣海邊郡津島町横田理平外五百九名ノ請願デアリマシテ、紹介議員ハ二輪市太郎君外一名デアリマス、津島神社ハ現在ハ縣社デゴザイマシテ素盞鳴尊ヲ奉祀サレテ居ル大社デゴザイマス、古來ハ伊勢若クハ熱田神社ト同様ノ社格デアッテ、高イノデアリマシタガ、現在ハ縣社ノ社格デアアルカラ、之ヲ官幣社ニ昇格セラレタイト云フ請願ノ趣意デゴザイマス、是モ矢張小委員會ニ於テ同様政府ト折衝ノ結果、請願委員會ニ於キマシテハ是モ同様採擇ニ決シマシタ、此三件ニ付キマシテハ、特ニ請願委員會ニ於キマシテ、本會ニ特別ノ御報告ヲ致スノミナラズ、政府ニ於テモ全部此昇格ニ對スル希望ヲ容レラレタイト云フコトヲ附シテ決議ヲ致シマシタ次第デゴザイマス、特ニ是ダケハ御報告致シマス、日程ノ八十五カラシテ百二ニ至ル十八件、是モ矢張全部必要ト認メマシテ採擇ニ決シマシタ、右御報告申シマス

院議異議ナク各請願ヲ採擇ニ決シ即日右請願全部ヲ政府ニ送付セリ

六 朝鮮ニ官幣神社奉祠ノ請願外百四十七件

(特九九、一〇九、一二三、一五九、二二二、二七二、二七四、二八

九、二九六乃至三三六、三四〇、三四五、三四八、三五〇乃至三六

四、三六六、三六七、三七一至三八一、三八三乃至三八八、三九

〇乃至三九二、三九六乃至三九八及四〇〇乃至四〇三)

八年二月二十八日、三月七日、同月十四日、同月十九日及同月二十四日報告書ヲ提出ス三月二十六日各請願ヲ一括シテ院議ニ付シ請願委員長佐々木文一君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

請願委員會ノ經過及結果ヲ御報告申上ゲマス、此日程ニ入ルニ先立チマシテ、當期議會ニ於キマスル、請願委員會ノ經過ノ大要ヲ申上ゲマスレバ、委員會ヲ開キマシタ度數ガ三十三回其中二十二回ハ分科會デゴザリマス、而シテ此請願ノ件數及ビ採否ノ事柄ハ、追テ書記官ヨリ御報告ニナリマスルカラ、之ヲ省略致シマス、唯、本年ノ請願ノ數ハ前議會ノ千四百三十二ニ對シマシテ、二千九十七ト云フ多數ノ件數ヲ議了致シマシタ、是ハ偏ニ委員諸君ノ勵精ノ結果デアルト云フコトヲ申上置キマスル、此日程ニ就キマシテハ、第七ヨリ百二ニ至リマスル九十六件、何レモ慎重ニ審議ノ上、院議ニ付スベキモノトシテ、採擇ト決シマシテゴザイマス、此段報告申上ゲマス

院議異議ナク各請願ヲ採擇ニ決シ即日右請願全部ヲ政府ニ送付セリ

七 軍人恩給法附則中改正ノ請願外千二百九十二件

(特二、六、一四、一五、二八、三二、三五、三八乃至四一、四六、四

七、四九、五〇、五一、五三、五九、六〇、六二、六三、八一乃至八

四、八九乃至九二、一〇二、一〇八、一一〇、一一九、一二五、一四

一乃至一四三、一四六、一五一乃至一五三、一五五乃至一五八、一

六〇乃至一六二、一七〇、一八〇乃至一八四、一九六、二〇四、二

一六、二三二、二三五乃至二三七、二四四、二五二、二五三、二六

三、二七一、二七九、二八六、二九四、二九五、三三七乃至三三九、

三四一乃至三四四、三四六、三四七、三四九、三六五、三六八乃至

三七〇、三八二、三八九、三九三乃至三九五及三九九)

八年一月三十一日、二月七日、同月十四日、同月二十一日、同月二十八日、三月七日、同月十四日、同月十九日及同月二十四日報告書ヲ提出ス各請願ハ之ヲ院議ニ付セサルモ第三十七回議會(大正五年二月十八日)請願取扱ニ關スル決議ニ基キ同種議案可決又ハ同種請願採擇ノ結果之ヲ採擇シタルモノト看做シ三月二十六日各請願書ヲ政府ニ送付セリ

第三章 質問及答辯

本會期ニ於テ議員ヨリ提出シタル質問主意書ハ總テ五十四件ニシテ内一件ハ撤回シ三件ニ對シテハ口頭ヲ以テ、四十七件ニ對シテハ書面ヲ以テ而シテ他ノ三件ニ對シテハ口頭及書面ヲ以テ答辯アリタリ

今之ヲ所管ニ依リ別類スレハ左ノ如シ

内閣ニ關スルモノ三件、内閣及海軍、陸軍兩省ニ關スルモノ一件、内閣及外務、陸軍兩省ニ關スルモノ一件、内閣及農商務省ニ關スルモノ一件、海軍、陸軍兩省ニ關スルモノ一件、海軍、陸軍、農商務、内務、文部及遞信ノ各省ニ關スルモノ一件、外務省ニ關スルモノ四件、外務、陸軍兩省ニ關スルモノ一件、外務、内務兩省ニ關スルモノ二件、外務、内務、陸軍及海軍ノ各省ニ關スルモノ一件、大藏、外務兩省ニ關スルモノ一件、農商務省ニ關スルモノ一件、農商務、外務兩省ニ關スルモノ一件、内務省ニ關スルモノ十三件、内務、大藏兩省ニ關スルモノ一件、内務、農商務及大藏ノ三省ニ關スルモノ一件、内務、文部兩省ニ願スルモノ七件、文部省ニ關スルモノ六件、司法省ニ關スルモノ二件トス

尙此ノ外緊急質疑ニシテ内務省ニ關スルモノ一件、外務省ニ關スルモノ一件アリ

其ノ質問及答辯ヲ摘載スレハ左ノ如シ

一 公娼制度ノ存廢ニ關スル質問

- 第一 政府ハ現下ノ公娼制度並斯界ノ實狀ハ國法ニ牴觸スル所ナシト信スル乎政府ハ明治維新ノ初ニ於テ夙ニ人身賣買ノ制度ヲ否認シ全國ノ娼妓ヲ解放シ人權尊重ノ義ヲ明カニシタリト雖依然トシテ人身賣買ノ事行ハレ舊來ノ陋習依然タリ更ニ相當ノ政策ヲ必要トセサル乎
- 第二 政府ハ公娼制度ヲ以テ國民ノ活力ヲ害シ國家ノ面目ヲ損壞スルモノトハ認メサル乎公娼制度ハ國民ヲ奢侈遊惰ニ導キ其ノ生産力ヲ害シ且文明君子國ノ體面ヲ害スルコト甚タ大ナリト信ス政府ノ意見如何
- 第三 政府ハ現下ノ公娼制度ヲ存續シ斯界ノ現狀ヲ是認セムトスル乎公娼ハ居住移轉ノ自由ヲ有セス又廢業ノ自由ナシ宛然牢獄ニ投セラレタル奴隸ノ如シ其ノ慘狀言語ニ絶ス是レ憲政政治下ノ一大怪事ニ非スヤ
- 第四 若政府ニシテ公娼制度ヲ廢止スル能ハストセスハ從來ノ密集制度營業所營業方法ニ關シテハ大ニ改善ノ實ヲ行ハサルヲ得サルモノアリ之ヲ拋擲スルハ政黨内閣ノ實ニ適ハサルモノナリト思料ス政府ノ意見如何
- 第五 若公娼制度ヲ廢止スルモノトセハ賣笑行爲ニ關シテ如何ナル政策ヲ採ラムトスル乎賣笑

行爲ハ不徳ナリト雖或程度迄之ヲ放任スルノ必要ナキ乎

大正八年一月二十一日横山勝太郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ同月二十八日其ノ趣旨ヲ辯明ス

此問題ハ神聖ナル議場ニ於テ、發言スルコトガドウデアラウカト、聊カ躊躇シタ點モゴザイマス、併ナガラ感ズル所アリ、幾萬ノ窮民ニ代ツテ、聊カ政府ノ所信ヲ質シテ置キタイト思ヒマス、デ御承知ノ如ク、明治維新ノ際ニ、先帝ハ舊來ノ陋習ヲ破リ、天地ノ公道ニ基クベシトノ勅ヲ降シ給フタノデアリマス、誠ニ此聖旨ハ宏遠デアツテ、萬民保全ノ大道デアアル、又不朽ノ國是デアルト、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス、デ我國ガ一躍シテ文明ノ強國ノ位地ニ列シタト云フコトモ、大ニ此聖旨ニ負フ所多シト信ジテ居リマス、然ルニ從來ノ我國ノ爲政者ハ、甚ダ公明中正ヲ缺イテ、此聖旨ヲ奉ズルコトノ實ガ甚ダ乏シイト云フコトハ、洵ニ國民ノ遺憾トスル所デアリマス、デ維新以來漸次舊來ノ陋習ヲ破ツテ色々文物制度ノ上ニ改善ヲ致シテ參リマシタ、併シナガラマダ幾多ノ陋習ナルモノガ、我國ノ制度ノ上ニモ、習慣ノ上ニモ殘ッテ居ルト云フ事柄ハ國民ノ齊シク認ムル所デアリマス、現ニ此公娼制度ノ如キモノモ、舊來ノ陋習ニシテ、未ダ破ルコトノ出來ナイ一ツモノト認メテ居ルノデアリマス、現ニ此一例ヲ執ツテ見マスルト云フト、新吉原ノ如キハ、元祿年間ニハ約二千人アツタ、ソレカラ天明年間ニモ二千二百人アツタ、安政年間ニモ二千七百八十八人ノ者ガ居ツタ、所ガ大正ノ御代ニナリマシテカラモ、大正三年度ニ二千四百八十八人、大正四年度ニ二千四百九人、大正五年度ニ二千三百六十二人、大正六年度ニ二千四百五十五人、八年度ニ於テ少シク減ジテモ、マダ二千三百五十一人ト云フ人間ヲ殘シテ居ルノデアリマス、而シテ此公娼制度ヲ最モ盛ンニヤツテ居リマス所ハ、我日本ニ於キマシテハ大阪デアリマス、兎ニ角ニ大都市ノ現狀ガ今申スヤウナ有様デアリマシテ、少クトモ公娼制度ニ付テハ、元祿年間ヨリモ我日本ハ退歩致シテ居ル、幕府時代ノ無智文盲ノ時代ニ於テ、僅ニ千九百人カ二千一人ニ過ギナカッタ者ガ、此文物制度ノ進歩シタル大正七年度ニ於テ、尙ホ二千數百人ノ公娼ヲ吉原ノミニ於テモ存在シテ

居ルコトハ、少クトモ公娼制度ハ、日本國民ノ道德ト云フモノガ、退歩シテ居ルト私ハ考ヘテ居ルノデゴザイマス、斯ノ如キ事情ニ付キマシテ、數點政府ニ御尋シタイト考ヘマス點ハ、第一ニ今日ノ公娼制度、並ニ公娼界ノ實狀ト云フモノハ、果シテ我帝國ノ國憲ニ、牴觸スル所ナシト認メテ居ルカドウカト云フ點デアリマス、今日ノ公娼制度ハ、憲法ノ條文ニモ反スルシ、又娼妓取締規則ナル内務省令ノ規程ニモ、背反シテ居ルモノト考ヘテ居リマス、政府ハ明治維新ノ初ニ於キマシテ、夙ニ人身賣買ノ制度ヲ否認セラレタ事柄ハ、明治五年、又明治八年度ニ於キマスル各布告ニ依ツテ明瞭デアリマス、而シテ此各布告ニ依ツテ人身賣買ヲ禁シタト云フコトハ明瞭デアリマスガ、依然トシテ此貸座敷營業ト云フ名ノ下ニ、自由契約ニ依リ貸借ト云フコトニ名ヲ藉リテ、其實ハ人身賣買ノ實ヲ行ツテ居ル、譬ヘテ申シマスレバ、前借金ノコトヲ身代金ト申シマス身代金ト云フコトハ、即チ人身賣買ノ代金ト云フコトデアリマス、法律ノ上ニハ人身賣買ヲ禁ジ又内務省令ノ上ニモ、多少娼妓ノ自由ナルモノヲ認メテ居リマス、ケレドモガ、之ヲ四圍ノ情況ニ考ヘテ見マスルト云フト、現今ノ公娼ナルモノハ、殆ド牢獄ニ投セラレタル奴隸ノ如キモノデアリマス、彼等ハ内務省ノ省令ノ命ズル所ニ依リ、自由廢業ヲ爲サントシテモ、容易ニ自由廢業ノ目的ヲ達スルコトガ出來ナイ、ソレカラ此公娼ナルモノガ病院ニ行キマス際ニモ、矢張サウデアリマス、矢張囚ハレタル牢ノ如キ状態ニ於テ、殆ド監禁同様ノ目ニ遇ッテ居ルノデアリマス、ソレガ爲メニデス、本年一月勿々ニ大阪ナル松島遊廓ノ娼妓九名ノ者ガ、病院ノ或ル所ニ火ヲ放ツテ、サウシテ病院カラ脱走スルト云フコトヲ企テタコトハ、新聞ニ出テ居リマシタ、是等モデス、娼妓ガ憲法ノ保障ニ依ツテ、身體ノ自由ヲ有シテ居リマスレバ、何ヲ好ンデ彼等ハ、此恐ルベキ放火犯ノ大罪ヲ犯スデアリマセウ、萬已ムヲ得マカラ、彼等ハ最終ノ手段タル放火ニ出デタモノト私ハ考ヘテ居リマス、現ニ斯ウ云フヤウナ事柄ハ、放火犯トシテ現レタト云フコトハ、自他共ニ不幸ニ感ズル點デアリマスルガ、言葉ノ上デハ屢、現ハレテ居ルノデアリマス、現ニ最近ニ公娼ノ事ニ付テ著シタ著書ノ中ニ、斯ウ云ウ事ガ書イテアリマス、矢張大阪ニ居ル娼妓ガ不平ヲ洩シテ居ル所ノ言葉ノ一端ヲ、歌ニ唄ッテ居ルノデアリマス、……是ハ極メテ學問ノ素養ノナイ婦人ノ言葉

デアリマスカラ、歌ニナツテ居ルカドウカ存ジマセヌガ、誠ニ其ノ心情ハ同情スベキコト、私ハ考ヘマス、此無智ノ窮民ヲシテ、斯ノ如キ俗謡ヲモ唄ハシムルニ至ツテハ私ハ制度ノ罪デ、又樓主ノ罪デ、彼等ハ決シテ憲法、法律ノ保障ヲ受ケテ居ラヌト云フ私ハ活キタル證據ト考ヘマス、斯様ナ次第デアリマシテ、内務省令ノ規定ニ依ツテ、娼妓ハ確ニ自由ヲ有シテ居リマスケレドモガ、實際ニ於テ廢業ノ自由ヲモ得テ居ナイノミナラズ、居住移轉ノ自由モ無イ、是ガ事實上カラ見テ、私ハ彼等ハ甚ダ不自由デアルト云フ點ヲ、諸君ニ訴ヘテ置キタイノデアリマス、ソレカラ何ガ故ニ憲法ノ規定ニ反スルカト云フ點ヲ一應申上ゲテ置キタイノデアリマス、内務省令ノ第七條ニ依リマスルト「娼妓ハ廳府縣令ヲ以テ指定シタル地域外ニ住居スルコトヲ得ズ、娼妓ハ法令ノ規定若ハ官廳ノ命令ニ依リ又ハ警察官署ニ出頭スル爲メ外出スル場合ノ外警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ外出スルコトヲ得ス」是ガ身體自由ニ關スル内務省ノ規定デアリマスカラ、翻ツテ憲法ノ規定ヲ調ベテ見マスニ、御承知ノ如ク其第二十二條ニ「日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス」斯ノ如ク保障ヲ與ヘラレテアルノデアリマス、然ルニ法律ニ依ラズシテ、内務省令ナル一箇ノ行政命令ヲ以テ、此國民ノ居住移轉ノ自由ヲ剝奪スルト云フコトハ憲法ノ規定ニ反スル、是ガ私ノ政府ニ問ハントスル第一項ノ趣旨デアリマス、第二ハ、ソレハ公娼制度ヲ以テ國民ノ活力ヲ害シ、國家ノ面目ヲ損傷スルモノト認メザルカト云フ點デアリマス、私ノ信ズル所ニ依レバ、公娼制度ナルモノハ、國民ヲ驅リテ奢侈遊惰ニ導キ、其生産力ヲ害シ、兼テ我が帝國ノ體面ヲ害スルモノデアルト云フコトヲ、深ク信ジテ居ル者デアリマス、御承知ノ如ク我が日本國ニハ、今日公娼ガ約五萬人居リマス、而シテ此五萬人ノ婦人ニ對シテ、男子ガドレ位ノ遊興費ヲ使フカト云フコトヲ調ベテ見マスルト、東京ノミノ遊興費ヲ調査シテ見マスルト云フト、大正五年度ニ於テ二百七十萬圓、六年度ニ於テ四百萬圓、大正七年度ニ於テ五百二十五萬圓、是ハ單ニ新吉原ニ於ケル遊興費ノミデアリマス、是ハ日本全國ノ各公娼所在地ノ遊興費ヲ調査致シマシタナラバ、莫大ノ金額ニ上ルト考ヘマス、青年有爲ノ者ガ其活力ヲ害スルト云フコトハ、衛生上カラ考ヘテ見マシテモ論ノ無イ話、此新吉原ノミニ限ツテモ、幾百萬圓ノ金ヲ壯年ノ者ガ遊興

費ニ捨テ、居ルト云フ事柄ハ、國家ノ生産上、由々シキ大事デアルト私ハ考ヘテ居リマス、而シテ此我國ノ女學生ハドノ位在ルカト云フコトヲ調査シテ見マスルト云フト、約八萬人女學生ナル者ガ居リマス、小學校ノ女教員ナル者ガ、約五萬人居リマス、藝者ガ五萬三千人許リ居リマス、酌婦ナル者ガ四萬五千人許リ居リマス、而シテ此娼妓ガ五萬人、此比例ヲ取ツテ見マスルト云フト、果シテ日本ノ婦人ナル者ガ、如何ナル地位ニ在ルモノデアルカスノ如キ婦人ノ統計ガアルト云フ事柄ハ、果シテ日本國ノ名譽デアルカ、ドウカト云フコトヲ私ハ非常ニ憂フル者デアリマス、今回歐洲戰爭ノ結果ヲ諸君ハ御覽ニナツテ居リマス通り、幾千萬ノ男子ガ出征ヲ致シマシタ結果殆ド總テノ後方勤務ト云フモノハ、大概大小輕重トナク、婦人ニ依ツテ功績ヲ顯サレテ居リマス、翻ツテ我が日本國ニ於テハドウカト云ヘバ、實ニ五萬有餘ノ奴隸ヲ有ツテ居ル、最モ年若キ良キ體格ヲ有シテ居ル所ノ五萬人ノ婦人ト云フ者ハ、殆ド奴隸同様ノ境遇ニ在ルト云フ事柄ハ、是ハ獨リ婦人其者ノ個性ノ尊嚴ヲ害スルコト甚シキノミナラズ、實ニ國家ノ大損害デアルト私ハ考ヘルノデアリマス、諸君ト共ニ恐懼ニ堪ヘヌ事柄ハ、先頃皇室ヨリシテ救世軍ヘ御下賜金ノ點デアリマス、此救世軍ヘ御下賜金ニナリマシタ事柄ニ付テハ、洵ニ聖恩洪大ニシテ、吾々臣民ハ殆ド云フ所ヲ知ラヌノデアリマス、而シテ又其聖意ヲ推察シ奉ルコトハ、甚ダ恐懼ノ至リデアリマスルガ、唯、吾々ハ諸君ト共ニ考ヘナケレバナラヌ事柄ハ、救世軍ハ何ラシテ居ルカト云フ點デアリマス、救世軍ガ其事業ノ一トシテ、非常ニ自由廢業ニ盡力ヲシ、又ハ公娼廢止ノ運動ニ盡力ヲシテ居ルト云フ事實ハ、看過スベカラザル點デアリマス、公娼問題ニ付テ、非常ニ盡力ヲシテ居ル、而シテ之ガ救世軍ノ一ノ事業デアアル、其救世軍ニ對シテ、上皇室ヨリ御下賜金ガアルト云フ事柄ハ、實ニ臣民トシテ餘程考ヘネバナラヌ點デアルト考ヘマス、殊ニ此公娼廢止ノ問題

——此公娼ノ善惡問題ガ、救世軍ナル外國人ノ計畫スル團體——外國人ノ出資ヲ致シテ居ル團體ノ力ニ依ツテ、纔ニ日本ニ唱ヘラレツ、アルニ過ギヌト云フコトハ、吾々國民國家共ニ、眞ニ不名譽デアルト考ヘナケレバナラヌ點デアリマス、此點ニ付テ、政府ハドウ云フ考ヲ持ツテ居ルノデアリマス、切ニ私ノ聽カントスル點デゴザイマス、第三既ニ公娼制度ハ斯ノ如キモノデアリマ

スガ、政府ハデス、現下ノ公娼制度ヲ此儘ニ存續シテ置イテ、公娼ノ有様ヲ其儘ニ看過スル方針
 デアルカドウカト云フコトヲ聽イテ置キタイノデアリマス、此公娼制度ガ在ルト云フ事柄ガ、善
 イカ悪イカト云フ點ハ、是ハ宗教家トカ、或ハ其他ノ道德家ニ依ッテ、屢、論セラレテアリマスル
 ガ、ソレハ私ガ深ク關スル所デハゴザイマセヌ、唯、吾々ハ國政ノ運用ヲ議スル上ニ於テ、考ヘナ
 ケレハナラヌト思ヒマスル點ハ、彼ノ大厦高樓ニ依ッテ、此公娼ノ業ヲ營ンデ、而シテ公然國家ガ
 之ヲ許シテ居ルト云フ事柄ハ、一面カラ考ヘテ見マスルト云フト、男子ノ不品行ヲ政府ガ免許ヲ與
 ヘタヤウナ譯ニナルト私ハ思フ、何トナレバ税金ヲ取ッテ、公娼制度ヲ設ケテ賣娼行爲ヲ許シテ
 居ルノデアリマスカラシテ、ドン、日本國民ガ彼處ニ往ッテ、不品行ヲシテモ宜シイ、差支ナイ
 スウ云フ事柄ヲ國法上ニ認メテ居ルト云フ事柄ハ、是ハ餘程考ヘネバナラヌ、而シテ此公娼制度
 ヲ廢シタナラバ、之ガ爲メニ斯業ニ關係ノ者ガ非常ナ損害ヲ被ル、之ヲドウスル考デアルカト云
 フヤウナ事柄ヲ常ニ反問サレルノデアリマスルガ、成程是ハ一顧ノ價值ノアル反對論デアルト
 考ヘマス、私ノ調査スル所ニ依ルト、一人ノ公娼ニ對シテ、約五人ノ者ガ衣食シテ居ル、譬ヘテ見
 レバ女ノ髮結デアルトカ、或ハ遣手デアルトカ妓夫デアルトカ、車挽デアルトカ、小間物屋デア
 ルトカ、斯ウ云者ヲ計算シ來リマスルト云フト、是ハ極メテ間違ノ無イ數字デアルト云フコトデア
 リマス、サウスルト五萬人ノ娼妓ニ對シテ約二十五萬人ノ日本國民ガ、是ニ依ッテ衣食シテ居ル
 ト云フ事柄ニナリマス、サウスルト此五萬人ノ娼妓ヲ解放スルト云フ事柄ハ、五萬人ノ婦人ノ生
 活問題ニ關係スルト同時ニ、是ニ依ッテ衣食シテ居ル所ノ、約二十五萬人ノ生活問題ニ關係スル
 事柄デアリマスルカラシテ、是ハ一ノ社會問題ニ歸著スル事柄デアルト考ヘマス、併ナガラ是ハ
 私ノ見ル所ヲ以テスレバ、殆ト論ズルノ價值ナキモノト考ヘルノデゴザイマス、何トナレバ今日
 ノ有様ハ、公娼ヲ營ンデ居リマスル貸座敷業者ナル者ハ、實ニ數十萬ノ富ヲ成シテ居ル者ガ澤山
 アリマス、僅カ公娼制度ノ撤廢ニ依ッテ、五人カ十人ノ娼妓ヲ解放サセルコトニ依ッテ被ル所ノ損
 害ノ如キハ、彼等ニ取ッテハ何等ノ損害デハナイ、唯、之ニ依ッテ損害ヲ感ズル者ハ、眞ニ貧困ナル
 貸座敷業者デアルトカ、又甚ダ性格ノ宜シクナイ貸座敷業者デアルト考ヘルノデアリマス、例令

資産ハ無シト雖モ、善良ナル道德ヲ解スル貸座敷業者デアルナラバ、喜ンデ國家ノ命ニ從フモノ
 ト考ヘマス、此點ニ付テ一ツ御參考ニ政府ニ申上ゲテ置キタイノハ、公娼制度ニ付テ直チニ此制
 度ヲ撤廢スルト云フ事柄ハ、唯今申シマシタヤウナ、一ツノ社會問題ヲ惹起スト云フヤウナ色、
 議論モアリマスケレドモ、又一面ニ於テ考ヘナケレバナラヌ事ハ、我ガ政府ハ此私娼問題ニ付テ
 ドウ云フ態度ヲ執ッタカ、御承知ノ如ク東京市ノ私娼制度ハ、其家屋ノ構造カラ、檢査制度カラ、
 毫モ公娼制度ト擇ブ所ガ無カタノデアリマス、詰マリ官許ヲ得テ一ツノ賣笑業ヲ營ンデ居ッタ
 ノデアリマス、其私娼ニ對シテ一朝警視廳ノ方針ガ變リマスルト同時ニ、悉ク此廢業ヲ命令致シ
 マシテ、サウシテ私娼ガ他ニ轉業スルコトヲ、強制ト云フカ嚴重ナル處分ヲ執ッテヤッタノデアリ
 マス、之ガ爲メニデス、私娼其者ガ生活ニ迷ヒ、私娼ヲ持ッテ居ッタ所ノ私娼業者モ非常ナル損害
 ヲ被ッタ、ソコニ關係ヲ持ッテ居ッタ所ノ日用品ヲ供給シテ居ッタ商人、地主、家屋ノ家主モ、非常ニ
 迷惑ヲシタト云フコトハ事實デアリマシタ、併シ是トモ毫モ我ガ日本政府ハ顧ミズ、敢然ト
 シテ私娼撲滅策ヲ斷行シタノデアリマス、是等ノ事例カラ申シマスレバ、公娼ノミニ對シテ、國
 家ガ特殊ノ恩惠ヲ與ヘナケレバナラヌ理由ハ無イト考ヘル、公娼制度ハ之ヲ全廢スルコトヲ以
 テ得策ニ非ズヤト、斯ク信ズルノデアリマス、第四ハ、若シ政府ニシテ此制度ヲ廢止スルコトガ
 出來ナイト云フコトデアレバ、從來ノ密集制度ノ營業方法ニ關シテハ、大ニ改善ヲ加フルノ必要
 アリト私ハ信ジテ居リマスガ、政府ハ此點ニ付テ如何ナル方策ヲ御持チニナッテ居リマスカ、密
 集制度ノ可否ニ付テハ、是亦有識者ガ論ジテアリマスノデ、事新シク此處デ私ガ貴重ナル時間ヲ
 費シ申ス必要ハ無イト考ヘマス、善良ナル國民ハ、言フニ堪ヘナイ所ノ陋門低擔ニ衣食シテ居ル
 ニモ拘ラズ、不道德ナル醜業ヲ營ム貸座敷業者ガ、彼ノ大厦高樓ニ住ンデ、此賣笑行爲ヲヤルト
 云フコトハ、國民道德上大ニ考ヘネバナラヌ點デアル、又此營業方法ニ付テ申シマスレバ、如何
 ニモ樓主ハ暴利ヲ貪ル、是モ餘程考ヘネバナラヌ點デアリマス、其次ニ此娼妓ノ前借問題デアリ
 マス、此前借問題ヲ政府ガ法令ナリ或ハ官憲ノ力ヲ以テ此儘ニ解決シテヤラナカタナラバ、到
 底此娼妓ナル者ハ、浮ブ瀬ガナイト云フ事實ガ横ッテ居ルノデアリマス、要スルニ彼等貸座敷業

者ト公娼トノ間ニ受授サレテアリマス契約ノ内容ト云フモノヲ調査シテ見マスルト、此儘デ官憲ナリ法律ガ干涉致シマセナカタナラバ、殆ド從來同様ニ、公娼ト云フ者ハ百年稼イデモ前借金ガ無クナルト云フコトハナイ、前借金ガ無クナラネバ、其處ニ何時マデモ此業務ヲ營ンデ居ナケレバナラヌト云フコトニナルデアリマス、私ハ悲惨モ亦極マルモノデアルト考ヘルノデアリマス、此點ニ付テ政府ハ既ニ御調査ニナツテ居ルコト、考ヘマスカラ、若シ公娼制度ヲ廢止スルコトガ出來ヌト云フコトデアリマスナラバ、此點ニ付テ大ニ干涉ヲ加ヘル必要ガアルト私ハ存ズルノデアリマス、終リニ第五點トシテ御尋ヲ置キタイノハ、此質問書ニハ、若シ公娼制度ヲ廢止スルモノトセハ、ト云フ前提ノ下ニ御尋ヲ致シテ置キマシタガ、之ヲ少シ變更致シマシテ若シ公娼制度ヲ廢止スルモノトスルモ、亦廢止セザルモノトスルモ、民間ニ行ハレテ居リマス所ノ賣笑行為ニ關シテハ、如何ナル政策ヲ執ラントスルカト云フ點ニ付テ私ハ伺ヒタイノデアリマスガ、此點ニ付テモ、文學者ナリ、或ハ宗教家ナリニ依ツテ、可ナリ多クノ議論ヲ費サレテ居リマスカラ、私ハ別ニ議論ハ致シマセヌ、併ナガラ今日ノ人智ノ程度、今日ノ人倫、今日ノ道德ノ程度カラ考ヘマスト、ドウシテモ或ル程度マデハ、賣笑行為ヲ放任セナケレバナラヌト考ヘマス、或ル警察ノ如ク、警察ノ全力ヲ擧ゲテ此私娼撲滅ニ盡力ヲシテ、ソレガ爲メニ他ノ放火ヤ、強盜ヤ、泥棒ガ、喜ンデ犯罪ヲ逞ウシスルヤウナ間違ッタ政策ヲ採ツテハイカヌト思フノデアリマス、私娼撲滅ニ關スル歴史ハ、幾多ノ書籍ニモ書イテアリマスガ、此賣笑行為ヲ撲滅セントシテ成功シタ者ハ一人モ無イ、悉ク此撲滅ヲヤラントシタル政治家ト云フモノハ失敗シタト云フ事柄ハ、顯著ナル事實デアリマス、私ノ考デハ或程度マデハ個人ノ尊嚴ヲ維持シ、或ル程度マデハ性行ノ自由ヲ認メテ、サシテウシテ公娼以外ニモ一種ノ賣笑行為ヲ認メテ、之ニ對シテ警察ガ多少ノ干涉ヲ加ヘル、或學者ノ如ク、生存條件ノ一點トシテ認メルトマデ極端ナ議論ハ致シマセヌ、ソレ程マデ貴重ナモノトハ思ヒマセヌケレドモ、或種ノ社會ニ對シテ、或ル程度マデハ此賣笑行為ヲ放任スルノモ、私ハ便利デアルト考ヘルモノデアリマス、是ハ公娼制度ヲ廢止スルト否トニ拘ラズ今日焦眉ノ急ニ追ッテ居ル場合デアリマス、ドノヤウニカ政府ハ方策ヲ講ジナケレバナラヌ事ト

私ハ考ヘルデアリマス、之ヲ要スルニ私ノ考デハ、今日普通選舉ヲヤラナケレバ、世界ノ大勢ニ順應スルコトガ出來ヌト言フ先輩モアリマス、私ハ此議論ニハ全然敬服致シテ居ル一人デアリマスガ、普通選舉以前ニ、參政權ヲ與ヘル以前ニ、奴隸ノ如キ境遇ニ在ル五萬人ノ婦女子ヲ解放スルト云フ事柄ガ、私ハ急務デアルト考ヘマス、五萬人ノ人權ノ自由ヲ尊重スルノ大義ヲ明ニスルト云フ事柄ハ、憲法政治ヲ圓滿ニ行フ所ノ、大ナル前提條件デアルト確信スル者デアリマス、ドウカ政府ニ於カレマシテハ、此點ニ付テ親切ナル御答辯アラントヲ希望致シマス

之ニ對シ小橋政府委員ハ內務大臣不在ナルカ故ニ追テ書面ヲ以テ答辯スベキ旨ヲ述ヘ超エテ同月二十九日床次國務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

公娼制度ハ現下ノ情況ニ徴シ尙之ヲ存續スルノ已ムヲ得サルモノト認ム而シテ之ヲ改善ニ付テハ政府ノ常ニ留意シテ忽ニセサル所ナリ

二 臺灣總督府ノ鯉漁業取締ニ關スル質問

一 臺灣總督府ハ其ノ漁業取締規則ニ於テ沖合漁業ニ關スル鯉漁業ヲ許可漁業ト爲シタルハ如何ナル理由ニ基クヤ

二 臺灣總督府ハ鯉漁業ヲ許可スルニ當リ從來ノ例ニ依レハ臺灣ニ在ル私設水産會社ニ限り之ヲ許可シ他府縣ヨリ出願スル者アルモ總テ之ヲ排斥シ許可ヲ與ヘサルモノハ如何ナル事由ニ依ルヤ

三 前期議會特別委員會ニ於テ本件ニ關シ本員ハ農商務大臣ヨリ臺灣總督ニ交渉シ其ノ許可ノ方針ヲ改メシムヘク希望シ置キタリ爾來總督府ハ同省ノ交渉ニ應シ其ノ方針ヲ改メタリヤ否若改メタリトセハ之ヲ各府縣ニ通知シ當業者ニ周知セシムルノ必要アリ總督府ハ其ノ手續ヲ爲シタリヤ否

八年一月二十二日唐端清太郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ同月二十八日其ノ趣旨ヲ辯明ス

私ハ臺灣總督府ノ鯉漁業取締法ニ付テ、總督府ニ御尋ラシタイト存ジマス、臺灣總督府ハ、鯉漁業ヲ漁業取締規則中ニ許可漁業トシテ編入シテアリマス、元來沖合漁業デアル所ノ此漁業ヲ、漁業取締規則中ノ許可漁業ニ編入セラレタノハ、ドウ云フ理由デアラウカト思ヒマス、御承知ノ通り鯉漁業ハ、處ニ依リマシテハ、沿岸ヨリ二三哩カラ稼キマスガ、大抵ハ十哩若クハ二三哩ノ海洋ニ出ルノデアリマス、殊ニ此臺灣ノ主ナル漁場、與那國邊ニ參リマス、其海ハ寧ろ琉球ノ方ニ近イト思フ、斯ル海洋ニ於テ稼グ漁業デアリマスカラ、必ズシモ總督府ノ許可ヲ受ケル必要ハナイト云フ説モゴザイマセウガ、漁業ニハ根據地ガ要ルノデアアル、其根據地ト云ヘバ臺灣ニ設ケザルヲ得ナイデアリマス、故ニ沖合デ稼イデ參リマシテ、漁獲物ヲ根據地ヘ持ッテ來ルト、總督府ハ許可ヲ受ケテ居ナイト云フノデ以テ、之ヲ處分セラル、ノデアアル、故ニ沿岸漁業ト沖合漁業トノ區別ナク、一般ニ取締規則ノ支配ヲ受ケテ居ルノデゴザイマス、是ハ或人ノ説デハ、沖合漁業ヲ制限スルノデアアルト云フコトデゴザイマス、沖合漁業ヲ制限セントスルコトハ大ナル誤謬デアアル、此誤タル所ノ舊思想ヲ、今ノ總督府ガ持ッテ居ラレルト云フコトハ、吾々ハ信ズルコトガ出來ナイ、是ニハ必ズ相當ノ理由ガアルコト、思ヒマス、其理由ヲ承リタイノデアリマス、又總督府ハ此漁業ヲ許可スルニ當リマシテ、之ヲ臺灣ニ在ル所ノ水產會社ニ限ッテ許可ヲ與ヘテ

アル、他府縣ハ漁業者ヨリ如何ニ出願致シテモ、一切採用ヲシナイノデアアル、宮崎縣ノ如キ、愛媛縣ノ如キ、態々縣ノ水産技師ヲ派遣シ總督府ニ要請シタニモ拘ラズ、總督府ハ斷乎トシテ受付ケナイ、殊ニ愛媛縣ノ如キハ、當業者ガ漁船マデ持ッテ行ッテ、多クノ費用ト時日ヲ費シテ、何等得ル所ナク、空シク歸縣シタト云フノデアアル、山口縣カラ出タモノハ、水產會社ノ附屬船トナッテ、附屬船ノ名義デ出願シタノニハ、總督府ハ直チニ之ヲ許可サレタ、其許可ニ依ッテ稼イデハ居リマスガ、元來ガ附屬船ト云フ名デアアルカラ、漁獲ノ利益ノ大部分ハ會社ニ取ラレテシマヒ、肝腎ノ稼グ所ノ本人ハ格別難有味ガナイト云フコトデアアル、又附屬船ト云フ名ヲ附ケレバ、直チニ之ニ許可ヲ與ヘルト云フナラバ、別段船數ヲ制限シタト云フ譯デナイト云フコトハ、明ニ分ル、或人ガ説ヲ爲シテ、是ハ水產會社ヲ保護スル爲メデアルト云フコトデアリマス、斯ル方法ヲ以テ私設會社ヲ保護スルガ如キ事ハ、穩カナラヌト云フコトハ申スニモ及バヌコトデアアル、政府ハ前期議會ニ於テ遠洋漁業ノ獎勵法ヲ改正シテ、之ヲ擴張シテ、又其獎勵金モ三十萬圓ニ増加シタノデアアル、目下戰後ノ經營ヲ爲スニ當リ、水産業ノ發展、其海外貿易ノ増進ヲ圖ル上ニ於キマシテ、遠洋漁業ノ獎勵ハ、洵ニ忽セニスベカラザル事ト考ヘル、然ルニ臺灣總督府ハ南洋ニ出漁スル第一關門デアアル、臺灣ニ於テ沖合漁業ノ鯉ヲ許可シナイ、是ハ明ニ政府ノ意ニ反イテ、遠洋漁業ノ發展ヲ妨ゲルモノデアルト言ハレテモ差支ナイノデアリマス、此ノ如キ取締ヲセラレルノハ、必ズ已ムヲ得ザル事情ノアルコト、存ジマスカラ、其事情ヲ承リタイノデアリマス、又本件ニ就キマシテ、前期議會ニ於キマシテ、特別委員會ノ席上、本員ヨリ農商務大臣ニ依頼致シマシテ、農商務大臣カラ此事ヲ臺灣總督府ニ交渉シテ、速ニ許可ノ方針ヲ改メルヤウニ依頼ヲ致シテ置キマシタ、聞ク所ニ依ルト、農商務大臣ハ之ヲ總督府ニ交渉ヲ遂ゲタト云フコトデアアル、併シ總督府ガ之ヲ承諾セラレタルヤ否ヤハ知ラナイ、昨年ノ十月頃ト思ヒマス、總督府ハ宮崎縣ノ油津ノ者ニ鯉漁業五艘ヲ許可セラレテ居ル、是ハ即チ水產會社以外ニ許可ヲ與ヘタ嚙矢デアリマス、是ヨリ推シテ見ルト、水產會社以外ノ者ト雖、即チ各府縣ノ出願者ニ對シテ、許可ヲ與ヘラレル方針ヲ改メラレタモノト認メテ宜シイノデアリマスガ、唯、此五艘ノ許可ヲ受ケタ者ハ曰ク、此許可ヲ得ル

ニハ實ニ苦心慘憺デアツタト言フ、然ラバ今後モ出願スル者モ亦苦心慘憺デアル、若シ總督府ガ其方針ニ改メナイトスレバ、此許可ヲ受ケタ者ハ、其漁業權ヲ數千圓ノ多額ヲ以テ賣買スルコトガ出來ルノデ、若シ又總督府ガ此方針ヲ改メラレタモノトスレバ、其事ヲ各府縣當業者ニ周知セシムルノ方法ヲ執ラナケレバナラヌ、當業者ガ知ラナケレバ、折角改メラレテモ、實際ニ於テ效果ガ餘リ無イト言ハナケレバナラヌ、總督府ハ果シテ之ヲ改メテ、又之ヲ周知セシムルノ手續ヲ執ラレタノデアルヤ否ヤ、是モ承ツテ置キタイト思フ、要スルニ此質問ハ、永ラク當業者ノ間ニ懷カレテ居ル疑ヲ霧ラス爲メデアル、當業者ノ中ニハ、臺灣總督府ハ故ラニ鯉漁業ヲ許可漁業ト爲シ、而シテ其許可ハ、臺灣ニ在ル水產會社ニ限ツテ之ヲ與ヘル、即チ臺灣近海ニ於ケル豐富ナル漁業ノ利益ヲ、一會社ニ獨占セシムルモノデアアル、此獨占ト同時ニ、水產會社ト總督府ノ或者トノ間ニハ、曰ク言ヒ難イ約束デアアルノデハナカラウカト思フ疑ガアルノデアアル、故ニ總督府ハ此質問ニ對シテハ、最モ詳細ニ、且ツ明瞭ニ説明ヲシテ、以テ當業者ノ懷イテ居ル此疑ヲ解カルベキ要ガアラウト思フ、幸ニ其心シテ御答辯アラントコトヲ希望致シマス

之ニ對シ下村政府委員ハ引續キ口頭ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

唯今ノ唐端君ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、臺灣ノ漁業ハ、御承知ノ如ク、極メテ從來ヨリ幼稚ナモノデアアル、沖合ノ漁業ニ至ツテハ、從來ハ全ク無カッタノデアリマス、明治四十二年或ハ三年頃ト記憶致シマスルガ、沖合ノ漁業トシテ眞鯉ノ漁業ガ始リマシタ、唯今御話ニナツタ水產會社ハ、其當時所謂創業後苦心ヲ嘗メテ來タ會社ノコトヲ御指シニナルデアラウト思ヒマス、現時總督府デ許可漁業ヲ認メテ居ルモノハ、之ニ限リマセヌ、規則デハ十五箇條十五項ニ分ツテ居リマス、何レモ其魚族ノ蕃殖ヲ根絶シナイヤウニト、ソレノ理窟ガアリマスガ、鯉漁ヲ許可漁業ト致シマシタル主旨ハ、是等ノ漁業ヲ營ム者ノ相互ガ、漁場ノ關係又ハ輸送ノ關係等ニ依ツテ、其倒レニナラヌヤウニト云フ主旨デアリマス、隨テ唯今ハ、此水產會社ノミニ獨占ヲサセテ居ルヤウナ御話デアリマスガ、私ノ承知シテ居ル所デハ、現在許可ヲシテ居リマスノハ二十八隻ノ船籍中、四

ツノ會社ニ許可シテ居ルモノガ十二隻、他ノ十六隻ハ皆ナ個人ニ許可ヲシテ居リマス、一昨年來自分ノ經驗シテ居ル所デハ、無論内地ト限ラズ、島内ニ於テモ右様ノ主旨デ、此基隆方面ノ漁場ニ新ニ割込ム者ニ就テハ、均シク許可ヲセヌ例ガ幾多ゴザイマス、又反對ニ基隆方面以外ノ漁場ガ新開拓セラレマシテ、其方面ニ近ク許スノハ、確カ矢張内地ノ漁業家デアツタカノヤウニ記憶シテ居リマス、是ハマダ確ト承知シテ居リマセヌ、要スルニ右様ノ次第デアリマシテ、内地カラデアアルカラ許可シナイトカ、會社デアアルカラ特ニ許可ヲスルト云フ差別ハ、總督府ハ持ツテ居リマセヌ、デ唐端君ヨリ農商務省ヲ經テノ御話モゴザイマシタガ、是ハ昨年總督府ノ水產技師ガ農商務省ニ來マシタトキニ、右ノ事情ヲ能ク説明ヲ致シマシテ、其間ニ事情ガ疏通シタト云フヤウニ聞イテ居リマス、尙ホ將來ニ付キマシテモ、臺灣自體ハ固ヨリ南方方面ニ掛ケテ、水產業ハ一層ノ發展ヲ期セネバナラヌト思ヒマス、徒ラニ抑壓モ致シマセヌガ、又同時ニサウ云フ新タナ場所ニ行ツテ色々事業ヲ開始スル者ニハ、相當ノ保護誘導モ必要デアラウト思ヒマス、將來漁業ハ獨リ鯉漁業ニ限ラズ、ドウカ其他ニ付キマシテモ、内地ノ各府縣ニ於テ、此方面ノ水產開發ニ付テ御意見ガアレバ、吾々ノ方デ内地ニ東上サストキニ、専門ノ技師ヲソレソレ寄セテモ宜シイ、又打合セテ御越シ下サツテモ宜シイ、内地デアルトカ、臺灣デアルトカ云フ意味デナシニ、ドウカ私ハ南洋方面ニ於ケル將來ノ水產業ハ、一層ノ開發ヲシタイト思フテ居リマス、其順序ナリ方法ニハ、或ハ御意見モアルト思ヒマス、今申スヤウナ會社トカ、個人トカ、或ハ内地デアアルカラ、臺灣デアアルカラト云フ差別ハ一切取ツテ居リマセヌ、左様御承知ヲ願ヒマス

三 滿洲ニ於ケル土地商租ニ關スル質問

一 滿洲ニ於ケル土地商租權ノ解釋ニ就テ從來我カ當局者ト支那當局者トノ間ニ大ナル齟齬アルモノノ如シ現政府ノ之ニ對スル解釋如何

二 右商租權ニ關スル附帶細則ハ當然既ニ發表スヘキモノナルニ拘ラス其ノ實未タ規定ヲ見サルモノノ如シ政府ノ之ニ關スル理由如何

三 滿洲ニ於テ右商租權ノ設定ヲ得タルモノ少カラサルニ拘ラス支那當局トノ間ニ常ニ紛紜ヲ極メ殆ト其ノ權利ヲ行使スル能ハサルモノノ如シ我カ當局ハ如何ナル方法ヲ以テ此ノ解決ヲ爲サムトスルヤ

八年一月二十五日伊東知也君ハ右質問主意書ヲ提出シ同月二十八日其ノ趣旨ヲ辯明ス

南滿洲ニ於ケル土地商租權ニ關シマシテ、政府ニ質問ヲ致シタイト思ヒマス、一體此滿洲ノ商租ト云フコトハ、其言葉ガ現ニ曖昧ナ言葉デアリマス、是ハ現政府ニ向ッテ御責スルコトハ出來ナイノデアツテ、寧ロ大隈内閣當時ニ遡ッテ詰責スル必要ガアル、彼ノ諸君モ御承知ノ通り、不徹底ナル日支交渉事件ガ、大隈内閣ニ依ッテヤラレタ際ニ、滿洲ノ土地ノ永代租借權ヲ得ヤウトシタノデアリマス、然ルニ支那ハ租借權ト云フモノニ付テ、色々ナ紛擾ガ起ルモノデアリマスカラ、非常ニ其租借ノ名ヲ嫌ウテ之ヲ避ケヤウトシタノデアリマス、ソレデ幾度カ交渉ノ結果、遂ニ商租ト云フ新シイ文字ヲ拵ヘテ、之ヲ彌縫スルコトニナッタノデアリマス、而シテ商租トハ支那側ノ言分ニ依リヤスト、商リ借リル、能ク相談シタ上ニ於テ、土地ヲ貸スト云フコトノ解釋ニナッテ居ルノデアリマス、併シ日本側ノ之ニ對スル所ノ解釋ハ、永代租借權ノ唯、變名デアアルノミデアアル、而シテ商租ニハ三十箇年ノ期限ヲ附シテアリマス、三十箇年ノ期限ヲ附シテアルガ、無條件ニシテ更改スルコトガ出來ル、三十箇年ノ期限ガ過ギレバ、直チニ何ノ條件モナク、又之ヲ改メテ三十箇年延バス、三十箇年ト云フ期限ハアルケレドモ、何百年デモ場合ニ依ッテハ、永久ニ之ヲ延バ

スト云フコトノ條約デアアルカラシテ、我當時ノ當局ハ、永代租借權ト同一デアアルト考ヘタノハ無理ハナイノデアリマス、ソレヲ支那政府ハ承認シタノデアアル、而シテ支那政府ガ何ガ故ニ斯ノ如ク永代租借ト云フコトヲ嫌ッテ商租ト云フ新シイ字句ヲ拵ヘテ、其相談ヲシタカト云ヒマス、矢張機會均等デアルトカ、日本ニミ滿洲ノ土地ヲ讓渡ストカ、或ハ租借サセルト云フコトヲヤリマスルト、他ノ列國ニ向ッテモ許サナケレバナラヌト云フ事ト、國民ニ對シテ、南滿洲ハ殆ド日本ニ占領サレタト云フヤウナ、非常ニ疑懼心ヲ懷カシメルト云フ恐カラシテ、商租ト云フ文字ニ改メテヤッタノデアリマス、然ラバ其商租ナルモノハ、果シテ完全ニ行ハレテ居ルカ、圓滿ニ其商租權ヲ我同胞ハ利用シツ、アルカドウカト云ヒマス、殆ド言語道斷デアツテ、只支那側ノ囁著ノ下ニ、今日ニ至ル商租權ノ實行ト云フモノハ、殆ド無イト云フモ宜シイノデアリマス、幾度カ商租ノ契約ヲシタ人ハアリマスケレドモ、少シモ其實行ハ出來ナイ、ソレハ支那側デハ單ニ三十箇年ト云フ間、日本人ニ貸セバ宜シイト云フ名目ノ下ニ、成ベク之ヲ胡魔化シテシマフ方ガ宜シイト云フ考ヲ持ッテ居ルノデアリマス、我當局ハ眞面目ニ之ヲ受ケテ、永代租借權ト同ジヤウナ、又殆ド所有權ト同ジヤウナ賣買契約ト認メテモ宜シイト云フヤウナ、解釋ヲ初メハ持ッテ居ッタノデアアル、ソレガ少シモ實行セラレテ居リマセヌ、現内閣ハ果シテ之ニ對シテ、如何ナル解釋ヲ與ヘテ居ラレラウカト云フコトヲ、私ハ質問シタイトデアリマス、而シテ此商租ノ實行ニ付キマシテ、細カナ事ノ手續其他ニ付テハ、細則ヲ拵ヘル約束ヲ其當時結ンデ居ル、モウ當然今日頃ハ、其細則ノ發表ガ出來テ居ラナケレバナラヌ、又制定ヲシテ、協約ヲ經テ發表シナケレバナラヌノニ拘ラズ、今日ト雖モ尙ホ少シモ細則ノ發表ガナイノデアリマス、之ニ對シテ現政府ハ、如何ナル御考ヲ持ッテ居ラル、ノデアラウカ、細則ニ付キマシテハ、支那政府ト協定シテ當然缺點ノ無イ、完全ナモノヲ拵ヘルベキモノデアアルニ拘ラズ、日本政府ハ安閑トシテ黙ッテ居リマスガ、支那側ニ於テハ、其細則ニ類スルモノヲ大正五年ニ拵ヘテ、滿洲ノ奉天省、吉林省ノ各知縣知府其他ノ地方官ニ之ヲ配付シ、サウシテ其商租ノ實行ヲ妨害スル方針ヲ執ッテ居ルノデアリマス、十四箇條アリマシテ、其箇條々々悉ク皆ナ我國民ノ彼ノ土地ニ於ケル、商租ノ實行ヲ妨害セント

方針ヲ執ツタ細則デアリマス、ソレハ「商租地畝須知附解釋」ト名ヅケテアリマス、其ノ第一箇條ニハ「商租ニ關スル事項ハ條約ノ規定ニ依リ地方官吏ハ正ニ左記各條ニ照シテ注意辦理スベシ」ト云フ條項デアリマスガ、其後ロヘ持ツテ來テ、是ハ表面ハ斯ウデアアルガ、裏面ニハ條約ニマダ明文ガ無イト云フコトヲ楯ニ取ツテ、成ベクナラバ商租ヲヤラセナイヤウニスルガ宜シイト云フコトヲ、地方官ニ訓令シテ居ルノデアリマス、十四箇條ヨリ成ツテ居リマスルガ、是ハ一々讀上ゲルノモ煩シイカラ、何レ速記録ノ方ニ御掲載ヲ願イタイト思ヒマス、大正五年ニ既ニ斯ウ云フヤウナ細則ヲ支那側ニ於テハ作ツテ居ツテ、日本ノ我が同胞ノ、彼地ニ於ケル所ノ商租權ノ妨害ヲシツツアルノデアアル、然ルニ現内閣トハ私ハ申シマセヌ、マダ現内閣ニ向ツテ責メル譯ニハ行カヌガ、大隈内閣及寺内内閣ト云フモノハ、殆ド之ニ對シテ何等ノ手段方法ヲモ講ジナイ、現内閣デモマダ何モヤツテ居ラヌヤウデアアルガ、今後之ニ對シテ、如何ナル御方針ヲ執ラル、御見込デアアルカト云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス、支那側ニ於テハ、大正五年ニ斯ル細則ヲ拵ヘテ、サウ云フ工合ニ地方官ニ訓令ヲ出シテ、土地商租ニ妨害ヲシツ、アル、又一面ニ支那ハ民國六年ノ十二月、一昨年ノ十二月ニナリマス、其時奉天省ノ省會ニ——商業議所デアルトカ——省會ト申シマス、我國ノ府縣會ノヤウナモノデアアル、其連中ガ集ツテ矢張商租ヲ禁止セシメナケレバイケナイ、支那ノ國ノ爲メニナラヌト云フコトノ決議ヲシテ、之ヲ督軍ノ張作霖ニ出シテ、張作霖ハ之ヲ實行スル爲メニ、處々方々ニ貼札ヲシテ、人民ニ此事ヲ知ラセタノデアリマス、斯ノ如キ事ハ甚シキ條約違反デアツテ、當然激烈ナル抗議ヲ申込デモ宜シイノデアアルケレトモ、之ニ對シテ相當ノ手段ハ、今日マデ我が當局ハ執ツテ居ラヌノデアアル、斯ノ如ク少シモ滿洲ニ於ケル商租權ノ實行ト云フモノハ、今日マデ見ルコトガ出來ナイ、行ハレテ居ラヌノデアアル、此前ノ議會ニ於テモ、私ハ寺内内閣ニ向ツテ、此點ニ付テ少シク質問ヲ致シマシタガ、完全ニ行ハレテ居ル、又進行中デアルト云フヤウナコトヲ御話ニナツテ、其後尙ホ私ハ度、支那ニ出掛ケテ調ベテ見マシタガ、少シモ行ハレテ居ラヌ、ヤリ掛ケテモ妨害ヲセラレテ實行ガ出來ナイ、其結果トシテ今日ニ於テハ、商租ヲ願出ル日本人モ無ケレバ、支那人モ之ニ應ズル者ガ無イト云フヤウナ有様ニナツテ居リマス、

サウシテ官憲ハ、若シ支那ノ農民ナリ何ナリガ此商租權ヲ承諾シテ、日本人ト契約ヲスルト云ウト、非常ナル壓迫ヲ加ヘル、其家屋其他ヲ封シ込デ、サウシテ其地方カラ追拂フト云フヤウナ方針ヲ執ツテ居リマス、現ニ奉天ノ知事ノ朱佩蘭ト云フ奴ガアル、是ハ盛ンニ其商租權及日本人ニ土地ヲ賣ルコトニ付テ反對ヲシマシテ、日本人ト契約ヲシタ地主ノ數名ニ對シテ、家族ヲ追出シテシマツテ、入口ハ釘付ニシテ、零下何十度ト云フ所ヘ入レテ、家族ヲシテ凍死セシメルト云フヤウナ方針ヲ執ツテ居ルノデアアル、其證據ハ細カイ事ハ、本年ノ一月九日ノ奉天ノ新聞ニ、事實ヲ列舉シテ掲載シテアリマスカラ、是モ參考ノ爲メニ速記録ニ御掲載ヲ願ヒタイト思ヒマス、其他私ノ知ツテ居ル者デ、土地商租ヲヤツテ居ツタ連中ナドノ陳情書ノ如キヲ見マシテモ、洵ニ不法極マル方法手段ヲ以テ、滿洲ニ於ケル商租權ノ妨害ヲ、支那ノ官憲ハ企テ、居ルノデアアル、私ハ、商租權ナルモノガ實行サレテ居ルト若シ當局ノ御方ガ仰シヤルナラバ、何郡ノ何村ニ於テハ、斯ウ云フ商租權ガ圓滿ニ行ハレテ居ルト云フ、的確ナル例ヲ舉ゲテ御答ニナラナケレバ、満足ハ出來マセヌ、的確ナル實例ヲ舉ゲテ御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス、此間ノ總理大臣外務大臣ノ御演説、及應答質問ニ依ツテ見マスルト云フト、日支親善、大變支那ト日本ノ間ガ、關係ガ宜シクナツテ居ルト云フヤウナ御説明デアルケレトモ、私共ノ目カラ見ルト、少シモ宜シクナツテ居ラヌ、荷モ責任ヲ負ウテ其内閣ヲ組織シタ以上、現内閣諸公ハ自ら責任ヲ負ウテ、其對支交涉ニ當ラナケレバナラヌ、日支親善ト云フ言葉ガ既ニ可笑イノデアアリマセヌカ、日支親善——何處ノ國ニ、不親善ト云フ國際關係ノ表明ガ出來ル國際關係ガアリマセウ、殊ニ支那ニ向ツテ親善ト云フ言葉ヲ附ケルコトガ既ニ蛇足デアアル、何ノ爲メニ親善ナドト云フ言葉ヲ言ハナケレバナラヌノデアアルカト云フコトヲ、私ハ疑フノデアリマス、ソレカラ又歴代ノ内閣ガ皆ナ言フコトデアアルガ、列國ト協商ノ上支那ニ對シテハ云々、所謂同盟ノ英國デアルトカ、或ハ米國デアルトカ、色々各國ト共ニ斯ウ——云フ抗議ヲ申込デ、斯ウ——云フ註文ヲシタト云フコトヲ能ク言ハレマスガ、是ハ不心得デアラウト思フ、列國ノ關係ト日本ト支那トノ關係ト云フモノハ、格段ナル違ガアルノデアアル、譬ヘテ見レバ支那ト日本ト云フモノハ、隣合セテ居ルヤウナモノデアツテ亞米利加ト

カ、英吉利トカ、歐羅巴諸國ノ如キハ、川向フノ關係ト言ッテ宜シイノデアリマス、然ルニ隣合テ居ル所ノ支那ノ内デハ、始終兄弟喧嘩ヲシテ、洋燈ヲ引繰返スヤラ、或ハ火鉢ヲ飛バスマヤラシテ、將ニ火事デモ出サントシツ、アル状態デアアル、隣ノ日本デハソレヲ黙ッテ視テ居ッタナラバ、隣カラ火事ヲ出サレタラ、類焼ノ厄ヲ免レルコトハ出来ナイノデアアルカラ、ドウシテモ此喧嘩ハ止メナケレバナラヌト云フコトハ、支那ノ爲メデハナイ、我國ノ存立問題トシテ、黙ッテ居ルコトハ出来ナイノデアアル、然ルニ川向フノ者ト相談ヲシテ、隣ノ喧嘩ヲ止メルナド、云フ馬鹿氣タ事ハナイデハアリマセヌカ、斯ウ云フコトハ、責任ヲ避ケル積リデ言ハレルノカ知リマセヌガ、甚ダ無責任極マル事ト私ハ思フノデアリマス、又南北妥協ニ付テ忠告ヲシタ、併シソレ以上ノ事ヲ言フト云フコトハ、隣國ノ内政ニ干渉スルコトニナルノデアアルカラ、ソレハ言ハヌトカ、何モヤラヌト云フコトヲ言ハレタルコトヲ私ハ聽イテ居リマス、隣國ノ内政ニ干渉スルコトガ絕對的ニイカヌトスルナラバ、南北妥協交渉ニ注意ヲ與ヘルト云フコトガ、既ニ是ガ干渉ノ端デアアル、干渉デハナイカ、サウ云フコトヲ言ッテ、五十歩ヲ以テ百歩ヲ笑フヨリ、尙更矛盾極マル事デアラウト思フ、南北ノ妥協ヲ完全ニ行ハシメナカッタナラバ、我が日本ノ存立ニ大ナル影響ガアルト信ジタナラバ、徹底的ニ妥協ヲ成立セシムルマデ行ッテコソ、初メテ妥協ノ忠告ヲシタ效ガ現レタト云ハナケレバナラヌ、然ルニ忠告ハシタケレドモ、後ハドウダカ知ラヌト云フ不徹底ノ勸告ハ、此支那ニ對スル大方針デアアリマセヌ、甚シキ矛盾齟齬アルモノト私ハ見ナケレバナラヌデアリマス、滿洲問題ノ如キ、東蒙古問題ノ如キ、外務省ノ方針ト云フモノハ、恐ラク何時デモ不徹底デアッテ、單ニ形式ニ流レルト云フ弊害ハ、私ハ常ニ認メテ居ルノデアリマス、モウ少シ徹底的ニ御遣リニナラナカッタナラバ、此歐羅巴戰爭ノ結末後、直チニ東洋ニ殺到スル所ノ彼等歐米諸國ノ連中ノ、支那ニ於テテ争フ所ノ活舞臺ニ向ッテ、我が帝國ノ立場ト云フモノハ、ドウ云フコトニナルカト云フコトヲ考ヘマシタナラバ、實ニ憂慮ニ堪ヘナイ次第デアリマス、單ニ滿洲ノ土地商租ノ一小問題デスラモ、斯ノ如ク不徹底不明瞭デアアルノミナラズ、始終ゴタゴタ許リシテ居ッテ、我國民ノ先驅トシテ彼ノ地方ニ渡ッテ行ッテ居ル連中ガ、折角土地ヲ取ッタトナルト思ヘバ、色マナ詰ラヌ

妨害ノ爲メニ、利益モ何モ皆フイニスルト云フヤウナ有様ニ陥ッテ居ルノデアリマスカラ、先ヅ小サナ此商租問題デモ、徹底的ニ御遣リニナル御見込カ、又ドウ云フ工合ニ依ッテ、先刻來私ガ申述べタ事ニ付テノ實例ガ御有リニナルカ、唯、單ニ滿洲ニ於ケル商租權ハ、大ニ日支兩國協商ノ上、圓滿ニ進行シツ、アリナド、云フ御答デハ、満足ガ出来マセヌ、實例ヲ列舉セラレテ御辯明アラントトヲ、私ハ切ニ外務當局ノ方ニ向ッテ御願致シマス

(參照略)

之ニ對シ幣原政府委員ハ複雑ナル問題ナルヲ以テ追テ書面ヲ以テ答辯スヘキ旨ヲ述ヘ二月十三日內田國務大臣書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 商租ナル語ハ大正四年五月二十五日ノ南滿洲及東部蒙古ニ關スル日支條約ニ於テ始メテ使用セラレタルモノナル處支那側ニテハ商租ヲ以テ單純ナル賃借權ト解釋シ居レルモノモアルカ如ク現ニ後記ノ支那側制定商租規則ハ此解釋ヲ基礎トシテ制定セラレタルヤニ察セラル然レトモ商租中三十年以内ノ期限ヲ附シ且無條件ニテ幾度モ更新シ得ル永年ノ租借迄ヲ含ムハ滿蒙ニ關スル日支條約附屬公文ノ明記スル所ニシテ普通ノ賃借權ヨリモ範圍廣汎ナルハ疑ヲ容レス事實問題トシテハ短期ノ租借ニ付テハ別ニ問題ナキモ永年ノ租借ニ付テハ支那側ニ於テハ右無條件更新ノ意義ヲ無視シ更新毎ニ一々地主ノ同意ヲ必要條件トスルガ如ク誤解スルモノアリト雖其ノ主張ノ根據ナキコト明瞭ナリ
- 二 滿洲ニ於ケル土地商租權ハ大正四年五月二十五日ノ南滿洲及東部內蒙古ニ關スル日支條約第

二條及同條約附屬公文ノ規定スル所ニシテ別ニ之ニ關スル附帶細則ヲ設クルカ如キ約定ヲ取結ヒタルコトナシ然ルニ同條約成立後支那政府ハ商租ノ細則トモ云フヘキ商租地畝須知ナルモノヲ制定シ之ヲ南滿各地ノ地方官ニ内達シタル模様ナリシカ間モナク奉天支那官憲ヨリ非公式ニ在奉天日本總領事ニ對シ該規則ヲ提示シ日本官憲ト協議決定ノ上實施スヘキ旨外交部ヨリ訓令アリタル趣ヲ以テ右協議ヲ求メ來レリ政府ハ便宜ノ問題トシテ支那官憲ノ希望ニ應シ適當ノ規則ヲ制定スルコトハ差支ナシト認メ帝國總領事ヲシテ兎モ角非公式ニ之ヲ受理セシメ篤ト調査ノ上何分ノ摺揆ヲナスヘキ旨一應答ヘシメ置キタリ仍テ同規則ヲ研究スルニ當ニ規則其ノモノガ内容形式共ニ完備セザルノミナラズ日支條約所定ノ商租ニ關スル根本觀念ト牴觸シ條約ノ本旨ニ戾レル事項尠カラス殊ニ滿洲ニ於ケル土地制度及土地ニ關スル舊慣ノ複雜不統一ナルニ顧ミ且商租規則ハ本邦人ノ權利關係乃至事業ノ發展上重大ノ影響アルヲ以テ慎重調査ノ要アルヲ認メ一面在滿各領事ニ命シ實地ニ就キ詳細調査セシムルト共ニ外務省ニ於テモ各方面ヨリ係官ヲ設ケ篤ト審査セシメタル上大正六年ノ奉天ニ於ケル領事會議ニ付シ其議決案ニ對シ更ニ本省ニ於テ審査ヲ加ヘ一面拓殖局トモ協議ヲ重ネ漸ク成案ヲ得ルニ至リ遠カラス他ノ滿蒙條約ニ關スル規則ト共ニ支那側トノ間ニ交渉ニ著手ノ運ト成リ居レリ尤モ右商租規則ノ制定ノ有無ニ係ハラス本邦人カ南滿東蒙條約ノ規定上當然商租契約ヲ締結シ得ル

コトハ勿論ニシテ支那官憲中帝國ト協議中ノ規則ヲ往々恣ニ勵行セムトスル向アルニ當ヘテハ隨時帝國官憲ヨリ支那官憲ノ反省ヲ求ムル措置ヲ講シ居レリ

三 滿洲ニ於テ商租權ノ設定ヲ得タルモノ現在ニ於テ三萬餘町歩金額約三百萬圓ニ上レルモ實際其土地ヲ利用セルモノハ多クハ撫順鞍山站地方ノ鐵道附屬地附近若ハ商埠地附近ニ於ケル住宅地等ノ小區域ニ限ラレ所謂農耕地ニ付テハ不幸ニシテ圓滿ナル利用ヲナセルモノ多カラサルハ政府ニ於テモ亦甚タ遺憾トスル所ナリ元來南滿洲ニ於ケル土地ハ前清皇室ノ私產及王公府ノ旗產尠カラス此等ハ通常世襲的小作人附隸シ地主ノ增租奪佃ヲ許サス甚シキニ至テハ全然小作料ヲ納付スルコトナク事實小作人ニ於テ所有權ヲ有スルカ如キモノスラアリ共和政府ノ樹立ヲ見ルニ至リ清室優待條例ヲ發布セルモ右ノ慣行ハ全ク之ヲ破棄スル能ハスシテ地主小作人間ニハ今尙紛紜絶エス從テ此等地主ハ日支新條約ノ成立ヲ機トシ殆ント空權ニ近キ土地ノ權利ヲ舊慣ニ通セサル本邦人ニ讓渡シテ小作人トノ紛紜ヲ避ケムトシ又本邦人ハ商租權カ僅少ノ商租料ヲ以テ獲得シ得ヘキモノト速斷シタルカ爲當時一時ニ多數ノ商租契約成立ヲ見ルニ至リタルコトアルモ元來此等ノ土地ニ付テハ小作人ノ權利ハ平均地價ノ七八割ニテ轉讓セラルルカ如キ現狀ニシテ何等商租權設定ノ取引ニ參加セサル小作人等カ地主對本邦人間ノ商租契約ニ依リ右ノ如キ價格ヲ有スル世襲的小作權ヲ無條件ニテ本邦人ニ剝奪セラレ

若ハ小作料ヲ引上ラルル危険アルヲ虞レテ支那官憲ノ保護ヲ求メ又支那官憲ニ於テモ種種ノ疑惑ヲ抱キ本邦人ノ商租ヲ妨害シタル形跡アリ茲ニ日支間ニ幾多ノ紛紜ヲ醸スニ至リタル次第ナリ要スルニ商租ニ關スル紛紜ハ其根底ニ遡レハ商租其物ニ關スル紛紜ヨリモ寧ロ其目的物タル土地自體ニ存スル紛紜ヲ多シトス此等ノ事情ハ次第ニ本邦人ノ間ニ明瞭トナリ來リテヨリ以來右ノ如キ土地ニ關スル商租ハ著シク減少スルト共ニ支那官憲ノ態度モ多少寛和セリ尙大正六年十二月奉天商務總會ハ商租禁止ノ決議ヲ爲シ之ニ基キテ張督軍ハ各縣知事ニ同様ノ訓令ヲ下セルコトアルモ當時帝國總領事ニ於テ嚴重抗議シ結局同督軍ハ該訓令ヲ取消シタリ從來商租ニ付紛紜アリタル場合ニハ關係領事ニ於テ一理非曲直ヲ明カニシ苟クモ善意且正當ノ取得者ニ對シテハ其ノ場合ニ適應スル機宜ノ保護方法ヲ講シ居レルカ今後ノ商租ニ付紛紜ノ生スルコトナカラシメムカ爲目下立案ノ對案ニ特ニ此ノ點ニ考量ヲ加ヘタリ尙商租問題ニ付テハ此上其日支兩國ノ間ニ十分了解ヲ遂クルノ必要アルヲ認ムルモ根本問題トシテ政府ハ支那ニ對シ眞ニ兩國國民ノ諒解親善ヲ齎ラスヘキ公正共益ノ方針ヲ基幹トシテ諸般ノ施設ヲ行ハムトスル意嚮ナルヲ以テ商租問題ニ付テモ亦此ノ方針ノ下ニ適宜改善ノ方途ヲ講セムコトヲ期ス

四 私學獎勵ニ關スル質問

今回高等教育機關ノ擴張ニ際シ我カ 皇室ヨリ多大ノ御内帑金ヲ下附セラレタルハ國民一般ノ感銘措カサル所ナリ謹テ惟ルニ我カ 皇室ハ由來國民ヲ以テ赤子トシ一視同仁ノ大御心ヲ以テ之ニ臨マセ給フ慮フニ 聖意ノ在ル所ヲ一般國民ニ徹底セシメ遍ク 聖恩ニ浴セシメムカ爲ニハ御下賜金ヲ以テ獨リ官學ノ擴張ノミニ私スヘキニアラス多年奎運ノ隆興ニ貢獻セル私學ノ高等教育機關ニモ亦之ヲ類ツヲ以テ至當ナリト考フ此ノ點ニ對スル政府ノ所見如何

八年一月二十五日樋口秀雄君ハ右質問主意書ヲ提出シ同月二十八日其ノ趣旨ヲ辯明ス

私ハ本日文部大臣、御出デナラバ總理大臣ニ向ッテ、今回ノ教育ニ對スル御下賜金ノ問題ニ付テ、質問ヲ試ミタイト思フノデアリマス、今回政府ガ高等教育機關ノ増設ヲサル、甚ダ結構ナ企デアリマシテ、此企テノアルノニ對シテ、畏レ多クモ 陛下ハ一千萬圓ト云フ多額ノ御内帑金ヲ御下賜ニナリマシタ、吾々ハ國民トシテ、實ニ聖恩ノ優渥ナルニ感泣致ス所デアリマス、由來日本ノ皇室ハ、立國ノ始メ以來、百姓ヲ以テ赤子ノ如ク御覽アラセラレマシテ、眞ノ民本主義ヲ以テ國ヲ肇メラレタモノデアリマスカラ、此思召ノ在リマス所ヲ恐察致シマスルノニ、其御趣旨ノ所ヲ當局ハ最モ能ク普ク國民ニ徹底セシメテ、國民總テヲシテ、聖恩ノ難有キニ感泣セシムルダケノ手段方法ヲ執ッテ戴キタイト私ハ存ジテ居ル、左スレバ今回ノ御下賜金ヲ、獨リ官立學校ノ擴張ノミニ用キマシテ、他ノ方面ニマデ及バヌト云フコトハ、聊カ御聖意ノ在ル所ト、相反シハシナイカト云フ疑ヲ持ッテ居リマス、事上御一人ノ御意思ニ係ル事デアリマスカラ、私ハ慎重ニ考慮致シマシテ、此御趣旨ノ在ル所ヲ國民ト共ニ討究致シテ、此御聖意ニ反カザランコトヲ期待ス

ル爲メニ、此質問ヲ提出シタ次第デアリマス、先ヅ第一ニ當局ニ御尋ヲ致シタイ事ハ、此御下賜金ト云フモノハ、性質上高等教育機關ノ擴張ノミニ用キベキモノト、御解釋ニナツテ居ルヤ否ヤト云フ點デアリマス、先日來本議場ニ於テ茲ニ豫算會議ノ席上ニ於テ、首相並ニ文相カラノ御答辯ニ依リマスルト、政府ハ高等教育ノ機關、殊ニ官設ノ高等教育機關ノ擴張ノミニ、此御下賜金ヲ預ツベキモノト御解釋ニナツテ居ルヤウデアアル、私ハ之ニ付テハ聊カ疑ガアル、原總理大臣ハ、先日豫算會議ノ席上、世上ニ於テハ、今回ノ御下賜金ヲ一般教育ノ爲メニ御下賜ニナツタカノヤウナ風説ノアル事ハ、承知シテ居ルト云フコトヲ言明サレテ居ル、其總理大臣ノ言明ニナリマシタ通り、世上ニ於テハ、陛下ノ今回ノ聖意ヲ以テ下サレマシタ所ノ御下賜金ナルモノハ、一般教育ノ振興ノ爲メニ御下賜ニナツタヤウニ傳ヘラレテ居ルデアリマス、果シテ然リトスレバ、獨リ官立高等教育機關ノ擴張ノミニ用キベキモノデハナクテ、成ベク汎ク國民一般ガ其聖恩ニ浴スベキ方向ニ對シテ、此御下賜金ヲ流用サル、ガ至當デアルト私ハ考ヘル、併ナガラ原總理大臣ハ、今回高等教育機關擴張ノ議アルヲ聞食サレテ、御内帑金ヲ賜タヤウナ意味ノ御聖旨ガアツタ、斯ウ云フ風ニ御説明ニナツテ居リマス、首相ノ口カラ承リマシタ所ノ御聖旨ノ如ク解釋致シテ見マシテモ、高等教育機關ノ擴張ト云フ舉ガアツテ、教育上ノ事ニ、政府ガ比較的困難ナル財政ノ中ニ多額ノ金ヲ支出シテ擴張ヲ企テルコトガ上聞ニ達シテ、御下賜下サツタト云フコトハ、必ズ之ヲ官立高等教育ノ機關ノ擴張ノミニ使用セヨト云フ御思召デアアルカドウカト云フコトハ、是ハ政府ガ最モ考慮ヲセラレベキ點デハナカラウカト思フ、假リニ高等教育機關ノ擴張ト云フ事ニ聞食サレマシテ、御下賜下スツタ御金デアリマスカラ、是ハ高等教育機關ノ擴張ノミニ用キルト云フ政府ノ御考ガ決ツテ居リマスルナラバ、又御聖旨ノ趣意ガ果シテ斯ノ如キデアルトスレバ、吾々ハ一言ヲ挿ムベキ問題デナイ、所ガ高等教育機關ノ擴張ニ御下賜金ヲ預ツトシマシテモ、何故ニ官立ノ高等教育機關ノ擴張費ニノミ、預タナケレバナラナイカ、高等教育機關ノ中ニハ、許多ノ私立高等教育機關ガアル三十年以上ニ亙ル所ノ私立學校ガ數多アル、當今專門學校令ノ下ニ、私立大學ノ名ヲ以テ高等教育ノ爲メニ盡シ、多年ノ間文運ニ貢獻シタ所ノ幾多學校ガ在ル、然ルニ今回ノ學制案ノ改革ニ際

シマシテ、樞密院ニ於テ、此私立高等專門學校程度ノ學校ノ基本金ニ對シ、及其專任教授ニ對シテ、稍々酷ナル制限ヲ附セラレタル爲メ、此三十年來乏シキヲ忍ビ、國家ノ文運ノ爲メ貢獻シタル多數ノ私立教育機關ナルモノガ、今ヤ其存立ヲ危マレル程ニ至ツタ、甚ダ危機ニ際シテ居ル、斯ノ如キ機關ニ向ツテ、何故優渥ナル聖旨ノ一端ヲ洽カラシムル方法ヲ、文部當局ハ執ラレナカッタノデアリマスカ、先日中橋文部大臣ハ、此意味ノ議員ノ質問ニ答ヘラレテ、恐ラク不可能デアルト云フ御答辯ガアツタヤウニ私ハ記憶シテ居リマス、何故ニ不可能デアルカ、例ヘバ御聖旨ニ基キ、高等教育機關擴張ヲ爲スト云フノデアアル、其爲メニ御下賜ニナツテ居ルナラバ、少クトモ高等教育ノ爲メニ用キルノガ當然デアアル、獨リ官設ノ高等教育機關ノ擴張ニ限ラナケレバナラヌト云フ理由ハ、抑、何レニ在ルカ、私ハ其點ニ對シテ理解ニ苦ンデ居ル、此多數ノ私立高等教育機關ガ從來忍ビ來ツタ所ノ苦痛、其我ガ文運ニ貢獻シタル所ノ功勞、是等ヲ更ニ眼中ニ置カヌト云フコトハ、此今回ノ優渥ナル御聖旨ヲ徹底セシムル上ニ於テ、確ニ缺陷ガアルト私ハ飽マデモ解釋スルノデアアル、況ヤ最近ニ於キマシテ、御内帑金一千萬圓御下賜ノ御沙汰ガ發表ニナリマシテ約一箇月、最近ニ於キマシテ、私立高等教育機關ノ一タル國學院大學ニ對シテ、殊ニ費用トシテ御内帑金十萬圓ノ御下賜ガアツタ、教育者ノ中ニハ、陛下ノ御思召ハ恐ラク一千萬圓ト云フモノハ、國學院大學ニ及ブベキモノト云フ御考ガアツタラウカ知ラヌガ、然ルニ政府ノ優柔不斷ナル、之ヲ私學ニマデ均霑セシムルコトガナイ爲メニ、更メテ御下賜ニナツタノデアアル、恐多イ事デアアルト、教育社會ハ殆ド口ニセザル者ハ無イ位デアアル、此事實ハ文部大臣ハ如何ニ御考ニナル、之ニ對シテ、特別ノ御下賜金ガアル所ヲ以テシマスレバ、他ノ私立高等教育機關ニ對シ、此御下賜金ヲ預ツハ、最モ聖慮ニ副ハザルコトナルノミナラズ、寧ロ其聖慮ノ在ル所ニ、能ク適合スル處置デナカラウカト私ハ信ズル、然ルニ文部大臣ハ、恐ラク是ハ不可能デアルト云フ御話デアアルガ、不可能ト云フハ、ドウ云フ意味デアアルカ、此點ハ明瞭ニ伺ヒタイノデアアル、況ヤ今回ノ官設高等教育機關高等學校デアリマストカ、高等商業學校デアリマストカ、高等工業ト云フヤウナ學校ヲ、全國ニ多數創立スルコトハ、寔ニ結構ナ事デアリマスカ、不幸ニシテ之ニ關シテ稍々面白カラ

ザルヤウナ風評モ、多少アルヤウニ私ハ承知シテ居ル、先日貴族院ニ於キマシテ、阪本鈔之助君カラ政府ニ對シテ御尋ニナツタ質問ノ如キハ、其意味ヲ稍、表ハシテ居ラレカト思フ、聲明セラレタル所ニ依レバ、此御下賜金ノ一十萬圓ノ外ニ、約三千四百萬圓ト云フ多額ノ經費、此合セテ四千四百萬圓ノ多額ノ費用ヲ投ジテ、官設ノ高等教育機關ヲ造ラル、所ガ、今回モ例ニ依ッテ各地ニ於テ創立費ト云フモノガ寄附サル、經費ナラザル所ノ臨時費タル創立費ガ全部寄附サル、方針ニナツテ居ルヤウデアアル、或縣ニ於テハ七十八萬圓トカ、或縣ニ於テハ一百萬圓トカ云フモノヲ、政府ニ獻納スベク勸誘セラレ、又彼等自身トシテモ、進ンデ運動シテ居ル所モアル、從來ノ慣例通り、斯クシテ寄附金ヲ以テ創立致シマスレバ、殆ド全部民間ノ寄附金ニ依ッテ爲シ得ル仕事デアアル、ソレニ對シテ御下賜金ヲ、ドウ云フ風ニシテサレヤウト云フノデアアルカ、爰ニ疑問ガ一ツアル、又高等教育機關ノ設立ヲ希望致シマシテ、各地ガ運動致シマスルノハ、從來ノ慣例デアリマス、然ルニ此競争ニハ、同縣下ニ於テモ、非常ナ競争ガアル、隣接諸縣ニ於テモ——府縣ニ於テモ甚シイ競争ガアル、然ルニ今回恐多イ御下賜金マデモ加ヘテ、擴張セラルベキ高等教育機關ノ設立ヲ爲スニ方リテ、其設置場所ヲ定メルニ方ツテ、又各地ニ競争ガアル……此設置場所モ設定セラルトシテモ、或ル府縣ニ於キマシテハ、土地ノ狀況カラ極メテ必要デアアルガ、其府縣貧弱ニシテ寄附ノ負擔ニ堪ヘヌト云フ、斯ウシタ箇所ガ、二箇所三箇所假リニアツタトスル、サウシテ其土地ガ現政府タル即チ政友會ノ地盤デアッタトシタラ、世間ハ如何ニ考ヘマス、私ハ中橋文相ガ斯ル事ヲ爲サルトハ決シテ申サヌ、信ジャシナイケレドモ、公平ニサレタ事ガ斯ル誤解ヲ受ケタト云フ場合ニドウナサル、ソレハ獨リ現政府並ニ政友會ノ立場ノミカラト云フ御説明ガアツテモ勝手デアアルガ、斯クシテ黨勢擴張ニ利用サレタルモノト世間カラ見ラレテ、其擴張事業ニ御下賜金ヲ全部投ズルト云フコトガ、至尊ニ對シテ果シテ御思召ニ副フ致方デアルト御考ニナルカドウカ、此點ヲ詳細ニ伺ヒタイノデアリマス……世間カラ誤解ヲ受ケヌ所ノ方法、而モ多年我が文運ニ貢獻シテ居ッタ所ノ各私立ノ大學ノ如キモノデ、其資格ヲ十分審査致シマシテ、其功勞ヲ認メ、其成績ヲ認メタモノニ對シテ、此御下賜金ヲ頒ツト云フコトハ、洵ニ至當ノ事デアアルマイカト思

フ此御下賜金ガ高等教育機關ノ増設以外ニ使ハレルカ、使ハレヌカト云フコトハ、不明デアリマスルガ故ニ、私ノ質問趣意書ニモ「私學ノ高等教育機關」ト、殊ニ高等教育機關ト記シテアル、少クトモ之ニ對シテ御下賜金ヲ頒ツト云フコトハ、決シテ御思召ニ反ムカザルノミナラズ、寧ろ御思召ニ副フモノト考ヘマスルガ、政府ノ御考ハ如何デアアルカ、若又是ハ獨リ高等教育機關ノミニ非ズシテ、他ノ方面——一般教育、殊ニ國民多數ニ恩惠ヲ及ボスベキ所ノ、教育機關ノ擴張ナリ何ナリニ此御下賜金ヲ使ッタナラバ、更ニ一層國民ガ聖恩ニ感佩スルノデアラウト考ヘマスルガ以上述べマシタ四點ニ就テ、中橋文相ノ明白ナル、御腹藏ナキ所ノ御意見ヲ承リタイト思ヒマス之ニ對シ中橋國務大臣ハ直ニ口頭ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

全體ニ對シテ私カラ御返事ヲ致シマス、此質問ノ出マス御疑ハ御尤デアリマス、色々其中ニ箇條ヲ別ツテ御尋ニナリマシタカラ、之ニ對シマシテ簡單ニ御返事ヲ申上ゲタナラバ、大抵御推測ガ行クダラウト實ハ思ヒマスルデゴザイマス、ト言ヒマスルノハ、是モ度々貴族院デモ此方デモ、總理並ニ私ヨリシテ御返事申上ゲタ答デアリマスルガ、其順序ヲ申シマスルト云フト、現内閣ガ成立シマスヤ否ヤ、直チニ此教育上ノ缺陷ニ付テ心配ヲ致シマシテ、其一番今日時弊ノアル缺陷ノ大キイモノハ、ドウシテモ是ハ救済シナケレバナラヌト云フ考ヲ起シマシテ、此高等教育機關ノ擴張ヲシヤウト云フ計畫、調査ガ進行シツ、アツタ譯デアリマス、其時丁度其事柄ガ上聞ニ達シマシテ、總理ニ御内帑金ノ御下賜ガアツタ、斯ウ云フ順序デアリマス、其御内帑金ノ御沙汰書ノ寫ヲ朗讀致シマセウ、サウシタラ大抵御了解ニナリハセヌカト思ウテ居リマス、「高等教育機關擴張ノ計畫有之趣被聞食思召ヲ以テ内帑金一千萬圓下賜候旨御沙汰被爲在候」是ガ總理ニ對スル御達デアアルノデアリマス、斯ウ云フ譯デアリマス、デ此御達ガ出マシタニ付キマシテ、私共モ愈々熱心ニ御趣意ヲ奉體シ、恐懼シテ其御趣意ヲ遂行シタイト云フコトニナツタ譯デアリマス、計畫ハ政府ニ於テ、曩ニ既ニ官立ノ學校、急ニ之ヲ増設シナクテハイカヌト云フ計畫ヲ立テタ譯デアリマス、斯ウ云フ譯デアリマスカラ、私立ノモノハ其中ニ入ッテ居リマセヌ、私立ノ學校ノ功績

等ハ、非常ニ敬服シテ居ル、實ハ私モ樋口サンノ御承知ノ通り、一二ノ學校ニ殆ド三十年モ關シテ居ルノデアリマス、是ハ此度ノ中ニハ入ッテ居リマセヌ、是モ度々申上ケル通り、官立ト私立トノ間ニ、少シモ區別ヲ置カヌノミナラズ、若シ出來得ルナラバ、私立ノ立派ナモノガ出來ルコトヲ希望スル、亞米利加ノ如ク出來テ貰ヒタイ、斯ウ云フコトノ希望ヲ有ッテ居ル譯デアリマス、ケレドモ我國デハサウ云フ調子ニハ行キマセヌカラ、別ニ此私立學校ノ補助獎勵ノ方法ハ考ヘツ、アリマスカラ、何レ計畫ヲ立テタラバ、他日御相談ニ及ブコトモアラウカト思フテ居リマス、其他國學院ニ御下賜金等ノ事モ御述ニナリマシタガ、私ハ唯今樋口サンノ御述ニナッタ正反對ヲ考ヘテ居ルノデアリマス、近來各種ノ「インスチテュション」ニ向ッテ御内帑金ヲ時々御下賜ニナルノデアリマスカラ、國學院モ私立學校デアリマスカラ、今後又私立學校ニ對シテ、御内帑金ノ御下賜ニナルコトガアルカモ知レマセヌ、我ガ帝室ハ先程御述ニナリマシタ通りニ、教育ニ付テハ、歴代御熱心ノ帝室デアリマスカラ、段々各種ノ事ニ御著手ニナルコト、信ジテ居ルデアリマス、尙ホ詳細ノ事ニ付キマシテハ、何分ニモマダ機關擴張ノ本案其モノヲ本院ニ提出シテ居ラヌト云フ譯デアリマスカラ、何レ近日追加豫算、竝ニ之ニ關スル法律案ヲ提出致シマシテ、皆サンノ御協賛ヲ經タイト思ウテ居リマス、其時ニ尙ホ委シク御説明申上ゲタ方ガ、御話ガ具體的ニナッテ宜カラウト思ヒマスカラ、今日ハ是ダケニ止メマス

五 國民思想問題ニ關スル質問

近時我カ國民思想ニ關シ論議スル者甚タ多ク一般國民ヲシテ疑惑ヲ抱カシムルコト少カラス政府ハ之ニ對シテ如何ナル處置ヲ爲サントスル乎將タ全ク放任セムトスル乎政府ノ方針如何

八年一月三十日伊東知也君右質問主意書ヲ提出ス其ノ趣旨辯明ニ先チ二月二十五日床次及中橋各國務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

政府ハ人心ノ嚮フ所ニ顧ミテ益、各般ノ施設ヲ整備シ以テ健實ナル思想ノ誘導ニ勉メムコトヲ期ス

同日伊東知也君ハ右答辯書ニ對シ左ノ如キ意見ヲ述フ

私ノ今日ノ日程第一ニ上ッテ居リマス質問ニ對シマシテ、マダ私ノ質問ノ趣意モ述ベマセヌニ政府ヨリ答辯書ガアッタト云フコトデアリマス、前例ニ依リマスレバ、質問者ノ趣意ノ在ル所ヲ十分ニ聽取ツタ上、書面ナリ或ハ口頭ニ於テ答辯スルノガ相當デアリマス、然ルニ質問ノ趣意理由ト云フモノハ、本院ノ慣例デ、簡單ナ事ヲ以テ記載シテ居ルノガ前例ニナッテ居リマス、然ルニ何ノ理由モ聽カズ、何ノドウ云フ質問デアルカ、ドウ云フ請求デアアルカト云フコトモ聽カズニ、直チニ答辯ヲ爲サル、ト云フコトハ、甚ダ不都合極マル事デアラウカト私ハ思フノデアリマス、内務大臣デモ總理大臣デモ、兎ニモ角ニモ斯ノ如キ行動ヲセラル、ト云フコトハ、如何ナル譯デアリマスカ、一應趣意ノ在ル所ヲ御聽ニナッタ上、書面ナリ口頭ナリデ答辯セラル、ガ相當デアルト思ヒマス、然ラズンバ又私ハ之ニ對シ、再質問再々質問ヲ爲シテ、徒ラニ手數ヲ掛ケテ、議事ノ澁滞ヲ來スコトハ免カレヌコトニナルノデアリマス、之ニ對スル政府ノ御答辯ヲ求メマス

六 勞働政策ニ關スル質問

講和總會議ニ於ケル國際聯盟並勞働問題ノ決議案ハ我カ日本委員出席シ全員一致ヲ以テ可決セ

ラレ、日英、米、佛、伊ノ五大國代表者ヲ以テ委員會ヲ組織スヘキヲ決議シ勞働政策ハ國際的ニ重大ノ意義ヲ爲セリ而シテ已ニ我カ國ハ五大國ノ一員トシテ世界指導ノ位置ニ在リ之カ實行ニ付キ政府ハ果シテ如何ナル所見ヲ有スルヤ

八年一月三十一日小山松壽君ハ右質問主意書ヲ提出シ一月四日其ノ趣旨ヲ辯明ス

諸君、私ハ茲ニ勞働政策ニ關スル質問ノ趣旨ヲ述ベマシテ、政府當局ノ御答ヲ得タイト存ジマス、社會政策ノ事ニ付キマシテハ、近時各方面ニ論議ヲ盡サレツ、アル所ノ問題デアリマシテ、此問題ハ各政黨政派ノ間ニ於キマシテモ、或ハ政策トナリ、或ハ其主張トナリ、殆ド統一シタル問題トシテ取扱ハレテ居リマスノミナラズ、又學者實業家ノ方面ニ於テモ、日一日ト此議論ガ高マツテ參ルヤウナ傾向ニナツテ居リマス、殊ニ去ヌル四十議會ノ當時ノ議會ノ内容ト、今回ノ四十一議會ノ此當議會ノ空氣トヲ比較致シテ見マシテモ、社會政策ニ關スル所ノ之ニ關聯スル所ノ議論ハ、頗ル高調シテ參テ居ルデアリマス、例ヘバ選舉權ノ問題ノ如キモ、四十議會ニ於キマシテハ、其程度論トカ或ハ五圓ト云ヒ、或ハ七圓ト云フガ如キ議論ガアリマシタノガ、一躍シテ、二圓若クハ三圓ト云フヤウナ程度ノ問題ニナリ、既ニ普通選舉サヘ各政黨政派ニ高調シテ來テ居ルト云フヤウナ状態ニ鑑ミマシテモ、殊ニ勞働問題ノ如キ思想上ノ問題、經濟上ノ問題ニ觸ルル議論ハ、尙ホ一層今其熱度ヲ高メテ來ルコト、思フノデアリマス、是等ノ事ハ畢竟致シマスニ、世界戰亂ノ經濟上ニ及ボシマシタル影響トシテ、殊ニ國民生活上ノ直接ノ問題ト致シマシテ、斯ノ如キ大勢ヲ爲シ來ツタコト、思ヒマスコトハ、疑ナイノデゴザイマス、故ニ原總理大臣モ今春ノ議會ノ劈頭ニ於テ、其施政方針ヲ演說セラル、ニ方リマシテ、平和克復ノ後ニ、國力ノ恢復ニ列國經濟上ノ競争ノ激甚ヲ豫測シ、食糧問題等ヲ處理スルコトニ努力スルト云フコトノ、御

演說モアリマシタ、是ハ洵ニ御同感ノ事デアリマス、而シテ國力ノ恢復、隨テ經濟上ノ競争、此事ノ結果ハ、事業上ニ於ケル所ノ組織ノ變革ヲ伴ヒ來ルト云フコトハ當然デアラウト思ヒマス、組織ノ變革ノ伴フ所ニハ、而シテ戰後ノ經營ヲ爲スベキ所ニハ、必ズ資本及企業ノ集中ト云フコトガ、當然起キテ參ルコト信ジマス、其結果ト致シマシテハ、小工業ハ大工業ニ併合セラレ、茲ニ事業上ノ内容ニ變化ヲ來シマスコトハ、恰モ、數年來大地主ノ下ニ中地主ガ併合セラレマシテ、中産農家ガ年々萎靡衰頹スルト云フコトノ事情ト、丁度同ジヤウナ結果ヲ生ジテ參ルト思ヒマス、斯ノ如クナツテ參リマス、茲ニ資本ト勞働ノ必ズ鬭争ヲ惹起スト云フコトハ、疑ナイ事ト思ヒマス、是ニ於テ勞働政策上最モ必要ト致シマスルノハ、資本ト勞働ノ調和ヲ圖ルト云フコトガ、極メテ焦眉ノ事デアル、而シテ且ツ經濟上ノ前途ニ對シテ、極メテ必要ニシテ適切ナル事ト思フノデアリマス、本年一月二十五日、講和總會議ノ場合ニ於キマシテモ、唯今原首相ヨリ大要御說明ニナリマシタ國際聯盟、此重大ナル議案ト共ニ、産業及勞働ニ對スル所ノ決議案ヲ提議セラレマシテ、我が帝國ヨリ珍田落合ノ兩委員出席致シテ居リマシテ、滿場一致ヲ以テ此勞働政策、即チ國際勞働立法ニ關スル制定ノ決議ヲ見タノデアリマスルガ、此事ハ固ヨリ各國ノ戰後經營ノ第一トシテ、各、其研究ヲ爲シテ居ルコト、思ヒマス、而シテ更ニ國際勞働立法ノ制定ニ付キマシテハ、我國ヨリハ岡前商工局長、及落合和蘭公使ノ兩氏ガ、此委員ニ任命サレテ居ルコトハ、外電ガ之ヲ傳ヘテ居リマス、此國際勞働立法ノ事ニ付キマシテ、政府ハ固ヨリ委員ノ任命ヲモ見タコトデアリマスルカラ、戰後經營ノ一事業ト致シマシテ、果シテ如何ナル御所見ヲ有セラル、モノデアリマセウカ、必ズ之ニ對スル對案ヲ有セラル、コト、思フノデアリマス、是レ聽テ我が國內ニ於ケル勞働政策上ノ問題ヲ論議致シマスル上ニ於キマシテモ、極メテ重要ナ事ト思フノデアリマス、諸君モ御承知ノ如ク、申スマデモナク我國ノ人口ハ、年々五十萬乃至七十萬ノ間ヲ増加致シテ參リマシテ、日清ノ戰モ日露ノ戰役モ、皆ナ悉ク是レ人口増加ノ一三四十年前ノ殆ド倍數ニモ達シタル人口増加ノ將來ノ國策ヲ樹テル上ニ於テ、所謂缺クベカラザル手段トシテ執ツタノデアリマスルト同時ニ、又我國ノ立國ノ政策トシテハ、工業立國策ヲ執ルト云フコトハ

是ハ當然デアリマス、是ニ於テ益、唯今申上ゲマスルガ如キ労働問題、是等ニ對スル政策ノ必要ヲ、痛切ニ感ジテ參ルノデアリマスルガ、昨今傳フル所ニ依リマスレバ、資本家ノ自覺ト云フコトガ漸次促サレテ參ルノデアリマスルコトニ由リマシテ、或ハ資本家ガ、温情主義ト云フヤウナコトヲ唱フルヤウニナッタヤウデアリマス、併ナガラ是ハ現在ノ労働問題ヲ解決スル上ニ於テ、極メテ幼稚ナル、資本家ノミノ利益ノ立場ヨリ考ヘタルモノト私ハ思フノデアリマス、何故ナレバ温情主義トハ、大地主小作人トノ間ニ、從來我國ノ一種ノ美風トシテ傳ヘラレテ參ル所ノ其儘ノ習慣、其儘ノ慣例ヲ、直チニ此工業界ニ及ボサウト云フコトノ者デアラウト思ヒマスルガ、工業ノ政策ガ、漸次小工業ヲ大工業ニ併合致シテ參リマスレバ、温情主義ハ家内工業若クハ固定工業ニハ、或ハ之ヲ適用スルコトガ出來ルカモ知レマセスケレドモ、大工業機械工業ノ發達致シテ參リマスルトキニハ、到底是等ハ痴人ノ夢ヲ説クガ如キ類ト私ハ思フノデアリマス、殊ニ戰時中ノ事業界ノ好況ニ從ヒマシテ濫發セラレタル事業ガ、漸次統一整理セラル、コト、思ヒマスルカラ、旁々此温情主義ト云フガ如キ事ハ、到底其目的ヲ達スルコトハ出來ヌト思ヒマス、殊ニ労働者ノ自覺、權利ノ思想、是等ノ問題ハ、近來極メテ其意義ト勢ヲ強メテ參リマシテ、過日床次内務大臣ガ、米暴動ニ對スル其原因觀ト云フモノヲ、議員ヨリ質問ニ對シテ答辯セラル、所ニ依リマスレバ、直接ノ原因トシテハ、米價ノ昂騰ト生活ノ不安ニ因ルコトハ、勿論デアアルガ、更ニ間接ノ原因トシテハ、富豪階級ノ我儘ナル放縱ノ態度、及世界ノ戰亂ト其影響ヨリスル所ノ、思想ノ變革ニ因ル階級闘争ノ結果デアアルト云フコトヲ、原因ノ重ナルモノトシテ明答サレテ居ルノデアリマス、斯ノ如ク米騒動ノ原因ハ、明ニ思想ノ變革ニ因ル階級闘争ノ結果デアアルト云フコトヲ見マスルト同時ニ、此權利思想ノ發達ガ確ニ是等ノ問題ノ伴ヒマシタルコトヲ明ニスルノデアリマスルガ、是ニ於テ私ハ資本家側ノ温情主義ト云フコトニ、更ニ一步ヲ進メテ勞資共同經營ノ方針ニ對シテ、政府ハ如何ナル意見ヲ有セラル、ノデアアルカ、勞資共同ノ經營トハ、資本家側ト労働者側トノ、即チ資本ト労働トノ共同經營ニ相須ツテ利益ノ分配ヲスルト云フコトノ制度デアリマス例ヘバ米價ノ暫騰ニ對シマシテ、近年地主ト小作トノ間ニ、此結果ヨリ生ズル紛議ハ隨處ニ在リ

マス、米價ノ昂騰ノ結果、其利益ヲ享クル者——主タル利益ヲ取得スル者ハ大地主デアアル、小作ハ何等此米價騰貴ニ關スル所ノ、利益ノ分配ニ與カラヌト云フコトノ爲メニ、此利益分配ノ精神上ヨリ致シマシテ、隨處ニ其紛議ガ起リツ、アリマス、又彼ノ昨年九州一圓ニ互ツテ起リマシタル炭坑暴動ノ如キモ、是ハ唯今ノ小作人ノ精神状態ト同様ナ、決シテ生活ノ不安、若クハ生活ノ窮迫ト云フコトノ結果ヨリ來タノデハナクシテ、其莫大ノ利益ヲ其資本主義、若クハ其會社ノ專有ニ委スルト云フコトニ對シテノ不平、及其利益ノ分配、權利思想ノ發達ト云フ事ニ在リマスルコトハ、他ノ米騒動ト全ク其原因ヲ異ニシテ居ルノデアリマスルカラシテ、勞資共同經營ノ方針此利益分配ヲ爲スト云フコトノ方針ニ對シテ、政府ガ是等ニ對スル何等カノ考慮ヲ持ツテ居ラルルヤ否ヤ是ハ極メテ適切ナル事ト思ヒマスカラ、此點ヲ伺ツテ置キタイト思ヒマス、更ニ政府ハ労働問題ノ解決ニ付テ、放任主義ヲ執ラル、ヤウナ風ニ思ハレマス、治安警察法ノ精神及其解釋ニ付キマシテ、内務省内ノ會議ニ於テ決定サレタル所ノ方針ナリト傳フル所ノモノニ依リマスレバ、積極方針トシテ、労働組合ニ對スル態度ヲドウスルカ、其一案ハ今後起ラントスル労働組合ニ對シ、治安法第十七條ヲ適用シ、極端ニ之ヲ取締ルベキカ、第二案ハ將タ反對ニ其發達ヲ助長スベキカ、第三ハ或ハ其中庸ヲ取り、極端ニ取締モ加ヘズ、助長モセズ、既成ノ組合又ハ自然ニ起リ來ル組合ヨリ善導スベキカト云フ事ノ、三案ガアッタヤウデアリマスガ、其結果デアラウト思ヒマス、床次内務大臣ガ豫算總會ニ於ケル所ノ御答辯、及其他分科會等ニ於ケル御答辯等ヲ見マス、此中庸案ニ對シテノ御答辯ト承知スルノデアリマスガ、蓋シ其意ハ傍觀方針ヲ執ルト云フコトノ御意見デアラウト思ヒマス、然ルニ労働者ノ自覺ト云フコトニ、前申上ゲマシタ通り、各種ノ事實ニ現レテ參ルテ居リマスガ、治安警察法ハ御存ジノ如ク、明治三十三年ノ制定ニ依ルモノデアリマシテ、其十七條ハ傭主及労働者雙方ニ對シ、同盟解僱又ハ同盟罷業ノ勸誘ヲ制止シ、且ツ労働報酬ニ關スル共同ノ團結ヲ防止スルモノデアリマシテ、一見甚ダ公平ノ如クニ考ヘラル、ノデアリマスケレドモ、傭主側ノ同盟解僱、若クハ同盟勞務ノ強制ト云フガ如キ事ハ、殆ド事實ノ上ニ必要ハ無イノデアリマス、即チ事實ニ於テハ、労働者側ノ同盟罷業及報酬強制ニ關ス

ル禁厭ト見ルベキモノデアリマシテ、其法令アルガ爲メニ、労働者側ノ正當ニシテ穩健ナル主張ヲ述ベザラシムルト云フ事ニ對シテハ、更ニ其妨ヲ爲スモノト私ハ思フデアリマス、此最近數年間ニ於テ労働界ノ現況ヲ見マス、此處ニ統計表ガアリマスガ、是ハ煩ヲ省キ朗讀ヲ省略シ、參考ニ掲グルコト、致シマス、此表ニ依リマス、略言スレバ大正三年ニハ五十回ノ同盟罷業ガアリマシタノガ、四年ニハ六十四回トナリ、五年ニハ八十八回トナリ、六年ニハ三百九十八回トナリ、七年八月マデニハ三百七回トナリマシタ、其人員モ大正三年ニハ七千九百人デアッタモノガ、六年ニハ五萬七千人トナリ、七年八月マデニ於テ既ニ四萬五千人ニ上ツテ居リマス、而シテ是等ニ對スル警保局ノ觀察ニ依リマスレバ、其度數ノ倍增セル事、罷業人員ノ多數ニナリシ事、漸次組織的トナリ、又持久的トナリシ事、社會主義者等ノ煽動ニ依ルモノニ非ズシテ、總テ労働者自身ノ發意ニ出デタル事、暴力ニ訴フルナクシテ平和的ノ解決手段ヲ執レル事、賃銀要求ノ權利要求ニ轉ジタル事、即チ労働者ノ思想的自覺ニ生ジタト云フヤウナ事ノ御調査ニナツテ居リマス、斯ノ如ク労働問題ハ漸次其團結ノ組織的トナリ、而シテ平穩ニ自己ノ權利ヲ主張スルト云フヤウナ傾向ニナツテ來テ居リマスガ床次内相ガ昨日ノ分科會ニ於テ御答辯ニナツタ所ニ依リマス、現行法ノ下ニ在リテ、禁止モセラレナケレバ又認メラレテモ居ラヌ、政府トシテハ、更ニ之ヲ促進スルノ必要モ無カルベク、自然ニ委セテ置クト云フコトノ御答辯デアリマス、更ニ治安法モ、時代ノ進運ニ伴ヒ、從業者ガ暴力ニ訴フルニ非ズシテ、穩當ナル方法ニ依リ自己ノ主張ヲ唱ヘントスルガ如キ者ニ對シテハ、壓迫ヲ加ヘントスルモノニ非ズトノ御答辯ガアリマシタ、川村警保局長ハ、治安法ノ爲メニ、労働組合ノ發達ヲ阻碍スルモノデアナイト御答辯ニナツテ居リマス、併ナガラ政府ガ所謂三案ノ中、其中庸案ヲ採ルトシテ、又此御答辯ニアルガ如ク、労働社會ノ權利思想ノ發達ヲ認メテ、此團體ヲ助成スルト云フ方針デモナケレバ、其儘ニシテ置クト云フ御意見デアルト致シマスレバ、更ニ其ノ御答辯ノ中ニ、労働者ノ團結ガ平穩ニ、而モ一工業會社内ニ於テ發達スルト云フ事デアレバ、之ヲ歡迎スルト云フ如キ御言葉ガ何所カニアッタヤウニ思ヒマス、若シ其労働者ノ團體組織ヲ歡迎サル、ト云フ事デアラナラバ、此團體ノ發達ヲ阻碍スル所ノ治安法ノ如キモノニ其儘存スルト云フコトニ於テ、其御方針ト確ニ矛盾撞著ガ其間ニ起リハシナイ

カト私ハ疑フノデアリマス、原首相モ先日ノ貴族院ノ施政方針ノ御演說ノトキニ、山脇君デアリマシタカノ問ニ對スル御答ニ、労働組合ハ決シテ危險トモ認メナイ、又今日危險ノ虞アリトモ思ハナイ、平穩ニ其組合ノ出來ルト云フコトデアラナラバ、是ハ其儘ニ差置クト云フコトノ御意見モアリマシタ、此御意見ト及床次内相、川村局長等ノ御答辯カラ見マシテモ、確ニ治安法ヲ其儘ニ差置イテ、而モ一方ニ其組合ヲ發達セシムルト云フコトハ、確ニ矛盾ガ其間ニ起ラウト云フコトハ、私ハ信ズルノデアリマス、此點ハ政府ニ於テ、尙ホ矛盾無シト考ヘラレルノデアリマセウカ否ヤ、此點モ伺ツテ置キタイト思ヒマス、之ヲ要スルニ帝國ノ今日ノ位置ハ、外ニ在リマシテハ唯今原首相ノ講和問題ニ對スル御答辯中ニモアリマスルガ如ク、我國ハ文明、人道、正義、之ヲ唱フル所ノ所謂列強ニ伍シマシテ、五大國ノ一員トシテ世界ヲ指導スルノ位置ニ在リ、而シテ今其豫備會ニモ加ハツテ居ルト云フコトノ事實デアリマス、殊ニ況ヤ國際労働立法ノ制定ニ對テハ、我國ヨリモ委員ヲ派遣シテ居ル譯デアリマス、而シテ更ニ此國際労働法ハ、全ク世界改造ノ基礎中ノ重要ナル一項トシテ、最モ注目スベキ問題デアリ、各國ハ之ニ對シテソレソレノ代表者ヲ出シ居ルニ拘ラズ、我國ハ此労働者ノ代表ヲ出スコトニ於テ、果シテ其組合ヲ統一シテ出スベキコトニ於テ、其組合ヲ統一シテ出スベキ人物アルカドウカ、資本案側ニ於テハ、近藤廉平男ノ如キハ既ニ巴里ニ在リマスガ、労働者側ヲ代表スベキ委員ヲ如何ニシテ出スカト云フコトニ付テ、大使ヨリ通知ガアッタナラバ何トスルカト云フコトハ、内務省ノ參事官河原田氏ガ之ヲ新聞記者ニ向ツテ談話ヲシテ居ル一節ニ就テモ見エルノデアリマス、斯ノ如ク内ニ於テハ我國ノ現狀ガ労働者ヲ代表スル——如何ナル機關ニ依ツテ代表スルカト云フ、今日世界改造ノ時期ニ當ツテ、其代表者ヲモ見ルコトガ出來ナイト云フコトノ状態デアリマス、同時ニ思想上ニ於テモ、又産業上ニ於テモ、軍事上ニ於テモ、全ク門戸ハ閉鎖セラレテ居リマシテ、機會ハ均等ニセシメラレズ、有ユル社會ノ改造ヲ要スルニ當リマシテ、尙且ツ斯ノ如キ舊思想ノ一部少數ノ官僚思想ニ囚ヘラレタルガ如キ、此労働法ヲ見ルト云フコトハ、甚ダ遺憾ニ思フノデアリマス、現政府ハ所謂政黨ヲ基礎トシ、民本的ニ其政治ヲ行フト云フ大ナル國民ノ期待ノ上ニ立ツテ居ルノデアリマスカラ唯今申上ゲマシタ數點ニ對シテ、政府ハ懇切丁寧ニ、殊ニ此問題ハ思想上ニモ重大ナル關係ヲ

及ボスモノデアリマスカラ、御答辯アランコトヲ茲ニ希望致シテ置キマス

千二百六十四

同月二十五日小山松壽君ハ議院法ニ依リ政府ニ對シ左ノ如ク答辯ノ督促ヲ爲ス

本員ハ本月四日ニ於テ、勞働政策ニ關スル質問ヲ致シマシタガ、今日マデ其答辯ニ接シマセヌ、四圍ノ事情ハ益々其答辯ノ必要ヲ認メルノデアリマス、政府ハ勞働ノ自由平等門戸開放ト云フヤウナコトニ對シテ、對外法規ノ改正ニ付キマシテ、目下考慮若クハ審議中デアルト云フコトヲ傳ヘラレテ居リマス、若シ斯ノ如クンバ、本員ノ質問致シタル趣旨ノ其實行方法ニ付テ、政府ニ致シマシタ陳述ニ當ルノデアリマス、是ガ本員質問ノ第一問デアッタノデアリマス、若シ果シテサウデアルト致シマシタナラバ其結果トシテ對内法規ノ——國內ニ於ケル對内法規ニ、當然生ズベキ矛盾ガ起ラウト云フコトヲ私ハ思フノデアリマス、仍テ此關係上治安法ノ改正、若クハ其補則或ハ一般法規ノ制定スルノ必要アリト思フノデアリマス、是ガドウデアアルカト云フコトノ意味ヲ陳述致シマシタノガ、第二問デアリマス、然ルニ政府ヨリ今日マデ答辯ニ接セマセヌノデアリマスガ、私ハ議院法ニ依リマシテ茲ニ政府ノ答辯ヲ求メマス、幸ニ床次内務大臣著席デアリマス、若シ答辯無シトスルナラバ議院法ニ依リマシテ、其答辯セザル理由ノ明示ヲ願ヒマス、更ニ又前例ニ依リマシテ、質問日ニ於テ答辯セラル、ト云フコトノ例ガアリマスカラ、特ニ茲ニ答辯ノ督促ヲ致シマス之ニ對シ床次國務大臣ハ三月一日書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

資本家ト勞働者トハ其ノ利害ヲ一ニシ互ニ協調信愛ノ念ヲ以テ事ニ當ルベキモノト認ムルガ故ニ政府ハ勞働者ガ益々其ノ智能ヲ啓成シ共同自省ノ精神ヲ涵養スルト共ニ資本家ニ於テモ亦克ク勞働者ノ生活ノ實況ト其ノ思想ノ傾向トヲ理解スルニ努ムコトハ其ノ最モ希望スル所ニシテ如斯ニシテ兩者ノ關係ヲ圓滿ナラシメ相互ノ福利ヲ増進セシムルコトヲ得ベシト信ズ而シテ

治安警察法第十七條ハ勞働團體ノ加入ノ強制若ハ其ノ妨碍ニ付暴行脅迫等ノ不正行爲手段ヲ用ヒ又ハ同盟解僱同盟罷業ヲ遂行セシムカ爲誘惑煽動スルコトヲ禁止スルモノニシテ穩健ナル勞働團體ノ成立等ハ之ヲ阻碍スルモノニ非スト認ム

七 公娼制度ノ存廢ニ關スル再質問

第一 本員ハ去ル一月二十一日公娼制度ノ存廢ニ關スル質問主意書ヲ提出シ同月二十八日ノ本會議場ニ於テ第一乃至第五ニ至ル質問主意ヲ辯明シ床次内務大臣ノ答辯ヲ要求シタルニ去ル二十九日ニ至リ同大臣ハ「公娼制度ハ現下ノ情況ニ徴シ尙之ヲ存續スルノ已ムヲ得サルモノト認ム而シテ之カ改善ニ付テハ政府ノ常ニ留意シテ忽ニセサル所ナリ」ト答辯シタルニ過キスシテ質問主意ノ第一、第二、第四、第五ニ對シテハ何等答辯ヲ與ヘサルハ議員ノ發言權ヲ無視スルモノニシテ憲政ノ本義ニ反シ政治道德ヲ無視スルノ甚シキモノト信ス政府ハ何故ニ其ノ答辯ヲ爲ササルカ其ノ理由如何

第二 顧フニ公娼制度ノ存廢ハ全國五萬人ノ婦人ノ人權ニ關シ延テ國家ノ面目ニ關スル重大ナル事項ニシテ社會問題トシテモ國家問題トシテモ之ヲ解決スヘキ焦眉ノ急ニ迫レルハ上下ノ夙ニ認ムル所ナリ現政府カ單ニ「常ニ留意シテ忽ニセサル所ナリ」ト云フカ如キハ現政府ノ標

榜セル政黨内閣ノ實ニ適ハサルモノナリト思料ス政府ハ宜シク此ノ點ニ關シ其ノ抱懷スル所ノ政策ヲ示シ以テ國民ノ輿望ニ答フルノ必要アリト信ス政府ノ所見如何

千二百六十六

八年一月三十一日横山勝太郎君ハ右再質問主意書ヲ提出シ二月二十五日其ノ趣旨ヲ辯明ス

既ニ先日第一回ノ質問ニ於テ、其要領ノ在ル所ハ盡クシテ置キマシタカラ、本日ハ簡單ニ質問ヲ致シマス、第一ニ政府ニ御答辯ヲ願ヒタイノハ、前回ノ質問趣意書ノ第一點デアリマス、即チ現行ノ公娼制度ニ關スル規定ハ、我國ノ憲法ノ規定ニ反スルト云フ點ニ付テ、御意見ヲ承リタイノデアリマス、今日ノ所謂公娼ナルモノガ、決シテ當局ノ信ズル如キ自由ヲ有シテ居ラナイト云フ點ニ就テ、一應辯明ヲ補足シテ置キマス、其第一ハ公娼ト貸座敷業者トノ間ニ取交ハサル、證文ノ要點ヲ見マスルト、一例ニ依レバ、娼妓稼ノ期間ハ六箇年トスル、其間ニ辨濟義務ヲ完了シ能ハザルトキハ、更ニ期間ヲ延長シテ辨濟ノ義務ヲ果タサス、ソレカラ娼妓ノ廢業又ハ轉業シタルトキハ、直チニ債務ノ辨濟ヲスル、ソレカラ逃走又ハ疾病ニ罹ルトキハ、其債務ヲ辨濟スル、ソレカラ娼妓ノ所有シテ居ル衣類及一切ノ物件ハ、借入金ニ對シ質權ヲ設定シ、債權者ノ占有ニ屬スルコト、ソレカラ年限中ニ逃走又ハ自由廢業ヲセシトキハ、借入金ハ貴殿ノ精算ニ基イテ、各關係者ガ連帶ノ義務ヲ帯ビル、斯ウ云フ證文ガ入ッテ居ルノデアリマス、是ハ一應相當ノ理由アリト致シマシテモ、娼妓ガ病氣ニ罹ッタ際ニ、尙且ツ借入金ノ債務ヲ期限ヲ早メテ、辨濟ヲセネバナラヌト云フ事柄ハ、如何ニモ不當ナ事柄デアリマス、之ガ爲メニ自由廢業ヲ法令ノ上デハ自由ナリト致シテ居リマスケレドモガ、廢業若クハ病氣ニナレバ辨濟期限ノ如何ニ拘ラズ、督促ヲセラレルノデアリマスカラ、殆ド借用證書ナルモノニ依ッテ、絶對ニ娼妓ノ自由ナルモノガ拘束サレテ居ル、尙ホソレカラ娼妓ノ收入ニ依ッテ、其債務ノ辨濟ヲ爲スコトハ甚ダ困難デアルト云フ事情ヲ一應述ベテ置キマシタガ、更ニ一例ヲ擧ゲテ申上ゲマス、是ハ救世軍ノ山室君ノ談話デアリマスガ、自由廢業ノ娼妓七十名ノ平均統計ヲ取ッテ見ル所ガ、一人ノ平均ノ勤ガ二年八箇月デ、

前借金ノ平均ガ三百二十七圓、表面ハ六年ト云フ期限ニナッテ居リマスガ、實ハ全ク是ト反シテ、實ニ其三十倍ニ當ル百八十年掛ラネバ完濟ノ期限ニ達シナイ、七十名ノ娼妓ガ二年八箇月間ニ元金ニ繰入レタ金ハ、平均四圓二十一錢ニシカ當ラナイ、即チ一日ニ四厘何毛ト云フ極メテ微細ナ金デ、玉代ニ對スル何十分ノ一カ分ラヌモノヲ彼等ノ所得ニシテ、生キテ居ルノデアアル、恰モ生キナガラ監獄ニ居ルモ同様デアアル、即チ現行ノ法令ニ基ク公娼制度ノ下ニ於キマシテハ、僅ニ二百圓カ三百圓ノ金ヲ拂フニ、百八十年ヲ要スルト云フコトデアリマス、取リモ直サズ辨濟不能ト云フコトデアリマス、辨濟不能ノ條件ヲ以テ人權ヲ束縛スルト云フ事柄ハ、取リモ直サズ奴隸制度デアアルノデアリマス、御説明ヲ願ヒタイノデアリマス、ソレカラ前回ノ質問ノ第二、第三、第四、是ハ前回ニ詳シク申上ゲテ置キマシタカラ、之ニ基イテ御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス、ソレカラ本日ノ此私ノ質問ト、ソレカラ前回ノ第四第五ト關聯シテ更ニ質問ヲ致シテ置キタイト考ヘテ居リマス事ハ、要スルニ此公娼制度ノ存續ニ依ッテ、五萬人ノ婦女子ガ牢獄ニ等シキ貸座敷ニ拘束セラレテ、奴隸ニ等シキ生活ヲ致シテ居ル、之ヲ覆スニ足ルベキノ事實ト議論ト云フモノヲ承ラヌノデアリマス、此内閣ノ下ニ於テ、今尙ホ五萬人ノ奴隸ヲ我國ノ制度ノ上ニ、又實際ノ上ニ存續セシムルト云フ事柄ハ、如何ニシテモ是ハ忍ブベカラザル點デアリマス、私ハ今日此女子ニ參政權ヲ與ヘヨトマデ絶叫スル者デアリマセヌガ、少クモ奴隸ノ境遇ニ在ル此救濟ダケハヤッテ置カナケレバナラヌト考ヘマス、殊ニ此頃ハ所謂人種差別撤廢論ナルモノガ唱ヘラレテアリマス、巴里ニ於ケル講和會議ニ於テ、我國ノ使節ガ人種差別撤廢ノ提唱ヲセラレタト云フ話デアリマス、洵ニ其趣旨ニ於テ間然スル所ナク、國民悉ク之ニ贊成スルモノデアリマス、私モ其提唱ノ貫徹スルコトヲ希望スル者デアリマス、併ナガラ願ミテ我國ノ現狀如何ト考ヘマシタナラバ、殊ニ公娼ト稱スル五萬人ノ奴隸ガ、日本内地ニ居ルト云フコトデアアル、斯ノ如キ事實ヲ看過シテ、世界ノ舞臺タル此講和會議ニ於テ差別撤廢論ヲ致シマシテモ、其論ハ私ハ餘リ好キ響ヲ與ヘヌト考ヘマス、差別撤廢論ハ洵ニ結構デアリマスケレドモガ、其以前ニ國內ノ不平等、國內ノ差別ヲ整理シ撤廢スル必要ガアルト私ハ考ヘマス、而シテ一面ニ於テデス、新聞紙ノ傳フル所ニ依レバ、貸座敷業者ガ全國大會ヲ開イテ、此公娼廢止ノ問題ニ反對スルト云フコトデアリ

マスガ、此反對ハ彼等ガ自己防衛ノ上ニ於テ已ムヲ得ヌ事デアリマセウガ、併ナガラデス、既ニ二十世紀ノ世ノ中ニ在ルベカラザル、公娼制度ノ擁護ヲスルト云フ事柄ハ、所謂封建制度ノ遺習ヲ辯護セントスル者デアッテ、身分ヲ知ラナイニモ程ガアルト考ヘマス、此公娼廢止論ナルモノハ、吾々ガ此壇上ニ於テ唱ヘテ居リマスガ、何ゾ知ラシテ、貸座敷業者間ニ於テ其例ガ澤山アル、洲崎ノ某貸座敷業者ノ語ル所ニ依レバ、吾々ハ一面ニ於テ子供ヲ學校ニ送ッテ居ルガ、學校ニ送ッテ居ル子供ノ月謝費用ト云フモノハ、何處カラ出ルカト云フコトヲ考ヘテ見タナラバ、到底此業ヲ營ムコトハ出來ヌト云フコトデ、其貸座敷業ヲ抛ッテ廢業致シタノデアリマス、ソレカラ明治四十四年ニ、吉原ノ大火ガアツタ際ニ、中米樓ト稱スル貸座敷ノ主人ガ、四十二人ノ娼妓ノ解放ヲ斷行シテ居ルノデアリマス、澤瀉樓ノ主人モ同様、娼妓ノ解放ヲ斷行シテ居ルノデアリマス、既ニ公娼制度ノ惡シキ事柄ハ、貸座敷業者ガ自ラ之ヲ知ッテ居ルノデアアル、而シテ今日マデ百五十八人ノ自由廢業者ヲ出シテ居ルト云フ事柄、今日マデ娼妓ノ逃亡ガ陸續トシテ相踵イデ居ルト云フ事柄、是等ノ大勢ニ考ヘテ見マシタナラバ、此制度ヲ何時マデモ存續セシムルト云フコトハ、到底大勢ノ許サヌ所デアリマス、既ニ貸座敷業者ガ斯ノ如キ事ヲ考ヘテ居ル今日、當局ハ如何ナル考ヲ持ッテ居ラル、カト云フコトヲ聽カントスルノデアリマス、或人ノ說ニ依レバ、今回吉原ノ貸座敷業者ガ、莫大ノ金ヲ釀金シテ托兒所ト云フモノヲ設ケテ、社會ノ爲メニ救濟事業ヲヤルト云フコトデアリマス、洵ニ結構デ、其行爲ニハ贊成ヲ致シテ居ル一人デアリマスルガ併ナガラデス、斯ノ如キ醜業ヲ營ンデ、其醜業ノ利益ニ依ッテ、貧民ノ孤兒ヲ養育シテ呉レルト云フ事柄ハ、吾々ノ階級ノ者カラ見マスレバ、實ハ難有迷惑デアアル、恰モ世ノ中ノ義賊ト稱スル者ガ、富豪ノ手ヨリ財物ヲ掠メ來ッテ、之ヲ貧乏人ニ頒ツト云フ行爲ト同ジデアリマス、托兒所其モノハ寔ニ結構デアアルガ、ソレヲスルダケノ餘裕ガ有ッタナラバ、其金ヲ以テ娼妓ヲ解放スルト云フ方ガ私ハ急務デアルト考ヘマス、此重厚謹嚴ノ評アル床次内務大臣ニ向ッテ質問ヲ致スノデアリマス、全國一萬有餘ノ貸座敷業者ノ權利ガ重イカ、全國一萬一千人ノ貸座敷業者ノ利益ガ重イカ、五萬人ノ子女ノ人權ガ重大デアアルカ、貸座敷業者ノ利益ガ重大デアアルカ、國家ノ面目ガ重

大デアアルカヲ聽カントスルノデアリマス

此ノ時副議長ハ右再質問ニ對シ床次國務大臣ヨリ左ノ答辯書ノ提出アリタル旨ヲ告ク

去ル一月二十一日質問第一現下ノ公娼制度並其ノ實狀ハ國法ニ牴觸スルモノト認メス第二及第四前回ノ答辯ニ依リ其ノ要ヲ盡セリト認ム第五賣笑行爲ニ付テハ法令ニ依リ相當取締ヲ實行シツ、アリ

八 小學校教員ニ給スル臨時手當ニ關スル質問

政府ハ小學校教員ニ對スル臨時手當ヲ普遍ナラシムルノ方法ヲ採ルノ必要ヲ認ムルヤ若認ムルトセハ何故ニ今日迄放任シテ顧ミサルヤ

八年二月三日高田耘平君ハ右質問主意書ヲ提出ス其ノ趣旨辯明ニ先チ同月二十日中橋國務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

法令ニ依リ市町村立小學校教員ニ對スル臨時手當ヲ普遍ナラシムル方法ヲ採ルハ現下市町村ノ財政狀態ニ於テ之ヲ許サ、ルモノアルニ依リ政府ハ大正七年九月地方長官ニ通牒ヲ發シ小學校教員ニ對スル臨時手當支給ノ途ヲ開カシメ爾來各市町村ニ於テハ事情ノ許ス限り之ヲ支給シツ

ツアルノ實況ナリ本質問ニ於ケルカ如ク之ヲ放任シ居ルモノニアラス

九 講和問題ニ關スル質問

一講和會議ニ提出スヘキ帝國單獨關係ノ問題中南洋諸島ノ處分ニ關シテハ從來列國ニ於テ異議ナキ所ナリト思惟セラレタルニ拘ラス最近外電ノ報スル所ニ依レハ帝國ニ不利ナル種々ノ異論發生シタルモノノ如シ此ノ際政府ハ其ノ真相ヲ明ニシテ國民ノ疑惑ヲ一掃スヘキモノト認ム

八年二月三日武富時敏君ハ右質問主意書ヲ提出シ同月四日日程ヲ變更シテ其ノ趣旨ヲ辯明ス

吾々ガ提出ヲ致シマシタ質問ノ趣意ハ極メテ簡單デゴザイマス、別ニ多クノ説明ヲ俟タズシテ明瞭ナルコト、存ジマス、併シ幸ニ原總理大臣ノ御出席ヲ得マシタノデアリマスカラ、爰ニ簡單ニ此質問ノ趣意ヲ説明ヲ致シテ置キマス、今般講和會議ニ提出セラルベキ、列國共通ノ利害ニ關係ヲ致シマスル問題ハ、例ヘバ國際聯盟ノ如キ、或ハ海洋ノ自由ノ如キ、或ハ軍備ノ制限ト云フガ如キ問題ハ、各國ノ利害ガ互ニ相衝突スル點モ多クゴザイマルノデ、種々ノ異論ヲ生ズルト云フコトハ、勿論ノ事ト何人モ是ハ豫期スル所デアッタノデゴザイマスルガ、我が帝國ノ單獨ノ要求ニ係ル問題、例ヘバ青島ノ處分ノ如キ、又ハ戰時中帝國ノ占領シテ居リマシタ所ノ南洋諸島ノ處分ノ如キ、是等ノ問題ニ關シマシテハ、政府當局ノ間ニハ、業ニ既ニ確定致シタル意見モゴザイマシタシ、又略、聯盟諸國トノ了解モ著イテ居ッタノデゴザイマスルカラ、此講和會議中ニ種々ノ

異論ヲ生ジヤウトハ、吾人俱ニ思ハナカッタノデアリマス、此意味ハ先般來屢、當局ノ口カラモ漏レタヤウデゴザイマスルガ、又世間一般ニ此南洋ノ處分問題ノ如キハ、他國ノ異議ヲ挿ムベキ問題デハナイト、信ジテ居タノデアリマス、既ニ此獨逸ノ植民地ヲ獨逸ニ還付スベカラズト方針ガ決定致シマシタ以上、元獨逸ノ植民地ニ係ルモノハ、各、其占領國ノ領有ニ歸スベキハ、國際公法ノ精神カラ考ヘマシテモ、當然之ニ異論ノアルベキ筈ハナイト吾々ハ信ズルノデアリマス、然ルニ近日外國電報ノ報ズル所ニ依リマスルト、總テ元獨逸ノ植民地ハ、國際管理ニスルト云フ議ガ決シタト云フ説ヲ傳フル者モアリマスシ、又ハ國際管理ノ名ノ下ニ、其占有國ノ委任統治ニ歸スベシトノ議ガ決セラレタト云フ説ヲ傳フル者ガアリマス、又或ハ國際管理ノ名義ノ下ニ、其占領國ノ委任統治ニ歸スルコトハ歸シテモ、其占領國ノ如何ニ依ッテ、差別ヲ立テ、此委任統治ノ權限ノ範圍ヲ定メルト云フガ如キコトヲ報ズル者モアリマス、果シテ事實ノ真相如何デアリマセウカ、又近日傳フル所ノ電報ニ依リマスレバ、此占領地ヲ國際管理ノ下ニ置クト云フコトニ對シテハ、帝國派遣ノ全權委員モ、之ニ調印ヲシタト報ズル者モアル、又否ナ然ラズト傳フル者モアル、是等毎日外國ヨリ達スル所ノ電報ハ、各、異ナル意味ヲ傳ヘルノデゴザイマシテ、吾々ハ果シテ孰レヲ信ズベキカ、孰レヲ信ズベカラザルカ、其撰擇ニ惑ッテ居ルノデアリマス、唯、吾々ガ惑ッテ居ルノミナラズ、國民一般ガ惑ッテ居ラウト思フノデアリマス、國民ノ疑ハ即チ是ヨリ起ルノデアリマス、殊ニ帝國ノ面目トシテ、頗ル重大ナル事件デゴザイマスカラ、國民ハ又甚ダ此外國電報ノ傳フル所ニ疑惑ヲ懷イテ居ル、事實ノ真相甚ダ明瞭ヲ缺クノデゴザイマス、凡ソ外交ノ事タル、國民ノ有力ナル後援ヲ得テコソ、始メテ其效用ヲ完ウスルノデゴザイマシテ、殊ニ今般ノ講和會議ノ如キハ、各國ノ委員皆ナ其國民ノ後援ニ依ッテ其力ヲ逞シウスルコトガ、出來ルノデゴザイマスカラ、或政府ハ此際事ノ真相ヲ明ニシテ、國民ノ輿論ヲ喚起シ、指導シ、而シテ之ヲ後援トシテ列國會議ニ臨ムコト、極メテ國家ニ必要ナル事ト考ヘル、勿論外國電報ノ傳フル所、吾々必ズシモ是ニ信ヲ置ク譯デゴザイマセヌ、併ナガラ孰レヲ信ズベキカ、孰レヲ信ズベカラザルカ、事ノ真相果シテ如何ニナッテ居ルカ、今日巴里ニ開カレテ居ル所ノ列國會議ナルモノハ、新聞

ノ傳フル如ク所謂豫備會議デアリマシテ、此豫備會議ニ於テ決スル所ハ、勿論確定ト謂フベキモ
 ノデハナク、正式ノ講和ノ本會議開カレテ、其決定スル所ガ即チ確定義デアリマシテ、其間ニマ
 ダ此豫備會議ハ如何ニ決定シヤウトモ、本會議ノ決定マデハ十分外交ノ働ヲ爲ス餘地ガアルノ
 デアリマスルカ、或ハ今日ノ會議ハ、豫備會議トハ云フモノ、列國ノ全權委員ガ其意見ヲ集メ
 テ決定シタ事ハ、本會議ニ至ッテモ、尙ホ極メテ有力ナル確定案トナッテ現レルノデナイカ、其邊
 ノ事情ハ、勿論列國ト交渉中ノ案件ヲ此公開ノ席上デ政府ガ公表セラル、コトハ、頗ル困難デア
 リマセウガ、今日ノ狀況、日本ノ面目ニ掛ケテ、頗ル重大ナル關係ヲ有スルノデゴザイマシテ、國
 内ノ人心ハ隨ッテ此外國ノ電報ニ疑惑ヲ懷イテ、殆ド兢々タル有様デアリマスカラ、事ノ大要ヲ
 明ニシテ國民ノ疑惑ヲ釋キ、而シテ國民ノ輿論ヲ統一シテ、此統一シタル輿論ノ勢力ヲ後援トシ
 テ、外交ノ働ヲ逞シウセラレンコトヲ、吾々ハ切ニ政府ノ當局ニ望ムノデアリマス、此意ヲ諒セ
 ラレテ、原總理大臣ヨリ、何卒明快ナル御答辯ヲ煩サンコトヲ望ムノデゴザイマス
 之ニ對シ原國務大臣ハ直ニ口頭ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

唯今武富君ヨリ質問ノ趣意ヲ御演說ニ相成リマシタ、能ク質問ヲ提起セラレタル御趣意ハ了解
 致シマシタ、此事ハ私モ武富君ト御同感デ、極メテ重大ナル事柄ト考ヘマスガ、今日ノ時代ニ於
 テ、外交上其他ノ關係ニ於テ御答辯シ得ル限リハ、茲ニ私ハ御答辯ヲ致サウト思フ、ソレニ付キ
 マシテ少シク大體ヨリ申サナケレバ、御了解ヲ得ルコト困難ト思ヒマスガ、此講和會議ナルモノ
 ハ、一兩度新聞記者等ノ傍聽ヲモ許シテ、會議ヲ開キタルコトガアリマス、ソレハ其狀態其有様、
 固ヨリ傍聽ヲ許シマスカラ公表致シタノデアリマス、其他ノ會議ハ五大國ノ豫備會議デアリマス、
 此五大國ノ豫備會議ナルモノハ公表致シマセヌ、其中公表致シテ差支ナイト云フ事柄ハ、各國ヨ
 リ公表致サズシテ、佛國ニ於テ之ヲ擔任致シテ公表致シテ居ルノデアリマス、故ニ此豫備會議ノ
 有様ハ、何レノ國ニ於テモ公表致シマセヌ、隨テ我國ニ於テモ之ヲ公表スルコトハ出來兼ネマス
 ガ、之ヲ公表致サナイ爲メニ、種々ノ說ガ各新聞紙等ニ依ッテ傳ヘラレルノデアリマス、公表致ス

コトガ出來レバ、是等浮說流言ノ起ルコトモ自然減少致シマセウケレドモ、公表致サザル爲メ
 ニ是ハ起リマス、ケレドモ此會議ノ内容ヲ公表致サヌト云フ事ハ、列國ノ申合デゴザリマスカラ
 遺憾ナガラ之ヲ公表スル譯ニハ參リマセヌ、去リナガラ茲ニ私ハ大體ノ事ヲ申シテ置キマスル
 ガ、國際聯盟ト云フ事ハ、此會議ノ問題ノ一デアリマスガ、是ハ何等決定シタル事ハアリマセ
 ヌ、隨テ如何ナル形ニ具體的ニ、如何ナル案件ニ國際聯盟ナルモノハ成立致スヤ否ヤ、全ク未定
 デアリマス、ソレカラ各占領致シタ所ノ領土ニ關スル問題デアリマスルガ、此事ニ付テハ如何ヤ
 ウニ相成ッテ居ルト云フコトハ、内容ニ互リマスカラ申兼ネマスケレドモ、問題ノ性質ハ斯様ナ
 ルモノデアリマス、土耳其ノ領土ヲ首メト致シマシテ、敵國ノ領土、歐洲ニモアレバ、阿弗利加
 南洋諸島等ニ散在致シ居ルコトハ、御承知ノ通りデアアル、之ヲ如何ヤウニ處分致スカト云フ事ニ
 付テハ、今日決定致シテ居リマセヌガ、之ニ對スル一ノ問題ハ、國際聯盟ノ委託ニ依ッテ、各國
 ニ於テ此委託ヲ受ケ所謂受託ノ國々ニ於テ、之ヲ統治スルガ宜カラウト云フ案ガ一ツ出テ居ル
 ノデアリマス、此案ハ未ダ決定シテ居リマセヌ、之ヲ要スルニ國際聯盟ノ問題モ全ク決定ヲ致シ
 テ居リマセヌカラ、其實體如何ナルモノニ相成ルト云フ事ヲ、茲ニ豫言スルコトハ出來兼ネル狀
 態デアリマス、又此國際聯盟ノ委託ニ依ッテ、ソレノ國々ニ於テ受託ノ名儀ニ依ッテ統治スルト
 云フ案ハアリマスケレドモ、此案ガ未ダ決定致シテ居リマセヌ、是ダケノ事ハ列國申合ノ範圍ニ
 モ觸レマセズ、又世間ニ公表致シテ、國民ノ了解ヲ得テ差支ナイト思ヒマスカラ、是ダケノ事ヲ
 御答致シマス、要スルニ是等ノ問題ハ、種々ニ決定致シタ如ク傳ヘマスケレドモ、問題ノ真相ハ
 唯今申シタ通り、未ダ是ガ決定致シテ居ラヌト云フコトヲ申シテ置キマス

一〇 林原制限地開墾ニ關スル質問

一 森林原野制限地ヲ開墾セムトスルニ其ノ手續繁雜ニシテ開墾上支障アリ之ヲ簡易ニシ開墾
 ヲ助成スルノ意思ナキカ

二 國有林野中開墾適地ノ調査上往々不正確ノ點アリト認ム改良ノ意思ナキカ

三 耕地接續地ノ山林官民有地蔭切リヲ爲シ光線採取ノ充實ヲ圖ラサレハ生産上障害アリ蔭切リ獎勵ノ方法ヲ講シアルカ

八年二月四日森本是一郎君ハ右質問主意書ヲ提出ス其趣旨辯明ニ先立チ同月二十日山本國務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 森林原野ノ開墾制限地ハ森林法ノ規定ニ依リ主トシテ治水上ノ必要ニ基キ之ヲ設ケタルモノニシテ之カ開墾ハ其ノ影響スル所重大ナルヲ以テ地方長官ヲシテ之カ許否ヲ認定セシムルヲ最適當ト認ム而シテ其手續ハ支障ナキ限リ簡易ナラシムルヲ期シ居レリ

二 國有林野中ノ開墾適地ニシテ大正二年ニ調査シタルモノハ豫備的ノ概查ニ過キサリシヲ以テ固ヨリ正確ナルヲ期スヘカラス依テ其ノ處分ニ際シテハ更ニ之カ精査ヲ遂ケタル上夫々開墾ヲ條件トスル處分ノ實行ヲ爲シツ、アリテ其ノ調査上努メテ遺憾ナカラムコトヲ期シ居レリ
三 耕地ニ接近スル山林ニ付テハ農作物ニ障碍ヲ與ヘサラシムル爲國有林ニ於テハ適當ノ間隔ヲ置キ植林シ又ハ蔭切リヲ爲シ居レリ民有林ニ在リテハ慣行ニ依リ相當實行セラレ居ルモ尙一層之ヲ獎勵セムトス

一一 青年指導ニ關スル質問

青年ノ指導ハ統一の方針ニ由ルヲ可トスルカ將タ又統一スルノ必要ナシトスルカ政府ノ執ラムトスル指導方針ノ明示ヲ望ム

八年二月四日田中萬造君ハ右質問主意書ヲ提出ス同月二十五日其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ床次及中橋兩國務大臣ハ同日書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

政府ハ青年ヲシテ健全ナル國民善良ナル公民タル素質ヲ得シムルヲ以テ青年團體指導ノ方針トシ而シテ之カ實施ノ方法ニ至リテハ地方ノ情況ニ應シ其ノ宜シキヲ制セムコトヲ期シツ、アリ

一二 國民思想ノ善導ニ關スル質問

今ヤ世界ノ思潮ハ急激ナル變化ヲ來シ我カ國民思想亦安定ヲ缺ケリ去レハ之カ指導宜シキヲ得レハ復悔ユトモ及フ能ハサル危險狀態ニ陥ルノ虞アリ政府ハ之カ善導ニ關シ如何ナル方針ヲ有セリヤ

八年二月四日田中善立君ハ右質問主意書ヲ提出ス同月二十五日其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ床次及

中橋兩國務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

政府ハ人心ノ嚮フ所ニ鑑ミ益々各般ノ施設ヲ整備シ以テ健實ナル思想ノ誘導ニ努力セムトス

一三 食糧政策ニ關スル質問

食糧不足ニ對スル政策トシテ政府ノ説明ニ依レハ輸入關稅撤廢ニヨリテ當面ノ不足ヲ救濟シ開墾助成ニヨリテ後年ノ自給ヲ謀ルト云フニ在ルモ此ノ如キ方策ニテハ到底我カ國民ノ膨脹力ニ伴フヘキ確實ナル食糧供給ヲ爲シ得ヘカラスト信ス

政府ハ當面ノ不足供給ハ勿論永遠ノ供給ニ互リテ更ニ確乎タル成案ヲ示サレムコトヲ望ム

八年二月四日小橋藻三衛君ハ右質問主意書ヲ提出シ三月四日(二月二十五日延期)其ノ趣旨ヲ辯明ス

食糧政策ニ就キマシテハ、本會議並ニ委員會等ニ於キマシテ、屢々質問應答ヲ繰返サレタノデアリマスルガ、要スルニ政府ノ今日マデ明言サレテ居ル所ノ御意見ト致シマシテハ、當面不足ノ物ヲ補給スルト云フコトニ付キマシテハ、關稅ノ撤廢、或ハ雜穀ノ廢減稅等ニ依ッテ、輸入ヲ潤澤ニスルト云フコトニ依ッテ補充ヲ致シ、又永年ニ互ッテノ自給自足ノ策ト致シテ、助成法等ニ依ッテ耕地ヲ増加致シテ、之ニ依ッテ食糧ノ自給自足ノ途ヲ立テ、斯ウ云フ事ヲ明言致サレテ居ルノデアリマスル、今日政府ノ言明ヲ致サレテ居ル所ハ、吾々ハ洵ニ結構ナ事トハ考ヘマスルガ、之ニ

依ッテ當時不足ノ問題ガ、果シテ十分ニ補充シ得ラル、ノデアアルカドウカヲ、此脅サレタル食糧問題ガ、果シテ安定ヲ得ルノデアアルカドウカト云フコトニ就キマシテハ、多大ノ疑ヲ存シ、六千萬ノ國民ハ、決シテ是デ安心ヲ致スト云フ譯ニハ參ラヌノデアリマス、尙又此開墾助成法等ニ依テ、永年ニ互ッテ自給自足ノ策ヲ立テ、御計算ニ就キマシテハ、我カ日本民族ノ大ナル膨脹力ニ伴ッテ、果シテ遺憾ナキヤ否ヤト云フコトニ就テハ、是亦多大ノ不安ヲ感ジ、多大ノ缺陷ヲ感ズルノデアリマスカラ、爰ニ政府ニ向ッテ、更ニ根本的ノ政府ノ懷抱サレテ居ル所ヲ、今少シ突込シテ伺ヒタイト考ヘルノデアリマス、デ先ヅ此米ノ不足ノ原因ガ、如何ナル事情ノ下ニ不足ヲ致シテ居ルカト云フコトヲ考ヘルト云フコトハ、此食糧問題ニ就テ、最も重要ナル事ト考ヘルノデアリマスガ、政府ハ此不足スル事情ヲ、如何ニ御覽ニナッテ居ルノデアアルカト考ヘタノデアリマス、デ是マデ政府ノ言明致サレテ居ル所ニ依リマス、數年間ノ米ノ不足ハ、約二百萬石平均、ソレガ昨年ノ如キ殆ド六百萬石内外ノ不足ヲ告ゲタ、即チ六千萬石ノ米ガアッテ、此日本開關以來ノ最高値段ヲ現シタノデアリマス、而シテ其米ノ在高モ、日本開關以來ノ最高ヲ示シタニ拘ラズ、非常ナ空前ナ高値ヲ現シタノデアリマス、デ此理由ハ十五億幾千萬圓ト云フ、是又開關以來未曾有ノ通貨ノ膨脹デアッタコトガ、一ツノ大ナル原因ニ相違ハナイケレドモ、ソレヨリモ更ニ痛切ナル理由トシテハ、矢張需給關係ヨリ來タト云フコトハ、爭ハレナイ事實デアルト考ヘルノデアリマスガ、一昨年ノ作柄ハ、確ニ平作以上ノ豐作デアッタノデアリマス、ソレニ持ッテ來テ、朝鮮或ハ臺灣等ノ殖民地ヨリ移入ノ物ガアリ、或ハ海外ヨリ輸入シタ物ガアリ、一昨年ヨリ持越シタ物ガアル、アッタニ拘ラズ、斯ノ如キ米ノ不足ヲ訴ヘタト云フコトノ理由ヲ考慮致シテ見マスルト、從來此我國ノ米ハ、一人約一石ノ消費ト云フコトニナッテ居リマシテ、二千萬ノ人口ノ時代ニハ二千萬石ノ米ヲ收穫致シテ居ル、ソレガ三千萬トナリ、四千萬トナリ、五千萬トナッテ、大低人口ニ對スル一石ノ米ヲ收穫ヲ得タモノデアアルニモ拘ラズ、此人口ヨリ非常ニ突飛ニ昨年消費セラレタ所ノ原因ヲ考ヘテ見マスルト云フト、食糧問題ノ恐ルベキモノヲ發見スルノデアリマス、即チ是ハ我カ國民ノ或ル部分ニハ確ニ米食ヲシナイ、麥若タハ雜穀、或ハ甘藷ノ類ヲ喰ベテ、米

ヲ喰ベナイ者ガ昨年ニ至ッテ非常ニ米ヲ喰ベタト云フコトノ事實ハ見逃スベカラザル一大原因
 デアルト考ヘマス、此戰亂ノ結果、麥、小麥或ハ小麥粉ノ如キ物ヲ莫大ニ海外ニ輸出ヲ致シテ、
 之ガ爲メニ麥ノ價ガ非常ナル騰貴ヲ致シテ、麥ト米トノ差額ガ甚ダ接近ヲ致シタト云フコトニ
 於テハ、美味クナイ麥ヲ食フヨリハ、又二度炊ヲスル面倒ナ麥ヲ食フヨリハ、寧ロ米ノ方ガ便利
 デアルト云フノデ、此米ヲ非常ニ費消スルト云フコトガ、一ツノ原因トナッタニ相違ナイト考ヘ
 ラレマス、又一ツニハ諸工場ノ勃興シタト云フコトハ、一ツノ大ナル原因デアアル、職工ノ如キモ
 亦殆ド二倍ニ近イ増加ヲ致シテ、此百萬ニ近イ職工ガ非常ニ米ヲ費消スル、是ハドウ云フ譯デ
 アルカト申シマスレバ、其職工ハ從來雜業ニ從事シ、若クハ農業ニ從事シタ者ガ職工ニナルト云
 フト、非常ニ美食ヲ致シ良イ米ヲ食フト云フコトハ、確ニ米ノ食量増加ヲ致シタト云フコトノ、
 大ナル原因ニナルノデアラウト考ヘルノデアリマス、デ是等ノ勞働者ガ、一箇年ノ收入ハ、確ニ
 低級ナル高等官、或ハ議員ノ歳費以上ノ收入ヲ彼等ガ得ルノデアリマス、而シテ是等ハ食事ニ付
 テ非常ニ贅澤ヲ致シ、美イ食事ヲ致スト云フコトハ、確ニ其量ガ從來ヨリ増加シテ居ルト云フコ
 トハ、爭ハレナイ事實デアリマス、戰前ニ於テ勞働者ノ心掛ノ良イ者ハ、銀貨ヲ質ニ置イタト云
 フ例ガアリマス、金ハ直チニ費消スルガ故ニ、之ヲ質ニ置イテ、一日勞働シテ其得タル金ヲ以テ
 受出シテ歸ッタト云フコトハ、往々聞ク所デアッタノデアリマス、即チ銀貨ヲ崩セバ早ク費消スル
 ト云フコトヲ虞レテ、斯様ニ節約勤儉ヲ致シタノデアアル、然ルモノガ此世間ノ景氣ニ連レテ大ナ
 ル收入ノアル時代ニ於テハ、四碗ノモノガ五碗喰ベル、或ハ三碗ノモノガ四碗喰ベルト云フコト
 ヲヤル爲メニ相違ナイ、一碗ノ増減ヲバ、二割、二割五分ノ増減ヲ來スガ故ニ、此幾百萬幾千萬ノ
 者ノ一割二割三割ト云フ食事ノ箸ノ上ゲ下シハ、非常ナル費消ニ相違ヲ來タスト云フコトハ、爭
 ハレヌ事實デアルト思フノデアリマス、サウシテ世間ノ景氣ノ好イ時ハ、鮭屋ガ繁昌ヲ致シ、不景
 氣ノ時ハ、鰻屋ガ繁昌ヲ致ス、世間ノ景氣不景氣ハ、鮭屋ト鰻屋ト繁昌ニ依ッテ分ルト云フ、此
 「パロメーター」ニナルト云フ事實モ全ク是ハ間食ノ結果デアアル、即チ斯様ナル事ニ依ッテ、費消
 ノ量ガ非常ニ増シテ居ルガ故ニ、即チ一人一石ト云フ率デハ、連モ治ラナイ、故ニ五百石六百石ト

云フ大ナル缺陷ヲ生ズル、而シテ今年ノ如キモ、確ニ昨年ノ不足額位ノモノハ不足スルモノト見
 ナケレバ相成ラヌノデアリマスガ、今之ヲ補充スル方法ト致シマシテハ、朝鮮臺灣ノ如キ殖民地
 ヲリ約三百萬石、ソレカラ海外ヨリ百四五十萬石、又端境期ニ持越シタルモノガ百萬石、是デ約六
 百萬石ニ近イモノガアッテ、サウシテ此不足ヲ當面ノ不足ハ補充ガ出來ルト云フコトニナッテハ
 居リマスガ、併シ果シテ是ガ豫定ノ通りニ行ケルノデアアルカドウデアアルカ、最近ハ成程定期米ノ
 如キハ非常ニ下ゲテ居リマス、併ナガラ正米ハ餘リ下ゲテ居ナイノデアリマス、サウシテ臺灣ノ
 如キ、或ハ朝鮮ノ如キ、内地ニ移入スルト云フコトニハ、隨分反對ノ聲ガ高イノデアリマス、又支
 那ノ如キハ、即チ防穀令ニ依ッテ米ヲ持出スト云フ事ニハ、反對ヲ致シ、蘭貢、柴棍、東京、暹羅ヲ通
 ジテ、約二千萬石ノ輸出力アリト稱シテ居リマスガ、其二分ノ一ノ輸出力ヲ持ッテ居ル所ノ蘭貢
 ハ、印度ノ饑饉ニ依ッテ全ク輸出禁止ヲ致サレテ居リマス、又安南暹羅ノ如キ船腹其他ノ關係ニ
 依ッテ、餘リ抄々シイ輸出ヲ見ルコトガ出來ナイ、唯、殘ル所ハ其四分ノ一ノ輸出力ヲ持ッテ居ル
 柴棍方面デアリマスガ、是ハ此各所ノ注文ガ殺到致シタ爲メニ、隨分價格モ騰リ、サウシテ又此
 日本ニ對シテ輸出スルト云フコトハ、最近ニハ幾ラカ緩和セラレタト云フ情報モ傳ハテ居リマ
 スケレドモ、先月ノ如キハ傳染病ノ流行地ト認メタト云フコトガアリマスルガ、非常ニ猛烈ナ流
 行地ト云フコトニナルト、此物ヲ日本ヘ輸入スルト云フコトハ、或ハ困難ヲ來シハシナイカ、斯
 ノ如ク考ヘテ見マスルト、現在ノ唯、此輸入税ヲ撤廢スルトカ、或ハ此ノ雜穀ノ輸入税ヲ廢減ス
 ルトカ云フコトニ依ッテ、安全ニ十分ニ輸入シ得ルヤ否ヤト云フコトハ、甚ダ前途ガ氣遣ハレル
 次第デアリマス、又此開墾助成法ハ成程結好ナ事デアリマスケレドモ、近事農業ヲ廢メテ商工
 業ニ走ルト云フコトハ、一般ノ傾向デアリマス、是ハ勞力ニ對スル收入ノ率ヲ他ノ職業ト比較シ
 テ見ルト、或ハ此勞働ノ狀況ヲ他ノ職業ノ生活状態ト比較シテ見ルト云フ上カラ、斯様ナ現象ガ
 續々現レ來ッテ居ル譯デアリマス、サウ致シテ居ルト云フト、果シテ此政府豫定ノ通りニ、此開墾
 助成杯ガ旨ク進行スルカドウカ、假リニ之ガ旨ク進行ヲ致スト致シマシテ、十五年ノ後ニ二十五
 萬町歩ノ開墾地ガ、舊來ノ熟田ト同一ノ收穫ヲ見ルコトハ、困難デアリマス、假リニ之ヲ一段一石

ノ收穫ヲ得ルモノト致シテ、五百萬石ニ過ギナイノデアリマス、然ルニ一方十五年ノ後ノ我國民ノ膨脹スル數ハ約一千二百萬人ノ増加ヲ致スコトハ、確カデアルト考ヘマス、左様致シマスルト一千五六百萬石ノ米ヲ要スルノデアリマス、開墾助成法ガ完成致シテ、五百萬石ノ米ヲ得タト致シテモ、増加シタ人口ノ三分ノ一ノ食糧ヲ得ルコトガ漸クノ事デアリマス、到底此十五年後ニ於テ、自給自足ハ思モ依ラヌ事デアルト考ヘルノデアリマス、更ニ五十年後ヲ考ヘマスルト云フト、吾々今日ノ人口ハ確ニ二倍以上ニ増加スル、即チ一億二千萬人ト相成ル、一億五六千萬石ヲ要スルコトニナルノデアリマス、更ニ百年後ヲ考ヘマス、今日ノ人口ノ確ニ四倍以上ニ相成ル、即チ二億五六千萬人以上ニ増加ヲ致ス、殆ド三億萬石ニ近イ米ヲ要スルノデアリマス、如何ニ我國ガ自給自足ノ方法ヲ立テルト致シマシテモ、此限リナキ國民ノ膨脹力ニ伴フ自給自足ハ思モ依ラヌ事デアアル、然ラバ如何ニシテ之ニ對シテ食糧ノ安定ヲ得ルカト申セバ、先ヅ當面ノ急ヲ救フ安定法ト致シマシテ、何故ニ政府ハ此植民地タル臺灣、朝鮮ハ固ヨリ、支那方面ニ向ッテ、技術ト資力トヲ注イデ、此當面ノ急ヲ救フト云フコトヲ御講ジニナラナイノデアリマスルカ、朝鮮ノ如キハ水田約百二十萬町歩、而シテ其得ル所ハ一千二百萬石ニ過ギナイノデアリマス、即チ一反一石デアリマス、之ヲ大ナル經費ヲ掛ケテ、水利灌漑ヲ致スコト云フ事ハ、暫ク差控ヘルト致シマシテモ、内地ノ熟練シタル技術家ヲ送り、而シテ又此内地ノ如キ立派ナル肥料ヲ之ニ施スト云フコトヲ講究致シタナラバ、朝鮮ニ於テ五割六割ノ增收ヲ得ルコトハ、何デモナイ事、即チ五六百萬石ノ增收ヲ得ルコトハ容易ナ事デアリマス、少シ之ニ力ヲ加ヘルナラバ、殆ド今日ノ二倍ノ米ヲ得ルコトハ、左程難事デハナイノデアリマス、又支那ノ如キモ、成程今日ハ防穀令ヲ布カザルヲ得ナイ、大ナル輸出ヲ致セバ、支那自體ノ食糧不足ヲ來スガ故ニ、是ハ固ヨリ當然ノ事デアリマス、併ナガラ我國ノ最モ世界ニ於テモ特絶致シテ居ル所ノ米作ノ技術、此技術家ヲ支那ニ送り、或ハ日支共辦ニ依ッテ此肥料會社ヲ立テ、サウシテ日本内地ノ米價ヲ脅ス程ノ事ヲヤツテハイケナイガ、國ガ要スル三百萬石ナラ三百萬石、五百萬石ナラ五百萬石、我國トノ協調ヲ保ッテ、此支那方面ニ於テ技術ト肥料ヲ相當ニ施スト云フナラバ、相當ナモノヲ得ルコトガ出來マス

是ハ江蘇、浙江或ハ安徽ノ方面ニ於テ、此手段ヲ施スナラバ、恐クハ二十年二十年後ニ米ヲ得ルト云フコトハ、左程難事デハナイト考ヘルノデアリマス、此點ニ就キマシテハ非常ナル考慮ヲ要スルト云フコトハ、前年此米國、或ハ英國等ガ、亞米利加、印度等ノ棉政策ニ依ッテ日本ヲ苦メテ以來、我國ノ棉ノ供給ハ、朝鮮、支那方面ニ待タナケレバナラナイト云フコトハ、識者ガ唱ヘテ居リナガラ、未ダ實現ヲ致サナイ今日ノ狀態デアリマス、然ルニ最近ニ至ッテ「マンチエスタ」ヲ始メ英吉利ノ各地ノ商業會議所、或ハ米國ノ實業家、當局者等ガ、盛シニ其技術ト其資本トヲ持ッテ、支那方面ニ出掛ケテ、棉ノ調査ニ取掛タト云フコトハ、恐ルベキ出來事ナリト思フノデアリマス、若シ日本ガ一步ヲ遅レルナラバ、彼等ハ或ハ先米作ニ就テモ、先鞭ヲ著ケナイトモ限ラナイノデアリマス、故ニ我國ハ宜シク此食糧政策ノ安定ヲ圖ラントスルナラバ、或ル程度ノ技術ト資力トヲ注イデ、此植民地、支那方面ニ於テ相當ナル施設ヲスルコトガ必要デハナイカ、政府ハ此點ニ就テモ、何等カノ御考慮ガ有ルノカ無イノカト云フコトヲ伺ッテ見タイノデアリマス、又我國ノ食糧問題ハ、決シテ斯様ナ姑息ナ事ニ依ッテ最後ノ決定ハ著カナイノデアリマス、何故ナラバ、五十年後ニ今日ノ人口ガ二倍シ、百年後ニ四倍以上ニ増加スルト云フコトニ於テハ、如何ニシテモ此人口問題ノ解決ヲ著ケナケレバ、食糧ヲ安定セシメルト云フコトハ、到底出來ナイノデアリマス、然ルニ彼ノ歐米ノ政策家ハ、現ニ巴里ニ於ケル此講和會議ニ於テ、確ニ人種ノ差別待遇撤廢ヲ斥ケテ、彼等ハ之ヲ肯カナイト云フコトガ傳ッテ居ルノデアリマス、一面顧ミレバ、歐羅巴戰亂ノ真最中、彼レ聯合國ハ猫ノ手モ杓子ノ手モ借リタイト云フ時ニ於テ、我が日本ノ努力ニ依ッテ、非常ナル聲援ヲ得タト云フコトガ現ニ有ル、其當時ニ於テ彼レ英吉利ハ、日本ノ莫大小輸入ノ禁止ヲ致シタノデアリマス、此時ニ於テ亞米利加ガ其裏面ニ於テ如何ナル活躍ヲ致シタカト云フコトハ、即チ慧眼ナル識者ハ夙ニ看破致シテ居ッタコトデアリマス、其後亞米利加ガ此鐵ノ輸出禁止ヲ致シタ、決シテ彼ハ鐵不足デハナイ、鐵ハ有リ餘ッテ居ルニモ拘ラズ、鐵ノ輸出禁止ヲ致シテ、日本ヲ苦メタノデアリマス、此時ニ於テ英吉利ガ其裏面ニ於テ如何ナル活動ヲ致シタカト云フコトモ、慧眼ナル識者ハ夙ニ看破致シテ居ッタ事デアリマス、又最近ハ此英

吉利ハ固ヨリ亞米利加杯ノ大資本家大銀行家ハ、一致協同、非常ニ恐ルベキ堅實ナル計畫ヲ以テ露西亞殊ニ西伯利方面、支那方面ニ向ッテ、經濟上ノ侵略ヲ試ミント致シテ居ルノデアリマス、即チ彼等ハ我國ノ此張出スベキ植民地方面ニ於テハ、總テ之ヲ禁止致シテ、而シテ彼等ハ此自分ノ經濟戰ヲ思フ儘ニ進メテ居ル、即チ軍國主義ノ此獨逸ノ遣方ヲ打破ッテ、即チ鐵血の帝國政策ヲ右ノ手ニ於テ破ッテ、左ノ手ヲ以テ經濟的帝國主義ノ旗ヲ進メツ、アルノデアリマス、此所謂列國平和會議ニ於テ、國際聯盟ヲ唱へ、軍備制限ヲ唱へ、海洋ノ自由ヲ唱へマシテ、此經濟的ノ自由自在ナル侵略主義ノ制限ヲスルト云フコトデナク、又人種的差別待遇ノ撤廢ヲスルト云フコトデナケレバ、決シテ眞ノ平和、眞ノ幸福ト云フモノヲ得ルコトガ出來ナイ、殊ニ我國ノ此食糧問題最後ノ解決ハ、到底著カナイト信ズルノデアリマス、諸君、我國ガ此二十七八年戰役ガ終リマシテ、朝鮮ノ國ニ初メテ日本國人ガ入ッテ、朝鮮ノ溝ニ鰻搔一挺ヲ下ゲテ參リマスルト、一日ニ二十貫三十貫ノ鰻ヲ得タノデアリマス、所ガ不思議ニ其朝鮮ノ鰻ハ、頭ガ非常ニ大キクシテ、胴體ガ細クシテ、此トモ美味クナイ、食スルニ堪ヘナイ、所ガ二十年後ノ今日ニ於テハ、朝鮮ノ溝ニ鰻搔ヲ入レマシテモ、一日ニ纔ニ一貫二貫ノ鰻以上ハ獲レナイノデアリマス、不思議ニ今日ノ朝鮮ノ鰻ハ、頭ガ細クシテ胴體ガ太ク、内地ト變ラナイ非常ニ美味イ鰻デアアル、何故カト云ヘバ、即チ數百年間食糧不足ノ爲メニ、頭ガ太クテ胴體ガ細クナッテ居タノデアリマス、若シ今日ノ如ク人種的差別撤廢ヲ斷行スルコトヲ斥ケテ、一面ニ經濟的ノ帝國主義ヲ進メテ、所謂我國ノ發展スベキ咽喉首ヲ締メルト云フコトヲ、彼レ歐米ノ政治家ガヤルト云フニ付テハ、我國民ハ朝鮮ノ鰻ヲランコトヲ憂フルノデアリマス、斯ノ如キ事ハ、此平和會議ニ於キマシテ撤廢致サナイト云フコトハ、我ガ六千萬ノ熱誠ガ届カナイノデアルカ、或ハ講和大使ノ努力ガ足りナイノデアルカ、彼レ歐米ノ政治家ガ、口ニハ自由平等ヲ唱ヘナガラ、其心ニハ人類共存ノ大意義ヲ理解シナイ爲メニ、斯様ナ事ニナルノデアリマスルガ、此點ニ就キマシテハ、政府ハ如何ナル抱負ヲ持ッテ、如何ナル解決ヲ致シテ、前途永遠ニ互ル此人口問題、食料政策ノ十分安定ヲ圖ルト云フ御意見デアリマスルカ、此點ニ就キマシテ、政府ノ御意見ヲ伺ヒタイノデアリマス、固ヨリ一面此食糧ノ豊

富ヲ計ルト同時ニ食料ノ轉換ヲ行フテ、麥雜穀ヲ食フト云フ事モ宜シイガ、斯様ナ事ハ所謂國民ノ自制ニ待ツノデアリマス、政治家、新聞記者、宗教家、教育家ノ如キ者ガ、青年團デアルトカ、在郷軍人團デアルトカ、會社デアルトカ、學校デアルトカ、各種ノ團體ニ實行ノ出來ルコトヲ指導シテ、國民ノ自制力ニ待タナケレバ、政府ガ唯、一回訓令ヲサレル位デ迎モ行ク事デナイ、併ナガラ政府モ相當ナル方法ニ依ッテ直接間接ニ食糧品ノ轉換ヲ指導獎勵セラル、ト云フコトハ當然ノ事デアリマス、之ヲ約シテ申セバ、政府ハ植民地或ハ支那方面ニ向ケテ、所謂技術ト資力トヲ以テ、今少シ當面ノ食糧不足ヲ補フベキ方法ヲ講ズルト云フ、御意見ガ有ルノデアルカ無イノデアアルカ、此食糧品轉換ヲ指導獎勵スルニ付キマシテ、何等カ御考案ヲ持タレテ居ルノデアルカドウデアアルカ、又所謂人口ノ處分問題ト云フ事ニ就キマシテハ、歐羅巴ノ此平和會議ニ於キマシテ政府ハ如何ナル抱負ヲ以テ、其所信ヲ貫クト云フ御意見デアリマスルカ、此三點ニ就テ明確ナル御意見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス

之ニ對シ床次、山本及高橋各國務大臣ハ書面ヲ以テ三月十日左ノ答辯ヲ爲セリ

政府ハ食糧問題ニ對シテ常ニ深甚ノ注意ヲ拂ヒ銳意對策ノ實行ニ努メツツアリ即チ應急策トシテハ或ハ米ノ關稅ヲ撤廢スルト共ニ極力外米ノ輸入ニ努メ或ハ重要食糧品及肥料ノ輸出ヲ制限シ或ハ食糧農産物ノ増殖獎勵ヲ爲シ或ハ代用食物ノ利用ヲ獎勵シ最近ニ於テハ更ニ麥及麥粉關稅ノ減免ヲ期スル等極力食糧ノ供給増加ニ努メツツアリ恆久策トシテハ耕地ノ擴張ヲ圖ルハ勿論現耕地ノ改良食糧農作物ノ品種及栽培法ノ改良肥料ノ供給増加病害蟲驅除豫防ノ勵行農業倉庫ノ普及農村金融ノ改善優良技術員ノ養成及運輸ノ改善等適切ト認ムル施設ノ實行ヲ圖リツツアルト共ニ朝鮮臺灣ニ於テモ極力食糧品ノ増殖ヲ期スルノ方策ヲ講シツツアルヲ以テ今後益是

等ノ施設ヲ徹底シ以テ食糧ノ供給ヲ潤澤ナラシメントス

一四 外交問題ニ關スル質問

今回ノ講和會議ニ於テ帝國政府カ提出シタル重要事項ヲ國民ニ對シ公表セサル真意如何

八年二月十日押川方義君ハ右質問主意書ヲ提出シ(二月二十五日延期)三月四日其ノ趣旨辯明ニ先チ提出者ハ之ヲ延期ス之ニ對シ三月十日内田國務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

帝國政府ハ講和ニ關スル聯合與國總會議ニ於テ未タ何等講和事項ヲ提案シタルコトナシ之ト同時ニ巴里ニ於テ開催中ナル最高軍事會議五大國協議會及各部委員會ニ於テハ帝國委員ハ夫夫機宜ノ措置ヲ執リツツアルモ前顯聯合與國總會以外ノ諸會議ニ付テハ其内容及經過ハ會議書記局公表ノモノヲ除クノ外之ヲ發表セサルノ約アリ從テ右諸會議ニ提出セラレタル帝國委員ノ意見又ハ主張ヲ公示スルハ妥當ナラスト認ム他ノ聯合與國中亦前記諸會議ニ提出シタル事項ヲ公表セルモノアルヲ聞カス

一五 師範教育ノ振興ニ關スル質問

國民教育ノ發達ト戰役教育ノ振興トニ鑑ミ師範教育ノ大方針ヲ確立セサルヘカラス即チ師範學校ノ組織ヲ改メ一層其ノ程度ヲ高メ充分ニ専門的教育ヲ施スコトヲ得セシメ有力ナル教育ト優

秀ナル生徒ヲ招來スル爲師範教育者ノ待遇ヲ高メ公費生ノ制度ヲ充實セサルヘカラス然ルニ近時地方財政多端ナル結果師範教育ニ充分ノ施設ヲ行ヒ難キ状態ニ在リテ比年入學志望者ノ激減ヲ來シ延テ卒業生ノ資質低下シツツアリ實ニ國民教育上等閑ニ附スヘカラサル大問題ナリト信ス政府ハ之カ善後ノ良策ヲ考慮シ師範教育ニ一大改善ヲ加フルハ意ナキヤ如何

八年二月十日高松正道君外一名ハ右質問主意書ヲ提出シ同月二十五日其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ中樞國務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ辯明ヲ爲セリ

師範教育ノ振興改善ヲ圖ルハ政府ノ深ク思フ致ス所ニシテ益々其ノ内容ノ改善充實ヲ策スルト共ニ優良ナル教員及生徒ヲ斯界ニ招致スルニ付適當ナル方法ヲ考慮シツツアリ

一六 地方税制限ニ關スル法律改正ニ關スル質問

一近時地方ニ要スル政費激増シツアリト雖其ノ收入ノ途少ナキニ依リ何レノ地方自治體モ財源發見ニ吸吸タリ特ニ明治四十一年法律第三十七號ヲ以テ地租割ニ制限ヲ加ヘタルヲ以テ農村ヲ本位トスル町村ニ至リテハ愈財源ノ缺乏ニ苦シミツツアリ此ニ於テカ農村ハ公共團體ニ關スル賦課ノ大部分ハ已ムナク之ヲ戸數割ニ求メサルヘカラサル實狀ニシテ農村居住者ハ其ノ

負擔ノ重キニ苦シミツツアリ且米價騰貴ヨリスル利福ハ少數ノ地主ノ享受トナリ其ノ他ノ農民ノ多クハ物價騰貴ニ苦シミ更ニ戸數割賦課累加ノ弊ニ苦シミツツアリ政府ハ果シテ其ノ實狀ヲ知悉シ居ルヤ否

二戸數割賦課ノ率ハ農村ニ於ケル住民各自ノ貧富ヲ標準トシテ負擔ノ輕重ヲ定ムルヲ以テ本則トスルカ故ニ左ノ弊害アリ

イ 地方ノ大地主ニシテ且自己カ負擔ノ漸ク増加スルヲ壓ヒ同時ニ都會生活ノ簡易ナルヲ便トシ都會ニ移住シ以テ戸數割ノ脱稅ヲ企ツルモノ頻々タルコト

ロ 加フルニ土地兼併ノ風漸ク盛ナラムトシ田圃山林ハ資本家ノ投資目的物トナラムトスル傾向アリ而シテ其ノ資本家ハ多ク他町村若ハ都市ノ在住者ナルカ故ニ土地所在地ノ農村

ハ唯中産以下ノ地主ト小作人トニ依リテ支持スルノ已ムナキニ至リツツアルコトニシテハ小作農ニシテ轉業ヲ爲スモノ増加シ都會ニ轉住スルノ傾向ヲ生シ農村殘留ノ中産者ハ戸數割愈増加シ民力萎縮セムトシツツアルコト

以上ノ弊害ヲ政府ハ知悉シ居ルヤ否

三由來農村ニ於ケル課稅ノ目的物ハ第一土地ニシテ其ノ他ノ零碎ハ殆ト云フニ足ラス然ルニ地租割ノ制限ヨリシテ前項ノ如キ弊害ヲ生シ遂ニ農村自治ノ基礎ヲシテ危殆ニ陥ラシメムトス

此ノ時ニ當リ政府ハ地方稅制限ニ關スル法律ヲ改正若ハ廢止スルノ意志ナキヤ否改正スルトスレハ如何ニ改正スルカ

八年二月十日土井權大君外一名ハ右質問主意書ヲ提出シタルモ同月十二日之ヲ撤回セリ

一七 吉野川改修工事ニ關スル質問

德島縣下吉野川ハ目下國庫支辨ヲ以テ改修工事中ナリト雖築堤工事粗略ニ失シ竣工建設ノ箇所ニ於テモ尙決潰ノ虞アリ此ノ際政府ハ慎重ニ該工事ヲ督勵シ以テ沿岸多數民ノ憂慮ヲ除去スルノ要アリト信ス政府ノ所見果シテ如何

八年二月十日高島兵吉君ハ右質問主意書ヲ提出シ(二月二十五日延期)三月四日其ノ趣旨ヲ辯明セリ

(前略)此吉野川改修工事ナルモノハ、國庫支辨トシテ明治四十二年ヨリ起工致シ、今日デハ七八分通り竣工致シテ居リマスルガ、其工事甚ダ粗漏ニシテ、改修ノ效力ガ更ニ無イ、抑、此河川改修ナルモノ、目的ハ、即チ沿岸一帯ノ地方ノ民ヲシテ、貴重ナル生命ヲ保護シ、尙又殖産興業ヲ促進シ、運輸交通ノ便ヲ圖リ、有ユル此沿岸ニ對シテ進歩發達ヲ期待スベキデアル、然ルニ改修其ノモノガ不完全ニ終ランカ、地方ノ不幸不利益ナルノミナラズ、國家經濟上、多大ナル損失ヲ來ス

譯ニナツテ來ルノデアリマス、從來此吉野川ハ四國三郎ト稱シテ、流域二十五里アツテ、水力水勢ノ急ナルコトハ、大井川或ハ淀川ヲ凌駕スルノデアリマス、故ニ改修ニ當ツテハ、最モ大切ニ、而モ完全ニ終了シナケレバナラヌノデアアル、然ルニ此工事ノ大體ヲ見ルニ、大ニ粗漏極マリ、且ツ改修ニ對シテ不完全ナシテ、河川改修ナルモノハ、浚深ト同時ニ兩岸ニ於ケル、其築堤ナルモノガ、而モ完全ニシテ、衡平的ニ併行シテ實施スルト云フノガ、原則デアアル、斯ク運ビ行ケバ改修中ニ於テ一朝出水ガアルトモ、稍、安全ニ防禦ノ出來ル方法デアアル、然ルニ此吉野川改修ノ築堤其ノモノ、工事ヲ見テ見ルニ、兩岸相併行シテ居ラヌ、北岸ハ甚ダ薄弱デアアツテ、南岸ガ完全ナシテ、是ガ即チ工事其ノモノ、第一歩ヲ誤ツテ居ルモノデアアル、此岸ノ如キハ、尚ホ之ニ對シテ、分派口ニ於ケル運河或ハ閘門ト云フモノモ、モマダ施設ニナツテ居ラヌ、然ルニ一方南岸ハ支流ニ對スル閘門モ出來、出水ト云フ場合ニハ、調節ノ出來ルダケノ餘裕ガ出來テ居ル、殊ニ其北岸ノ如キ工事ニ對シテハ、護岸ニ於ケル堤脚一分ノミガ石卷ニ致シテ、上層ニ於ケル全部ハ固著力ナキ土砂ヲ以テ積上ゲテアルト云フヤウナ形デアアル、昨年ノ秋出水デサヘモ此護岸以上ニ浸水シタノデアアル、故ニ其上ニ於テハ崩壊スルシ、或ハ崩落スルシ、テ、昨年ノ如キハ殆ドモウ決潰セントシタノデアアツタガ、モウ少シ水源地ノ水ガ増加スルナラバ、到底決潰ノ運命ハ免レヌノデアアル固ヨリ此水ナルモノハ、抵抗力ノ薄弱ナル方ヲ突破スルト云フノハ、自然ノ道理デアアル、若シ是ガ決潰シタナラバ、北岸十數萬ノ人口ト數萬町歩ノ立派ナル田畑ニ對シテ、大々的慘劇ヲ來シ、苦境ニ陥ラシメルト云フコトハ免レヌノデアアル、尚ホ上流ノ善入寺川附近ニ對シテハ、幅五百間ニモ足ラヌノモ拘ラズ、順應上其善入寺ニ對シテ、一千間ニ幅ヲ擴メタト、而モ立派ナ良田ヲ以テ遊水地トシテ幅ヲ擴メタ、是ハドウデアラウカ、斯クシナクテモ、兩岸ニ於テ相當ナル防備工事ヲ施セバ結構ナモノデアアル、此立派ナル良田ヲ潰シテ、ソウシテ河川ノ結果ヲ惡クスルト云フコトハ、甚ダ矛盾シタ譯デアラウト思フ、即チ此良田殆ド五百町歩ヲ犧牲ニシテ居ルノデアアル、今日此良田ヲ斯ク皆無ナラシムルト云フコトハ、所謂食糧ノ要素ヲ減殺スルモ道理ハ同ジ事デアアル、洵ニ時節柄大ニ矛盾シテ居ルト謂ハナケレバナラヌノデアアル、是等ニ對シテモ大ニ間ハナケレ

バナラヌノデアアル、要スルニ此吉野川改修問題ノ、斯ノ如ク粗漏ナル點、斯ノ如ク不完全ナル點ニ對シテ、之ヲ總括シテ申セバ、幅モ廣クナツタハ、川敷モ深クナツタハ、築堤ガ高クナツタハト云フ爲メニ、水勢ヲ妨ゲル力ト云フモノハ、大ニナルノデアアル、其大ニナルガ故ニ、若シ決潰ヲスルトスレバ、改修以前ニ比シテ數倍ノ害ヲ被ルコトモ、亦是レ道理ノ然ラシムル所デアアル、斯ノ如キ場合ニ立至ツテ居ルノデアアル、誠ニ改修其ノモノ、效力ハ更ニ無イ、是マデニ八百萬圓ノ起工費ヲ投ジテ、改修セザル前ニ比シテ倍數ノ災害ヲ來スト云フコトハ、甚ダ怪シムベキ話デアアル、金ヲ入レテ却テ金ヲ入レザル——改修セザル前ニ比シテ、數倍ノ災害ヲ來スト云フコトハ、甚ダ怪訝ニ堪ヘナイ、立憲治下ノ怪事ト謂ハナケレバナラヌノデアアル、殊ニ今回ハ又追加トシテ即チ百三十九萬圓ノ改修費ガ見エテ居ルガ、吾々モ亦大ニ之ヲ協賛シナケレバナラヌガ、協賛スルト同時ニ、而モ之ヲ有效ニ且有益使ツテ費ハナケレバナラヌノデアアルニ使用センナラヌト云フコトニ付テ、從來ノ如キ不完全、粗漏ナル方法ヲ一變スル御意見デアアルカ、又從來ノ方法ヲ持續スル方針デアアルカ、又是マデノ築堤ニ對シテ、斯ク決潰ノ徵候ガ現レテ居ル處ニ對シテ、應急策ヲ施スノ御意見ハ如何デアアルカ、又閘門ノ經營設備ガ出來テ居ラヌノニ對シテ、施設經營ナサルト云フコトニ對シテハ、如何ナル御方針デアアルカ、ドウシテモ本年ノ秋ノ出水マデニ、所謂雨降ラザルニ備フヲ綱纏シナケレバナラヌノデアアル、是等ノ防禦ト云フモノハシナケレバナラヌノデアアル、此等ノ改修工事ヲ再改修スルカ、尚ホ此石卷ヲ全部ニ致シテ、尙ホ堅固ニ致スカ、是等ニ對シテ大ニ吾々ハ聽カント欲スルノデアリマス、從來斯ノ如ク改修工事ニ於テ百害百出致シタル所以ノモノハ、官僚的屬僚政治ノ通弊トシテ、國民民福ヲ口ニシテ、實際ニ行ハズ、實際ニ致サズ、唯、官僚的机上ノ形式ニミ拘泥スルヲ以テ、施設ノ方針トシテ改メヌカラデアアル、殊ニ此間違ッテ居ル所ノ方針ヲ以テ金ト玉條ト致シテ居ルノデアアル、吾々ハ豫テヨリ此事ニ對シテ指摘シテ止マヌノデアアル、今回ノ此吉野川改修問題ノ如キハ、所謂官僚的屬僚政治ニ流レテ居ルト云フ活キタ手本デアアル、然ルニ現内閣ハ自ら稱スラク、民意ヲ代表シ、民利民福ヲ増進スルヲ以テ本旨トセラレテ居ルト、果シテ然ラバ斯ノ如キ默スベカラザル所ノ失敗タルベキ方針、此工事ニ對スル

不完全、斯ノ如キ誤ッタ所ノ失政ヲ直チニ改廢シテ、愈々民意の本領ヲ發揮シテ貫ヒタイモノデア
ル、願クハ現内閣ニ於テハ、吉野川沿岸ノ民ヲシテ怨ナカラシメ、枕ヲ高ウシ安心スベキ程度ニ
於テ御親切ナル御答辯ヲ煩ハシタイノデアリマス是ダケヲ……

之ニ對シ直ニ池田政府委員ハ追テ書面ヲ以テ答辯スヘキ旨ヲ述ヘ床次國務大臣ハ同月十日書面ヲ
以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

吉野川改修工事ハ適當ナル工法ニ依リ施行中ニシテ築堤工事粗略ニ失スルコトナシト認ム又昨
年夏季ノ出水ニ際シ流材ノ爲メ築堤竣功箇所ニ僅少ノ損傷ヲ受ケタル部分アルモ決潰ノ虞アル
如キ危險ノ状態ヲ認メス尤モ堤腹ノ保護ニ關シテ目下最善ノ方法ヲ攻究シツツアリ尙ホ流材ニ
關シテハ今後一層其ノ取締ヲ勵行スヘキ見込ナリトス

一八 航空取締ニ關スル質問

航空機關ノ發展ニ伴ヒ歐米各國ニ於テハ既ニ航空法ヲ設定シ殊ニ國際飛行ニ關シテハ多大ノ注
意ヲ拂ヒツツアリ今回ノ講和會議ニ於テモ米佛英伊ノ四大強國ハ航空法案ニ就テ特ニ協議會ヲ
開始シタルハ巴里電報ニ示セルカ如シ然ルニ我カ日本ニ於テハ未タ航空法ニ關スル規定ナキノ
ミナラス巴里會議ニ參加セサル理由如何

我カ日本ニ航空法ノ規定ナキノ奇貨トシテ昨年來外國人ニシテ我カ國內ニ於テ無條件ニテ長距

離飛行ヲ企圖スル者アリ當局ニ於テハ果シテ斯ル行動ニ對シ絶對的危險ナシト思惟スルヤ如何若國
防上多少ノ危險ヲ慮ル者アリトセハ斯ル場合ニ於テ如何ナル手段ヲ取ラムトスルヤ反之萬一國
防上危險ナシトシテ默過シタル後不測ノ事故ニ際會シタルトキハ當局ハ果シテ其ノ責ニ任スルヤ如何

八年二月十二日横山勝太郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ三月四日其ノ趣旨ヲ辯明セリ

航空法ノ制定ニ就テ、極メテ簡單ニ當局ニ質問ヲ致シタイノデアリマス、既ニ海陸軍ニハ航空隊
ガアリマス、ソレカラ民間ニハ帝國飛行協會ナルモノモアリマシテ、現ニ昨年八月五日ニハ、五
十萬圓ノ御下賜金ガアリマシテ、民間カラモ約五十萬圓ノ寄附金ヲ集メテ居ルヤウナ次第デア
リマス、ソレニ就テ第一ニ質問シテ置キタイノハ、外國電報ノ報ズル所ニ依レバ、既ニ巴里ニ
於キマシテ、航空會議ナルモノガ開催セラレタノデアリマスガ、其航空會議ニ對シテ、我日本ノ
使節ハ加入致シテ居ラヌト云フコトニ承テ居リマスガ、何故ニ航空會議ニ參加致シマセヌカ、
其理由、並ニ現今ニ於ケル航空會議ノ經過、並ニ將來我國ハ、之ニ對シテ如何ナル態度ヲ執リマ
スカ、此數點ニ就テ承リタイノデアリマス、第二ニ承リタイノハ、航空法ノ制定ニ關シテ至大ノ
關係ヲ持ツト考ヘマスガ、領海並ニ領土ノ上空ハ自由ナリトノ原則ヲ認メマスルカ、或ハ我國ノ
領海我國ノ領土ノ上ニ於テハ、我國ニ於テ空中主權ヲ持ツテ居ルト云フ主義ヲ執ルカ、此根本義
ニ就テ御説明ヲ煩シタイノデアリマス、航空ハ自由デアルト云フ說モアリマス、即航空ハ自由ニ
スルニ非ズンバ、人類ノ自由ノ行動ヲ妨ゲルト言ヒ、又或ル說ニ依レバ、空中ノ主權ヲ認ムルニ
非ズンバ、領土權ノ本質ヲ完ウスルコトガ出來ナイト言フ、此兩說ガアリマス、當局ニ於テハ、兩說
ノ孰レヲ採ランスルノデアリマスガ、若シ領土領海ノ上空ニ於テ絶對ノ自由デアルトノ原則ヲ認メ
マスト云フト、我日本ノ領土領海ノ上ヲ、他國飛行機飛行船ガ通行致シテモ、之ヲ承認シナケレ

バナラヌ、若シ空中ノ主權ヲ認メルト云フコトニナリマスレバ、他國ノ飛行機飛行船ニ對シテハ何等カノ制限ヲ取ラネバナラヌト云フ結果ヲ生ズルノデアリマス、巴里ニ於ケル航空會議ニ於テハ、絶對自由ノ說ヲ採ルト云フヤウナコトモ聞イテ居リマスガ、若シ果シテ眞ナリトセバ、我帝國ニ取リマシテハ、由々敷キ大事デアルト考ヘマス……英國ニ於ケル民間飛行ノ制限ト云フモノハ、悉ク撤去セラレルカラシテ、余ハ印度其他ノ東洋方面ニ向ッテハ旅客並貨物ノ運送ヲ始メルト云フヤウナ希望ヲ述ベテ居ルノデアリマス(中略)斯ノ如キ次第デアッテ、今カラ數年前ニハ、浦潮斯德カラ、日本ノ飛行機ガ來ルト云フヤウナ話ヲ承ツタ際ニ、殆ド之ニ耳ヲ傾ケル者ハ無カッタノデアリマスガ、今日ニ於テハ、大西洋ノ橫斷ヲ企テル者アリ、既ニ印度方面マデハ、旅客並貨物運送ヲ企ツルト云フヤウナ程度ニマデ、飛行機ハ進歩致シテ居ルノデアリマス、此時此際ニ當ッテ、我國ノ領土ノ上空領海ノ上空ヲ如何ニスベキヤ、當局ノ意見ハ此點ニ就テ、如何ナルモノデアアルカト云フコトヲ承リタイノデアリマス、第三ニハ、此海陸軍ノ國防上、飛行機飛行船ヲ如何ニ取扱ハントスルカト云フ點ニ就テ、實問ヲ致シタイノデアリマスガ、現行ノ法令ヲ見マスルト、明治三十二年ノ法律要塞地帶法ニ於キマシテ、其第七條ニ「何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サルハ要塞地帶内水陸ノ形狀ヲ測量、攝影、摸寫、錄取シ又ハ要塞地帶内ヲ航空スルコトヲ得ス」ソレカラ大正四年法律第十七號ニ依リマシテ多少ノ改正ヲ加ヘマシテ「前項ノ規定ハ要塞地帶外ト雖第三區ノ境界線ヨリ外方三千五百間以内ノ區域ニ於テ之ヲ適用ス」其第七條第二項ノ所謂第三區ト云フノハ、基線ヨリ測リテ二千二百五十間以内ト云フコトニナッテ居リマス、即チ大正四年法律第十七號ノ規定ニ依ル制限尺數ハ、合計五千七百五十間ト云フコトニ相成リマス、第三項ニ於テ「航空ノ許可ニ關シテハ、要塞司令官ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ」ソレハ陸軍省令ト海軍省令トニ依ッテ、規定サレテアリマス、斯ノ如キ次第デアッテ、我國ニ於ケル要塞地帶法ガ、航空ノ問題ニ關シテハ洵ニ貧弱ナル立法ヲ爲シテ居ルニ過ギマセヌ、其他關東州ノ防禦營造物地帶令、是ニモ要塞地帶法同様ノ規定ガアリマス、朝鮮ニモ僅ニ同様ノ規定ガアリマス、即チ飛行機若クハ飛行船ニ關シテハ、我國ノ法令ニ於テ、全ク其規定ヲ缺イテ居ルトハ申シマセヌケレドモ

ガ、海陸軍ノ防備ヲ完ウスル爲メニ必要ト考ヘラレル所ノ法令ト云フモノハ、一ツモ無イノデアリマス、……此點ニ就テ如何ナル御考ヲ御持チデアリマスカ、第四點ニ於テ、唯今申上ゲマシタ、要塞地帶法ノ規定ノ裏面ノ解釋ニ依レバ、要塞地帶法ノ第七號第一項及第二項ニ於テ制限シテアリス以外ハ、日本ノ飛行機ハ勿論ノ事、外國ノ飛行機ト雖モ、飛行船ト雖、自由ニ飛ンデ歩クコトガ出來ルヤウニナッテ居リマス、何トナレバ要塞地帶法ノ規定ハ、要塞地帶ノ上若クハ要塞地帶ノ附近ヲ航行スルコトヲ禁ジタルノミデアッテ、其他ニ付テハ、何等ノ規定ヲ持ッテ居ラヌノデアリマスカラ、此禁令以外ノ場所ハ、自由ニ飛行機モ、飛行船モ、航空スルコトガ出來ルト云フ結論ニ至リハセヌカト考ヘマス、隨テ外國人並ニ内國人ニ對シテ屢々問題トシテ起ッテ居リマス點ハ、所謂長距離飛行ノ問題デアリマス、是等ニ關シテハ一モ取締法規ガ無イノデアリマス、現今ニ於テハドウシテ取締ニナッテ居ルノデアリマスカ、吾々國民トシテ甚ダ憂慮ニ堪ヘヌ點デアアルノデアリマス、第五ハ、此土地所有權ト飛行機飛行船トノ關係、言葉ヲ換ヘテ申シマスレバ、土地所有權ト上空ノ關係デアリマス、是ハドウ云フ工合ニ法律關係ガナルモノデアルト云フコトヲ御認ニナッテ居リマスカ、民法ノ二百七條ノ規定ニ依レバ、日本國民ノ持ッテ居ル所有權ハ、法律或ハ行政命令ノ制限ノ範圍内ニ於テ、土地ノ上下ニ及ブ、此上下ト云フ範圍ハ甚ダ問題デアリマス、上ハ何所マデ行クカ、下ハ何所マデ行クカ、法令ノ制限内ニ於ケル自由ト云フコトヲ認メテ居リマスガ、法令ノ規定ヲ案スルノニ、鑛業法ノ規定ニ於テ、地下ノ鑛物ハ國家ニ屬スルト云フ規定ガアリマス、又狩獵法ニ於テ、空中ヲ飛翔スル鳥類ノ狩獵ヲ許可シ、又地上ヲ走ル獸類ノ狩獵ヲ許可致シテ居リマスカラシテ、此狩獵法ノ制限ノ範圍ニ於テハ、此所有權ノ制限ヲ受ケテ居ルコトハ明瞭デアリマス、又電氣事業法ノ規定ニ依リマスルト、其第十條ニ、電氣事業者ハ必要アルトキハ現在ノ使用方法ヲ妨ケサル限度ニ於テ、他人ノ地上ノ空間若クハ地中ニ電線路ヲ施設スルコトヲ得ト、斯ウ云フ規定ガアリマスガ、此規定以外ニ、日本國民ノ持ッテ居ル所有權ヲ制限シタル法律モ命令モ無イト考ヘテ居リマス、サウスルト此民間ノ飛行機、飛行船ハ勿論ノ事、國家ノ所有ニ屬スル飛行機飛行船ト雖モ、猥リニ個人ノ土地ノ上空ヲ航空スルト云フ事柄ハ、憲法ニ依ッ

テ保障セラレテ居ル所ノ、土地所有權ノ侵害ニナルト私ハ考ヘテ居リマス、此故ニ海軍省ノ飛行船トカ、或ハ陸軍省ノ飛行隊ト云フモノガ、帝都ノ上空其他村落ノ上空ヲ自由自在ニ翔廻ッテ居リマスガ、是ハ如何ナル根據ニ於テ、吾々國民ノ上空ヲ自由自在ニ飛歩イテ居ルノデアリマスカ此法令上ノ根據ヲ承リタイノデアリマス、之ニ關シテモ、至急ニ航空法ヲ制定スル必要ガアルト云フコトハ勿論デアルト考ヘマス、第六ニハ、一般航空法制定ノ必要ト云フコトノ根據ニ就テ、特ニ内務大臣ノ御答辯ヲ願ヒタイノデアリマスガ、理窟ヲ一切止シマシテ、事實ダケヲ爰ニ申上ゲテ置カウト考ヘマス、此飛行機飛行船ノ進歩發達ニ付テ、個人ノ生命財產ト云フモノハ、非常ナル危険ニ頻シテ居リマス、其事例ノ數點ヲ舉ゲマス、私ガ調査致シマシタ所ニ依リマシテモ吾々ノ生命財產ニ對シテ、飛行機ト云フモノガ如何ナル危険ヲ與ヘテ居ルカト云フ事柄ノ、一端ヲ知ルコトガ出來ルノデアリマス、此三四ノ事例ヲ見テモ、亦以テ航空法ヲ制定シテ、飛行機飛行船ノ獎勵ヲ爲スト同時ニ、國民ノ財產、國民ノ生命ヲ保護スル必要ガアルト考ヘマス……殊ニ内國ノ問題ハ姑ク措クトシマシテ、外國トノ交渉デス、即チ外國飛行機飛行船ト云フヤウナモノガ、航空自由ノ原則ニ依ッテ我々帝國内ノ領土海上空ヲ飛行スルト云フヤウナコトガアッテハ、國防上ニ於キマシテモ、多大ナル危険ヲ感ズルノデアリマス、此數點ニ關シテ如何ナル御考慮ヲ御持デアリマスカ、詳細ナル御答辯ヲ御願シマスル次第デアリマス

之ニ對シ内田、床次、田中及加藤ノ各國務大臣ハ三月十三日書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

航空取締ニ關シテハ既ニ現行法規ニ於テ國防上緊急ノ必要ニ應スルモノ之レアリト雖尙國防上及國家ノ安寧並人民ノ保護上他ニ特別ノ規定ヲ設クルノ必要ヲ認メ相當考慮中ニ屬ス又今回ノ講和會議ニ於テ未タ航空法ノ制定ニ關シ特ニ協議會ヲ開始シタルノ事實ナシ

一九 市町村吏員優遇ニ關スル質問

市町村吏員ハ國ノ基礎タル自治中樞ノ最必要機關ニシテ其ノ執ルトコロノ事務ハ教育産業衛生徵稅土木兵事戶籍統計等其ノ大部分ハ國及府縣ノ行政ニシテ國家ノ上ヨリ見ルモ亦極メテ必要ノ公務員タルハ多言ヲ要セス

隨テ其ノ適良ノ人物ヲ得ルハ最緊切ノコトニシテ之ヲ優遇獎勵スルノ途ヲ開クハ目下ノ急トスル所ナルニ拘ラス未タ其ノ實現ヲ見サルハ自治ノ發達振興ヲ圖ル上ニ於テ將タ國運ノ進展隆昌ヲ期スル上ニ於テ頗ル遺憾ノコトタリ

仍テ本員等ハ第四十回議會ニ於テ市町村吏員優遇ノ建議案ヲ提出シタルニ其ノ特別委員會ニ於テ當時當局大臣ハ大體其ノ趣旨ヲ容レ考慮實行セムトノ答辯アリタリ

然ルニ本年ノ紀元節ニ於テ只全國九十餘町村長ニ對シ一級昇勳アリシノミニシテ最多年勤績者ノ極メテ小範圍ニ止リ且助役以下ノ吏員ハ其ノ恩典ニ與カラス此ノ如キハ決シテ其ノ目的ヲ達スル所以ニ非サルナリ

政府ハ他ニ講究計畫スルトコロ無キカ

八年二月十四日荒川五郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ三月四日其ノ趣旨ヲ辯明セリ

私ハ昨年ノ議會ニ市町村吏員優遇ニ關スル建議案ヲ提出致シマシタル時ニ、時ノ當局大臣ハ市町村吏員ノ待遇ヲ善クシテ、之ニ適材ヲ得、且ツ長ク其職ニ安ンゼシムルヤウニシタイト云フコトハ、政府モ氣ニ掛ケテ居ル所デ、其方法ニ就テハ最モ慎重ニ考慮ヲ費シツ、アルガ、今日マデ行ツテ居ル所ヲ言ヘバ、市町村吏員ノ爲メニ、市町村ニ對シテ退隱料、退職給與金等ノ條例ヲ設ケルヤウニ勸誘ヲ致シ、又長ク職ニ在リテ、公共ノ事務ニ勤勉致シ、功勞ノ顯著ナル者ニ對シテハ、褒章條例ニ依ツテ之ヲ表彰シ、又其功勞成績ガ優良デアルモ、未ダ褒章條例ニ依レル表彰スルニ至ラザルモノニ付テハ、明治四十二年以來内務大臣ニ於テ之ヲ選奨シ、以テ一般ニ獎勵ニ努メテ居ル、併シ尚ホ其他ノ優遇法ニ關シテハ、考究シテ實行ニ努メルト云フコトデアリマシタ、其後昨年政府ニ於テ、此件ニ關シテ特ニ考究セラレテ居ルヤウニ新聞紙上ニチラホラ見ヘテ居リ、殊ニ現内閣ニナツテカラ、市町村長等優遇ニ關シ、政府ハ何カ施設スル所ガアルト云フ聲モ高マリ、次デ紀元ノ佳節ニ方ツテ、是ガ實現スル由デアルト云フコトガ傳ヘラレテ居リマシタカラ、私共竊ニ期待シテ居ッタデアリマス、果シテ全國ノ市町村長ニ叙勳ノ恩典ガアリマシタ、ソレヲ見マスルノニ、全國一萬二千ノ市町村長ノ中デ、僅ニ九十五名、然モ二十八年以上勤績デ、二十八年以上勤績ト云フ極メテ永キ勤績者、謂ハ、殆ド市町村制實施以來引續イテノ勤績者バカリニ、此恩典ガアッタデアリマス、此中ニハ市長ハ全國ニ一人モアリマセヌ、又町村長モ一人モ無イ府縣ガ段々アル位デアリマス、甚ダ意外ニ感ジ、且ツ失望致シタノデ、仍テ已ムナク爰ニ質問ヲ提出致シタ次第デアリマス、諸君、市町村ノ事務ハ今更申上グルマデモアリマセヌ、自治ハ一ノ小國家トモ申スベク、國家ノ事務ハ皆ナ市町村ニ於テモ、同ジク同種ノ事務ヲ有シテ居リマス、教育、土木、稅務、衛生、兵事、戶籍、統計等、中、煩雜デ、凡テノ法令ヤ習慣等ヲ諳ンズルコトヲ要スルノミデハナク、其事務ノ中デモ、市町村固有ノ事務ハ僅ニ其一部分ニ止ツテ、大部分ハ悉ク皆ナ國ヤ府縣ノ事務デアリマス、故ニ其名ハ自治ノ吏員ト云フモ、其實執ル所ノ事務ハ、國家ノ官吏ト更ニ異ル所ハナイノミナラズ、唯、國及府縣ノ事務ノ中デ無イト云フノハ、警察事務ガ無イ

位デアリマス、他ハ悉ク關係ガ有ル、新ニ一ノ法令ガ出マスルト云フト、直チニ市町村ニ一ノ事務ガ増シテ來マス、彼ノ先年行ハレタ行政整理ノ如キデモ、行政ヲ整理シテ簡易ニスルニ非ズシテ、官廳ノ事務ヲ押集メテ、之ヲ市町村ヘ持込ムト云フ結果ヲ來シ、年々歲々其事務ハ増シテ來ルバカリデアリマス、此度行ハレル國勢調査ノ如キニシマシテモ、主ナルモノハ市町村長ガヤランケレバナラヌ、此類ノ新事業、新國務ハ續々トシテ年々加ハリ來ルデアリマス、斯ウ云フ場合ニ官廳デハ特別ノ課ヤ係ヲ設ケマスルケレドモ、市町村ハ皆ナ之ヲ一手ニ引受ケナケレバナライ、隨ツテ是等ノ舊イ法、新シイ命令ハ悉ク之ヲ能ク知悉シ、習熟ヲ要スル上ニ、市町村ノ事情、内情、人民ノ程度、貧富等モ悉ク知抜イテ居ラナケレバナライ、上級官廳ト人民トノ間ニ在ツテ、官廳カラハ壓サレ、人民カラハ又色々我儘ヲ言ハレテ、其面倒デアリ煩雜デアルコトハ、他ノ官廳ト決シテ同日ノ論デアアリマセヌ、隨テ之ニ適當ナル人ヲ得ルコトハ實ニ容易デナイ、其六ヶ敷イ市町村長以下助役ノ者ガ、四年改選ノ法トナツテ居リマスカラ、別シテ其人ヲ得テ、長ク其職ニ安ンズルト云フコトハ六ヶ敷イノデアリマス、(中略)況ヤ今日競争ノ激シイ時ニ二度モ三度モ引續イテ當選ヲ致シ、此難儀ナ面倒ナ中ヲ切抜ケルト云フコトハ、隨分人材デ、又誠實デ、我が一身ヲ捧ゲテ努力スル人デナケレバ、到底出來ナイデアリマス、然ルニ官吏ハ十五年モ經テバ敘勳トナル、市町村長ハ二十八年——三十年モ勤績勵精シテ、唯、僅ニ勳六等ト云フコトハ、實ニ比較ニナラヌ話デアアリマセヌカ、私ノ考デハ、市町村長ニモ既ニ勤績ノ年限デ恩典ニ算スル以上ハ、官吏ヨリハ却テ其年限ヲ短クスルノガ相當デハナイカト思フデアリマス、……殊ニ唯、官吏ト云フ名前ガ無イノミデ、官吏ト同ジヤウナ事務ニ執掌シナガラ、其者ニハ大ナル等差ヲ設ケ、差別ヲ立テ、居ル、例ヘバ教員、又此自治ノ吏員ト云フヤウナ者ハ、全ク別物ニ取扱ハレテ居ルト云フコトハ、全體根本ノ考ガ違フト思ヒマス、是故ニ地方制度布カレテ三十年、豫期シタル自治ノ發達ハ一向ニ見ルコトガ出來ナイノミナラズ、其事務ハ地方到ル處滯滞シテ、自然自治ノ活動モ出來ナイ、隨テ其爲メニ國務モ進歩發展シナイト云フヤウナ有様デアルト私ハ思フ、斯ウ云フ譯デアリマスカラ、國運ノ進歩隆盛ノ上ニモ、自治ノ振興發達ノ上ニモ、市町村吏員ノ優遇、獎勵ト云

フコトハ、極メテ大切、且ツ必要ナ事ト思フノデアリマス、政府ハ退隱料ヤ退職給與金ノ條例ヲ設ケルコトヲ勸誘シテ居ルト云フノデアリマスケレドモ、是ハ自治自ラガ定メル仕事デ、政府ノ法令デ定メナイ以上ハ、自治ノ吏員トシテハ聊カ手盛ノ嫌モアリマス、殊ニ此經費膨脹困難ノ時ニ於テハ、中々ソレガ實際ニ行ハレ惡イノデアリマス、勿論全國ノ中ニハ、退隱料條例、或ハ遺族扶助法ト云フヤウナ例規ヲ自治デ設ケテ居ル處ガアリマス、アリマスケレドモ、多クハ死文空法デアリマシテ、實際ニ於テ其恩典ニ與ル者ハ、殆ド無イノガ今日ノ實況デアリマス、又政府ハ褒章條例ノ適用ト云フコトヲ言ハレマスケレドモ、是ハ市町村吏員ニ特ニ限ツタモノデハナイノデ、一般ノ人ニ對スル名譽ノ恩典デアリマスカラ、之ヲ以テ必ズシモ市町村吏員ノ優遇トシテ、特ニ爰ニ擧ゲルコトハ出來マセヌ、先年以來既ニ市町村長ニモ敍勳ノ途ヲ開カレタ以上ハ、少クトモ普通官吏ト同様ニ、敍勳並ニ敍位ノ制モ立テ、其他特別ノ表彰方法モ講ジ、又物質ノ上ニモ出來得ル優遇ノ途ヲ開キ、以テ適當ノ人物ヲ得、其事務ニ習熟練達シテ自治ノ發達ヲ圖リ、國家ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルト云フコトハ、實ニ大切ナ事ト思フノデアリマス、政府ハ紀念節ニ、僅カ九十五名ノ町村長ニ一級陸勳セラレタノガアッタノミデアリマスカラ、唯、之ニ止マルノカ、他ニ計畫セラル、所ガアルノカ、ソレガ承リタイ、私ハ敍位敍勳等ノ名譽ノ恩典ハ、是非少ナクトモ官吏ト同様ノ取扱方ニセラレタイト思ヒマス、敍位條例ヤ敍勳法ニ於テモ、決シテ之ヲ官吏トカ華族トカ云フ者ニ限ツテハナイノデアリマス、其文面ヲ見マサルニ、國家ニ勳功アル者又ハ表彰スベキ功績アル者云々ト規定シテアリマスカラ、ソレニ依ルコトハ、決シテ差支ナイバカリデアリマセヌ、既ニ實業家ヤ或ハ多額ノ金ヲ政府ニ獻納シタト云フヤウナ者ニモ、敍位敍勳ノ實例ハ少ナクナイノデアリマス、速ニ地方自治ノ吏員ニ此優遇ヲ及ボシテ、之ヲ獎勵スルノ途ヲ講セラレタイ、尙ホ私ガ一案ト致シマシテ、市町村吏員恩給基金法デス、市町村吏員恩給基金法ト云フガ如キモノヲ設ケテ、ソレニハ地方費ヤ又ハ市町村カラモ多少ノ納付金モサセテモ宜シイガ、大部分ヲ國庫カラ補助シテ、茲ニ此基金ヲ造ツテ、サウシテ相當資格有ル者ニ、給與スルト云フ事ニセラル、コトモ宜イト思フノデアリマス、茲ニ聊カ希望ヲモ併セテ、政府ノ計畫ヲ御質問致ス次第

デアリマス

之ニ對シ床次國務大臣ハ同月十一日書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

市町村吏員ニ對シテハ最近九十六箇町村長ニ對シ敍勳ノ恩典アリ加之其ノ功勞ノ顯著ナル者ニ對シテハ褒章條例ノ定ムル所ニ依リ之カ表彰ヲ爲スノ途アリ政府ハ適當ナリト認ムル所ノモノニ對シテハ今後尙之カ優遇獎勵ニ勉ムル所アルヘシト雖モ吏員優遇ノ途ハ單ニ政府ノ施設ニミ俟ツヘキニアラス一般社會モ亦市町村吏員ノ任務ノ輕カラサル所以ヲ解シ其ノ社會上ノ地位ヲ尊重スルコト最モ緊要ナリト思料ス

二〇 高等教育機關増設ニ關聯シ教育振興ニ關スル質問

一 高等教育機關増設ノ必要ハ固ヨリ之ヲ認ムト雖義務教育ノ向上充實モ其ノ機運方ニ迫レリト信ス列強戰後ノ文政ニ於テ此ノ趨勢極メテ顯著ナルノミナラス中等教育モ亦之ヲ義務教育トナスヘシトノ議論スラ生シツア我カ國ニ在リテハ現時ノ義務教育年限カ既ニ列強ニ比シテ短少ナルノミナラス我カ國ニ特有ナル國字國語ノ教授ニ時間ヲ要スルコトノ多大ナルハ一層教育ノ能率ヲ低下セシムルモノアリ國民全般知能ノ水準ヲ高メ國本ヲ培養シ國力ヲ増進スルカ爲ニ義務教育年限ノ延長ハ速ニ之ヲ實施セサルヘカラス政府ハ悠々トシテ國費ノ餘裕

若ハ地方財政ノ豐滿ヲ待タムトスルカ最近ニ於テ之ヲ斷行スルノ意思ナキカ

二 若最近ニ之ヲ斷行スルノ意思ナシトセハ必シモ他日ヲ待チテ劃一ニ全國一時ニ之ヲ實行スルノ必要ナシト信ス財政ニ於テ之カ負擔ニ堪フル地方又ハ義務教育ヲ卒リテ他ノ中等程度ノ學校ニ進マサル兒童ノ高等小學ニ入ルモノノ歩合最多キ地方又ハ補習教育ノ稍完備セル地方ヲ擇ヒ先ツ義務教育年限延長ヲ強制スルノ制ヲ定メテハ如何

三 中等學校以上ノ教員ニ對シテ年功加俸ノ制ヲ設ケラルルハ早晚實行サルヘキモノナリト信スルモノ之ヲ私立學校教員ニモ均霑セシメ國費ヲ以テ支給セムコトニ對シテ考慮セラレツツアリヤ

四 官公立學校教員退職恩給ノ制ハ之ヲ私立學校教員ニモ均霑セシメ同シク國費ヲ以テ支給スルヲ要ス當局ノ意向ハ如何

五 臨時教育會議ヨリ建議シタル教育ノ本旨貫徹ニ關スル決議ノ條項中第二項ノ法制改廢第五項ノ社會政策ノ如キハ最贊同スヘシトス是レ所謂社會組織ノ教育化トモ稱スヘキ一部份ニシテ此ノ類尙尠少ナリトセス文部省ハ單ニ學校行政ノ首腦タルニ止ラス最廣キ意義ニ於ケル帝國文教ノ振興ノ爲ニ博大ナル政策ヲ定メ教育的見地ヨリシテ國政ノ一切ニ涉リテ非教育的ナルモノ又ハ教育ノ效果ヲ薄弱ナラシムルモノヲ指摘シ善導スルノ雄志ナキカ而シテ之カ爲ニ

ハ內閣總理大臣ニ直屬スル今ノ臨時教育會議ノ如キモノヲ常設機關トナスモ亦可ナリト信ス如何

六 前條ノ調査及處理ヲ包括シ更ニ最廣キ意義ニ於ケル社會教育ノ振興ヲ圖ルカ爲ニ文部省ニ社會教育局ノ新設ヲ要セサルカ

七 海陸軍ニ於ケル壯丁ノ訓練ハ之ヲ國民教育ノ補習又ハ完成ト見ラレサルニ非ス將校ハ此ノ意味ニ於テ重要ナル普通教育者ナリ故ニ海軍兵學校及陸軍士官學校ノ學科ニ直接兵事ニ關スルモノ以外ヲ増設シ特ニ教育學必修ノ要アリト信ス文政當局ハ速ニ軍政當局ト之ヲ協定スルヲ要ス而シテ是レ他日現役又ハ豫後備將校ヲ各種學校ノ教官ト爲スノ準備トシテモ須要ナリトス文部大臣ノ意見如何

八 教育行政ノ統一ヲ計ルカ爲ニ內務省ノ國立感化院遞信省ノ商船學校農商務省ノ水産講習所等ヲ文部省所轄ニ移サムコトヲ欲セサルカ

九 前條ノ統一ヲ斷行シ而シテ更ニ國立感化院及商船學校ヲ増設スルノ必要ナキカ水産教育ニ至リテハ帝國ノ地理的資源ニ顧ミ最擴張ヲ要ス政府ハ現在ニ於ケル水産講習所一校及帝國大學農學部ノ水産學科ノミヲ以テ足レリトスルカ

十 物質文明尊重ノ弊害ハ這次ノ高等教育機關増設ノ計劃ニ就テモ亦歷々タルモノアリ精神文

明向上ノ爲ニ各綜合大學ニ必ス文學部ヲ設ケシメ單科大學ニ在リテモ必須ナル文科的講座ヲ置カシムルノ要ナキカ

十一 美術學校及音樂學校カ現在僅ニ一校ノミニ止ルハ藝術教育ニ於テ餘リニ貧弱ナリト信ス又同種ノモノ二校以上存立スルハ研鑽ノ競争的向上ヲ計ル所以ナリ京都工藝學校ヲ國立專門學校ト爲シ其ノ美術教育ヲ向上振興セシメ又別ニ關西方面ニ音樂學校ヲ創設シテハ如何

十二 大學文學部ニ於ケル皇學國學ノ研究ニ關スル施設ノ外更ニ神官皇學館ヲ國立大學ト爲シ別ニ現在程度ノ專門部ヲ併設シ我カ皇學國學研究ノ最高淵叢トナシ以テ所謂國體觀念ヲ明徴ニシテ之ヲ中外ニ顯彰スルノ中心學府ヲラシムルハ文化政策ノ最須急ナルモノト思惟セサルカ

十三 佛教各派ニ於ケル特殊ノ教育機關ノ外佛教各宗ノ連合ヲ以テ一ノ財團ヲ組織セシメ宗派ニ超越セル通佛教ノ最高研究機關タル大學新設ノ必要アリト信ス文部大臣ハ之ヲ勸奨斡旋ノ勞ヲ執ルニ意ナキカ

十四 高等文官及判檢事カ現時ノ如ク單ニ専門ニ偏セル學術技能ニ依リテノミ登擧セラルルハ時トシテ行政又ハ司法ノ運用ニ於テ其ノ真髓ヲ發揮スルノ途ヲ謬リ及社會ノ儀表トナリ民心ヲ率ヒ得ル所以ニ非ス故ニ之カ任用試験ニハ國民道德學社會學教育學及心理學等ノ文科的學

科ヲ適宜參酌シテ增課セサルヘカラスト信ス文部大臣ハ文教ノ當局トシテ之ヲ提議スルノ必要ヲ認メサルカ

八年二月十五日白河次郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ハ之ヲ省略スヘキ旨ヲ附記ス之ニ對シ加藤、田中、山本、床次、中橋及野田ノ各國務大臣ハ三月十日書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 義務教育年限ノ延長ハ希望スル所ナルモ諸般ノ事情ニ依リ之カ實施ハ尙未タ其ノ時期ニアラスト信ス而シテ特殊ノ地方ヲ撰ヒテ部分的ニ之ヲ實施スルカ如キモ亦慎重ノ考慮ヲ要ス

二 公立中等學校教員ニ對スル年功加俸ノ制ニ關シテハ目下調査中ニ屬スルヲ以テ私立學校教員一般ニ對シ國費ヲ以テ年功加俸ヲ支給シ又ハ官立學校若ハ公立學校ノ教員ニ對スル恩給又ハ退隱料ノ制ヲ直ニ適用スルカ如キハ今日之ヲ豫定スルコトヲ得ス

三 國政一切ノ事項ニ互リ之ヲ處理スルカ如キハ文部大臣ノ權限ニアラス而シテ臨時教育會議ノ如キ機關ハ之ヲ常置スルノ意思ナシ

四 社會教育ノ振興ニ關シテハ目下調査中ニ屬ス

五 海軍兵學校及陸軍士官學校ニ於テ教育學ヲ必修セシムルコトニ關シテハ目下考究中ナリ

六 國立感化院、商船學校及水産講習所ハ別ニ之ヲ文部省ニ移管スルノ意志ナシ而シテ此ノ種ノ機關ニ關シテハ必要ニ應シ適當ナル擴張改善ヲ圖リツ、アリ

七 綜合大學又ハ單科大學ニ其ノ組織ノ如何ヲ問ハス文學部若ハ文科的講座ヲ必置スルノ要ヲ認メス

八 京都市立ノ學校ヲ國立トシ音樂學校ヲ増設シ又神官皇學館ヲ國立大學トスルハ慎重ノ考慮ヲ要ス

九 佛教各派ニ於ケル教育機關ヘ之ヲ自然ノ發達ニ俟ツヲ可トス
十 質問第十四項ノ如キハ慎重ノ考慮ヲ要ス

二一 社會主義取締ニ關スル質問

近年社會主義ニ對スル當局ノ取締方針苛酷ニ過キ却テ溫和ナル社會主義者ヲ驅テ過激ニ赴カシムルノ危險アリ一概ニ社會主義ト謂フモ其ノ分派數十其ノ總テカ國家存立ノ基礎ヲ危クスルモノニ非ス加フルニ歐米諸國近代ノ政治的施設ハ悉ク其ノ基礎ヲ社會主義ノ觀念ニ置ク然ルニ帝國官憲獨リ此ノ世界的潮流ニ反抗シ

一 社會主義ニ關シテハ一般ニ言論出版ノ自由ヲ奪ヒ

二 特ニ社會主義者ニ對シテハ之ヲ遇スル恰モ罪囚ノ如ク

其ノ迫害ノ辛辣冷酷ナル世界多ク其ノ比ヲ見ス是レ實ニ帝國ノ一大汚辱ナルノミナラス却テ國家

ノ存立ヲ危險ニ導クノ虞アリサレハ當局ハ速ニ其ノ方針ヲ改メ世ノ所謂社會主義及社會主義者ナルモノニ對シテハ先ツ所說ノ黑白ヲ甄別シ穩當ナルモノニ付テハ斷乎取締ヲ解放シ自由討究並自由宣傳ノ餘地ヲ與フルヲ以テ刻下ノ急務ナリト思料ス内務大臣ノ所見如何

八年二月十九日鈴木富士彌君ハ右質問主意書ヲ提出シ三月十一日其ノ趣旨ヲ辯明セリ

社會主義ノ取締ニ關シマシテ、政府ニ質問ヲ致シタイト思ヒマス、質問ノ要領ハ質問趣意書ニ掲ゲテアリマス、今其趣意ヲ一層明確ニスル爲メニ、事實ヲ三段ニ分チマシテ、卑見ノ存スル所ヲ申述ベテ見タイト思ヒマス、第一段、政府ハ社會主義ヲ危險思想ナリト思料スルヤ、第二從來ノ社會主義取締方針ハ苛酷ニ失スルト認メザルヤ、第三政府ハ社會主義取締方針ヲ改ムルノ意思ナキヤ、以上三點ニ分チマシテ申述ベテ見タイト思ヒマス、本論ニ入りマス前ニ、一應私ノ立場ヲ申上ゲテ置キタイト思ヒマスルガ、私ハ社會主義者デアリマセヌ、會テ社會主義ニ關スル論文ヲ書イタコトモナケレバ演說ヲ致シタコトモアリマセヌ、今回此質問演說ガ、社會主義ニ關スル言論ノ皮切リデアリマス、又私ノ友人中ニハ、一人モ此社會主義者ト云フモノガアリマセヌ、此質問趣意書ヲ議會ニ提出致シマシテカラ後ニ、社會主義者ノ訪問ヲ三回許リ受ケタコトガアリマス、何レモ初對面ノ人デアリマス、即チ私ハ社會主義者ニ非ズ、又社會主義者ノ友人デモナイノデアリマスガ、今回此質問演說ヲ爲ス所以ノモノハ何デアルカ、政府二十年來ノ傳統的ノ社會主義取締方針ガ、餘リニ不條理デアリ、餘リニ非常識デアル爲メニ、外ニ對シテハ帝國ノ面目ヲ傷ケ、内ニ於テハ帝國ヲ却テ危殆ニ導クノ虞アルガ故ニ、見ルニ見兼ネテ此質問ヲ致ス次第デアリマス……第一段ノ質問ハ、政府ハ社會主義ヲ危險思想ナリト思料スルヤ、從來政府ノ執リ來レル社會主義取締方針ガ、頗ル苛酷デアッタト云フコトハ、世既ニ定評ガアリマス、獨リ日本人自ラガ

一般ニ斯ク感ジテ居ルノミナラズ、外國人モ亦其實ヲ認メテ、陰ニ陽ニ日本ノ政府ヲ非難致シテ居ルノデアリマス、數年前ニ或ル外國ノ雜誌ニ「日本ノ文化ノ程度ノ低イコトハ社會主義者ニ對スル取締ノ類ル苛酷デアアル一事ニ徴シテモ略、想像スルコトガ出來ル」ト云フ皮肉ナ批評ヲ揭ゲテ居ッタコトヲ記憶致シテ居リマス、其苛酷デアアルト云フ實例ハ、私ガ手許ニ澤山持ッテ居リマス、元來日本ノ官憲ハ、ドウシテ斯ク社會主義者ニ對シテ苛酷デアアルカト申シマスルニ、是ハ多分社會主義ハ危險思想デアアルト考ヘ居ルカラデアラウト思ヒマス、勿論内務省ノ高等官ノ連中ハ、何レモ最新ノ教育ヲ受ケタ方ガアリマシテ社會主義ニ對シテ、相當ナル了解ヲ有ッテ居ル人々デアリマスケレドモ、奈何セン直接取締ニ從事スル警視廳、並ニ各警察署ノ官憲ハ深キ了解ガ無い、何レモ社會主義ヲ危險ナル思想ナルガ如クニ認メテ居ル形跡デアアルデアリマス、社會主義ト一概ニ申シマシテモ幾多ノ分派ガアリマシテ、溫和ナルモノアレバ、随分過激ナルモノモアリマス、之ヲ一率一體ニ取扱フト云フ事ハ、頗ル亂暴デアアルト思フ、是ハ畢竟社會主義ノ何物タルカヲ知ラヌカラ、左様ナ事ニナルノデアアラウト思ヒマス、社會主義ガ果シテ危險ナリヤ否ヤニ就テ、今私ノ存ジ寄リノ事ヲ申上ゲテ、其筋ノ了解ヲ得テ置キタイト思フノデアリマス、第一ニ當局ノ御留意ヲ願ヒタイト思フノハ、社會主義ハ經濟上ノ主義デアッテ、政治上ノ主義デアナイト云フ事デアリマス、唯々其主義ヲ實行スルガ爲メニハ、政治上ノ力ヲ藉ラナケレバナラヌケレドモ是ハ其手段デアッテ、目的デアナイノデアリマス、政治上ノ變革ヲ目的ノ中ニ強ク包含セシムル主義、例ヘバ無政府主義ノ如キハ、正確ナル意味ニ於ケル社會主義ト云フコトハ出來ヌノデアリマス、近頃廣イ意味ニ於キマシテ「無政府主義」サンヂカリズム」ノ如キモノモ、一概ニ社會主義ト申シテ居リマスケレドモ、是ハ恰モ「ピスマーク」ヲ社會主義者ト申スヤウナモノデ、唯、廣イ意味ニ於ケル一ツノ形容詞ニ過ギナイ正確ナル意味ニ於テ政治上ノ變革ヲ目的トスル主義ハ、社會主義デアナイノデアリマス、社會主義者ハ、時ニ「革命」ナル文字ヲ用キルコトガアリマスケレドモ、是ハ社會組織ノ革命ヲ意味スルノミデアリマシテ、政治上ノ革命ヲ意味スルモノデアアリマセヌ、社會主義者ハ決シテ國體ノ變革ヲ希望スルモノデアナイノデアリマス、唯今ノ社會組

織ガ惡イ爲メニ、資本家ノミガ利益ヲ壟斷致シマシテ、勞働者ト云フモノハ洵ニ憫ムベキ状態ニ在リマスカラ、之ヲ矯正シヤウト云フノガ社會主義者デアリマス、此主義其ノモノニ於テ、何等不穩ナル分子ハ認メラレヌノデアリマス、決シテ國家存立ノ基礎ヲ呪フト云フガ如キコトガアルベキ道理ハ無い、唯、官憲ガ其本質ヲ知ラズシテ無暗ニ壓迫スルノ結果、餘憤ノ迸ル所、時ニ暴力ニ訴ヘルコトガナイトモ限ラナイ、是ハ恰モ大河ノ流レヲ阻ムト、水ガ汎濫シテ堤防ヲ缺潰シ、沃野千里ヲ水中ニ埋没スルノト同ジ事デアリマス、是ハ畢竟官憲ガ其處置ヲ誤ルノ結果デアリマシテ、社會主義ナルモノハ、本來斯ノ如キ革命的思想ヲ有ッテ居ルモノデアナイ、一般社會主義ト稱セラル、モノハ、經濟上ノ主張タルニ過ギヌノデアリマス、第二ニ於キマシテ、社會主義ハ社會ニ對スル不平ノ聲デアハナクシテ、其不平ヲ救済スル爲メ起ッタ所ノ、社會改善ノ叫聲デアルト云フコトデゴザイマス、社會ニ不平ガアルカラ、社會主義ナルモノ、起ル必要ガ生ジテ來タノデアアル、社會ニ不平ガ無ケレバ社會主義ノ起ル必要ハ無い、其不平ヲ根絶スル爲メニ歐羅巴ノ思想家ガ腸漿ヲ搾ッテ考出シタモノガ、即チ茲ニ社會主義トナッテ現レタノデアリマス、然ラバ現代ノ社會ニハ如何ナル不平ガアルカト申シマスノニ、(一)産業上ノ利益ハ資本家ガ獨リ之ヲ壟斷シテ、勞働者ハ其分配ニ與カルコトガ出來ナイ、是ガ一ツ、(二)資本家ガ益、富ンデ少數トナリ勞働者ハ益、貧乏ニナッテ其數ヲ増スト云フ事、此二ツノ不平ノ聲ト云フモノハ、現代ノ社會ノ二大病弊デアリマス、此不平此病弊ノ由ッテ起ル根源ハ何デアアルカト申シマスルニ、是ハ現在ノ經濟組織、即チ私有財産制度ト産業ノ自由競争制度デアリマス、私有財産制度、産業ノ自由競争制度ト申シマスモノハ、第十八世紀ノ工業革新ノ起ル以前マデハ格別ナ弊害ガナク、當時ノ社會組織トシテハ、最モ其當ヲ得タモノデアアルトシテ何人モ異論ノ無カッタモノデアリマス、然ルニ其後ニ至リ、弊害ガ段々生ジテ來タノデアリマス、第十八世紀ノ後半期千七百六十九年ニ、英國ニ於テ「ワット」ノ蒸汽機關ガ發明セラレテ以來、續イテ各種ノ紡績機械、各種ノ工業機械ガ發明サレテ、茲ニ自家製造ニ屬シタル工業ト云フモノガ、一轉シテ工場製造ノ時代トナッタノデアリマス、而シテ勞働者ト云フ新シイ階級ガ生ジタノデアリマス、昔年工業ヲ以テ生計ヲ營ンデ居ッタ

職人、並ニ副業トシテ工業ヲ營ンデ居ッタ農民ト云フモノハ、此大仕掛ナル工業經營者ニ壓倒セラレ、彼等ハ職ヲ失ッテ、遂ニ其工場ノ労働者トナルヤウニナッタノデアリマス、是ニ於テ始メテ資本家ト労働者トノ階級ガ分レテ來マシタ、労働者ハ如何ナル地位ニ居ルカト見マスレバ、洵ニ憫レナル状態ニ在ルノデアリマス、労働ノ時間及方法ノ如キハ、資本家ノ勝手ニ定メテ規定ニ服從シナケレバナラヌ、終日工場ニ在ッテ黒イ煙ニ塗レテ、機械ト共ニ棲息シテ、家族團樂ノ樂ヲモ享クルコトガ出來ヌト云フヤウナ有様ニナリ、又衛生設備ノ不完全ナル爲メ、著シク健康ヲ損ジ、又機械ノ設備ガ危険ナル爲メニ、或ハ不具者、或ハ癡疾ニナルト云フ者モ多イノデアリマス、又一朝恐慌ガ起ッテ不景氣ニナレバ、忽チ其職ヲ失ハナケレバナラヌ、然モ其得ル所ノ賃銀ハ、僅ニ自分自身ト家族ヲ、辛ジテ扶持スルト云フ有様ニ過ギヌノデアリマス、然ルニ資本家ノ地位ハ著シク懸隔ガアリマシテ、工場カラ生ジタ所ノ利益ノ大部分ハ之ヲ手中ニ收メテ、資産ハ日ニ増大シテ、坐ナガラ勞セズシテ富ミ、酒池肉林、飽食暖衣、思フ事成ラザルハナク、爲ス事成セザルハナシト云フ有様デアアル、其地位ハ斯ノ如キ雲泥ノ相違ガアルノデアリマス、是ニ於テ資本家ト労働者トノ衝突ノ起リマスノハ自然ノ勢デアリマス、労働者ハ團結シテ同盟罷業ヲナシ、勞銀ノ増加、労働時間ノ短縮ヲ資本家ニ迫リマシタ、是ニ於テ労働問題ガ生ジタノデアリマス、斯クテ英吉利ハ第十八世紀ノ末葉ヨリ、佛蘭西ハ第十九世紀ノ初葉ヨリ、獨逸ハ第十九世紀ノ中葉ヨリ、而シテ日本ハ第十九世紀ノ末葉ヨリ、此労働問題ガ起ッテ、私有財産制度、生産ノ自由競争制度ノ缺陷ヲ遺憾ナク暴露スルコトニナッタノデアリマス、労働問題ハ、畢竟社會組織ニ對スル不平ノ聲デアリマス、此不平ノ聲ヲ鎮壓スベク良案トシテ考出サレタノガ、此社會主義デアリマス、即チ社會主義ノ理想トスル所ハ、現在ノ經濟組織デハ、到底労働者ノ窮狀ヲ救済スルコトガ出來ヌ、故ニ之ヲ根柢カラ破壊シテ、茲ニ新社會ヲ建設シテ、生産機關ナルモノハ總テ之ヲ國有ト致シテ、依テ資本家ナル社會階級ヲ絶滅セシメ、而シテ生産業ヲ悉ク之ヲ官業トシテ、天下ノ人民悉クヲ官吏、又ハ官業ノ使用人タラシムベシト云フニ在ルノデゴザイマス、社會主義ノ流派ハ色々違ヒマスケレドモ、是ガ今日社會主義ニ共通ナル觀念デアリマス、故ニ社會主義ハ不平ノ

聲ニ非ズシテ、救済ノ聲デアリマス、隨テ其思想ハ元來危險ノ伴フト云フコトガ無イモノデアリマス、ソレカラ第三ニ當局ニ御留意ヲ乞ヒタイト思フ事ハ、日本社會主義者ノ大部分ハ、「マルクス」派ノ純正社會主義、並ニ「フエゲナンドラッサル」派國家社會主義者デアルト云フコトガアリマス、無政府主義又ハ「サンヂカリズム」ヲ奉ジテ居ル者ハ、極メテ少數デアリマス、私ハ此質問趣意書ヲ提出シマシタ後ニ、封書ヲ以テ東京在住ノ著名ナル社會主義者二十名ヲ擇ンデ、其抱懷スル所ノ社會主義ノ要旨如何ト云フ質問ヲ致シマシタ所ガ、返答ヲシテ來タ者ガ十五名、其内「マルクス」派ノ社會主義ヲ奉ズル者ハ七人、國家社會主義ヲ奉ズル者ガ五人、共產主義者ガ一人、基督教社會主義者ガ一人、無政府主義者ガ一人、斯様ナル内譯ニナッタノデアリマス、詰マリ此「マルクス」派ノ社會主義者ガ一番多數デアリマシタ、然ラバ「マルクス」派ノ社會主義者ハ如何ナル事ヲ主張スル所ノ「ソシアリズム」デアルカト申シマス「マルクス」ハ御承知ノ如ク近世社會主義ノ鼻祖ト稱セラル、程ノ人デアリマス、其著書「共產黨宣言」「經濟學評論」「資本論」「餘剩價值學說論」此四種ノ著書ニ依ッテ、略ボ其ノ思想ヲ窺フコトガ出來ルノデアリマス、其中デ「資本論」即チ「ダス、カピタル」ト稱スル大著述、是ハ頗ル難解ノモノデアリマシタ、社會主義者ノ「バイブル」聖書ト稱セラル、モノデ、是ハ衆議院ノ圖書館ニモ三冊揃ッテ居リマス、「マルクス」派ノ社會主義ノ要旨ハ、土地及資本ノ公有デアリマス、一切ノ生産機關ハ之ヲ公營ト爲シ、各生産シタル物ハ労働ノ功程ニ應ジテ、之ヲ労働者ニ分配シ、消費ニ付テ財產ノ私有ヲ許シ、家事經濟ハ今日ト同ジク私經濟主義ヲ維持スルト云フ學說デアリマス、故ニ此社會主義ハ半共產主義トモ申シマスシ、又名集産主義トモ申スノデアリマス、而シテ「マルクス」派ノ社會主義ヲ根柢ハ何カト申シマスルト、其一ハ彼ノ歷史論デアリマシテ、歷史ヲ科學的ニ研究シテ得タル結論、即チ唯物史觀ガ一ツ、次ニ其二ハ彼ノ經濟論デアリマシテ、特ニ餘剩價值論ガ其神髓トナッテ居リマス、此唯物史觀、並ニ餘剩價值論ノ二ツ大黒柱トナッテ、茲ニ彼ノ社會主義ハ組立テラレテ居ルノデアリマス、詳細ナル事ハ時間ガアリマセヌカラ、申上ゲマセヌガ、斯ノ如クニシテ彼ハ斯様ナ結論ヲ與ヘテ居リマス、「總テノ歷史ハ階級戦争ノ歷史デアッテ現在ノ歷史ハ有産階級即チ「ブル

「ジョアト」ト無産階級即チ「プロレタリアト」トノ戦争ニ外ナラズ、即チ階級ノ成立ハ一定ナル經濟的生産及分配ノ關係カラ起テ來ル、權力支配ノ關係モ是カラ發芽スルモノデアアル、而シテ現在ノ時代ニ於テハ有産階級ガ經濟組織ヲ代表シテ居ルガ、來ルベキ時代ニ於テハ無産階級ガ其代表者トナルニ相違ナイ、即チ當今ニ於ケル無産階級社會運動ハ、其兵備ヲ整ヘテ有産階級ノ城塞ヲ奪ハシメ、モノデアッテ、私生産組織ニ代フルニ共產主義ヲ以テセントスルニ外ナラズ」斯ウ云フコトヲ申シテ居ルデアリマス、ソレデ「マルクス」派ノ説ク所ハ、一ノ制度ヲ主張スルト言ハンヨリモ、歴史上ノ成行ヲ論證スルト言ウタ方ガ適當デアルカモ知レヌ現在ノ社會ハ進化ノ法則ニ驅ラレテ、否デモ應デモ集産的新社會ノ現出ヲ餘儀ナクスルト説イテ居ルノデアアル、故ニ人ハ之ヲ溫和ナル社會主義ト唱ヘテ居ル、又科學的社會主義ト純正社會主義「オルソドクス」トモ呼ンデ居ル、尤モ「マルクス」ノ教義ニハ矛盾モアレバ誤謬モアルト云フコトハ經濟學者ガ皆申シテ居リマス「マルクス」ノ流ヲ汲ム所ノ「ベルンスタイン」カウツキト「如キニ致シマシテモ、尙ホ其全部ヲ採用シテ居ル譯デアリマセヌガ、此「マルクス」ノ思想ト云フモノハ、今日獨逸ノ社會民主黨ノ綱領ノ基礎ヲ成シテ居ルデアリマス、我日本ニ於テモ、此流ヲ汲ム者ガ非常ニ多イデアリマス、安部磯雄君ノ如キ、堺利彦君ノ如キ、其他大部分ノ人ハ此「マルクス」ノ社會主義ヲ奉ジテ居リマス、河上博士ノ如キハ、新聞ニ雜誌ニ「マルクス」ノ教義ヲ祖述スルコトガ頗ル熱心デアリマス、特ニ博士ガ獨力ヲ出シテ居リマス所ノ「社會問題研究」ト云フ雜誌ノ如キハ、殆ド「マルクス」主義ノ專門雜誌ト云フモ過言デナイデアリマス、福田博士ノ如キハ「マルクス」ノ學說ニハ誤謬ガアルト云フコトヲ申シテ居リナガラ「マルクス」ノ資本論ヲ紹介スルノニ全力ヲ注イデ居リマス、且ツ博士ガ昨年出版シマシタ所ノ「勞働經濟講話」ト云フ書物ノ如キハ、卷頭ニ「マルクス」ノ肖像ヲ入レテ、彼レノ百年ヲ記念スル爲メニ出シタト云フコトヲ書イテアリマス、内心ニ於キマシテハ、大ニ「マルクス」ニ傾倒スル所ガアルモノノ如クニ見エルノデアリマス、ソコデ今度ハ我が日本ノ經濟組織ヲ考ヘテ見マスルノニ、日本ノ財政經濟政策ノ上ニ、段々「マルクス」主義ニ近イモノガ實現セラレツ、アルト云フコトハ、頗ル注目スベ

キ事デアリマス、例ヘバ鐵道ノ如キハ國有デアリマス、煙草ノ官營ガアリ、鹽ノ專賣ガアリ、又製鐵所ニ於テハ、政府自ら鐵ヲ製造シテ居リマス、日本全國ノ土地ノ半分以上ト云フモノハ、公有即チ國有及町村有、然ラザレバ皇室ノ所有ニナツテ居リマス、其等ノ事情ヲ見マスルト云ウト、日本ハ決シテ社會主義的共産組織デハナイケレドモ、社會主義ノ主張スル一切ノ生産機關ノ公有、即チ土地及資本ノ公有ト云フ方面ニ稍、近付イテ居ルヤウナ現象ヲ呈シテ居ルデアリマス、而巳ナラズ歴史ヲ調べテ見マスルト、大化ノ新政ト云フモノハ、即チ此社會主義者ノ理想ヲ一部分實行シタモノデアルト云フコトモ言ヘルデアリマス、孝徳天皇ノ大化二年ニ、唐ノ制ニ倣ツテ、班田收授ノ法ト云フモノヲ行ヒマシタ、即チ良家ノ子生レテ六歳トナルヤ、水田二段(女子ニハ其三分ノ二)ヲ給シ、毎六年ニ之ヲ移シ、嚴ニ令シテ土地ノ兼併ト賣買トヲ禁ジマシタ、是等ハ即チ社會主義者ノ申ス所ヲ一部分實現シテ居ルデアリマス、徳川幕府ノ末年ニ至リマシテ、儒者ノ佐藤信淵ト云フ人ガ現レマシテ、垂統ノ法ト云フコトヲ主張シテ居リマス「垂統」ノ法ト云フノハ何デアアルカト申シマスルノニ、是ハ即チ今日ノ社會主義ノ理想其儘ノモノデアアル「マルクス」ノ社會主義ト殆ド符節ヲ合スルガ如キモノデアリマス、是ハ佐藤信淵ノ著書ヲ讀メバ、自らハツキリスルノデアリマスガ、河上博士ハ之ヲ研究致シマシテ「垂統秘録」ト云フモノカラ、彼ノ主義ナルモノヲ摘出致シテ、三箇條ノ基本原則ヲ擧ゲテ居リマス、即チ第一ニハ、一切ノ賣買、貸借、雇傭ハ私人之ヲ營ムヲ嚴禁シ、凡テ之ヲ國家ノ公營ト爲スコト、第二ニハ、凡テノ國民ハ國家ノ官吏タルカ、然ラズンバ國家ノ勞働者タルベク、要スルニ國民ヲ擧ゲテ國家ノ直接使用人タラシムルコト、第三ニハ、一切ノ租稅ヲ全廢シ、國家政務ノ費用ハ、凡テ事業公營ノ利潤ノ一部ヲ以テ之ニ充ツルコト、即チ立派ニ現在ノ「マルクス」派社會主義ノ綱領ニ合致スルノデアリマス、故ニ「マルクス」派ノ社會主義ガ、決シテ危險ナリト云フコトノアルベキ道理ガ無イ、日本ノ從來ノ經濟的設備ハ、寧ロ社會主義ニ近イモノガアルト云フ事實ニ顧ミタナラバ、決シテ其性質ガ恐ルベキモノデナイト云フコトガ、自ら明瞭スルノデアリマス、ソレカラ第二ニ日本ノ社會主義者ノ比較的多數奉ジテ居リマスルノハ、國家社會主義デアリマス、國家社會主義ト申シマスルモノニハ

二種類アリマス「フェルヂナンド、ラッサル」ト云フ人ノ唱ヘタ國家社會主義、是ハ獨逸ノ皇室ヲ中心トシテ、其下ニ集産的ノ新社會ヲ建設シヤウト云フノデアリマス、「マルクス」派ノ社會主義ハ萬國のデアリマスガ、併シ別ニ獨逸ノ皇室ヲ否認スル杯ト云フヤウナ不穩當ナ説ヲ吐イタコトハ一度モ無イ、民主的ノ分子ガ勝ッテ居リマスケレドモ、決シテ政治的革命ヲ説イタモノデハナイ、「ラッサル」ノ社會主義ニ至ッテハ、矢張此點ハ同ジデアリマスルガ、更ニ一步ヲ進メテ皇室ノ力ヲ藉リテ、其下ニ社會主義ヲ實行スルト云フコトヲ高調シタノデアリマス、之ガ爲メニ「フェルヂナンド、ラッサル」ハ「普魯西皇室御用社會主義」デアルト云フヤウナ批評ヲ蒙ッテ居ルノデアリマス、日本ノ社會主義者ノ中、白柳秀湖君ノ如キ、高島、遠藤、尾崎、原、其外二三氏ハ、國家社會主義ナルモノヲ奉ジテ居リマス、特ニ皇室中心社會主義ト云フ名前ヲ現シテ、之ヲ主張シテ居ルト云フ譯デアリマス、此主義ハ「マルクス」派ノ社會主義ニ較ベレバ、更ニ危險ノ分子ハ少イノデアリマス、寧ロ是ハ獎勵スベキモノデハナイカト私ハ思フノデアリマス、ソレカラ其後ニ至リマシテ、獨逸ニ「ビスマーク」ガ一種ノ社會政策ヲ行ヒマシタ、千八百八十三年ニ強制労働ト云フ制度ヲ採用致シマシタ、此經濟政策ヲ世ノ人ガ、俗ニ「ビスマーク」ノ國家社會主義ト申シタノデアリマス、詰マリ現在ノ社會組織ヲ今回ノ儘ニ繼續ヲシテ、國家ノ力デ社會政策ヲ行ウテ、別ニ所有權ヲ否認スル譯デモナク、又自由競争制度ガ惡イト云フ譯デモナイ、唯、其個人ノ絶對ニ爲シ能ハザル事業、又ハ個人ヨリハ政府デヤル方ガ利益アリト信ズル事業ヲ、國家ヲシテ經營ニ當ラシムルト云フノデアリマシテ、是ハ嚴格ナル意味ニ於テ社會主義デアリマセヌ、寧ロ社會改良主義ト稱スルノガ適當デアリマス、「ワグナル」「シユモラー」「ブレントノ」「シエーネベルヒ」杯ト云フ學者ガ専ラ之ヲ奉ジテ居ルノデアリマス、日本ニ於キマシテ國民黨ノ鈴木梅四郎君ガ、皇室社會新政ト云フ新シイ熟語ヲ編出シテ居リマス、此皇室社會新政ト云フノガ、詰リ「ビスマーク」流ノ國家社會主義ヲ意味スルモノデアラウト信ジマス、詰マリ「ワグネル」「シユモラー」ノ國家社會主義ノ別名ニ過ギヌノデハナイカト私ハ信ジテ居リマス、嘗テ舊國民協會ノ人々ガ、佐々友房等ヲ中心トシテ組織シタル帝國黨ノ綱領ノ一ニ、確カ國家社會主義ガアッタコトヲ私ハ記

憶致シテ居リマス、デアリマスルカラ、此國家社會主義ニ至ッテハ、尙更危險分子ト云フモノハ少シモ無イノデアリマス、福田博士ノ如キハ、國家社會主義ハ、社會主義ト國家主義トノ私生兒デアアル杯ト云フヤウナ批評ヲ加ヘテ居リマス、是ハ純粹ナル學者ノ立場カラ言ヘバ、種々又非難スベキ所ガアラウト思ヒマスケレドモ、兎モ角モ國家社會主義ヲ奉ズル人ガ我國ニモ澤山アルコトハ、事實デアリマス、少シモ危險思想デナイト云フコトハ、勿論絮説スル必要ノナイコトデアラウト思ヒマス、ソレカラ私ノ照會ニ對スル解答中ニ共產主義ト目スベキ者ガ一人ゴザイマス、共產主義ト申シマスノハ、共同生産、共同消費ヲ主張スルモノデアリマス、即チ生産財産及享樂的財産ハ、全部ヲ舉ゲテ之ヲ公有ニスルト云フ主義デアリマス、是ハ「マルクス」派ノ社會主義ニ較ベルト、生産機關ヲ公有ニスルト云フコトハ兩者相通ジテ居ルノデアリマスケレドモ、消費ヲ公有ニスルト云フ點ハ違ッテ居ルノデアリマス、此共產主義ノ理想ト云フモノハ、由ッテ來ル所ガ遠イノデアリマス、希臘ノ「プラト」ハ其著書「共和國」レバブリックニ於テ、共產的新社會ヲ描出シテ居リマス、其後「トーマス」「モーア」ノ「ユートピア」ニ於テモ亦之ヲ描イテ居リマスガ、最近ノ共產主義ノ代表者ト目スベキ者ハ、佛蘭西ノ「バボーフ」ト云フ人デアリマシテ、一切ノ土地ヲ平分シテ、極端ナル財産共有制度ヲ主張シタノデアリマス、其後ニ至リマシテ各種ノ共產主義ガ現レマシタ、「サンシモン」ノ如キ「フリーエー」ノ如キ「トーマス、オーウエン」ノ如キ、其説ク所ハ多少違ヒマスケレドモ、大體ニ於テ共同生産、共同消費ノ主義ヲ離レナカッタノデアリマス、是等ノ共產主義ハ何レモ皆ナ感情的デアッテ、學理上ノ根據ハ何モ無イ、詰マリ架空デアッテ實際ニ適セナイ、ソレ故ニ何レモ勢力ヲ得ルニ至ラズシテ、遂ニ世ノ中ニ忘レラレテシマッタノデアリマス、然ルニ佛蘭西ニ「ルイブラン」ト云フ人ガ現レマシテ、一種ノ共產主義ヲ主張致シマシタ、生産組合設立ヲ唱道シマシタ、此説ハ政府ノ採ル所トナッテ、佛國革命政府ハ千八百四十八年ニ、彼レノ説ニ從ッテ國立工場ヲ造ッタガ、是ハ遂ニ良結果ヲ奏スルニ至ラズシテ、失敗ニ終ッタノデアリマス、斯ノ如キ譯デアリマシテ、共產主義ト云フモノハ、畢竟空想デアッテ、實際ニ適シナイト云フノガ事實デアリマス、今日日本ニ一人斯ウ云フ主義ヲ唱ヘテ居ル者ガアリマスガ、

是ハ餘リ有力デアリマセヌ、併ナガラ是トモ別ニ危険ト云フ程ノ者デナイト云フコトハ、其性質ニ見テ自ラ明白デアリマス、ソレカラ日本ニハ極メテ少數ノ無政府主義者ガアリマス、無政府主義ハ實ニ危険デアリマス、是ハ私共モ其危険ナルコトヲ認ムルノデアリマス、是ハ千八百四十年頃ニ、佛蘭西ノ「ブルードン」ト云フ人ガ初メテ唱ヘテ、一切ノ政府ヲ否認スルト云フ極端ナル自由ヲ主張スルノデアリマス、露西亞ノ虛無主義モ、畢竟此無政府主義ノ一別名ト稱シテ差支ナイデアリマス、ソレデ無政府主義ト社會主義ト何所ガ異ナルカト云フト、社會主義ハ國家萬能主義デアルノニ對シテ、無政府主義ハ國家ヲ否認スルノデアアル、此點ニ於テ兩者ガ雪ト炭ノ相違ガアルノデアリマス、又社會主義ハ富ノ分配ヲ公平ニ行フト云フノデアリマスガ、無政府主義ハ權力ノ分配ニ重キヲ置キマス、前者ハ經濟上ノ革命主義ナルニ反シテ、後者ハ政治上ノ革命主義ヲモ含シテ居リマス、又社會主義ハ或ル部分專制主義ト申シテモ宜シイノデアリマスガ、無政府主義ハ極端ナル自由主義デアリマス、ソレ故ニ無政府主義ノ危険ナルコトハ、天下何人モ認メナイ者ハ無イ、彼等無政府主義者自身ヲ除イテハ、何人モ危険視シテ居ルノデアアル、國家ノ存立ト相容レザルモノデアリマスカラ、若シ日本ニ此無政府主義者ガアッタナラ之ヲ嚴重ニ取締ルノハ、當然ノ事デ、何人モ異論ハ無イノデアリマス、私共モ決シテ是等ノ人ヲモ寬大ニ取締レト云フノデハナイ、尤モ無政府主義者ハ極メテ少數デアリマス、是等ハ今少シク嚴重ニ取締レテモ宜シイ位ノ考ヲ持ッテ居リマス、此無政府主義ト社會主義ヲ混同スルカラ色々不徹底ナ事ヲスルヤウニナル、此點ハ當局ニ於テモ篤ト御了解ノコト、信ジマスケレドモ、直接取締ニ從事スル官憲ハ動モスルト混同スルノデアリマス、能ク御留意ヲ願ハナケレバナラヌト思ヒマス、日本ニアリマス社會主義ハ、此外ニ尙ホ基督教社會主義トモ申スベキモノガアリマス、是ハ基督ノ教義ヲ以テ社會主義ヲ行フト云フノデアリマシテ、是モ或ル方面カラ言ヘバ一ノ社會改良主義デアリマス之ヲ「ソシアリズム」ト稱スルノハ聊カ不適當ナ名前デハナイカト思フ、其詳細ハ時間ガアリマセヌカラ略シテ置クコトニ致シマス、尙ホ此外ニ佛蘭西ノ「サンヂカリズム」ノ流ヲ汲ム者ガアリマスケレドモ、是ハ其主義者ヲ奉ズルト云フヨリモ、寧ロ研究致シテ居ルニ過ギナイ、此「サンヂカリ

ズム」ハ一ノ革命的勞働組合主義デアリマス、其手段ガ極メテ過激デ、直接行動ニ依ッテ主義ヲ實現シヤウト云フノデ、議會政策、政黨政策、議會ヤ政黨ノ力ヲ藉リテ「サンヂカリズム」ヲ主張スルメデナク、其様ナ手緩イコトハ一切止メテ、直接行動、同盟罷工カ或ハ其他ノ過激ナ運動ニ依ッテ、其主義ヲ實現セントスルモノデアリマスカラ、是亦危険ナル主義デアルト申スコトガ出來マス、併ナガラ是ハ社會主義ト云フヨリ、寧ロ無政府主義ニ近イ一種ノ過激思想デアルト申シタガ宜カラウト思フノデアリマス、其他ニ「ポリシエビズム」露西亞過激派ノ主義ガアリマスケレドモ、是モ別ニ日本ニアル譯デハアリマセヌカラ、申ス必要ハアリマセヌ、其他ニ共同連帶社會主義的社會主義杯ト云フノガアリマスケレドモ、日本ニハ目下之ヲ奉ズル者ガアリマセヌ、斯様ナ次第デアリマシテ、社會主義ハ本來ノ性質ニ於テ經濟上ノ主義デアッテ、政治上ノ主義デアアリマセヌ、又勞働問題ガ發生スル以上ハ、社會主義ト云フモノハ當然起ルベキモノデアアル、資本主義ニ對シテ社會主義ト云フモノガ、反對ニ毒トモナリ、藥トモナルノデアリマス、而シテ日本ノ社會主義ナルモノハ、皆ナ穩和ナル所ノ「マルクス」社會主義者カ、然ラザレバ國家社會主義者デアアル無政府主義「サンヂカリズム」ノ如キハ極メテ少數デアリマス然ルニ政府ハ此社會主義者ヲ一列一體ニ嚴重ナル取締ヲ加フルト云フコトハ、實ニ當ヲ得タモノデナイト信ズルノデアリマス、第二段ノ質問、從來ノ社會主義取締方針ハ苛酷ニ失スト認メザルカ政府ノ取締ガ是等ノ穩和ナル社會主義者ニ對シテモ、如何ニ苛酷ニヤッテ居ルカト云フ實例ハ私此處ニ澤山持ッテ居ルノデアリマス、今二三ノ例ヲ申シマスレバ、言論出版ノ取締ノ如キ、非常ニ今尙嚴重デアリマス、尤モ原内閣ニナリマシテ、此點ハ稍々緩和セラレタ感ガアリマスケレドモ、併ナガラ二十八年來傳統的ノ政策ト云フモノガ矢張其形ヲ存シテ居リマシテ、直接此取締ニ從事スル官憲ハ、中々マダ六ヶ敷イコトヲ申シテ居リマス、現ニ最近ニ於キマシテ堺利彦君ノ「唯物史觀解説」ト稱スル、翻譯書ヲ本年一月ニ發賣禁止ラシマシタ、其内容ハ既ニ久シク「新社會」ト云フ雜誌ニ讀物トシテ掲載サレテ居ッタノデアリマス、ソレヲ纏メテ單行本トスルト直チニ發賣禁止ニナッテシマッタ、ソレカラ言論ノ如キハ最近二十年間ニ於キマシテ、社會主義演說會、若クハ社會

主義講演會ト名ノ付イタ集會デ、無事ニ最後マデ演了シタモノハ殆ド一ツモ無イト云ッテ差支ナカラウト思ヒマス、開ケバ直チニ解散ヲ命ズル、ソレ故ニ自然社會主義者モ根ガ盡キテ演說會ヲ開カウトシナイ、開イテモ無益デアルカラ開カナイト云フ有様デアリマス又最近大正六年ニ堺君ガ社會黨ノ候補者トシテ衆議院議員選舉場裡ニ現ハレタ際ニ、東京市中デ五回演說會ヲ開キマシタケレドモ、十分乃至二十分ニシテ悉ク禁止サレテシマッタ、而シテ其後ニハ會場ノ持主ニ政府カラ交渉致シマシテ、貸サヌコトニナツテシマッタト云フコトデアリマス、又社會黨宣言政見發表ノ印刷物ノ如キ、或ハ演說會ノ「チラシ」ノ如キモノハ、殆ド印刷所マデ踏込ンデ行ッテ之ヲ押收シ、或ハ組版マデモ破壊セシメタト云フヤウナ状態デアリマシテ、誠ニ取締ガ峻嚴ヲ極メタノデアリマス、出版物ノ中デ發賣禁止ニナツテ居ルモノハ、其數ガ少ナクナイノデアリマス、今一々此處デ其名ヲ列舉スルコトハ致シマセヌ又結社ノ如キハ殆ド絶對ニ禁止サレテ居リマス、又交通ニ對スル妨害モ中々峻嚴ナモノデアリマス、即チ一人デ道ヲ歩クコトガ出來ナイ、外ニ出レバ必ズ尾行巡查ガ尾ク、是ハ第二次桂内閣時代ガ一番酷カッタサウデアリマスガ、最近ニ於テモ矢張尾行巡查ガ廢サレテアリマセヌ、殊ニ最近堺利彦君ノ如キハ尾行巡查ガ三人モ尾イテ居ル、尤モ其中ノ一人ハ憲兵デアアル、陸軍ノ側カラ尾行ヲ一人附ケテ居ルト云フコトデアアル、而シテ住居ノ如キモノモ下宿致シテ居リマス、刑事巡查ガヤツテ來テ、下宿ノ主人ニ交渉シテ逐出スヤウナコトラスル、ソレ故ニ下宿ヲ輾轉シテ、殆ド居ルニ處ガ無イト云フヤウナ憫ナ有様デアリマス、又家主ヲ説イテ其家ヲ逐出サセルト云フヤウナコトモアリマシタ、又職業ニ就キマシテモ其雇主ニ對シテ、干渉ヲシテ逐出サセル、其實例ハ極メテ多イ、商賣ヲシテ居リマス店ノ前ニ刑事巡查ガ監視シテ居ル、或ハ得意先ニ行ッテ、何故ア、云フ所デ品物ヲ買フカト云フコトヲ言ッテ干渉致シマス爲メニ店モ閉ヂテシマハナケレバナラヌト云フヤウナコトニナツタ實例モ少クアリマセヌ、總ジテ就職口ニ對スル壓迫ト云フモノガ中々酷カッタノデアリマス、詰マリ糊口ノ途ヲ塞イデシマフト云フコトヲヤル、世ニ是レ位殘酷ノ事ハナカラウト思フ、又實際ヲ壓迫スルト云フ實例モアリマス、何故ア、云フ者ト交ルカ、ア、云フ者ト手紙ヲ遣取リヲシテハイケナイ

ト云フヤウナコトヲ言ッテ、友人或ハ親戚杯トモ殆ド文通ヲ杜絶サシマウ、又何トカト云ヘバ直チニ檢束シテ、身體ノ自由ヲ奪フト云フ實例ハ更ニ多イノデアリマス、而シテ僅カノ罪ヲ犯シマスト嚴罰ヲ以テ之ニ臨ム、其實例モ多數アリマス、併ナガラ是等ノ事ハ、マダ社會主義者自身ノ受クル所ノ迫害デアルカラ、假リニ宜イトシテ我慢ヲシテモ、我慢ノ出來ナイノハ、社會主義者ノ妻子及友人ニ對シテ爲ス所ノ壓迫デアリマス、妻ニ對シテ迫害ヲシタト云フ事實モ澤山アリマス、ソレガ爲メニ或社會主義者ハ、協議ノ上妻ヲ離婚シ、其妻ハ教師タルコトガ出來ズシテ產婆ニナツタ、サウ云フ實例モアリマス、又結婚セント致シマシタ所ガ、警視廳カラ色々惡イ事ヲ報告サレタノデ、破談ニナツタト云フ實例モアリマス、其中私ガ非常ニ神經ヲ刺戟スルト思ヒマシタノハ、山口孤劍ト云フ人ノ妹ノ某ガ、小倉ノ第十四聯隊ノ陸軍中尉ノ村上某ノ細君ニナツタ所ガ、聯隊長ガ其中尉ヲ呼出シマシテ、彼ノ妻ヲ離別シナケレバ職ヲ罷メルゾト云ッテ壓迫ヲ致シマシタノデ、遂ニ彼ハ離別スルニ忍ビズシテ、休職トナツタト云フコトデアリマス、是等ハ實ニ殘酷極ル遣方デアルト思フノデアリマス、又社會主義者ヲ友人ニ持ッテ居ル關係デ職ヲ失ッタ實例ハ、博文館ニ一人アリマス、又中央新聞ノ校正係ニモ一人アリマスガ、名前ハ留保シテ置キマス、斯様ナ次第デアリマシテ、隨分官憲ノ社會主義ニ對スル壓迫ハ、實ニ峻烈ヲ極メテ居リマス、斯ノ如ク殘酷峻嚴ナル取締ヲ加ヘル結果ハドウナルカト云フト、極メテ明白デアリマス、即チ羊ヲ驅ッテ狼タラシムルモノデアリマス、人ハ感情ノ動物デアリマス、迫害サルレバ復讐ヲ思ヒ、壓迫サルレバ反抗ヲ思ヒマス、是ハ人情デアリマス、特ニ日本人ハ向フ意氣ノ強イ感情ノ緊張シタ國民デアリマシテ、是ハ佛蘭西人ニ稍々似タ所ガアリマスガ、癩ニ觸ルト隨分酷イ事ヲヤリ兼ネヌノデアリマス、然ルニ穩和ナル社會主義ヲ唱へ、或ハ皇室中心ノ主義ヲ唱へテ、社會ノ缺陷ニ對シテ救濟ノ聲ヲアゲントシテ居ルノニ、無暗ニ政府ガ峻嚴ナル迫害ヲ加へ、親戚故舊マデモ虐メル、其結果ハドウナルカ、其結果ヲ考ヘタナラバ、吾々ハ實ニ悚然トシテ肌ニ粟ヲ生ズルノデアリマス、私ハ茲ニ一ツノ實例ヲ持ッテ居リマス、大正五年ノ夏桑港ニ於テ、日本人ノ或社會主義者ガ領事ノ壓迫ヲ受ケタ時分ニ、片山潜ト云フ人ガ遙々一書ヲ桑港カラ内地ニ寄越シテ

居リマス、ソレニドウ云フ事ガ書イテアルカト云フニ「此一事ニ依リテモ日本官憲ノ社會主義者ニ對スル所ノ壓迫振ヲ想像スルコトガ出來ルト思ヒマス其結果トシテ邦人中ノ社會主義者ノ多數ハ漸次無政府主義者トナツテ居リマス、彼等ガ少シク社會的活動ヲスレバ日本官憲ハ直チニ注意人物名簿ニ記入シテ郷里ノ父兄ニ壓迫ヲ加ヘルノデ自然父兄トモ音信ヲ斷チ日本政府ヲ憎ムト同時ニ日本ヲ厭フヤウニナリ孤立ノ生活ニ在ッテ唯々絶望的ノ無政府主義的思想ガ纔ニ彼等ノ慰安トナツテ居ルノデアアル」彼等ハ無政府主義ニ於テ一ノ慰安ヲ求メテ居ル、斯ウ云フコトヲ書イテ來テ居リマスガ、是ガ當時ノ「新社會」ト云フ雜誌ニ載ッテ居ルノデアアリマス、即チ斯ノ如ク過激手段ガ彼等ノ絶望的煩悶ヲ救フ唯一ノ方法デアルト云フコトニナツタナラバ、其結果ハ如何ニ恐ルベキモノデアアルカト云フコトハ、想像スルニ餘アルノデアアリマス、此政府ノ二十年來傳統的ノ社會主義ノ取締方針ト云フモノハ、丁度徳川幕府ガ關ケ原戰後ニ浪人共ニ加ヘタ取締法ト髣髴タルモノガアリマス、矢張同様ノ道行ニナツテ居リマス、關ケ原戰後多數ノ浪人ガ生ジテ、其浪人ガ衣食ノ道ヲ求ムル爲メニ江戸ニ集ツタ、ソレヲ取締ルノニ極メテ峻嚴ノ態度ヲ臨ンダ、江戸ニ親戚故舊ノ在ル者デナケレバ、直チニ引拂フベシト云フ嚴令ヲ下シタ、之ガ爲メ左ナキダニ糊口ノ途ヲ失ッテ困却シテ居ル浪人ハ、益々困窮ヲ致シタノデアアリマス、其時分ニ當ッテ是等浪人ノ身元引受人ニナツタ者ガ、即チ由井正雪デアリマス、由井正雪ハ丸橋忠彌ト共ニ徳川幕府ノ顛覆ヲ企テマシタ、其動機ニ就テハ色々ナコトヲ歴史家ガ申シテ居リマスケレドモ、其真相ト云フモノハ、即チ是等浪人ノ徳川幕府カラ壓迫ヲ加ヘラレタ所ノ浪人共ガ、由井正雪ヲ擔イデ幕府ニ弓ヲ彎イテ、一ツ幕府ヲ引繰返シテヤラウト云フノガ、真相デハナイカト思ヒマス、殊ニ此丸橋忠彌ノ配下ニ屬シテ居ッタ所ノ老人隊ト云フモノハ、何レモ六十歳、七十歳、年老イタル浪人共ガ幕府ノ迫害ヲ受ケテ、モウ此世ニ望ミガ無イカラ、此世ノ思出ニ彼等老中共ヲ斬ッテ斬ッテ捲ッテ、自ラ斬死ヲシヤウト云フ決心ヲ致シテ、茲ニ決死隊ヲ組織致シタノデアアリマス、實ニ悲惨極マルコトデアリマス、政府ガ無暗ニ壓迫ヲ加ヘテ、彼等糊口ノ途ヲ斷チマス、餘憤ノ迸シル所事此ニ至ルコトハ、理ノ賭易キ事デアリマス、斯ウ云フ史的事實ハ、古今東西其例ガ乏シクナ

イ、明治四十三年ニ起リマシタ所ノ幸徳秋水ノ一派ノ大逆事件ト云フモノハ、矢張慶安四年ニ起ッタ所ノ、由井正雪ノ變ト同シヤウナ形ヲ取ッテ居ルノデアアリマス、明治四十一年六月ニ赤旗事件ト云フモノガ、神田ノ錦輝館ニ起リマシタ、是ハ洵ニ詰ラヌ事件デ、白晝警官ト赤旗ノ爭奪ヲシタト云フ輕微ナ事件デアリマス、然ルニ此赤旗事件ニ連坐シタ所ノ社會主義者ハ、何レモ皆ナ重刑ニ處セラレタノデアリマス、官吏抗拒罪トカ、或ハ治安警察法違反トカ云フ輕微ナ犯罪デアアルニ拘ラズ、皆ナ懲役一年乃至二年ト云フヤウナ、重刑ヲ宣告セラレタノデアアリマス、而シテ其後社會主義者ハ一體ニ非常ニ酷烈ナル所ノ監視ノ下ニ、身動キモナラヌト云フヤウナ酷イ壓迫ヲ受ケタノデアリマス、殊ニ幸徳秋水ノ如キハ、自分ノ家ノ前ノ廣場ニ警官ガ天幕ヲ張ッテ、二十人三十人晝夜詰掛ケテ之ヲ監視シテ、湯ニ行クニモ尾行巡査ガ尾ク、友人ヲ訪問スルニモ尾行巡査ガ尾クト云フヤウナ譯デ、非常ニ壓迫ヲ加ヘタノデアアリマスカラ、彼等ハ絶望的煩悶ニ陥ラザルヲ得ナカッタノデアアリマス、且又此赤旗事件ノ刑罰ガ餘リニ酷烈ナリシヲ恨ムノ餘リ、是等餘憤ノ迸ル所、遂ニ過激ノ事ヲ企ツルニ至ッタノデアアリマス、大逆事件ト云フモノハ、斯ノ如クニシテ起ッタノデアリマス、是ハ決シテ秘密デモ何デモナイ、大逆事件ノ判決ト云フモノガ雜誌ニ載ッテ居リマス、其雜誌ハ別ニ發賣禁止ニモ何モナツテ居リマセヌカラ、志アル方ハ一讀ニナレバ、直チニ明白ニナルコトデアリマス、赤旗事件ニ起因スル所ノ絶望的憤激ニ依ッテ、此大逆事件ヲ生ジタノデアアル、恰モ徳川幕府ノ壓迫ニ對シテ、由井正雪ノ變ガ起ッタト同シ形式ヲ取ッテ居ル、洵ニ危険極マル事デアルト私ハ思フノデアリマス、尙ホ方面ヲ變ヘテ觀察致シマスルノニ、今日社會主義ガ非常ニ熾ンナ國ハ何處々々デアルト申シマスルト、不思議ニモ社會主義ニ對シテ壓迫ヲ加ヘタ國ニ限ッテ居リマス、比較的自自由ナ國ニハ、社會主義ハ餘リ熾ンデアリマセヌ、其證據ニハ北米合衆國ハドウデアアルカ、自由ノ國デアリマス、社會主義ノ唱道ニ對シテ、何等壓迫ヲ加ヘルト云フコトハアリマセヌ、隨テ米國ニハ亞米利加社會主義ト云フモノハ、殆ド發展シテ居ナイ、社會黨杯ト云フモノハ、殆ド勢力ガ無イト云ッテモ差支ナイ、英吉利ハドウデアアルカ、英吉利ハ矢張り自由ノ國デアリマス、英吉利ニ於テ勞働黨ト云フモノハ可ナリ勢力ヲ得テ居リマスケ

レドモ、労働黨ハ全部社會主義者デナイ、而モ其労働黨タルヤ、其數ト云フモノハ極メテ少イノデアル、尤モ昨年暮ノ總選舉ニ於キマシテ幾ラカ數ガ殖エマシタケレドモ、他ノ黨派ニ比スレバ殆ド論ズルニ足ラナイ、斯様ニ自由ナ國ニ於テハ、社會主義ト云フモノハ決シテ熾ニナラヌ、翻テ專制國ト稱セラレテ居タ所ノ露西亞ハドウデアアルカ「カイゼル」ノ下ニ壓迫ヲ蒙ツテ居タ所ノ獨逸ハドウデアアルカ、今日社會主義ノ本場ト云ヘバ獨逸ト露西亞デアアル、即チ社會主義ヲ常ニ壓迫シテ來タ所ノ國ハ、此ノ通り社會主義ガ熾ニナツテキル、遂ニ社會主義者ノ爲メニ政府ハ顛覆サレテ居ルデハナイカ、露西亞ト獨逸ノ革命ハ何人ガ遂行シタノデアアルカ、露國、獨逸ノ政府ハ、彼等ガ力ヲ擧ゲテ壓迫シタル者ノ爲メニ其身ヲ亡ボスニ至ツタノデアリマス、是故ニ無暗ニ社會主義ヲ壓迫スルコトノ如何ニ危険デアアルカト云フコトハ、此實例デモ知ルコトガ出來ルノデアリマス、獨逸ニ於キマシテ「ピスマー」ガ社會主義ノ鎮壓法ト云フ法律ヲ作ツタコトガアリマス、サウシテ社會主義者ニ非常ニ壓迫ヲ加ヘマシタケレドモ、此結果ハドウデアアルカト申シマスルニ、社會主義鎮壓法ガ制定サレタ時分ニ、社會主義者ニ對スル選舉投票數ト云フモノハ、僅ニ四十三萬デアッタモノガ、其法律廢止ヲシタ時分ニハ、社會主義ノ投票ト云フモノガ、百四十三萬、即チ百萬ノ數ヲ増加シマシタ、鎮壓法ヲ出シタ時分ニ労働組合ノ數ハ僅ニ五萬シカ無カッタモノガ、之ヲ廢止スル時ニ至ツテ二十萬ニ殖エタ、社會主義鎮壓法ト云フモノハ、何等ノ効力ヲ爲シテ居ナイデアリマスカラ「フェルヂナンド、ラツサル」ノ如キハ、「社會主義鎮壓法ハ社會主義ヲ鎮壓スルコトガ出來ナクシテ、却テ「ピスマー」ヲ鎮壓シタノデアアル」ト云フ皮肉ナル批評ヲ致シテ居ルノデアリマス、斯様ナ次第デアリマシテ、嚴峻苛酷ナル取締方針ハ、獨リ何等ノ効果無キノミナラズ、穩和ナル社會主義者ヲ驅ツテ過激ニ赴カシメルモノデアリマスカラ、政府ハ此傳統的ノ苛酷ナル取締方針ト云フモノニ付テハ、大ニ考慮スル所ガ無ケレバナラヌト思フノデアリマス、ソコデ私ハ第三ノ質問ト致シマシテ、茲ニ政府ハ社會主義取締方針ヲ改ムル意思ナキヤト云フコトヲ問ハナケレバナラヌノデアリマス、先ヅ第一ニ申上ゲテ置キタイノハ、危険人物名簿ノ整理ヲスルト云フコトデアリマス、承ハリマスレバ、警視廳ニハ要視察人名簿、即チ注意人物、危険人物ノ名簿ガアリマ

シテ、ソレニハ甲乙丙丁ト分ケテ、社會主義者中一番激烈ナルモノヲ甲トシ、稍穩カナル者ヲ乙トシ、丙丁ト云フヤウニ四種類ニ分ケテアルサウデアリマスガ、此帳面ニ一度名ヲ書カレタ者ハ容易ニ抹殺サレルコトガナイ、假令説ヲ改メテ穩和ナル主義ニナリマシテモ、矢張り危険人物名簿カラ削除サレルコトガ出來ナイ、是ガ警視廳ノ危険人物ニ對スル取締ノ方針デアアル、併ナガラ今日此名簿ニ名ガ載ツテ居ル人デ、初メカラ極穩和ナル社會主義者ガアリマスルシ、又青年ノ時ニハ隨分過激ナ事ヲ主張シタケレドモ、社會ノ經驗ヲ積ムニ從ツテ、穩和ナル主義ニ改メタ人モ少クナイノデアリマスガ、其等ガ矢張り危険人物トシテ名簿ニ載ツテ居ル、コンナ固定ノ危険人物名簿ハ整理シテ載キタイ、何等危険ノ無イ穩和ナル主義者ハ、全部削除スルコトニシテ貫ヒタイト思フノデアリマス、勿論無政府主義者、或ハ「サンヂカリズム」ヲ奉ズル者、激烈ナル主義ヲ奉ズル者ハ此限ニ在ラズ、寧ロモウ少シ嚴重ニ取締ツテ差支ナイト思ヒマス、立憲政體ノ下ニ於テ立憲政治ヲ呪フヤウナ言動ヲ爲ス者ハ、矢張り一ノ危険人物ト思フ、嘗テ或人ハ憲法中止論ヲ唱ヘタコトガアル、其人ハ今日果シテ憲法中止論ヲ持ツテ居ルカドウカ知リマセヌガ、其後矢張り僚一味ノ間ニ、動モスレバ此立憲政治ヲ呪フヤウナ言動ヲスル者ガアル、是等ハ矢張り危険人物デアアル、無政府主義者「サンヂカリズム」主義者ト共ニ、危険人物名簿ノ中ニ載セテ置ク方ガ宜イト思フ位デアアル、ソレカラ第三ハ尾行巡查ノ廢止ヲ勸告シタイノデアリマス、尾行巡查ト云フモノハ、獨リ本人ノ業務ヲ妨害シ信用ヲ毀損スルト云フヤウナ弊害ガアルノミデナイ、誠ニ無益ナモノデアアル、ト申スノハ社會主義者モ段々尾行ニ馴レテ來マスト、巡查ヲ出抜クコトハ極メテ上手ニナル、故ニ彼等ガ眞ニ不穩當ノ企ヲシヤウトスレバ、容易ニ捲イテシマウコトガ出來ルノデアアル、何ノ役ニモ立タヌ、殊ニ最近尾行巡查ト社會主義者ト妥協シテ、一絡ニ遊廓ニ女郎買ニ行ツタト云フヤウナ實例杯モアル、或ハ妥協シテ一日自分ガ外出シナイ代リニ、尾行巡查ハ妻子ヲ伴レテ淺草公園デ遊ンデ、歸リニ牛肉ヤ餅杯ヲ土産ニ持ツテ歸ツタト云フ實例モアル、誠ニ無益ナ事デアアル、斯ル事ニ國費ヲ濫費スルノハ、誠ニ不都合デアルト思フ、尾行巡查ハ、社會主義者ガ旅行ヲスルト儲カルノデアアル、社會主義者ガ大阪ヘ行クト、本署カラ旅費ヲ貰ツテ尾イテ

行ク、儉約シテ歸レバ一度ノ旅行ニ三十圓位ハ殘ル、サウスルト社會主義者ノ尾行ニ依ッテ此尾行巡查ハ儲ケルコトニナリ、甚ダ怪シカラヌ譯デアアル、一面社會主義者ヲ養成スルヤウナ氣味ニモナル、社會主義者ガ全ク無クナルト役得ガ無クナルカラ、……即チ取締ルベキ目的物ガ無クナレバ職ヲ失フノ虞ガアルノデ、之ヲ養成スルト云フヤウナ不都合ナル結果ニモ相成ルノデアリマス、斯様な事ハ常ニ在ル譯デアアリマスマイケレドモ、何トナク無意識ニサウ云フ形ニナルト云フコトハ、否認スベカラザル事實デアリマス、第三ニハ言論出版ヲ今少シク開放シテ貫ヒタイ、社會主義ト名ノ付ク書物ハ殆ド出スコトガ出來ナイ、其癡經濟學者ノ書キマシタ書物ノ中ニハ、社會主義ノ事ガ澤山書イテアル、唯、名前ガ社會主義トナッテ居ラヌカラ、政府ハ之ヲ許シテ居ルヤウデアリマスガ、名前ハドウデモ内容ノ方ガ大切デアアルノデアリマスカラ、斯様な不條理ナル取締ハ、寧ロ廢止シタ方ガ宜カラウト思フ、又演說會ノ如キモ、主催者ノ顔觸ヤ、或ハ演說會ノ名稱ヲ見テ、之ヲ禁止スルトカ云フヤウナコトハ無意味デアリマス、是杯モ餘程手加減ヲシテ貫ハナケレバナラヌト思フノデアリマス、ソレカラ第四ニハ罪ヲ三族ニ及ボスノ主義ヲ改メテ貫ヒタイ、本人ガ危險デアルト親族故舊マデ迫害スルト云フコトハ、昔ノ專制時代ニ在ッタコトデアリマスケレドモ、今日明治大正ノ御代ニ斯ル蠻風ノ行ハレルト云フコトハ、實ニ悲シムベキ事デアルト思ヒマス、今ヤ世界ハ露西亞ノ革命、獨逸ノ革命ノ影響ヲ受ケテ、「ソシヤル、デモクラシー」ノ思潮ハ靡然トシテ世界ヲ包ンデ居ルノデアアル、資本侵略主義ニ對シテ、社會主義ノ段々盛ンニナッテ行クト云フコトハ寧ロ當然ノ勢力デアアル、世界ノ列強中、何レノ國カ內閣ニ社會主義者ノ閣員ヲ一人モ持タヌ國ガアリマセウ、又世界列強中、何レノ國カ社會主義者ノ代議士ヲ一人モ持タナイ國ガアリマセウ、其是レアルハ唯、日本ノミデアアル、日本ハ此世界の大潮流ノ中流ニ船ヲ停メテ置クコトガ出來ルデアリマセウカ、速ニ流ニ從ッテ下ルノデナケレバ、却テ船ヲ覆ス虞ガアル、日本政府二十年來ノ傳統的社會主義取締方針ト云フモノハ、誠ニ危險極マルモノデアリマスカラ、ドウカ此點ハ政府ニ於カレマシテモ篤ト御考慮ヲ願ヒタイ、殊ニ原內閣ニ於カレマシテハ、斯ル事ニ了解ノ多イ人ガ閣員ニ澤山アルノデアリマスカラ、此點ハ能ク調査ヲ致シマシテ、若シ

私ノ唯今申上ゲタ三段ノ質問ニ多少採ルベキ所ガアッタラバ、速ニ方針ヲ改メ、國家及皇室ヲシテ眞ニ泰山ノ安キニ置クヤウニ盡力セラレンコトヲ、切ニ希望シテ已マナイモノデアリマス、敢テ誠意アル内務大臣ノ御答辯ヲ囑スル次第デアリマス

之ニ對シ床次國務大臣ハ三月二十四日書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

社會主義ニ關シテハ從來其ノ内容ヲ檢覈シ社會ノ實情ニ鑑ミ必要ニ應シテ之カ取締ヲ爲セルモノニシテ敢テ苛酷ノ取締ヲ爲セルモノト認メス

二 甘蔗作ニ關スル質問

- 一 砂糖ノ需給關係ニ對スル政府ノ所見如何
- 一 從來甘蔗作ヲ爲シタル四國、中國、九州地方ニ於テ米不足ノ爲米作ニ轉業スル傾向ナキヤ或ハ該地方ニ於テハ甘蔗作ニ比シ米作ハ經濟的ナリトスルモ之カ爲甘蔗作ニ對スル政府ノ所見如何
- 一 政府ハ米不足ノ爲關稅廢止及開墾助成法ニ依リ米ノ輸入若ハ移入増加又ハ生産増加ヲ實行シ米ノ調節ヲ圖リツツアリ隨テ之カ爲臺灣ニ於ケル甘蔗作及米作ニ影響ヲ及ホササルヤ政府ノ所見如何
- 一 日本内地産額ノ六割ヲ占ムル沖繩縣ノ糖業改良獎勵ニ就キ政府ノ所見如何

八年二月二十日我如古樂一郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ三月十一日其ノ趣旨ヲ辯明ス

歐洲戰亂ノ結果、歐米ニ於キマシテハ甘菜糖ガ減ジ、産額ガ半額以上ニナツテ居リマス、其爲メニ亞細亞洲ニ於ケル甘蔗糖ガ値段ガ高クナツテ參々ノデ、吾々國民トシテモ、戰前分蜜糖百斤十五六圓ノ相場デアッタノガ、今日デハ既ニ百斤二十三圓ノ相場デ消費シツ、アルノデアリマス、斯様ニ相場ガ高クナツテ居ルノデアリマスカラ、我國內ニ於テモ此甘蔗作ニ付テノ、補給作ニ付テ質問致サウト思フノデアリマス、我國內ニ於ケル一箇年砂糖ノ消費量ハ五六億萬斤デゴザイマス、即チ人口一人當リガ十斤餘ニ當ル、之ヲ歐米ノ五六十斤ニ比較シテ見マズレバ、餘程少量デゴザイマス、ソレカラ大正三年ヨリ大正七年ニ至ル五箇年間ノ輸出入ヲ較ベテ見マズレバ、大正六年ニ於テ九千萬斤程ノ輸出超過ガアリマシタ、此年ハ日本内地及臺灣ノ甘蔗ノ豊作ノ爲メト、ソレカラ歐洲戰亂ノ爲メ輸入ガ減少シタノデ、斯様ナ事ニナツテ居リマスガ、其他ノ年ニ於キマシテハ總テ輸入超過デ、大正七年ノ如キ、既ニ一億七千萬斤餘ノ輸入超過ニナツテ居ルノデアリマス、而シテ本邦ハ年々人口モ殖エ、並ニ生活ノ程度向上ニ伴ヒ、益、砂糖ノ消費ガ増スノデアリマシテ、今後輸入超過ニナルト云フコトガ思ハレルノデアリマスカラ、此砂糖ノ需給關係ニ付テ政府ニ御質問ヲ致ス次第デアリマス、ソレカラ國內ニ於テ甘蔗作ヲ爲シテ來マシタ所ノ四國、九州、中國邊リニ於キマシテハ、近年米不足ノ爲メ、國內ニ甘蔗作ガ減リ、又間接ニ臺灣ニ於テモ甘蔗作ガ減ツテ、益、國內ニ於ケル砂糖ノ産額ガ減ルダラウト思フノデアリマスガ、果シテ左様ナ傾向デアレバ、益、此砂糖ノ需給關係ニ付テハ、餘程ノ注意ヲ拂ハナケレバナラヌト思ヒマスノデ、政府ニ其點ヲ質問致シタ次第デアリマス、ソレカラ次ニ其質問ノ要點ハ、甘蔗作ノ適當デアル所ノ沖繩縣ニ於ケル糖業ノ問題ニ付テ、二通りノ質問ヲ致サウト思フノデアリマス、一ツハ黑糖ノ工業、一ツハ分蜜糖ノ工業ニ付テ御質問ヲ致ス次第デアリマス、此分蜜糖ノ工業ニ付キマシテハ、政府ガ既ニ明治四十二年ニ沖繩縣ニ百噸ノ能力アル分蜜糖ノ機械ヲ据付ケマシテ、分蜜糖業ノ

有望ナルコトヲ示サレタノデアリマス、爾後臺南製糖會社ノ工場ガ數箇處ニ出來、又今將ニ東洋製糖會社ガ、宮古八重山兩島ニ設立サレヤウトスル機運ニナツテ居リマス、斯様ニ沖繩縣ハ甘蔗作ニ餘程有望ナ土地デアリマシテ、糖業改良事務局ガ設置サレタ場合ニ於テハ、僅ニ産額ガ五六千萬斤デアリマシタガ、大正五年ニハ一億一千万斤ニナツテ居ルノデアリマス、約十年間ニ於テ倍額以上ニナツテ居リマス、斯ル狀勢ヨリ考ヘテ見マズレバ、沖繩ニ於キマシテハ、數年ヲ待タズシテ二億万斤以上ノ砂糖、即チ日本國內ニ於ケル消費量ノ約三分ノ一以上ヲ得ラル、譯デアリマス、是ハ如何ナル譯カト申シマスルト、大正五年ノ甘蔗作ヲ調べテ見マズレバ、マダ全耕地ノ二割強デアリマスカラ、尙ホ其ノ耕地ヲ擴メルノミナラズ、開墾ノ餘地モ多イノデアリマス、此砂糖ノ産額ヲ増進セシメルト云フコトハ、今日ノ糖業政策上最モ緊要ナル事デゴザイマス、而シテ今分蜜糖ト黑糖トノ割合ヲ見マズルト、全産額ノ一割内外シカ分蜜糖ハ作ラレテ居ナイノデアリマス、此砂糖工業ニ付テ最モ必要ヲ感ジマスルノハ、壓搾器ノ關係デゴザイマス、即チ新式壓搾器ト、在來ノソレトノ歩止リノ差ヲ約一步ト見マシテモ、砂糖一億万斤ニ付テハ、百万斤ノ損失ニナルノデアリマス、故ニ政府ハ又黑糖工業ニ付テ必要ヲ認メラレテ、大正二年三年ニ於キマシテ、栽培者五十人以上、ソレカラ産業組合二十人以上ヲ有スル者ニ對シテ、一晝夜五千斤ノ製造能力アル蒸氣器械ヤ、石油發動機ニ依ル壓搾器ニ補助獎勵ヲ與ヘタノデアリマス、是ハ黑糖改良上最モ適切ナル方法デアリマスガ、マダ一般ニ行渡ツテ居ナイノハ、甚ダ遺憾トスル所デアリマス、而シテ此壓搾改良器ニ依ル搾汁ヲ焚イテ黑糖ニ仕上ゲル竈ノ鈞合ガ良クナイ爲メニ、品質ノ惡イ砂糖ヲ製造スルト云フコトガ、今日最モ缺點トシテ居ル所デアリマス、此改良壓搾器ト竈ノ關係ハ、共ニ黑糖品質ノ改良上輕々ニ看過スベカラザル問題デゴザイマス、故ニ政府ハ之ニ對シテ技術者ヲシテ研究セシメラレテ、十分ナル黑糖改良ノ功績ヲ舉ゲシメラレル御意思ハナイノデゴザイマス、此ノ黑糖ノ品位ハ、今ノ三步、二歩半、一步、半、一步、半分許リノ七等級ニ分タレテ居リマシテ、隨テ其價格ニ於テモ大差ガアリマス、而シテ今二歩ト一步半ノ差ガ、黑糖一樽ニ付キ金三十六錢ノ差、一步半ト一步ノ差、同ジク金七十二錢デアリマス、而シテ大正六、

七年ノ沖繩黑糖検査所ノ調査ニ依レバ、全産額ノ中二歩以上ガ五〇%位デアル故ニ、黒糖百万樽ノ中、五十万樽ハ一歩半以下デアアル、然ルニ竈ノ改良及製造技術ノ進歩ニヨリ、其中一歩半ヨリ二歩ニ上ルモノ十萬樽トシ、一歩ヨリ一歩半ニ上ルモノ十萬樽トスレバ、前者ハ二萬六千圓、後者又七萬二千圓、計金十萬八千圓ノ利益トナルノデアリマス、ソレカラ分蜜糖業ニ於テ、政府ハ既ニ獎勵方法ヲ示サレテ居リマスケレドモガ、マダ其分蜜糖業ガ十分ニ進歩シナイノデアリマス、其原因ハ色々アリマセヌケレドモ、甘蔗栽培人ト製糖會社トノ間ニ於ケル、賣買上ノ經濟的調和ノ方法ガ宜シキヲ得ナイコトガ、主ナル原因デアラウト思フノデアリマス、而シテ沖繩縣ニ於キマシテハ、既ニ申シマシタ通りニ、黒糖工業ト分蜜糖工業ノ二ツノ政策ヲ執ッテ居リマスル故ニ、甘蔗栽培家ハ自由ニ甘蔗ヲ分蜜糖會社ニモ販賣シ、或ハ又黒糖ノ相場ノ景氣ガ好ケレバ、自分デ又黒糖ヲ製造スルト云フヤウナ自由制度ニナッテ居リマス、是ハ内地ニ於ケル黒糖ノ需要ノ關係上、已ムヲ得ナイコトデアラウト思ヒマス、想フニ砂糖ノ相場ト云フモノハ、何レノ國、何レノ地方ヲ問ハズ、總テ世界的ノ影響ヲ受ケルノデアリマスカラシテ、歐洲戰亂以來獨逸ヤ、埃地利、佛蘭西等ニ於キマシテハ、甜菜糖ノ産額ガ半額ニ減少シテ居ル今日デアリマス、ソレカラ戰時中ハ歐羅巴ニ於キマシテハ、既ニ食糧制限法ノ爲メニ砂糖ノ消費量ガ矢張減ッテ居ル、デアリマスルガ、休戰ノ事ガ起リマシテ以來、砂糖ノ需要ガ段々多クナッテ亞細亞洲殊ニ瓜哇島ニ於ケル砂糖ヲ買込ムト云フヤウナ傾向ニナッテ居リマシテ、段々其影響ガ我が日本ニ及ビマシテ、自然高イ砂糖ヲ食ハナケレバイヤケナイヤウニナッテ居ルノデアリマス、言ヒ換ヘレバ歐羅巴ニ於テ甜菜糖ノ減ル時ハ、亞細亞ニ於テ甘蔗糖ノ景氣ガ好イ、好イケレドモガ、若シヤ亞細亞洲ニ於ケル甘蔗並ニ歐羅巴ニ於ケル甜菜糖ガ豐作デアリマシタ場合ニ於テハ總テ其値段ガ非常ニ暴落スルノデアリマス、今日ハ先ヅ甘蔗糖國ニ於キマシテハ、歐洲戰亂ノ結果景氣ハ宜シウゴザイマスケレドモ、若シヤ同地方ニ於テ砂糖ガ豐作デアリマシタナラバ、相場ガ非常ニ下落シテ、糖業者ガ非常ニ苦シムノデアリマスソレ故ニ我が國內ニ於テ甘蔗作ヲ増加セシメ、其ノ生産費ヲシテ少ナカラシメテ、世界ノ競争場裡ニ順應シテ行キマスニ於テハ、結局砂糖ノ生産費ヲ減少セシメ

ルコトガ、糖業政策ノ根本ダラウト思フノデアリマス、斯ル方策ヲ我が國內ニ漸次執リテ行クニ於キマシテハ、黒糖ハ將來其需要ノ減ッテ行ク一方デアリマスカラシテ、此文明的ノ分蜜糖業ニ自然進ンデ行クト云フコトハ、萬已ムヲ得ナイ事ト思ヒマス、此意味ニ於キマシテ甘蔗ヲ作ッテ居ル所ノ適當ナル地方、例ヘバ小笠原島トカ、鹿兒島縣下ニ於ケル大島、沖繩全縣ト云フ甘蔗作ノ適當ナル地方ニ於テ、今日ヨリ分蜜糖工業ヲ漸次進メナケレバナラヌ機運ガ到來シテ居ルト私ハ信ズルノデアリマス、故ニ斯ル地方ニ於キマシテ、生産組合又ハ産業組合ガ適當ナ分蜜糖ヲ拵ヘヤウトスル場合ニ方ッテ、政府ハ之ニ補助獎勵ヲ與ヘラレテ、産額ヲ増進セシメラレルト云フヤウナ御方針ガアルヤ否ヤ、尙ホ進ンデ此甘蔗ヲ作ル地方ニ於キマシテハ、産業上重大ナル關係ヲ以ッテ居ルノデゴザイマスカラ、或ハ縣ト其縣民トノ合同、即チ半官半民的ノ事業ニシテ、此砂糖工業及甘蔗糖工業、分蜜糖工業ヲシテ十分ニ發展セシムルト云フヤウナ事ガ出來ルカ否ヤ、或ハ私立砂糖工業會社ト縣民生産家トノ間ニ、最モ適當ノ方法アリヤ兎ニ角沖繩縣ニ於ケル此分蜜糖工業ニ付テ、的確ナル政府ノ御所見ヲ承リタイノデアリマス、質問ノ要點ハ是ダケデアリマス

之ニ對シ原及山本兩國務大臣ハ三月十八日書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一、本邦ノ糖業ハ近時著シク發達シ漸ク自給自足ノ状態ニ達セルモノト認ム
- 一、經濟事情ノ變遷ニ伴ヒ有利ナル作物ヲ選擇スルニ至ルハ已ムヲ得サル所ト認ム
- 一、米ニ對スル現下ノ政策ハ臺灣ノ甘蔗作及米作ニ對シ格段ノ影響ナキモノト認ム
- 一、沖繩縣ノ糖業ニ對シテハ現時相當ノ保護獎勵ヲ加ヘツ、アリ將來ニ於テモ出來得ル限り之カ改良發達ヲ期セムトス

二三 歳費増額ニ關スル質問

政府ハ今日時運ノ趨勢ニ鑑ミ議院政治ノ運用ヲ圓滿ナラシムル爲ニ議院法第十九條ヲ改正シテ議員歳費ノ増額ヲ爲スノ必要ヲ認メ居ルヤ

八年二月二十日兒玉右二君ハ右質問主意書ヲ提出ス之ニ對シ原國務大臣ハ二月二十四日書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

歳費増額ノ件ニ關シテハ去ル一月二十二日衆議院本會議ニ於テ質問者ニ對シ本大臣ヨリ答辯シタル所ノ如シ

二四 鹽ノ專賣生産及配給ニ關スル質問

一 政府ハ鹽ノ專賣ヲ廢止スルカ若ハ鹽ノ專賣ニ對スル收益主義ヲ捨テ鹽ノ検査ヲ行ヒ以テ其ノ品質ヲ保證シ且之カ向上ニ努ムル外主トシテ社會政策ノ見地ヨリ其ノ需給ノ圓滑ト價格ノ節約ヲ爲スニ止ムルノ意思ナキカ

二 政府ハ内地鹽賣渡ノ價格ヲ引上ケサル範圍ニ於テ先ツ之カ賠償價格ヲ引上ケ且漸次其ノ賣

渡價格ヲ引下クルノ方法ヲ執ラサルカ

三 政府ハ瀨戸内海沿岸方面ノ如キ製鹽ニ好適セル個處ニ於テ新ニ鹽田ノ開拓ヲ認許シ以テ内地鹽産額ノ増加ヲ計ルノ意思ナキカ

四 政府ハ支那政府ニ向ヒテ交渉ヲ遂ケ奉天山東ノ兩省ニ於ケル鹽ノ輸出税ヲ撤廢セシムルト共ニ該兩省ニ於ケル鹽田ノ擴張ニ努ムルノ策ニ出テサルカ

五 鐵道及汽船ニ對シテ鹽ノ運賃ヲ低減セシムルト共ニ其ノ輸送ヲ迅速ナラシメ特ニ工業用及漁業用トシテ奉天山東兩省ノ鹽ヲ低廉且迅速ニ内地ニ送致スルノ策ヲ執ラサルカ

八年二月二十二日小西和君ハ右質問主意書ヲ提出シ三月十一日其ノ趣旨ヲ辯明ス

先日此議場ニ於キマシテ豫算案ヲ議決致シマスル際、本院ハ鹽ノ事ニ付テ希望條件ヲ附帶致シテ決議ヲ致シタコトデアリマス、申スマデモナク、鹽ハ米ニモ増シテ人生ノ必需品デアリマス、米ト違ッテ代用品ガ無イノデアリマス、而モ我國ハ元來鹽ノ潤澤デナイ所ノ國柄デゴザイマス、殊ニ昨年來鹽ノ生産ノ大不足、之ガ爲メニ國民ハ生活ノ安固ヲ失ヒ又一方ニ於テハ産業上多大ノ障害ヲ與ヘテ居ルノデアリマス、斯ク鹽ノ不足ノ生ジマスル原因ハ、人口ガ近來著シク増加致シマスル事、又産業ガ大ニ發達致シマスル事、就中工業用ノ原料トシテ鹽ガ消費サレル額ガ、非常ニ急激ニ増加ヲ致シマスルコトガ、是ガ鹽ノ不足ヲ招致スル所ノ最大原因デアリマス、即チ大正ノ初年頃ニ、我國ノ鹽ノ消費額ハ約十二三億斤デアリマシタ、所ガ昨年ハ十四億斤ノ上ニ上ッ

タ模様デアリマスガ、本年ハ更ニ十五億斤ヲ超過致シマスル趨勢デゴザイマス、然ルニ我ガ内地ノ鹽ノ生産高ハ、大正三年マデハ年額約十億斤ヲ超過スル状態デアリマシタ、所ガ其後ハ却テ減少ヲ告ゲテ、動モスルト十億斤ノ以下ニ陥ラウトスル状態デアリマス、斯ノ如クデゴザイマシテ、鹽ノ需要ハ年々著シク増加致シマスニ拘ラズ、其生産ハ却テ減少スル状態デゴザイマス、斯ウ云フ状態デゴザイマシテハ、國民生活ノ安固ヲ保ツコトガ、出來マセズ、特ニ社會政策上、又産業ノ發達上、寔ニ寒心ニ堪ヘナイ次第デゴザイマス、是ハ爲政者ト致シマシテハ、是非トモ此缺陷ヲ補ヒ、且ツ適當ノ方法ヲ確立スル必要ガアルノデアリマス、而モ政府ノ遣方ヲ見マス、鹽ニ對スル政策ハ甚ダ緩漫デアリ、又不徹底デアル、ソレガ爲メニ國民ヲ苦シメ、事業ノ發達ヲ阻碍シ、且ツ一方ニ於テハ製鹽業者ヲ泣カシテ居ルノデゴザイマス、斯ル次第デゴザイマスルカラ、私ハ此鹽ノ問題ニ付テ質問ヲスルノ餘儀ナキニ致ッタノデアリマス、先ツ第一番ニ政府ハ鹽ノ專賣ヲ廢止スルノ御意思ガアルヤ否ヤト云フコトデアリマス、御承知ノ如ク鹽ノ專賣ハ明治二十七八年戰役ノ際ニ、非常ナ場合財政策ノ一トシテ、特別稅トシテ賦課ヲサレルコトニナッタノデアリマス、其後四十一年ニ戰役ノ稅制整理ノ場合ニ當然整理セラレテ、即チ撤廢サルベキ筈デアッタモノガ、當時歲入ノ缺陷ヲ生ズルト云フコトニ藉口シテ、是ガ其儘存置セラレテ今日ニ至ッテ居ルモノデアリマス、元來鹽ヲ生産致シマス場合ニ、其生産費ハ如何ナル状態デアルト申シマスルト、大體ニ於テ之ヲ三ツニ分ケルコトガ出來マス、第一ハ鹽田費、第二ハ勞力費、第三ハ燃料費デアル、所ガ此勞銀並ニ燃料費ト云フモノハ、是ハ非常ニ變動ノ多イモノデアリマス、然ルニ鹽專賣ニ依ル所ノ此賠償價格ハ、之ヲ引上ゲルコトモ、亦之ヲ引下ゲルコトモ非常ニ緩漫デゴザイマスルガ故ニ、自ラ經濟ノ原則ニ反スルコトニナリマス、即チ今カラ十年程前ノ如ク勞働賃銀ノ非常ニ安イ場合、石炭モ亦非常ニ安イ場合デゴザイマシテモ、鹽ノ賠償價格ハ其割合ニ引下ゲラレナイノデアリマス、ソレ故ニ自ラ生産ガ過剩ニナリマスノミナラズ、製鹽業者ハ勞力及燃料ヲ濫費致シテ、益、其生産ニ努メテ、ソレデ生産能率ガ高マリマスルカラ、鹽ノ生産ハ過剩ノ状態ニ陥ル、而シテ鹽田業者ハ、之ガ爲メニ適當ノ收利ヲ舉ゲルノデアリマス、其結果ト致シ

マシテ、政府ハ鹽ノ收納ヲ致シマスルニ、其倉庫ニ充滿シテ、如何トモスルコトガ出來ナイ状態ニ立至ルノデアリマス、又其反對ニ昨年來ノ如ク鹽ガ不足ヲ致ス場合モアル、政府ハ此議會ニ於キマシテハ、天候不良ノ爲メデアル、又暴風雨ガアッタ爲デアル……斯様ニ申シマスレドモ、其真ノ大ナル原因ハ、此法規ニ拘束セラレテ、且ツ商賣ノ思想ニ乏シイ所ノ當局者ガ、鹽ノ生産ニ付テ勞銀ガ非常ニ騰リ、石炭ノ價ガ高クナッテ居ッテ、ソレガ爲メニ鹽ノ生産ヲ致シマシテモ、賠償價格ガ低イ爲メニ、算盤上引合ハナイニモ拘ラズ鹽ノ賠償價格ヲ引上ゲルコトヲ致サヌ、ソレガ爲メニ非常ニ天氣ノ好イ場合ニハ、漸ク生産費ヲ償フコトガ出來ルケレドモ、少シ天氣ノ惡イ時ハ、多大ノ手數ヲ掛ケ、燃料ヲ澤山使ッテ鹽ヲ製造致シマスルヨリモ、寧ロ休業致シタ方が利益デアル、斯ウ云フ勘定ニナリマスルカラ、自ラ鹽ノ生産ガ十分デナカッタノデアリマス、即チ鹽ノ賠償價格ガ安イ爲メニ、自ラ勞力ノ節約ヲ致シ、又燃料ノ節約ヲ致シマシテ、其結果ト致シテ、鹽ノ生産率ガ著シク減ッテ參ッタノデアリマス、斯ノ如クニ致シマシテ、昨年ノ秋以來我國民ヲ擧ッテ鹽ノ不足ニ苦シマシタ事ハ、喋々スルマデモナイ事デアリマシテ、諸君ニ於カレマシテモ、深ク御承知ノ事デアラウト思ヒマス、昨年來ノ状態ハ恰モ謙信時代ノ甲州ノ人民ノ如キ状態ニ、日本六千萬ノ國民ガ陥ッテ居ッタノデゴザイマス、而シテ之ニ對スル政府ノ遣方ハ、假令今川義元ノ如クテナイト致シマシテモ、少クトモ上杉謙信ノ如キ態度ニ出ルコトガ出來ナイデ居リマスノヲ、深ク遺憾トスルノデアリマス、ソレ故ニ此際ニ鹽ノ專賣ノ遣方ヲ改メテ、迅速ニ機敏ニ鹽ノ賠償價格ヲ引上ゲ引下ゲラスルコトニ致セバ宜イノデアリマスガ、果シテ弊害ヲ醸成スルコト無クシテ、經濟界ノ變化ニ順應致シテヤルト云フ事ハ、之ヲ政府ニ望ミマスコトハ困難デアラウト思ヒマス、故ニ鹽ノ專賣ハ寧ロ廢止ヲシタ方が、宜クハナイカト思フノデアリマス、此鹽ノ專賣ノ廢止ノ善惡ト云フ事ハ、是ハ大ニ議論ノアル問題デアリマスガ、政府ハ鹽ノ專賣ノ廢止ニ付テハ、果シテ如何ナル御方針デアルカ、是ガ伺ヒタイノデアリマス、又此專賣ニ付キマシテハ、現行ノ制度ハ元來收益主義ニ出來テ居ル、即チ收益ヲ目的トシタ鹽ノ專賣デアリマス、所ガ收益主義ノ專賣ハ、租稅思想ノ極メテ幼稚ナ未開ナ國ニ於キマシテ行ハレル制度デ

アリマシテ、殆ド是ハ人頭税ト變ラヌノデアリマス、而已ナラズ鹽ノ消費ハ下級ノ社會ニ於テ、特ニ其量ガ多イノデアリマスガ故ニ、即チ下級社會ノ者ニ酷ニシテ、比較的上級ノ者ニ薄イト云フ、即チ租税ノ原則ニ餘リ反對ヲ致シテ居ルノデアリマシテ、此點ニ於テ鹽ノ收益主義ノ專賣ハ、甚シキ惡税ト見ナケレバナラヌノデアリマス、其故ニ若シモ政府ニシテ、鹽ノ專賣制度ヲ廢止スルコトヲ致サナイト云フコトデアラナラバ、收益主義ノ專賣ヲ止メテシマツテ、專賣ハ單ニ鹽ノ檢査ヲ致シテ其品質ヲ保證スルト云フコト、並ニ鹽ノ品質ノ保證ヲ圖ルト云フ事ニ止ムルコトガ、恰モ政府デ行ハレテ居リマス所ノ、米ノ檢査ト大體同ジ精神ニ致スト云フコトニ致シ、ソレカラ兼ネテ一方ニ於テ社會政策的ノ立場カラ致シテ、鹽ノ需要供給ヲ圓滑スルト云フコト、又鹽ノ價格ヲ調節スルト云フ事ノ爲メニ、鹽ヲ專賣スルト云フコトニ止メタナラバ宜イカト思フノデアリマス、現ニ鹽專賣ノ收益ハ最初一千萬圓内外デゴザイマシタガ、追々ニ減少シテ、特ニ大正七年度ニ於ケル鹽專賣ノ利益ト云フモノハ、殆ド絶無デアアルノミナラズ、或ハ政府ノ缺損ニ歸シテ居リハシナイカト思ハレルノデアリマス、果シテサウデアリマスレバ、鹽專賣ノ收益主義ハ、政府ニ取ツテ諺ニ骨折損ノ何トカ儲ケト云フ結果ニ陥ツテ居ルノデアリマス、ソレ故政府ハ專賣ノ御方針ヲ改メマシテ、唯今申シマシタ如ク、品質ヲ確保スルコト、品質ノ向上ヲ圖ルコト、社會政策的見地ヨリ致シテ、鹽ノ需給ヲ圓滑ナラシムルコト、並ニ價格ヲ引下ゲルコトニ努ムルト云コトニ致シタナラバ、是ガ最モ良イ策ト思ヒマスガ、政府ハ此策ヲ採ルノ御考ガアルヤ否ヤ、是ガ第一段ノ質問デアリマス、第二ニ伺ヒタイ事ハ、内地ノ鹽ノ價格ヲ引上ゲナイ範圍ニ於キマシテ、先ヅ其賠償價格ヲ引上ゲテ、ソレカラ追々ニ鹽ノ賣出價格ヲ引下ゲルト云フコトニスル方法ヲ執リマスルコトガ必要ト思ヒマスル、政府ハ果シテ此方法ヲ執ルヤ否ヤ、ソレヲ承リタイノデアリマス、御承知ノ如ク我日本ノ鹽ノ價格ノ高イコトハ、殆ド世界ニ類ナイト申シテ宜イノデアリマス、ソレガ爲メ國民、就中下級ノ社會ノ多數ノ國民ニ於キマシテハ、非常ナル苦痛ヲ受ケテ居ルノデアリマス、斯ノ如キハ鹽ノ價格ヲ高クシテ置キマスコトハ、多數ノ下級民ニ對シテ、非常ナ残酷ナル遣方デアリマス、又一方製鹽業ノ状態ヲ見マスト、昨年ノ夏盛シニ鹽ノ取レマス

時カラ、エライ天候ノ不良モアリマシテ、ソレカ爲メニ鹽ハ減少ヲ致ス趨勢デアツテ、加フルニ勞銀ガ騰リ石炭ノ價格ガ騰貴致シマシタ爲メニ、製鹽業者ノ困難ハ一通リデナイノデアリマス、ソコデ製鹽業者ハ此苦痛ヲ切抜ケル策ト致シマシテ、或ハ低利資金ヲ借入レルトカ、或ハ外ニ融通ヲ求メルトカ致シマシテ、漸ク其日ヲ凌イデ居リマスガ、私ノ郷里香川縣ノ製鹽業ハ、御承知ノ如ク我國ノ最モ大ナル製鹽地デゴザイマスガ、私ハ鹽田業者ノ内情ニ相當ニ通ジ、又之ヲ目撃致スノデアリマスガ、昨年ノ冬カラ本年ニ越シマスル場合、例年デアリマスレバ、製鹽業者ハ相當ニ金ヲ殘ス、又然料モ殘シ、鹽モ貯ヘテ置ク、又濃厚ニナツタ所ノ鹽水モ、貯藏致シテ居ルト云フ状態デアアルニ拘ラズ、昨年カラ本年ニ越エマスル場合ニ於テハ、是等ノ貯ガ絶無デアリマスノミナラズ、多額ノ前借ヲ致シ、若クハ他カラ負債ヲシテ居ルト云フ状態デアリマス、ソレ故ニ今後本年ノ如キ物價ガ下落致シ、又勞銀賃金ガ下リマスレバ、兎ニ角、又ハ勞銀及物價ガ現狀ノ儘デアリマシテ、鹽ノ賠償價格ヲ大ニ引上ゲルト云フコトヲ致シマセヌケレバ、本年ノ製鹽事業者ノ經費ハ一層困難ニ陥ルノデアリマス、ソレガ爲メ此儘デ打過ギマシタナラバ、本年モ亦鹽生産ノ上ニ大ナル影響ヲ招キマシテ、ソレガ爲メ需要者タル一般ノ國民ヲ苦シメルト云フヤウナコトニ立至ルト云フコトヲ虞レテ居リマス、斯ル状態デゴザイマスカラ、政府ト致シマシテハ、先ヅ鹽ノ賠償價格ヲ引上ゲル、サウジテ製鹽業者ノ苦痛ヲ輕減スルコトニ致サナケレバナリマセヌ、其次ニハ追々ニ鹽ノ賣渡價格ヲ引上ゲテ、一般國民、就中下級ノ多數人民ニ對シマシテ、低廉ナル鹽ヲ供給スルコトニ致シマシテ、サウシテ鹽ヲ社會政策ノ一助トスルコトガ極メテ必要ト考ヘマス、之ニ對スル政府ノ御考ヲ承リタイノデス、尙ホ此場合ニ於テ政府ニ承リタイ事ハ、鹽ノ賠償價格ヲ査定致シマス場合、製鹽業者及鹽田ノ持主ニ價格ノ決定ニ付テノ、諮問ヲスルノガ宜カラウト思フノデアリマスケレドモ、更ニ進んで鹽ノ賠償價格ヲ定メマスル場合、鹽田持主及製造鹽業者ヲ委員ト致シマシテ、ソレヲ其相談ニ參加セシムルコトニ致シマスノハ、意思ノ疏通ヲ圖リマス上ニ於テ、價格ノ衡平ヲ期シマスル上ニ於テ、其他ノ様々ノ關係ニ於キマシテ、頗ル美イ事ト思ヒマスガ、政府ハ斯ル方法ヲ執ル御考ガアルヤ否ヤト云フコトヲ承リタイノデアリマ

ス、第三ニ承リタイ事柄ハ、瀬戸内海ノ沿岸方面ノ如キ製鹽ニ好適セル場所ニ於キマシテ、新ニ鹽田ノ開拓ヲ許シ、ソレデ以テ内地鹽ノ産額ノ増加ヲ圖ルノ御考アリヤ否ヤト云フコトデアリマス、政府ノ當局ハ、内地鹽ノ不足ノ場合ニハ外國カラ鹽ヲ入レル、之ヲ補給スルカラシテ、何モ差支ナイデハナイカ、是ハ當然ノ遣方デアルト申スノミナラズ、場合ニ依リマスルト云フト、内地鹽不足ノ場合、外國鹽ヲ輸入致シマスルノヲ以テ、政府當局ノ手柄ノヤウニ心得テ居ルヤウナ感ガアルノデアリマス、併ナガラ外國鹽ヲ輸入致スト云フコトハ、内地ノ鹽ノ製産ニ付テ有ユル手段方法ヲ講ジテ尙且ツ不足ヲ致シテ、已ムヲ得ザル場合ニ始メテ執ルベキ手段デアリマシテ、外國鹽ノ輸入ハ、根本ニ於テ餘リ歡ブベキ事デアリマセヌ、若シモ内地鹽ノ不足ノ場合ニハ、外國鹽ヲ輸入スルカラ少シモ差支ガナイト云フヤウナ御考ヲ以テ、内地鹽ノ生産ノ發展向上ヲ圖ラナイト云フコトニナリマシタナラバ、ソレハ根本ニ於キマシテ大ナル誤デアラウト思フノデアリマス、又當局者ハ屢、斯様ナ事ヲ申シマス、内地鹽ト外國鹽ヲ分折ヲ致スト、其化學的成分ノ差ト云フモノハ殆ト言フニ足ラナイノデアアル、ソレ故ニ鹽ノ需要者ガ、舊來カラ因ハレタ所ノ習慣ト云フモノヲ破ッテシマツタナラバ、内地鹽ヲ使フモ外國鹽ヲ使フモ差支ナイ筈デアアル、斯様ニ申シマス、然ルニ實際ニ於テ内地鹽ヲ使フ場合ニ外國鹽ヲ使ヒマシテ、其成績ノ非常ニ不良デアリ相違ノアルコトハ、是レ恰モ日本米ト外國米ノ相違ノ如クデアリマス、現ニ染色業者ハ外國鹽ヲ使ッテハ、到底内地鹽ヲ使ッタ如キ、良イ色良イ光澤ヲ出スコトガ出来ナイト申シテ居ルノデアリマセヌカ、又漁業者、醬油ノ醸造家ハ、外國鹽ヲ使ッテハ、到底内地鹽ヲ使ッタト同一ノ味ヲ保ツコトガ出来ナイト申シテ居ルデハアリマセヌカ、又製革業者即チ革ノ製造者ハ、外國鹽ヲ使フ場合ニハ斑點ヲ生ジ、且ツ革ノ收縮ガ甚シクテ困ルト申シテ居ルデハアリマセヌカ、斯ノ如ク實際使用致シマスレバ、内地鹽ガ非常ニ宜シイト云フコトガ現レテ參ッタノデアリマス、是等ノ點カラ考ヘテ見マシテモ、政府ト致シマシテ大ニ内地鹽ノ生産ヲ計リ、之ニ依テ國民ノ嗜好ヲ満足セシメ、又其他ノ點ニ就テ遺憾ナキ方法ヲ執ラナケレバナラヌノデアリマス、幸ニシテ瀬戸内海ノ沿岸ニハ到ル處鹽田トシテ開拓スベキ場所ガアルノデアリマス、而モ其鹽田ノ開拓ヲ希望致シ

マスル者ハ、決シテ尠カラヌノデアリマス、聞ク所ニ依リマスレバ、政府ニ於テハ瀬戸内海ノ沿岸ニ於テ、百二十町歩程ノ鹽田ヲ新シク擴張ヲ致ス豫定デアリマス、之ニ依テ年額三千萬斤ノ鹽ヲ生産サセルト云フコトデアリマス、果シテサウデゴザイマスルナラバ、瀬戸内海ノ沿岸ニ於テ鹽田ノ擴張ヲ致シマスル事ハ結構デアアル、併ナガラ折角ノ擴張ガ僅々百二十町歩、其産額ノ豫想ガ三千萬斤ト云フコトデゴザイマシテハ、現在及將來ニ於ケル鹽ノ大不足ニ對シマシテハ、到底是デ以テ満足スルコトガ出来ナイノデアリマス、ソレ故ニ政府ト致シマシテハ、此際瀬戸内海ノ沿岸ノ方面ニ於テ大ニ鹽田ノ開發ヲ寧ロ獎勵スル位ニ致シテ、之ヲ認許スルト云フ事ガ、此場合極メテ必要ナ事ト思ヒマスルガ、政府ニ於テハ此御考ガアリヤ否ヤ、是ガ御尋致シタイノデアリマス、ソレカラ瀬戸内海ノ鹽田ノ擴張ト關聯致シマシテ御尋ヲ致シタイ事ハ、昨年ノ夏秋來鹽ノ供給ガ不足ニ至ッテ、國民ガ苦ンデ參リマシタ場合ニ、政府ハ供給不能ト云フ事ノ此失態ヲ蔽ハンガ爲メデゴザイマセウ、昨年ノ秋冬ノ頃ニ至ッテ、急ニ臺灣並ニ關東州ノ鹽ヲ取寄セテ、ソレヲ粉碎致シテ、即チ粉ニ致シマシテ供給ヲ圖リマシタ所ガ、美事失敗ヲ致シマシタノデアリマス、其次ニ更ニ山口縣ノ三田尻及下松ニ天日製鹽ノ再製工場ヲ急設中デゴザイマス、此工場カラハ最早追々ニ此再製鹽ガ出テ參ルヤウナ状態ニナラウト思フノデアリマス、私ハ政府ガ此再製鹽ノ工場ヲ設ケタト云フコトハ、甚ダ晚イト云フ憾ヲ持ッテ居リマス、而已ナラズ寧ロ規模ノ狭小ナ小仕掛ノモノヲ以テ致シマシテ、果シテ是デ以テ満足ヲ致シテ居ラル、ノデアアルカ、日本ノ此鹽ノ大不足ニ對シテ、是デ以テ宜シイノデアルト政府ガ考ヘテ居ラル、カラ疑ハザルヲ得ヌノデアリマス、斯ノ如キ小規模ノ二箇所ノ再製鹽工場ヲ以テ致シマシテハ、到底此不足ヲ補フニ足ラナイコトハ分リ切ッタ話デアアル、扱テ此再製鹽ノ工場ノ費用ハ、臨時事件費カラ支出ヲシタ筈デアリマスガ、初メノ設備費ハ姑ク措キマシテ、單ニ再製鹽ヲヤリマスル加工費デス、加工費ダケノ事ニ付テ考ヘテ見マシテモ、其加工費ヲ瀬戸内海沿岸、即チ十州ノ鹽田方面ニ於ケル製鹽業者ニ其加工費ヲ補給致シテ、サウシテ原料鹽ヲ供給ヲ致スト云フコトニスルナラバ、鹽田業者ハ喜ンデ鹽ノ再製ヲ致スノデアリマス、サウナリマスレバ政府事業ト致シテ、山口縣邊リニ小規

模ノ二箇所ノ再製工場ヲ設ケマスルヨリモ、一般的ニ、又自由ニ、容易ニ、輕便ニ、經濟的ニ、多額ノ再製鹽ガ出來ルト云フコトニナリマス、斯ク致シマシタナラバ、政府モ生産業者モ雙方ノ利益デアル、又之ニ依テ國民ヲシテ鹽ノ不足カラ免レシムルコトガ出來ルノデアリマス、然ルニ政府ガ貧弱ナル糊塗策ヲ執ッテ居ルト云フコトハ、是ハ政府萬能主義ノ結果カト思ヒマスルガ、斯ノ如キハ斷シテ不可デアルト考ヘマスルガ、政府ハ果シテ此方法ニ依リマシテ、十州鹽田業者ニ對シテ鹽ノ再製ヲヤラセルト云フ御考アリヤ否ヤ、是モ承リタイノデアリマス、第四ニ承リタイコトハ、支那政府ニ交渉致シテ、奉天省、山東省邊リノ鹽ノ輸出稅ヲ撤廢致シ、其上ニ此兩者ニ於テ、鹽田ノ擴張ヲスルト云フ事ニ努メル御考ガアルヤ否ヤデアリマス、此支那ノ鹽ヲ日本ニ入レマスノニハ、主トシテ工業ノ原料トシテ用キル爲メデアッタノデアリマス、内地ニ於ケル工業ノ原料鹽トシテ支那ノ鹽ヲ取リマスコトハ、我が日本ノ爲メニ利益デアリマスコトハ、勿論、支那ニ取リマシテモ亦大ニ利益ナ事デアリマス、殊ニ關東州方面ノ如キハ、日本人經營ノ鹽田モ少カラヌノデアリマス、又今後日本人トシテ、彼ノ方面ニ鹽田ヲ開拓スベキ場所ハ澤山ニアルノデアリマス、又山東省ノ青島方面モ矢張同様ノ状態デゴザイマスル、ソレデアリマスルガ、アチラガ鹽ヲ輸出致シマスル場合ニ、百斤ニ付テ十錢ノ輸出稅ガ掛リマスコトハ、彼ノ方面ニ於ケル鹽ノ價格ガ、百斤僅ニ二十錢内外デアルト云フ點カラ見マスルト云フト、是ハ甚シキ鹽ニ對スル價格ノ相違ヲ起サシムルノデアリマス、ソレデアリマスルカラ此關稅ヲ廢シマスルト、自ラ工業用ノ鹽ガ低廉ニ輸入セラル、コトニナリマス、ソレガ爲メニ我國ノ工業發達ヲ助長シ、又支那ノ鹽ノ生産ノ發達ヲモ助長致シマシテ、日支兩國ノ爲メニ至大ノ好都合デアアルノデアリマス、御承知ノ如ク鹽ハ主トシテ曹達灰ニ作リマスノデアリマス、ソコデ試ミニ外國カラ輸入致シマスル所ノ曹達灰ト、内地デ造リマスル所ノ曹達灰ノ價格ヲ比較致シテ見マスルト、外國ノ輸入品ノ方ガ、現在ニ於テハ餘程低廉デアリマス、ソレデアリマスカラ此状態ニ於キマシテハ、日本内地ノ鹽ヲ原料ト致シタルベキ、化學工業ノ發達ヲ期スルコトハ出來ナイノデアリマス、ソレデアリマスル外、輸入スル所ノ曹達灰ト、内地製ノ曹達灰トガ互ニ對抗シテ參リマスルニハ、其原料タル鹽ニ對シテ、

即チ外國カラ輸入スル所ノ曹達灰ニ對シテ關稅ノ引上ヲ致スカ、若クハ内地製ノ曹達灰ノ原料タル鹽ノ價格ヲ安クスルカ、此二ツノ中ヲ採ラナケレバナラヌノデアリマス、所ガ曹達灰ノ申スマデモナク一般化學工業ノ主要ナル原料デゴザイマシテ、此原料タル鹽ノ關稅ヲ引上ゲマスルコトハ、直チニ我國ノ化學工業ノ發達ヲ阻碍スルコトニナリマスカラ、採ルベキ策デハゴザイマセヌ、ソレ故ニ我國ノ化學工業ノ發達ヲ助長スルガ爲メニハ、ドウ致シマシテモ、此鹽ヲ安クシナケレバナラヌノデアリマス、其鹽ヲ安クスル方法ト致シマシテハ、先ヅ第一ニ支那カラ取リマスル所ノ鹽ニ付テ、關稅ヲ撤廢サレルト云フコトガ必要デゴザイマス、又鹽田擴張ガ日支兩國ノ爲メニ利益デゴザイマスコトモ、是亦申スマデモナイ事デアリマス、ソレ故ニ政府ニ於テハ支那ノ政府ニ交渉致シマシテ、鹽ノ輸出稅ヲ撤廢サセルカ、又支那ノ山東省、奉天省ノ海岸方面ニ於テ、鹽田ヲ擴張サセルコトニ政府ガ致シマスルコトハ、甚ダ必要ナ事ト思ヒマスルガ、政府ハ此事ヲ爲サル御考ガアルヤ否ヤヲ承リタイノデアリマス、終リニ承リタイ事ハ、鐵道並ニ汽船ニ對シテ鹽ノ運賃ヲ安クセシムルト共ニ、其運送ヲ迅速ナラシメ、工業用トシテ奉天山東兩省ノ鹽ヲ低廉且ツ迅速ニ、内地ニ取ルヤウニスル所ノ策ヲ採ラレルヤ否ヤト云フ事デアリマス、ソコデ先ヅ其中ノ前段ノ内地ノ鹽ノ運賃及輸送ノコトヲ承ルノデアリマスガ、從來鹽ノ運賃若クハ回漕ニ付キマシテハ、政府ハ其主要ナル生産地ノ商人ニ對シテ之ヲ勸誘シ、場合ニ依ッテハ依頼スルヤウナル態度ヲ執リマシテ、回漕會社ヲ組織セシメマシテ、其回漕會社ニ鹽ヲ運ブ所ノ手數料、又取扱費ヲ交付シテ居ルノデアリマス、此方法デ鹽ヲ運送致シマスルカラ、ソレガ爲メニ運賃ガ自ラ高クナリ、且ツ鹽ノ配給ガ頗ル緩漫ニナルノデアリマス、之ヲ改メテ直チニ船會社、若クハ船主ニ鹽ヲ運送ヲ競争入札ニサセルト云フコトニ致シマシタナラバ、第一ニ運賃ガ安ク參リマス、又船ガ今日ノ如ク澤山ニアリマスル場合ニ於キマシテハ、自ラ迅速ニ運搬サル、コトモ出來ルノデアリマス、其上ニ船舶側カラ見マスレバ、近來船舶業者ハ追々ニ不景氣ヲ啣ツヤウニナリマシタ、中ニハ繫船ヲ致シテ居ル者モ出來掛ッテ居リマス、此場合ニ鹽ノ輸送ヲ船舶業者ニ直接ニ競争入札デヤラセルコトニシタナラバ、船舶業者ノ此苦痛ヲ輕減スルコトニモ、多大ノ效果ガアラ

ウト思ヒマス、又鐵道ノ側ハ同ジ政府部内ノ事デゴザイマスカラ、其間ノ交渉ハ容易ニ纏マル、隨テ鐵道ニ付テノ鹽ノ運賃ヲ輕減シ又運送ヲ迅速ナラシムルコトハ、政府ニ於テハ容易ニ出來ル事ト思ヒマス、此策ヲ採ル此考ガアルヤ否ヤヲ承リタイノデアアル、又第二段ノ支那ノ鹽ヲ低廉ニ且ツ迅速ニ日本内地ニ取ルコトニ付テ申上ゲマスガ、此支那ノ鹽ヲ安ク取リマスノニハ、彼地ノ關稅ヲ撤廢ヲサセル外ニ、此運賃ヲ低減スルコトニシナケレバナリマセヌ、所ガ現在支那ニ於テ日本ニ送ルベキ鹽ヲ船積致シマスル状態ヲ見マスルト、多クハ船ガ著キマシタ場合ニ、人足ガ鹽ヲ脊中ニ脊負ッテ解ニ運ブ、其解カラ更ニ本船ニ移スト云フヤウナ緩慢ノ事ヲシテ居リマスソレガ爲メニ人夫賃解賃及ビ船ガ長ク停マル、其船賃杯ガ要リマス爲メニ、自ラ運賃モ高クナルコトガ少カラヌノデアリマス、ソレ故ニ政府ニ於テ適當ノ方法ヲ執リ、彼地ニ於ケル鹽ノ積込ヲ便ニシ、セメテ棧橋カラデモ積ムコトガ出來ルコトニ致シマシテモ、運賃ヲ低廉ナラシメ、延テ鹽ノ價格ヲ低廉ナラシメルコトニ於テ、相當ノ利益ガアルト思フノデアリマス、兎ニ角關稅ノ撤廢ト運賃ノ引下ガ出來マシタナラバ、自ラ鹽ノ價格ガ下ルノデアリマス、サウ致シマスナラバ、鹽ヲ原料トスル所ノ化學工業モ發達ヲ致シ、我國ノ工業界ノ發展ヲ助長スルコトハ、蓋シ少カラヌノデアリマス、鹽ノ價格ガ若干低廉ニナリマシタナラバ、而シテ曹達灰ノ生産費ガ外國カラ日本ニ入ッテ集リマス所ノ價格ト、同ジ位デ引合フヤウニスルト云フコトハ、左マテ困難デハナイノデアリマス、此方法ガ出來マシタナラバ、我國ノ化學工業ノ發達ニ多大ノ效果ガアルモノト信ズルノデアリマス、ソレ故ニ政府ハ支那沿岸カラ工業用、漁業又農業用トシテ、鹽ヲ安ク且ツ迅速ニ内地ニ送ル所ノ御考ガアルヤ否ヤ此點ニ就テ承リタイノデアリマス、ドウカ親切ニシテ明確ナル御答辯ヲ希望スルノデアリマス

之ニ對シ高橋及内田兩國務大臣ハ三月十八日書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 政府ハ鹽專賣法ヲ廢止スルノ意ナシ又社會政策産業獎勵等ヲ無視シテ收益主義ヲ取ルノ意

ナシ

二 賠償價格ハ鹽製造者ニ對シ生産費ヲ償ヒ且ツ相當利益ヲ與フル程度ニ於テ之ヲ定ムルカ故

ニ必要アレハ之カ引上ヲナスニ吝ナラス

賣渡價格ハ可成之ヲ低廉ニスルノ方針ナリ

三 平和克復シ鹽ノ需給關係安定シタル後ニアラサレハ内地産鹽ノ過不足ヲ判定シ難ク從テ今

直チニ内地鹽田ヲ擴張スルヤ否ヤ明言シ難シ

四 支那鹽ハ現ニ輸出ヲ禁止セラルルヲ以テ輸出稅ナルモノナシ

本邦ニ於ケル鹽ノ配給上奉天山東兩省ノ鹽田擴張ヲ求ムルノ必要ヲ認メス

五 鐵道及汽船運賃ノ低減並ニ輸送ヲ迅速ナラシムルコトニ付テハ常ニ深甚ノ注意ヲ拂ヒ殊ニ

鐵道輸送ニ付テハ他ノ貨物ニ比シ迅速ニ輸送セラレツツアリ

工業用鹽ニ付テハ臺灣鹽關東州鹽青島鹽ヲ可成安價ニ供給スルコトヲカメ又其ノ輸送方ヲ迅

速ナラシムルコトニ付テハ常ニ督勵シツツアリ

天日製鹽ハ原鹽ノ儘ニテハ漁業用ニ適セサルヲ以テ已ムヲ得サル場合ノ外内地鹽ヲ供給シツ

ツアリ

二五 移民政策ニ關スル質問

- 一 我カ國ニ於テ年々増加シツツアル人口ノ調節策トシテ海外渡航ノ獎勵ヲ爲スハ刻下ノ急務ナリト思惟ス政府ノ所見果シテ如何
- 二 從來政府ハ移民保護ニ重キヲ置キ渡航獎勵ヲ等閑ニ付スルノ傾向アリ其ノ一二ヲ例示スレハ(イ)現行移民法ノ運用ニ關シ單ニ移民取扱業ヲ一二ノ會社ノミニ獨占セシメタルカ爲全國ニ涉リ海外渡航思想普及セス移民募集ニ際シ常ニ豫定募集人員ニ達セサルノ奇現象アリ(ロ)更ニ海外渡航者取扱業ニ關スル制度不完全ナリ即チ移民取扱業ノ如キハ海運業者又ハ貿易業者ノ附帶業務タラシメ夫等ニ對シ相當獎勵ノ途ヲ開カハ自ラ移民業ノ發達ヲ見ルニ係ラス夫等ノ制度ヲ設ケサルノミナラス寧其ノ兼營ヲ禁止スルノ制度タリ固ヨリ現行法ニ依レハ移民取扱人ハ行政廳ノ許可ヲ得テ移民ト直接ノ關係ヲ有スル業務ヲ營ムコトヲ得ト定メタリト雖其ノ業務ノ範圍ハ狹隘ニ失シ且移民業ヲ主トシ狹隘ナル兼營業務ヲ從トスルカ故ニ海外投資家ヲシテ移民業ハ一顧ニ値セサルノ事業タリト念ヲ起サシメ移民取扱業ニ對スル海外投資ヲ躊躇セシムルノ現状タリ以上ハ獎勵ヲ等閑ニ付スルノ例トス政府ハ是等ヲ改ムルノ意思アリヤ否ヤ
- 三 政府ハ少クトモ一府縣ニ一個ノ移民業取扱ヲ許可スルノ意思アリヤ否ヤ

四 政府ハ相當ノ者ヨリシテ移民取扱業許可ノ願出アレハ之ヲ許可スルノ意思アリヤ否ヤ

八年二月二十二日土井權大君ハ右質問主書ヲ提出シ三月十八日(三月十日延期)其ノ趣旨辯明ニ先チ内田及床次兩國務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲シタリ

- 一、政府ハ海外渡航ノ獎勵カ——我國ニ於テ人口調節策ノ一タルコトヲ認ムルト共ニ之カ獎勵ニ當リテハ渡航地ニ於ケル法制及移民ニ對スル需要等各種ノ事情ヲ斟酌スルヲ要スルモノト

史料ス

- 二、政府ハ從來前記ノ趣旨ニ依リ移民ノ保護ニ留意スルト同時ニ適當ト認ムル程度ニ於テ移民ノ渡航ヲ獎勵セリ尙ホ質問中指摘セラレタル例示ノ事項ニ付テハ次ノ如シ
- イ、政府ハ移民取扱業ヲ一二會社ニ獨占セシムルノ方針ヲ採リタルコトナシ唯移民業ノ如キ弊害ヲ伴ヒ易キ業務ニ從事スル者ハ基礎ノ特ニ確實ナルヲ要スルヲ以テ之ヲ許可スルニ付テハ極メテ慎重ナル考查ヲ加フヘキモノト認ム而シテ現在ノ移民取扱人ハ各地方ニ出張所又ハ業務代理人ヲ設置シ廣ク移民ノ募集ニ努メ居レリ從來往々應募者數ノ募集員數ニ充タサルコトアリタルモ之レ主トシテ其ノ當時ニ於ケル各地ノ經濟狀態ニ基因スルモノニシテ移民取扱人ノ少數ナルカ爲ニ非ス

ロ、政府ハ移民獎勵ノ爲メニ特ニ移民取扱業ヲ海運業者又ハ貿易業者ノ附帶業務タラシムルヲ必要ナリトハ思惟セサルト同時ニ現行制度ニ於テ移民取扱人カ他ノ業務ヲ兼營スルコトヲ禁止シ若ハ兼營業務ノ範圍ヲ限定スルコトナシ現行法ハ移民取扱人ガ移民ト直接關係アル業務ヲ兼營スルニ付テハ行政廳ノ許可ヲ受クヘキコトヲ規定スルモ移民ト直接關係ナキ業務ハ何等之ヲ兼營スルコトヲ妨ケス現ニ目下移民取扱人ニシテ有力ナル海運業者ト密接ノ關係ヲ有セサルモノナシ從テ現行制度カ移民取扱業ニ對スル投資ヲ躊躇セシムルノ事實アルヲ認メス

三、政府ハ府縣別ニ依リ移民取扱人ヲ許可スルノ意思ヲ有セス尤モ重要ナル府縣ニハ前述ノ如ク移民取扱人ハ現ニ其ノ出張所又ハ業務代理人ヲ設置シ居レリ

四、政府ハ公益ノ見地ニ重キヲ措キ新ニ移民取扱人タルノ許可ヲ申請スルモノニ對シテハ其ノ基礎確實ニシテ弊害ヲ生スル虞ナシト認ムル場合ニ限り許可ヲ與フル方針ナリ

二六 東京市青山墓地移轉問題ノ件並墓地及埋葬取締規則第二條ニ關スル質問

青山墓地ノ現状ヲ視ルニ東京市中麻布區赤阪區ノ中心ニ存在シ今ヤ其ノ周圍ハ人家稠密ニシテ墓地トノ距離纔ニ二三間ニ過キス其ノ甚シキニ至リテハ軒先ニ死體ヲ埋ルノ現象ヲ呈セリ如斯ハ人道問題トシテ講究セサルヲ得ス加之此ノ死體中ニハ恐ルヘキ傳染病則チ肺結核、腸室扶斯、實布埤利亞其ノ他種種ノ傳染病微菌ヲ有セリスノ如ク危險極マル死體ヲ帝都タル市ノ中心ニ埋葬スルカ如キハ衛生上看過スヘカラサルノミナラス東京市ノ體面ヲ汚スト同時ニ日本帝國ノ一大恥辱ト謂ハサルヲ得ス然ルニ市當局者ハ今猶放任シテ之ヲ移轉セサルハ如何ナル理由アルヤ了解ニ苦シム故ニ之ヲ監督スル内務大臣ノ責任トシテ其ノ所見ヲ質シ且太政官布告墓地及埋葬取締規則第二條ニ關シ疑義ノ點アリ依テ其ノ説明ヲ求ム

八年二月二十二日齋藤紀一君ハ右質問主意書ヲ提出シ三月十八日(三月十一日延期)其ノ趣旨ヲ辯明ス

現今青山墓地ノ狀況ヲ見ルニ、麻布區及赤阪區ノ中心ニ存在致シマシテ、今ヤ其ノ周圍ハ人家稠密ヲ極メ、隨テ民家ト此墓地ノ距離ハ甚ダ近接シマシテ、僅ニ二三間ニ過ギナイノデス、此屍體中ニハ恐ルベキ所ノ傳染病、即チ腸室扶斯、肺結核、實扶的里其他種々ノ傳染病微菌ヲ有スル所ノ屍體ヲ、人家稠密ナル所ノ、而モ人ノ目ノ前ニ葬ルガ如キ事ハ、衛生上由々シキ問題トシテ攻究セザルヲ得ナイト信ジマス、一例ヲ舉ゲマスレバ、此傳染病程恐ルベキモノハ無イノデス、目下我日本デ猖獗ヲ極メ、貴重ナル身體ヲ害ヒツ、アリマス所ノ西班牙「インフルエンザ」此傳染病ノ如キモ、本ヲ糾セバ僅ニ西班牙ノ一小部分ニ止ッテアル、然ルニ其微菌ガ南洋方面ニ蔓延シ、或ハ歐米其他世界各國ニ至ッテ、之ガ爲メニ貴重ナル人身ヲ殺シツ、アリマス、ソレ故ニ青山墓地ノ如キ人家稠密ノ中心ニ、傳染病屍體ヲ葬ルガ如キハ、一朝不幸ニシテ一人ニ傳播スル時ニハ、東京否ナ日本全國、或ハ今日ノ如キ世界一般ニ蔓延セヌト云フコトハ、理學上及學問上カラ言ッテモ想像セラル、有様デアリマス、加之此青山墓地ハ地位ハ甚ダ高イ、其周圍ニ住スル所ノ

民宅ト云フモノハ低イノデス、ソレ故ニ人間ノ屍體ヲ埋ムルトキニハ、腐敗スルニ從ヒ、其汚物ハ自然ト彼等ガ日々飲用スル所ノ、井水ニ浸入スルコトハ少シモ疑ハナイノデス、而已ナラズ屍體ガ腐敗スルニ從ッテ蒸汽トナリ、瓦斯トナリ、此空氣ニ混同スルト云フ事モ、理學上少シモ疑ナイト信ジマス、斯ノ如キ衛生上カラ言ヒマスレバ、危險極マル所ノ傳染病デ斃レタ屍體ヲ葬ル如キハ、最モ危險ニシテ、最モ有害ナル恐ルベキ所ノ現象ト思ヒマス、何故ニ東京市當局者ガ放任シテ居ルカ、洵ニ吾々ガ國民トシテ了解ニ苦シム次第デアリマス、又之ヲ監督スル所ノ内務大臣ノ責任トシテ、何等東京市ニ此衛生上、或ハ傳染病豫防法トシテモ、亦或ハ市ノ體面トシテモ、放任シテ顧ミザルト云フコトハ、内務大臣ノ無責任ジヤナイカト思フ、ソレ故ニ私ガ質問スル所ハ内務大臣ハ速ニ此青山墓地ニ恐ルベキ傳染病ヲ埋葬セザルコトヲ、市理事者ニ命令スルヤ否ヤ、進ンデ速ニ青山墓地ヲ郊外ニ移轉スルコトヲ命令スルヤ否ヤ、内務大臣ノ所見ヲ質問スル次第デアリマス、第二ニ青山墓地ハ長多クモ青山御所ニ甚ダ接近シテ居ル、其距離僅ニ二三町ニ過ギナイノデス、然ルニ其御所ノ附近ニ恐ルベキ所ノ傳染病ノ屍體ヲ持運ビ、ソレヲ埋葬スルガ如キハ吾々國民トシテ大ニ恐懼ニ堪ヘナイノデアアル、東京市ガ、斯ノ如キ由々シキ大事ヲ放任シテ置クト云フコトハ、甚ダ以テ吾々ハ、内務大臣ノ市政ニ對スルノ誠意無キノミナラズ、皇室ニ對シテモ畏多イ事ヂヤナイカト思フ、ソレ故ニ此青山墓地ト云フモノハ、ドウシテモ移轉スベキモノト云フコトハ輿論トシテ一般ニ今日攻究シツ、アル場合デアリマス、當局大臣ガ此皇室ニ對スルノ所感、並ニ其意見ハ現在ノ儘ニテ置クヤ否ヤ、其點ヲ質問スル次第デアリマス、第三、願ミルニ文明國ノ此墓地ヲ移轉シタ實例ヲ今述ベマス、英國ノ倫敦ニ於テハ今ヲ去ルコト殆ド六十年前、倫敦市ヨリ市外數哩ノ處ヘ移轉シタノデアリマス、又獨逸柏林モ今ヲ去ルコト四十七年前市外ニ墓地ヲ移轉シマシタノデス、其他文明諸國ノ大部ヲ見ルニ、何レノ市ト雖モ、市ノ中心ニ墓地ヲ有シテ居ル處ト云フモノハアリマセヌ、然ルニ何ゾヤ、我日本東京ハマダ其墓地モ移轉セズシテ、傳染病マデ其墓地ニ置クト云フガ如キハ、實ニ恐ルベキ現象トシテ、吾々ガ國民トシテ憂ヘザルヲ

得ナイノデアリマス、又東京市ノ體面トシテモ、斯ノ如キコトハ甚ダ以テ吾々ガ憂ウル所デアリマス、而已ナラズ此外國ガ大都市カラ墓地ヲ移轉シタト云フコトハ、如何ナル理由デアアルカト云フト、五六箇條ノ理由ガアル、第一ニハ此市ノ中心ニサウ云フ墓地ヲ置クト云フコトハ、衛生上甚ダ宜シクナイ、第二ニハ市ノ發展上、大都市ノ中心ニ墓地ヲ置クト云フコトハ弊害デアアル、第三ハ人道に憐ムベキ所ノ同胞ヲ人家稠密ノ中ニ埋ムルト云フコトハ宜シクナイ、第四ニハ都市計畫トシテ市ノ中心ニ墓地ハ置クモノヂヤナイ、ソレカラ第五ニハ墓地ヲ市ノ中心ニ置クト云フコトハ、市ノ美觀ヲ害スル、美觀ヲ保タンガ爲メニ移シタノデアアル、ソレカラ第六ニハ、市ノ體面上大都市トナッテハ、市ノ中心ニ墓地ヲ置クベキモノヂヤナイト云フ、體面ヲ保ツガ爲ニ移シタノデアアル、第七ニハ經濟上、繁華ナル所ノ一坪何千圓ト云フヤウナ、地ノ高イ處ニ置クベキモノヂヤナイト云フ、第七箇條ノ理由ヲ以テ、何レノ文明國モ既ニ數十年ノ昔、墓地ト云フモノハ市外ニ移轉サレタノデアリマス、斯ノ如キ状態ニ就テ、内務大臣ハ如何ナル感想ヲ持ッテ居ルカ、此墓地ハ移スベキモノナリヤ否ヤ、内務大臣ノ所見ヲ御尋申シタイ、第四、墓地ヲ現在ノ儘ニ青山ニ置クト云フコトハ、人道及教育上不適當ナルコトヲ聊カ質問致シマス、苟モ東京市ノ中心ニ在ル所ノ青山墓地ノ今日ノ状態ヲ見マスト云フト、人道に甚ダ以テ許スベカラザルモノトシテ外國デハ論ジテ居ル、我ガ當局大臣ハ如何ナル感想ヲ持ッテ居ルカ、ソレカラ次ニハ青山墓地ハ、ソレニ接近シマシテ赤阪區青山小學校ト云フ學校ガアル、而已ナラズ其周圍ニ牆壁ガ無イガ爲メニ、其周圍ニ住スル所ノ兒童ハ、悉ク朝トナク夕トナク此埋葬状態、並ニ悲シムベキ有様ヲ見ルト云フコトハ、教育上甚ダ是モ國民トシテ放任スベキモノデナイト私ハ信ジマス、内務大臣ハ此點ニ於テ、青山墓地ヲ速ニ移轉スルヤ否ヤ、此御意見ヲ御尋シタイノデアリマス、ソレカラ第五、青山墓地ト云フモノハ、東京市ノ中心ニ置クベキモノデナイト云フコトハ、市民一般ノ輿論デアッタ、此際ニ臨ンデ赤阪區及麻布區ハ率先シマシテ、此墓地ヲ移スベキモノデアルト攻究シタ結果、兩區會ガ之ヲ議案トシテ研究シ、茲ニ議論ノ結果、今日ノ状態デハドウシテモ移スベキモノデアルト云フコトハ、赤阪區並ニ麻布區ガ滿場一致ヲ以テ可決シタノデス、其議案ヲ提出案ト致シマシテ、

市當局ニ提出シテアル、是ハ明治四十四年デアル、然ルニ今日ニ至ルマデ東京市理事者ハ、何等此提出案ニ對シテ處分モ爲サズ、之ヲ議案トシタト云フコトモ聞カヌ、斯ノ如キ衛生上並ニ人道上ニ關シ、及教育上其他豫防上ニ就テモ、今日等閑ニシテ置クベラザル墓地ヲ、建議案ガアルニモ拘ラズ、市理事者ハ、今尙モ現在ノ儘ニシテ何等攻究シナイト云フノハ、吾々市民トシテ大ニ憂フル次第デアリマス、内務大臣ハ此點ニ就テ、速ニ市理事者ニ命ジマシテ、此墓地ヲ移轉セシムルヤ否ヤ、質問致ス次第デアリマス、ソレカラ終リニ臨ミマシテ、太政官布告墓地及埋葬取締規則第二條、此規則ノ文面ヲ見マスルト、墓地ヲ新設スルニハ國道、縣道、鐵道、大川ニ沿ハズ、人家ヲ隔ルコト六十間以上ニシテ、土地高燥、飲料水ニ障リナキ地ヲ擇ブベシト云フ規則ノ法文ガアリマス、吾々ハ之ヲ了解スルニ甚ダ苦ム、何トナレバ例ヘバ内務省ハ、所謂國道、縣道、鐵道、大川ニ沿ハズ、人家ヲ隔ルコト六十間以上ニシテ、地主ガ墓地ニ接近シテ自分ノ住宅ヲ造ルトカ、或ハ別荘家宅ヲ造リシガ、其許可シタ後ニ於テ、地主ガ墓地ニ接近シテ自分ノ住宅ヲ造ルトカ、或ハ別荘家宅ヲ造リシ場合、並ニ飲料水トスル所ノ井戸ヲ掘ツタ場合、サウ云フ時ニ至ッテハ、政府ハ如何ナル處分ヲスルカ、此規則ニ依リマスト抵觸スルヤウニ思ハレマスガ、此點ニ就テハ吾々ハ了解ニ苦シミマスカラ、是亦内務大臣ニ御尋申シテ、見解ヲ下シテ戴キタイ、或ハ吾々ガ想像スルニ、新シク墓地ヲ設クルトキニ於テハ、墓地ハ境界ヨリ六十間以内ニシテ居ルモノデアルヤ否ヤ、此點ニ就テ解釋ヲ願ヒマス、モウ一ハ國道、縣道並ニ鐵道ハ、墓地ニ沿ハズト云フコトガアリマスガ、成程許可スル時ニ於テサウ云フ縣道、鐵道或ハ國道ハ無イトシマシテモ、其許可シタ後ニ於テ、此墓地ニ沿フテ縣道、國道、鐵道ヲ敷ク場合ハ、如何ナル方法ヲ以テ此規則ヲ實行スルヤ否ヤ、了解ニ苦シム次第デアリマス、此五箇條、並ニ墓地及埋葬取締規則第二條ニ關シマシテ、御説明ヲ願フ次第デアリマス

之ニ對シ床次國務大臣ハ三月二十五日書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

青山墓地設定後東京市進展ノ狀況ニ伴ヒ人家ノ之ニ接近スルモノアルニ至リタルモ法定傳染病

患者ノ死體ノ土葬ヲ此ニ許可シタルコトナシ法規關係ニ付テハ相當考慮スヘキモ目下該墓地ヲ移轉スル意思ナシ

二七 青年指導ニ關スル再質問

一本員ノ提出ニ係ル青年指導ニ關スル質問ニ對スル答辯書ニ依レハ政府ハ青年ヲシテ健全ナル國民善良ナル公民タルノ素質ヲ得セシムルヲ以テ方針トシ之カ實施ノ方法ハ地方ノ情況ニ應ジテ宜シキヲ制セムコトヲ期シツツアリト云ヘルカ果シテ然ラハ從來ノ統一の指導ノ方針ヲ一變シタルカ

一 田中陸軍大臣ハ常ニ青年團ノ指導ニ對シ統一の方針ニ遵ルヲ熱心ニ力説セラレツツアルカ前記床次内務大臣中橋文部大臣ノ指導方針ト扞格スル所ナキカ

八年二月二十五日田中萬逸君ハ右質問主意書ヲ提出ス之ニ對シ床次及中橋兩國務大臣ハ書面ヲ以テ三月十日左ノ答辯ヲ爲セリ

一 政府ハ曩ニ答辯シタル趣旨ニ依リ青年ノ指導ニ勉メツツアリテ何等其方針ヲ變更シタルコトナシ

一 田中陸軍大臣ハ大臣トシテ何等青年指導ノ方針ニ關シ説示シタルコトナシ

二八 國民思想ノ善導ニ關スル再質問

曩ニ提出シタル國民思想ノ善導ニ關スル質問ニ對スル政府ノ答辯中各般ノ施設ヲ整備シトアルハ如何ナル施設ノ謂ナリヤ

八年二月二十五日田中善立君ハ右質問主意書ヲ提出ス之ニ對シ床次及中橋兩國務大臣ハ書面ヲ以テ三月十日左ノ答辯ヲ爲セリ

曩ニ國民思想善導ニ關スル答辯書中ニ各般ノ施設トアルハ健全ナル思想ヲ普及徹底セシムル各種ノ施設及思想ヲ不健全ナラシムル原因トナルヘキ社會狀態ノ改善ヲ目的トスル各般ノ社會的施設ノ謂ナリ

二九 小學校教員ニ給スル臨時手當ニ關スル再質問

小學校教員ニ給スル臨時手當ニ關スル本員ノ質問ニ對シ文部大臣ヨリ書面ヲ以テ答辯セラレタレトモ要領ヲ得ル能ハス依テ左記各項ニ就キ更ニ問ハムトス

- 一 小學校教員ノ多クハ目下全ク生活ノ安定ヲ缺キ泰然其ノ職ニアルモノ甚タ少シ然ルニ政府ハ大正七年九月地方長官ニ發シタル一片ノ通牒ヲ以テ小學校教員ニ給スル臨時手當ヲ普遍ナラシメ得ルト信シ且最善ノ方法ヲ採リタリト確言シ得ルヤ
- 一 現今市町村ノ狀況ハ單ニ地方税制限擴張ノミニテハ小學校教員ニ給スル臨時手當ヲ普遍ナラシメ克ハサルノ實情ニ在リ殊ニ臨時手當支給額ヲ國庫支辨官吏ト同シク本俸ノ五割ト爲スカ如キハ頗ル至難ト思ハル政府ハ此ノ場合ニ於テ明治三十年勅令第二號第三條ニ改正ヲ加ヘ市町村負擔ノ最少額ヲ増スノ方法ヲ採ルノ必要ヲ認メサルヤ
- 一 小學校教員ニ對シテハ國庫支辨官吏ト同シク大正七年四月ヨリ臨時手當ヲ支給スヘキカ當然ナルニ同年度ニ於テ市町村ヨリ支給セラレタル額ハ極メテ僅少ニシテ且不公平ナリ政府ハ國費ヲ以テ大正七年四月ニ遡リ臨時手當ヲ一般ニ相當支給スル方策ヲ採ラサルモ小學校教員ヲシテ満足シテ其ノ職ニ居ラシメ得ルト信スルヤ
- 一 右ハ全國十七萬ノ小學校教員ノ齊シク懷抱スル疑問ナリ明快適切ナル答辯アラムコトヲ

八年二月二十六日高田耘平君ハ右質問主意書ヲ提出ス(三月十一日延期)之ニ對シ中橋國務大臣ハ書面ヲ以テ三月十三日左ノ答辯ヲ爲セリ

一政府ハ市町村財政ノ實情ニ鑑ミ適當ト認ムル方法ヲ講シタリ

一明治三十年勅令第二號第三條ヲ改正スルノ可否ニ付テハ政府ハ慎重ナル考慮ヲ加ヘツツアリ

一政府ハ國費ヲ支出シ又ハ市町村ヲ強制シテ大正七年度四月ニ遡リ一般ニ臨時手當ヲ支給スル

ノ意圖ヲ有セサルモ市町村財政ノ許ス範圍ニ於テ更ニ相當ノ手段ヲ行ハシメムトス

三〇 公娼制度ノ存廢ニ關スル第三質問

第一 本員ハ大正八年一月二十一日公娼制度ノ存廢ニ關スル質問主意書ヲ提出シ其ノ主意ヲ辯

明シタルモ政府ノ答辯要領ヲ得サルヲ以テ更ニ同年一月三十一日再ヒ質問主意書ヲ提出シ去

二月二十五日ノ本會議場ニ於テ再質問ノ主意ヲ辯明シタルニ同日政府ハ單ニ「去一月二十一

日質問第一現下ノ公娼制度並其ノ實狀ハ國法ニ牴觸スルモノト認メス第二及第四前同答辯ニ

依リ其ノ要ヲ盡セリト認ム第五賣笑行為ニ付テハ法令ニ依リ相當取締ヲ實行シツツアリト

ノ答辯ヲ提出シタルニ止マリ政府カ依然トシテ質問ノ要點ニ觸レタル答辯ヲ爲ササルハ本員

ノ深ク遺憾トスル所ナリ抑本員ノ質問ノ主タル點ハ憲法第二十二條ニ依レハ「日本臣民ハ法

律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス」トアリ我カ國民ハ法律ヲ以テスルニ非スムハ其

ノ居住及移轉ニ關シ何等制限ヲ受クルモノニ非サルコト炳トシテ明ナリ然ルニ公娼ニ關スル

現行取締法規ヲ案スルニ明治三十三年內務省令第四十四號ニハ「娼妓ハ廳府縣令ヲ以テ指定

シタル地域外ニ住居スルコトヲ得ス、娼妓ハ法令ノ規定若ハ官廳ノ命令ニ依リ又ハ警察官廳

ニ出頭スルカ爲外出スル場合ノ外警察官ノ許可ナクシテ外出スルコトヲ得ス」ト規定シ一片

ノ行政命令ヲ以テ前掲憲法ノ保障シタル日本臣民ノ居住及移轉ヲ制限スルハ違憲ノ甚シキモ

ノナリ然ルニ政府ハ何等國法ニ牴觸スルモノト認メスト答辯セリ其ノ根據ハ何邊ニ在リヤ更

ニ詳細ニ答辯セラレムコトヲ望ム

第二 所謂自由廢業ハ法令ノ認ムル所ナルト同時ニ當該官憲モ亦之ヲ聽許スル場合アリト雖其

ノ多クハ自由廢業ヲ爲サムトスルモノアル場合ニ於テ債務ノ辨濟ヲ強要シ連借人ニ對スル強

制執行ヲ爲スコトヲ以テ威嚇シ其ノ他詐稱誘導以テ意思弱キ娼妓ヲシテ遂ニ廢業ヲ斷念シ更

ニ醜業ヲ繼續スルノ餘儀ナキニ至ラシムルモノ決シテ鮮少ナラス娼妓ノ營業廢業共ニ本人ノ

自由意思ヲ尊重セサルヘカラサルハ勿論ノコトニ屬ス政府ハ此ノ悲慘ナル可憐ノ實狀ヲ如何

ニシテ救濟セムトスル乎從來官憲ノ此ノ點ニ關スル取締ハ國民ノ満足スル能ハサル所ナリ政

府ノ意見如何

第三 頃者傳フル所ニ依レハ警視廳ハ所謂私娼撲滅ノ到底不可能ナルヲ悟リ之ヲ公許スルノ方

針ナルコトヲ聲明セリト謂ヒ、又最近傳フル所ニ依レハ內務省當局ハ現今ノ遊廓制度ヲ以テ

非現代的ナリトシ散娼ノ制度ニ變改セムトスト云ヒ、又藝妓ニ對シ所謂二枚鑑札ヲ交付シテ賣笑行爲ヲ公認セムトスト稱セラル之レ果シテ事實ナリヤ

八年二月二十七日横山勝太郎君ハ右質問主意書ヲ提出ス之ニ對シ床次國務大臣ハ三月十八日書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

第一明治三十三年内務省令第四十四號ニ依リ制限ハ同年法律第八十四號行政執行法ニ基キタル

モノトス

第二取締上及保護上平素ニ於テ留意セリト雖今後亦相當監視スル所アラムトス

第三質問ノ如キ事實ナシ

三一 東京帝國大學醫科大學内ニ精神病學教室及病室新設ニ關スル質問

目下東京帝國大學醫科大學内ニ所屬ノ完全ナル精神病學教室及病室ヲ缺クカ如シ當局ハ速ニ之ヲ設置スルノ企圖アリヤ

八年二月二十七日山根正次君ハ右質問主意書ヲ提出シ三月十八日其ノ趣旨ヲ辯明ス

東京醫科大學ハ、從來專屬ノ精神病學教室及病室ヲ有セズ、假リニ巢鴨病院ヲ借り、其構内ニ講堂ヲ設ケ、學生ニ辛クモ臨床講義及學術的研究ヲ爲サシメテ居ルノデアリマス、然ルニ東京府ハ豊多摩郡松澤村ニ新ニ精神病院ヲ建築シテ、巢鴨病院ハ本年七月ヲ以テ、全部之ニ移轉スル事ニ決定シテ居リマス、隨テ東京醫科大學ハ、今後精神病學教授ノ機關ヲ缺クニ至リマス、今ヤ内務省ノ提出ニ係ル精神病院法ハ、當議會ノ協賛ヲ經、近ク法令ニ依リ、各府縣ニ新ニ精神病院ノ公設セラレントスルノ時ニ當リマシテ、専門醫養成ノ爲メニ精神病學ノ完全ナル教授講習ハ、醫學教育上一層切實ナル必要ヲ感ズルノミナラズ、該法令ノ指示スル所ニ從ヒテ、精神病患者ノ監護治療ノ實績ヲ擧ゲン爲メニハ、斯學ノ發達ヲ期スルガ爲メ、其完全ナル研究機關ヲモ亦缺クベカラザルモノト信ジマス、然ルニ全國ノ先驅タルベキ東京醫科大學ニ於テ、目今精神病學ノ教授、並ニ研究機關ヲ全ク缺如スルコトハ、文教ノ不備ナリト云フヨリモ、寧ロ國家ノ必要ナル施設ヲ忽諸ニ附スルモノデ、洵ニ遺憾ニ堪ヘマセヌ、當局ハ巢鴨病院ノ移轉ニ伴ヒ、近キ將來ニ於テ東京醫科大學ガ、其所屬精神病學教室ヲ失フニ至ルベキヲ如何ト見ルノデアルカ、又精神病院法ノ實施ト共ニ、必然其必要ヲ感ズベキ専門醫ノ養成、並ニ斯學將來ノ研究上ノ進歩ヲ如何ナル機關設備ヲ利用シテ企畫セントスルカ、是レ本員ガ此質問ヲ發スルノ理由デアリマス、現ニ獨逸國ノ如キニ至ッテハ、各醫科大學ニ皆ナ教室ヲ備ヘテ居ル、病室モ亦同ジク其上ニ精神病院ガ、公立私立共ニ四百四十二モアルノデアリマスルノニ、日本ニ於テ今日病院ヲ拵ヘル法律ガ出來タガ、其醫者ガ無イ、ソレヲ拵ヘル所ノ醫科大學ハ、最モ古イノニ拘ラズ、之ヲ缺イテ居ル、是ハドウ云フノデアルカ、ドウ云フ鹽梅ニシテ、其補填ヲセントスルノデアルカト云フコトヲ御尋シタイノデアリマス

之ニ對シ中橋國務大臣ハ三月十九日書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

東京帝國大學醫科大學ニ於テハ精神病學ノ研究ニ付目下巢鴨病院ヲ使用シツツアリ尙將來ノ事ニ關シテハ十分之ヲ考慮セムトス

三二 地方税制限ニ關スル質問

- 一 地方税制限ニ關スル法律ニ依リ其ノ制限率ヲ比較スルニ農民ノ地方税負擔率ハ商工業者ノ負擔率ノ二倍強ニシテ均衡ヲ得サルコト最甚シ其制限率ノ因テ來ル理由如何
- 二 曩ニ政府ヨリ提出セル時局ノ影響ニ因ル地方税制限擴張ニ關スル法律實施後ニ於テハ商工業者ニ比シ農民ノ負擔愈々過重ナルヲ認ム政府ハ明治四十一年法律第三十七號地方税制限ニ關スル法律ニ於ケル制限率ヲ改ムルノ意思ナキヤ

(參照)

税種	負擔者		基本租稅	制限稅率	擴張率	合計
	農	商工				
府道縣稅	農	商工	田畑山林等ノ地租	百分ノ三十二	百分ノ二十五、六	百分ノ五十七、六
	農	商工	田畑山林等ノ地租	百分ノ二十一	百分ノ八、八	百分ノ十九、八
市區町村稅	農	商工	田地山林等ノ地租	百分ノ二十一	百分ノ十二、六	百分ノ三十三、六
	農	商工	營業稅	百分ノ十五	百分ノ九	百分ノ二十四

* 地方税制限擴張率ハ基本租稅ニ對スル率ニ換算セリ

八年三月一日小林嘉平治君ハ右質問主意書ヲ提出シ三月十八日其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ床次及高橋國務大臣ハ左ノ辯明書ヲ提出シタリ

現行地方税附加稅ノ制限率ハ従前ノ慣行ト負擔ノ關係トニ鑑ミ定メラレタルモノナリ而シテ商工者ト農民トノ負擔ノ均衡ニ付テハ政府ハ絶エス深甚ノ注意ヲ拂ヒツツアリ

三三 同仁會ニ關スル質問

- 一 同仁會ノ經營セル北京日華同仁醫院ハ規模狭小ニシテ我カ同仁醫院トシテ内外ニ對シ甚貧弱ノ感アリ政府ハ同會ヲ督勵シテ之ヲ擴張セシムルノ意思ナキヤ
- 二 同仁會ハ大正七年度ヨリ三箇年間毎年十萬圓宛國庫補助ヲ受ケ第二期計畫トシテ漢口、濟南、南京ト順次醫院ヲ建築スル豫定ナルモ同會ハ之ヲ實行シ得ル見込アリヤ否ヤ疑ナキヲ得ス之ニ對スル政府ノ所見如何
- 三 同仁會ハ第二期第三期ト豫定計畫通醫院ヲ建築スルト假定スルモ此等各醫院ノ經常費ヲ支辨シ得ルノ實力アリヤ否ヤ疑ナキヲ得ス政府ノ所見如何
- 四 同仁會ハ大正七年度ヨリ同十六年度ニ互リ莫大ノ寄附金ヲ募集スル豫定ナルカ各府縣ニ於テ大正七年度ニ寄附金何程ヲ募集セシカ政府ハ之ヲ調査セシコトアリヤ如何

八年三月一日秋山金也君ハ右質問主意書ヲ提出シ三月十八日其ノ趣旨ヲ辯明ス

同仁會ノ趣旨ハ、我國ノ進歩シタル所ノ醫術ヲ彼ノ四億ノ支那國民ニ施シ、彼ヲシテ衛生状態ヲ改善セシメ、尙ホ彼ノ病苦ヲ救済シマシテ、サウシテ我一視同仁タル所ノ精神ヲ、徹底的ニ了解セシメヤウト云フ所ノ精神デアアルデアリマス、ソレデ其我國民ノ精神ヲ彼ニ十分ニ了解セシメマシテ、彼ノ國民ガ詰マリ我國民ノ意思ノ在ル所ヲ了解シマシタナラバ、彼ト我ト相共ニ此東洋ノ富源ヲ開發シテ、東洋ノ富強ヲ圖リマシテ、サウシテ東洋ノ平和ヲシテ永遠ニ鞏固ナラシメントスル目的ヲ以テ、サウシテ此同仁會ノ精神ハ起ッタモノデアリマス、是等ノ事ニ就キマシテハ、所謂會長大隈侯ガ常ニ此趣旨ヲ日本全國ノ國民ニ指導シテ、サウシテ宣傳シテ居ラレル所デアリマス、ソレ故ニ吾々亦大ニ此趣旨ヲ贊成シマシテ、第四十議會ニ於テ、多額ノ補助費ヲ之ニ與フルコトニ贊成致シタデアリマス、今ヤ歐洲ノ戰亂モ既ニ終結ニ近ツキマシテ、此所謂國民的外交ノ最モ振興ヲ圖ラナケレバナラス、大切ナ時期デアアルコトヲ考ヘテ居ルデアリマス、然レバ此同仁會ハ、此際ニ向ッテ十分ニ活動ヲシテ、支那各方面ニ向ッテ、十分ノ活動ト、十分ノ設備ヲスルト云フコトガ、最モ必要デアラウト云フ考デアアルデアリマス、所謂此國民的外交ノ機關トシテハ、最モ適切ナル所ノ機關デアラウト自分ハ考ヘルデアリマス、然ルニ此機關ガ私ガ昨年支那、臺灣、朝鮮等ヲ歩キマシテ見マスノニ、其期待ニ反シテ、其設備ガ實ニ見ルベキモノガ無イデアリマス、……唯、北京ニ於テ一ノ北京日華同仁醫院ト云フ醫院ガ一ツアルノミデ、……此病院ハ實ニ貧弱ニシテ、殆ド我國ノ一開業醫ノ病院トシテモ、尙ホヨリ以上ニ盛大ナルモノガアルデアリマス、唯、外形ノ貧弱ナル、内容ノ不設備ナル、實ニ吾々醫業者トシテ之ヲ見マスルトキニハ一驚ヲ喫スル次第デアアルノデ、勿論目下建築中デアルト云フ新築ノ病院モ見マシタケレドモ、是ガ出來上ッテモ到底吾々ノ期待ニ合スルコトハ出來ナイト云フコトヲ認メテ參ッタデアリマス、同仁會ハ二十年以上此事業ニ就テ盡力シテ居ラレルデアアルカラ、二十年以上掛ッタ病院トシテ

實ニ驚キ入ッタル次第デアリマス、ソレデ今支那ニ出來ル病院ハ、ドンナ病院ガ出來ルカト聞キマスト云フト、亞米利加ノ「ロックフェラー」ト云フ基金團ノ病院ガ、其日本ノ同仁病院ノ隣リニ立派ナ病院ガ出來ルデアリマス、所謂醫學校病院ヲ、併合シテ、二百萬圓カラノ金ヲ「ロックフェラー」ガ之ニ投ジテ、其中ノ一部分ノ金ヲ以テ、立派ナ病院ヲ造ルト云フコトデアリマス、サウシマス、其病院ガ出來マス、日本病院ト隣合ッテ居リマスカラ、是ノ對照ガドウ云フモノデアアルカ、日本人トシテハ、其立派ナ亞米利加ノ病院ノ脇ニ、一私立病院ニモ及バヌヤウナ病院ガアッタスレバ、日本國民ノ所謂國民外交トシテ意ヲ注イダ病院トシテハ、實ニ憂慮ニ堪ヘナイ次第デアリマス、之ヲシテ日本國民トシテ恥ヂザル所ノ立派ナル病院ニドウカシテシタイト云フノガ自分ノ希望デアリマスガ、ソレニ付テハ政府ガ之ニ向ッテ、今後同仁會ヲ督勵シテ、吾々國民ノ期待ヲシテ満足セシムルヤウニ發達セシムルカ否ヤト云フノガ、質問ノ第一デアアルデアリマス、ソレカラ第二ニハ四十議會ニ於テ、吾々ガ毎年十萬圓ヅ、三箇年間三十萬圓ノ補助ヲ與フルコトニ致シタノデアリマスガ、其當時同仁會ガ今後發展シヤウト云フ計畫ヲ見マス、第二期ノ計畫トシテ漢口ニ病院ヲ造リ、又濟南ニ病院ヲ造リ、南京ニ醫院ヲ造ルト云フコトデアリマス、ソレニ向ッテ年々十萬圓ヅ、寄附ヲシテ、其ノ他後トノ不足ハ、會員ノ寄附金ヲ以テ之ニ充ツルト云フ計畫デアアルデアリマス、所ガ同仁會ノ今日ノ状態ヲ見マスと云フト、十萬圓ノ寄附ヲ得テ、其他ノ費用、即チ漢口ノ建築費トシテ二十二萬圓、其中十萬圓デアルト、後ト十二萬圓ガ必要デアアル、是ガ大正七年度八年度ニ掛ケル所ノ事業デアリマスルガ、此十二萬圓ノ寄附ガ同仁會ノ力デ、今日ノ遣リ方デ得ラレルカ否カ、問題デアアルデアリマス、大正六年度大正七年度ノ同仁會ノ寄附ノ狀況ヲ見マスと云フト、大正六年度ニハ十三萬二千六百三十二圓、其中現金トシテハ九萬一千八百八十七圓ト云フ現金ヲ得テ居ルデアリマス、然ルニ四萬二千六百六十一錢ト云フ募集費ガ掛ッテ居リマス、サウスルト云フト其ノ募集費ヲ引マスと云フト、現金ヲ受ケタモノハ概算ニシマシテ五六萬圓シカ殘ラヌデアリマス、其外ニ同仁會ノ費用モ要リマスカラ、之ヲ以テ十二萬以上ノ支辨ヲ爲スト云フコトハ、不可能ノ事ト思フデアリマス、勿論其當時

ノ計畫ヲ見マスト云フト、寄附金ノ募集ノ豫定ガ、大正七年度カラ大正十六年度ノ間ニ、六百萬圓ノ寄附金ヲ募集シヤウト云フコトガアツテ、一箇年六十萬圓デアリマス、然ルニ大正七年度ノ募集ハドノ位カト云フト、十一萬八百五十七圓シカナイ、……募集金ノ三割ハ募集費ニ使ッテ居ルヤウデアリママス、ソレデハ到底六十萬圓ノ十分ノ一モ出來ナイデアリマスカラ、此同仁會ノ計畫ハ、到底實行ガ出來ルモノデナイト、ソレ故ニ案ノ如ク大正八年ノ二月ニ、第二期ノ計畫ヲ變更シテ參ッタノデアリマス、同仁會ガ其計畫ヲ變更スル所ノ理由ハ、ドウ云フ理由デアルカト云フト、物價ノ騰貴ト、銀價ノ相場ノ變調ノ爲メニ、所謂前ノ大正七年度ニ計畫シマシタ所ノ計畫ニ増額ヲシナケレバナラス、已ムヲ得ザル事情ガ出來テ來タト云フコトデアリマス、ソレデソレニ依リマスト云フト、今後大正九年度カラ尙ホ一箇年三十萬圓ヅ、三箇年間ニ九十萬圓ノ寄附ヲ願ヒタイト云フト計畫ヲシテ居ルノデアリマス、此改正ノ計畫ヲ見マスト云フト、大正八年、九年、十年、十一年ノ四箇年、此四箇年ノ間ニ漢口、上海ニ醫院ヲ一ツ設ケタイト云フノデアリマス、其外ニ北京ノ日華同仁病院ニ對シテ研究室ヲ作り、或ハ學校ヲ設ケテ、教育ヲシタイト云フト希望ガアルノデアリマス、大正八年度カラ四箇年間ニ要スル所ノ費用ハドノ位デアルカト云フト、國庫ノ補助ガ九十萬圓、會員ノ寄附ガ百六十八萬圓ト云フモノガ無ケレバ、此大正八年二月ノ計畫ノ遂行ガ出來ナイノデアリマス、サウシマスルト此百六十八萬圓ノ寄附ヲ一箇年ニ割當テルト云フト、四十二萬圓デアリマス、此計畫モ亦前ノ計畫ノ如ク、今日ノ同仁會ノ寄附ノ募集ノ遣リ方、寄附ノ狀況ヲ以テハ、逆モ此計畫ヲ遂行スルコトハ出來ナイノデアアル、假リニ四十二萬圓ノ募集ヲシヤフト思ヒマシレバ、之ニ三割ノ募集費ヲ掛ケマスト、五十六萬圓ト云フ一箇年ニ寄附ヲ募集シナケレバ出來ナイノデアアル、此位ノ寄附ハ、國民ガ所謂國民外交トシテ十分ナル理解ヲ致シマスレバ、自分トシテハ容易ニ出來ルモノダト思ヒマスルガ、併シ今日ノ狀態、今日ノ同仁會ノ遣リ方デハ、……到底此同仁會ノ趣旨ヲ國民ニ懇ヘテ、國民ノ外交ト云フコトノ目的ヲ達スルコトハ、不可能ダラウト自分ハ思フノデアリマス、ソレ故ニ自分ノ第二ノ質問トシテハ、此第二ノ計畫ガ遂行ガ出來ルカドウカト云フコトヲ質スノデアリマス、第三ニハ若シ豫定通り病院

ガ出來マシタ所ガ、此經常費ト云フモノヲバ、ドウ云フ風ニシテ支辨スルノデアアルカト云フコトヲ御尋シタノデアリマス、ソレカラ第四ニハ、大正七年ニドノ位ノ募集ガ出來タカト云フコトヲバ、當局ニ於テ御調べニナツテ居ルカ否ヤト云フコトヲ質問シタノデアリマスガ、唯今申シマスル通りノ狀態デアリマシテハ、到底此同仁會ノ目的ヲ達スルコトハ不可能ニ思フノデアリマスルガ、併ナガラ大隈會長ガ此際十分ノ奮勵ヲナサイマシテ、此國民外交ト云フ大切ナコト、ソレカラモウ一ツハ正義人道ト云フ所ノ道ニ向ッテ、彼ノ大隈内閣ノ時ノ總選舉ニ御盡シニナツタ如ク、各府縣ニ會長自ラ御出ニナツテ、ソウシテ十分ニ此國民外交ノ必要ナル事等ヲ十分ニ御吹聴ニナレバ、此六百萬位ノ十年ノ寄附金杯ハ、易々タルモノデアルト自分ハ考ヘルノデアリマス、ドウカ會長ニ御奮發アラント云フバ、自分ハ此席ニ於テ御願致シテ置クノデアリマス

之ニ對シ内田國務大臣ハ書面ヲ以テ三月二十五日左ノ答辯ヲ爲セリ

一 同仁會ノ經營ニ係ル北京日華同仁醫院カ規模狭小ナルハ事實ト認ム目下同會ニ於テモ該醫院ノ規模ヲ擴張セムトスルノ議アリ唯其實行ハ巨額ノ經營ヲ要スルヲ以テ遽ニ完備ヲ期スルコトヲ得サルモ醫院ノ内容ニ至リテハ速ニ之カ充實ヲ圖ラムカ爲有力ナル專任院長ヲ招聘スル等種種計畫中ニシテ政府ハ相當ノ督勵ヲ怠ラサルヘシ

二 同仁會ハ其第二計畫トシテ漢口濟南南京(又ハ上海)ニ順次醫院ヲ建設スル豫定ナリシ處其ノ後事情ノ變化及各地居留民ノ意嚮等ニ顧ミ先ツ漢口及上海ノ兩地ニ規模大ナル醫院ヲ設立スルノ急務ナルヲ認メ國庫補助金増額方政府ニ出願セリ依テ政府ニ於テハ目下右願意證議中ナリ

三同仁會ニ於テハ先ツ第二期計畫ヲ完成シテ一段落ヲ告ケタル上始メテ第三期計畫ニ移ルヲ得策トナセリ而シテ同會ハ各醫院完成後ニ於テモ當分ノ間ハ經常費ノ補助ヲ仰クノ必要アリトナシ前項出願中ノ國庫補助金増額ハ追テ之ヲ寄附金ノ一部ト共ニ經常費補助ニ充實セムトスルモノニテ政府ニ於テハ前二項ト併セテ目下詮議中ナリ

四同仁會ガ大正七年度ニ於テ募集シタル寄附金額ハ九萬七千二百七十九圓ナリ

三四 宗教法制定ニ關スル質問

憲法政治布カレテ三十年ヲ閱ミスルニモ拘ラス宗教法未タ制定セラレス國家ノ宗教ニ對スル根本方針確立セサルハ宗教行政上幾多ノ支障ヲ來シ民心教化ニ不良ノ影響ヲ及ホスノミナラス實ニ法治國トシテノ體面ニ關スト信ス政府ノ所見如何

一聞ク所ニ依レハ前内閣ニ於テ宗教法制定ノ必要ヲ認メ今期議會ニ提案ノ準備ヲ急キ居リシモ現内閣ニ至リ提案ヲ延期セリト果シテ事實ナラハ延期ノ理由如何

一宗教法ノ制定ハ關係スル所頗ル重大ニシテ慎重ノ調査ヲ要スルカ故ニ學制改正ニ於ケル臨時教育調査會ノ如ク内閣ニ宗教制度調査會ヲ設置シ専門學者、兩院議員宗教關係ノ代表者(管長等ニ非ス實際上ノ執務者並宗教役員等ニ非サル一般社會ニ於ケル佛教ト關係アル有識者)ヲ

以テ調査研究スルノ必要ヲ認メサルカ

一前内閣ハ宗教ニ對シテ干涉方針ヲ採リタルニ反シ現内閣ハ不干涉放任主義ヲ採レリトテ監督下ニ在ル宗教界ハ適從スル所ニ迷ヒツツアリ(主務大臣ノ更迭ニ依リテ宗教監督ノ根本方針ニ動搖ヲ來スハ其ノ半面ニ於テ宗教法ノ制定セラレサルニ職由スト謂フヘシ)現政府ノ宗教監督ノ方針如何

一中橋文相ハ宗教法制定ニ關シ歐米ノ宗教制度ヲ知ルノ要アリトシ近ク視察員ヲ派遣スルノ計畫アリト聞ク歐米ノ制度ヲ參酌スルハ固ヨリ必要ナレトモ我カ國ノ宗教ニハ自ラ特有ノ歴史沿革組織其ノ他各般ノ事情ヲ異ニスルカ故ニ我カ宗教制度ハ外國制度ノ模倣翻譯ヲ許サス須ラク獨創的見地ヲ以テ我カ國ニ於ケル宗教ノ實狀ニ適應スル制度ヲ樹ツルヲ要ス政府ノ所信如何又外國ノ宗教制度ノ如キハ政府ニ於テ既ニ調査ヲ遂ケ居ル筈ナリ未タ調査シ居ラストセハ政府ノ怠慢ニ非スヤ

八年三月五日田中善立君ハ右質問主意書ヲ提出シ同月十八日左ノ趣旨ヲ辯明ス

本員ノ質問ハ、宗教法制定ニ關スル事柄デアリマスルカラ、順序トシテ宗教ト國家及國民思想ニ就テ一言申述べマス、凡ソ國家ノ興廢存亡ヤ、其原因繁多ニシテ、教育、國防、交通、産業等ノ充實

スルト否トニ、多大ノ關係ヲ有スルコト勿論デアリマスルガ、其最モ重且大ナル原因ハ國民ノ思想ガ堅實ナリヤ否ヤニ在ッテ存スルコトハ、古今東西ノ事實ニ依ッテ明デアリマス、而シテ其國民ノ思想ヲ最モ能ク堅實ナラシムルノニハ、ドウシテモ此宗教ノ力ニ俟タナケレバナラヌノデアアル、是亦古今東西ノ偉人傑士等ノ言行ニ依ッテ、明證確乎タルモノデアリマス、凡ソ人心ニハ智情意ノ三大作用ガゴザイマシテ、智慧ハ教育ニ依ッテ開發訓練ガ出來マスケレドモ、情ト意思ノ作用ハ、到底教育ノ力ノミヲ以テ、能ク之ヲ訓練シ、矯正スルコトハ出來ヌノデアリマス、情ガ一度猛烈ニ働カンカ、其狀恰モ大風起テ天日爲メニ暗ク、狂瀾怒濤船ヲ弄フガ如キ狀態ニナリマシテ、如何ニ智力ガ磨カレテアリマシテモ、猛烈ナル情ガ一度働キマスレバ、其光ヲ失ッテ以テ、意思ノ働ハ、恰モ狂瀾怒濤ノ間ニ於ケル小舟ノ如キ、哀ナル狀態ニナッテシマウノデアリマス、故ニ古今隨分立派ナ人ニシテ、思ハザル犯罪ヲ犯ス者ノ尠カラザルコトハ、即チ之ガ爲メデアルノデアアル、之ヲ眞宗ノ開祖眞大師ハ斯ウ云フ事ヲ言ッテ居リマス、情ノ働ニ就テ愛憎違順スルコトハ高峰岳山ニ異ナラズ、實ニ是ハ評シ得テ妙ナル言ト思フノデアリマス、人ガ愛シ、憎ミ、違ヒ、順フト云フ其情ノ働ト云フモノハ、大山ノ峻嶮ナルガ如ク、忽チニシテ愛シ忽チニシテ憎ミ、忽チニシテ違ヒ、順フ、實ニ恐ルベキ働ヲ持ッテ居ルノデアリマス、故ニ此情ノ作用ヲ牽制シ、抑壓シ、矯正セントスルニ付テハ、ドウシテモ此人間以上ノ絶對無限ノ力ニ依ラナケレバナラヌノデアリマス、然レバ我ハ怪力亂神ヲ語ラズト表ニ宗教ヲ排斥シマシタル孔子、聖人スラモ、矢張彼レ自ラノ精神修養ハ、天命教ノ力ニ依ッテ、我ハ其修養ヲ得タリト云フ告白ヲシテ居ルノデアリマス、即チ論語ノ季氏第十六ヲ御覽ニナレバ分ル「君子有三畏天命畏大人畏聖人之言」ト言ッテ居ル、彼ノ天命ハ決シテ今日天文學者ノ言フガ如キ、物質的ノ天體ニ非ズシテ、形而上ノ所謂神佛ト云フ如キ權威ヲ有スル所ノ天命論デアアル、之ニ依テ彼モ其君子ノ道ヲ誤ラズニ、末代ニ教ヲ遺シタルノデアアル、シテ見レバ吾々凡人ハ、如何ニシテモ所謂天或ハ神佛ノ偉大ナル力ニ信賴スルニ非ズンバ、到底十分ノ精神修養ヲ爲スコトハ出來ヌノデアアル、然ルニ遺憾ナル事ニハ、我が明治維新當時ノ志士仁人ニ、宗教ト云フモノハ愚人ノ信ズベキモノデアアル、吾々如キ賢明ナル志士仁人ニ

ハ、全く無用ノ長物デアアル、否ナ害物デアアル、斯ウ云フ考ヲ以テ、千幾百年ノ間我が國民思想ノ基礎ヲ成シ、美術、文學、風俗、習慣ノ訓練トナッテ居リマシタル所ノ佛教ヲ、一擧ニシテ破滅セント企テタノデアアル、所謂廢佛毀釋論ハ、是デアアル、彼等政權ヲ執ルヤ、先ヅ神佛分離令ト云フモノヲ出シマシテ、寺ヲ毀テ、其財産ヲ沒收シ、佛前ニ神體ヲ安置セシメテ、鳥ヤ魚ヲ供ヘシメテ、僧侶ニ拍手ヲ打タセルト云フヤウナ亂暴ノ事ヲセシメタノデアアル、彼等ハ其當時全國ノ寺院ヨリ、朱印黒印ノ地ヲ沒收シタル其面積ト云フモノハ、實ニ莫大ナルモノデアアル、其總面積ヨリ年々收穫スル所ノ利益ハ、約四百萬圓アルト云フコトデアリマス、之ヲ年五分ノ複利ニスレバ驚クベキ總額ニナッテ、十億萬ニ五十年後ノ今日ニナッテ居ルヤウナ次第デアリマス、若シ此半分ハ一割デモ之ヲ元ニ戻シテ、社會國家ノ爲メニ働カシメタナラバ、餘程ノ貢獻ヲスルデアラウト思フガ、實ニ殘念ナ次第デアアル、併ナガラ彼等モ到底廢佛毀釋ト云フコトハ、言フベクシテ行ハレヌト悟リマシタガ爲メニ、明治十七年ニ至ッテ初メテ太政官第十九號ヲ發布致シマシテ、ソレニ依ッテ佛教並ニ神道ノ兩立ノ制度ヲ規定致シマシタ、併ナガラ今日之ヲ見マスレバ、實ニ不完全極マルモノデアアリマシテ今日寺ヲ打毀タントスレバ、一知事ノ任意デ容易ニ出來得ルノデアアル、又一宗ヲ遵奉セシムルト云フコトモ、文部大臣ノ一片ノ通告ニ依ッテ出來得ルト云フヤウナ、不安ナ狀態ニ佛教各宗ハ在ルノデアリマス、今日ハ申スマデモナク世界戰爭ノ後、思想問題ハ各國ヲ通ジテ最モ重大ナル問題デアアル、其ノ思想ニ最モ密接ニシテ重大ナル關係ヲ有スル所ノ此ノ宗教ニ對シテ、既ニ憲法發布サレテ三十年ノ今日、我國ニ一定ノ方針ガ立ッテ居ラヌト云フコトハ、法制上ノ一大缺點デアアル、如何ニシテモ今日ハ、此儘ニ打捨テ、置クコトハ出來ヌノデアリマス、故ニ私ハ當然次ノ質問ヲ政府當局ニ試ムル次第デアリマス、第一ニハ前内閣ハ既ニ從來ノ調査方針ニ基イテ、晚クトモ此議會ニ宗教法案ヲ提出スルト云フ、準備ニ就イテ居ッタト云フコトヲ聞イテ居リマスガ、何故ニ現内閣ハ尙ホ之ヲ延期シタノデアアルカ第二ニ若シ此延期ノ理由ガ事頗ル重大デアアル、關係スル所ガ廣汎デアアルガ故ニ、尙ホ慎重ニ調査スル必要ガアルト云フ理由デアアルナラバ、恰モ教育制度改正ノ爲メニ、臨時教育調査會ガ設ケラレマシタ如ク、ヨリ以上重大ナル此宗教制度問題ニ